
久喜市

栗橋宿跡 VI

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第2分冊)

2022

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

(第1分冊)

巻頭写真

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	2
(1) 発掘調査	2
(2) 整理・報告書の作成	2
3 発掘調査・報告書作成の組織	3
II 遺跡の立地と環境	5
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	7
(1) 中世の栗橋とその周辺	7
(2) 近世の栗橋とその周辺	11
(3) 栗橋宿の様子	14
(4) 近世から近代への栗橋	17
III 遺跡の概要	19
IV 遺構と遺物	39
1 第一面の遺構と遺物	
(1) 建物跡	39
(2) 基礎状遺構	65
(3) 埋設桶	70
(4) 埋設甕	84
(5) 杭列	85
(6) 木樋	92
(7) 溝跡	92
(8) 焼土遺構	109
(9) 土壇	115
①区画 AA の土壇	115
②区画 AB の土壇	115
③区画 AC の土壇	148
④区画 AD の土壇	205

(第2分冊)

⑤区画 AE の土壇	255
⑥区画 AF の土壇	360
⑦区画 AG の土壇	441
(10) ピット	500
(11) 遺構外出土遺物	502
2 第二面の遺構と遺物	
(1) 建物跡	516
(2) 埋設桶	517
(3) 井戸跡	525
(4) 溝跡	547
(5) 性格不明遺構	550

(第3分冊)

(6) 土壇	551
①区画 AA の土壇	551
②区画 AB の土壇	572
③区画 AC の土壇	631
④区画 AD の土壇	669
⑤区画 AE の土壇	677
⑥区画 AF の土壇	699
⑦区画 AG の土壇	710
(7) ピット	715
(8) 遺構外出土遺物	719
3 第三面の遺構と遺物	
(1) 建物跡	733
(2) 溝跡	734
(3) 畝跡	743
(4) 小鍛冶跡	745
(5) 土壇	746

①区画 AA の土壌	746	V 自然科学分析	997
②区画 AB の土壌	756	1 堆積物微細構造軟X線分析 (1)	997
③区画 AC の土壌	759	2 砂粒組成分析・粒度分析 (1)	1003
④区画 AD の土壌	766	3 堆積物微細構造軟X線分析 (2)	1008
⑤区画 AE の土壌	894	4 砂粒組成分析・粒度分析 (2)	1012
⑥区画 AF の土壌	904	5 火山灰分析	1017
⑦区画 AG の土壌	920	6 寄生虫卵分析	1019
(6) ピット	925	7 花粉分析	1025
(7) 遺構外出土遺物	925	VI 調査のまとめ	1027
4 文字資料	933	(第4分冊)	
5 出土遺物一覧表と遺構の時期	941	写真図版	

挿図目次

(第2分冊)

第179図 区画 AE 土壌 (1)	257	第202図 区画 AE 土壌出土遺物 (14)	281
第180図 第269号土壌出土遺物	258	第203図 区画 AE 土壌出土遺物 (15)	282
第181図 区画 AE 土壌 (2)	260	第204図 区画 AE 土壌出土遺物 (16)	283
第182図 区画 AE 土壌 (3)	261	第205図 区画 AE 土壌出土遺物 (17)	284
第183図 区画 AE 土壌 (4)	262	第206図 区画 AE 土壌出土遺物 (18)	285
第184図 区画 AE 土壌 (5)	263	第207図 区画 AE 土壌出土遺物 (19)	286
第185図 区画 AE 土壌 (6)	264	第208図 区画 AE 土壌出土遺物 (20)	287
第186図 区画 AE 土壌 (7)	265	第209図 区画 AE 土壌出土遺物 (21)	288
第187図 区画 AE 土壌 (8)	266	第210図 区画 AE 土壌出土遺物 (22)	289
第188図 区画 AE 土壌 (9)	267	第211図 区画 AE 土壌出土遺物 (23)	290
第189図 区画 AE 土壌出土遺物 (1)	268	第212図 区画 AE 土壌出土遺物 (24)	291
第190図 区画 AE 土壌出土遺物 (2)	269	第213図 区画 AE 土壌出土遺物 (25)	292
第191図 区画 AE 土壌出土遺物 (3)	270	第214図 区画 AE 土壌出土遺物 (26)	293
第192図 区画 AE 土壌出土遺物 (4)	271	第215図 区画 AE 土壌出土遺物 (27)	294
第193図 区画 AE 土壌出土遺物 (5)	272	第216図 区画 AE 土壌出土遺物 (28)	295
第194図 区画 AE 土壌出土遺物 (6)	273	第217図 区画 AE 土壌出土遺物 (29)	296
第195図 区画 AE 土壌出土遺物 (7)	274	第218図 区画 AE 土壌出土遺物 (30)	297
第196図 区画 AE 土壌出土遺物 (8)	275	第219図 区画 AE 土壌出土遺物 (31)	298
第197図 区画 AE 土壌出土遺物 (9)	276	第220図 区画 AE 土壌出土遺物 (32)	299
第198図 区画 AE 土壌出土遺物 (10)	277	第221図 区画 AE 土壌出土遺物 (33)	300
第199図 区画 AE 土壌出土遺物 (11)	278	第222図 区画 AE 土壌出土遺物 (34)	301
第200図 区画 AE 土壌出土遺物 (12)	279	第223図 区画 AE 土壌出土遺物 (35)	302
第201図 区画 AE 土壌出土遺物 (13)	280	第224図 区画 AE 土壌出土遺物 (36)	303

第225图	区画 AE 土壙出土遺物 (37) ……	304	第262图	区画 AE 土壙出土遺物 (74) ……	357
第226图	区画 AE 土壙出土遺物 (38) ……	305	第263图	区画 AE 土壙出土遺物 (75) ……	358
第227图	区画 AE 土壙出土遺物 (39) ……	306	第264图	区画 AE 土壙出土遺物 (76) ……	360
第228图	区画 AE 土壙出土遺物 (40) ……	307	第265图	区画 AF 土壙 (1) ……	363
第229图	区画 AE 土壙出土遺物 (41) ……	308	第266图	第 154 号土壙出土遺物 ……	364
第230图	区画 AE 土壙出土遺物 (42) ……	309	第267图	第 156 号土壙出土遺物 ……	365
第231图	区画 AE 土壙出土遺物 (43) ……	310	第268图	第 160 号土壙出土遺物 (1) ……	366
第232图	区画 AE 土壙出土遺物 (44) ……	311	第269图	第 160 号土壙出土遺物 (2) ……	367
第233图	区画 AE 土壙出土遺物 (45) ……	312	第270图	第 229 号土壙出土遺物 (1) ……	369
第234图	区画 AE 土壙出土遺物 (46) ……	313	第271图	第 229 号土壙出土遺物 (2) ……	370
第235图	区画 AE 土壙出土遺物 (47) ……	314	第272图	第 229 号土壙出土遺物 (3) ……	371
第236图	区画 AE 土壙出土遺物 (48) ……	324	第273图	第 229 号土壙出土遺物 (4) ……	372
第237图	区画 AE 土壙出土遺物 (49) ……	325	第274图	第 229 号土壙出土遺物 (5) ……	373
第238图	区画 AE 土壙出土遺物 (50) ……	326	第275图	第 245 号土壙出土遺物 ……	376
第239图	区画 AE 土壙出土遺物 (51) ……	327	第276图	第 259 号土壙出土遺物 (1) ……	377
第240图	区画 AE 土壙出土遺物 (52) ……	329	第277图	第 259 号土壙出土遺物 (2) ……	378
第241图	区画 AE 土壙出土遺物 (53) ……	330	第278图	第 259 号土壙出土遺物 (3) ……	379
第242图	区画 AE 土壙出土遺物 (54) ……	331	第279图	第 259 号土壙出土遺物 (4) ……	380
第243图	区画 AE 土壙出土遺物 (55) ……	333	第280图	第 259 号土壙出土遺物 (5) ……	381
第244图	区画 AE 土壙出土遺物 (56) ……	334	第281图	第 259 号土壙出土遺物 (6) ……	382
第245图	区画 AE 土壙出土遺物 (57) ……	335	第282图	区画 AF 土壙 (2) ……	387
第246图	区画 AE 土壙出土遺物 (58) ……	336	第283图	第 220 号土壙出土遺物 (1) ……	388
第247图	区画 AE 土壙出土遺物 (59) ……	338	第284图	第 220 号土壙出土遺物 (2) ……	389
第248图	区画 AE 土壙出土遺物 (60) ……	339	第285图	第 220 号土壙出土遺物 (3) ……	390
第249图	区画 AE 土壙出土遺物 (61) ……	340	第286图	第 221 号土壙出土遺物 (1) ……	393
第250图	区画 AE 土壙出土遺物 (62) ……	341	第287图	第 221 号土壙出土遺物 (2) ……	394
第251图	区画 AE 土壙出土遺物 (63) ……	342	第288图	第 221 号土壙出土遺物 (3) ……	395
第252图	区画 AE 土壙出土遺物 (64) ……	343	第289图	第 221 号土壙出土遺物 (4) ……	396
第253图	区画 AE 土壙出土遺物 (65) ……	344	第290图	第 221 号土壙出土遺物 (5) ……	397
第254图	区画 AE 土壙出土遺物 (66) ……	346	第291图	第 221 号土壙出土遺物 (6) ……	398
第255图	区画 AE 土壙出土遺物 (67) ……	347	第292图	第 253 号土壙出土遺物 (1) ……	402
第256图	区画 AE 土壙出土遺物 (68) ……	348	第293图	第 253 号土壙出土遺物 (2) ……	403
第257图	区画 AE 土壙出土遺物 (69) ……	349	第294图	区画 AF 土壙 (3) ……	405
第258图	区画 AE 土壙出土遺物 (70) ……	350	第295图	区画 AF 土壙 (4) ……	406
第259图	区画 AE 土壙出土遺物 (71) ……	351	第296图	区画 AF 土壙 (5) ……	407
第260图	区画 AE 土壙出土遺物 (72) ……	355	第297图	区画 AF 土壙 (6) ……	408
第261图	区画 AE 土壙出土遺物 (73) ……	356	第298图	区画 AF 土壙 (7) ……	409

第299図	区画 AF 土壙 (8) ……………	410	第336図	第 264 号土壙出土遺物 (4) ……	455
第300図	区画 AF 土壙出土遺物 (1) ……	411	第337図	区画 AG 土壙 (2) ……………	458
第301図	区画 AF 土壙出土遺物 (2) ……	412	第338図	第 203 号土壙出土遺物 (1) ……	459
第302図	区画 AF 土壙出土遺物 (3) ……	413	第339図	第 203 号土壙出土遺物 (2) ……	460
第303図	区画 AF 土壙出土遺物 (4) ……	414	第340図	第 203 号土壙出土遺物 (3) ……	461
第304図	区画 AF 土壙出土遺物 (5) ……	415	第341図	第 203 号土壙出土遺物 (4) ……	462
第305図	区画 AF 土壙出土遺物 (6) ……	416	第342図	第 203 号土壙出土遺物 (5) ……	463
第306図	区画 AF 土壙出土遺物 (7) ……	417	第343図	第 203 号土壙出土遺物 (6) ……	464
第307図	区画 AF 土壙出土遺物 (8) ……	418	第344図	第 203 号土壙出土遺物 (7) ……	465
第308図	区画 AF 土壙出土遺物 (9) ……	419	第345図	第 203 号土壙出土遺物 (8) ……	466
第309図	区画 AF 土壙出土遺物 (10) ……	420	第346図	第 203 号土壙出土遺物 (9) ……	467
第310図	区画 AF 土壙出土遺物 (11) ……	421	第347図	第 203 号土壙出土遺物 (10) ……	468
第311図	区画 AF 土壙出土遺物 (12) ……	422	第348図	第 203 号土壙出土遺物 (11) ……	469
第312図	区画 AF 土壙出土遺物 (13) ……	423	第349図	第 203 号土壙出土遺物 (12) ……	470
第313図	区画 AF 土壙出土遺物 (14) ……	424	第350図	第 203 号土壙出土遺物 (13) ……	471
第314図	区画 AF 土壙出土遺物 (15) ……	429	第351図	第 203 号土壙出土遺物 (14) ……	472
第315図	区画 AF 土壙出土遺物 (16) ……	430	第352図	第 203 号土壙出土遺物 (15) ……	473
第316図	区画 AF 土壙出土遺物 (17) ……	432	第353図	第 203 号土壙出土遺物 (16) ……	474
第317図	区画 AF 土壙出土遺物 (18) ……	432	第354図	第 203 号土壙出土遺物 (17) ……	475
第318図	区画 AF 土壙出土遺物 (19) ……	433	第355図	第 203 号土壙出土遺物 (18) ……	476
第319図	区画 AF 土壙出土遺物 (20) ……	434	第356図	区画 AG 土壙 (3) ……………	484
第320図	区画 AF 土壙出土遺物 (21) ……	435	第357図	区画 AG 土壙 (4) ……………	485
第321図	区画 AF 土壙出土遺物 (22) ……	437	第358図	区画 AG 土壙 (5) ……………	486
第322図	区画 AF 土壙出土遺物 (23) ……	438	第359図	区画 AG 土壙出土遺物 (1) ……	487
第323図	区画 AF 土壙出土遺物 (24) ……	439	第360図	区画 AG 土壙出土遺物 (2) ……	488
第324図	区画 AF 土壙出土遺物 (25) ……	440	第361図	区画 AG 土壙出土遺物 (3) ……	489
第325図	区画 AF 土壙出土遺物 (26) ……	441	第362図	区画 AG 土壙出土遺物 (4) ……	490
第326図	区画 AG 土壙 (1) ……………	443	第363図	区画 AG 土壙出土遺物 (5) ……	492
第327図	第 194 号土壙出土遺物 (1) ……	444	第364図	区画 AG 土壙出土遺物 (6) ……	493
第328図	第 194 号土壙出土遺物 (2) ……	445	第365図	区画 AG 土壙出土遺物 (7) ……	494
第329図	第 194 号土壙出土遺物 (3) ……	446	第366図	区画 AG 土壙出土遺物 (8) ……	495
第330図	第 261 号土壙出土遺物 (1) ……	448	第367図	区画 AG 土壙出土遺物 (9) ……	496
第331図	第 261 号土壙出土遺物 (2) ……	449	第368図	区画 AG 土壙出土遺物 (10) ……	498
第332図	第 262 号土壙出土遺物 ……	451	第369図	区画 AG 土壙出土遺物 (11) ……	499
第333図	第 264 号土壙出土遺物 (1) ……	452	第370図	区画 AG 土壙出土遺物 (12) ……	499
第334図	第 264 号土壙出土遺物 (2) ……	453	第371図	区画 AG 土壙出土遺物 (13) ……	500
第335図	第 264 号土壙出土遺物 (3) ……	454	第372図	ピット ……………	501

第373図	ピット出土遺物	502	第394図	井戸跡(2)	527
第374図	遺構外出土遺物(1)	503	第395図	井戸跡(3)	528
第375図	遺構外出土遺物(2)	504	第396図	井戸跡(4)	529
第376図	遺構外出土遺物(3)	505	第397図	井戸跡(5)	530
第377図	遺構外出土遺物(4)	507	第398図	井戸跡(6)	531
第378図	遺構外出土遺物(5)	508	第399図	井戸跡(7)	532
第379図	遺構外出土遺物(6)	509	第400図	井戸跡(8)	533
第380図	遺構外出土遺物(7)	510	第401図	井戸跡(9)	534
第381図	遺構外出土遺物(8)	511	第402図	井戸跡(10)	535
第382図	遺構外出土遺物(9)	512	第403図	井戸跡(11)	536
第383図	遺構外出土遺物(10)	514	第404図	井戸跡(12)	537
第384図	第二面区画参考図	515	第405図	井戸跡(13)	538
第385図	第5号建物跡	516	第406図	井戸跡出土遺物(1)	539
第386図	第5号建物跡出土遺物	517	第407図	井戸跡出土遺物(2)	540
第387図	埋設桶(1)	518	第408図	井戸跡出土遺物(3)	541
第388図	埋設桶(2)	519	第409図	井戸跡出土遺物(4)	542
第389図	埋設桶(3)	520	第410図	井戸跡出土遺物(5)	543
第390図	埋設桶出土遺物(1)	521	第411図	井戸跡出土遺物(6)	544
第391図	埋設桶出土遺物(2)	522	第412図	溝跡	548
第392図	埋設桶出土遺物(3)	523	第413図	溝跡出土遺物	549
第393図	井戸跡(1)	526	第414図	性格不明遺構	550

表目次

(第2分冊)

第50表	第一面区画 AE 土壌一覧表	256	第57表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(6)	344
第51表	第269号土壌出土遺物観察表	259	第58表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(7)	352
第52表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(1)	315	第59表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(8)	355
第53表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(2)	324	第60表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(9)	359
第54表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(3)	327	第61表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(10)	360
第55表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(4)	332	第62表	第一面区画 AF 土壌一覧表	361
第56表	区画 AE 土壌出土遺物観察表(5)	336	第63表	第154号土壌出土遺物観察表	364

第64表	第156号土壙出土遺物觀察表 …	365	第88表	区画AG土壙出土遺物觀察表(2)	
第65表	第160号土壙出土遺物觀察表 …	367		……………	492
第66表	第229号土壙出土遺物觀察表 …	374	第89表	区画AG土壙出土遺物觀察表(3)	
第67表	第245号土壙出土遺物觀察表 …	376		……………	493
第68表	第259号土壙出土遺物觀察表 …	383	第90表	区画AG土壙出土遺物觀察表(4)	
第69表	第220号土壙出土遺物觀察表 …	391		……………	497
第70表	第221号土壙出土遺物觀察表 …	399	第91表	区画AG土壙出土遺物觀察表(5)	
第71表	第253号土壙出土遺物觀察表 …	403		……………	498
第72表	区画AF土壙出土遺物觀察表(1)		第92表	区画AG土壙出土遺物觀察表(6)	
	……………	425		……………	499
第73表	区画AF土壙出土遺物觀察表(2)		第93表	区画AG土壙出土遺物觀察表(7)	
	……………	429		……………	499
第74表	区画AF土壙出土遺物觀察表(3)		第94表	区画AG土壙出土遺物觀察表(8)	
	……………	431		……………	500
第75表	区画AF土壙出土遺物觀察表(4)		第95表	第一面ピット一覽表 ……	500
	……………	432	第96表	ピット出土遺物觀察表 ……	502
第76表	区画AF土壙出土遺物觀察表(5)		第97表	遺構外出土遺物觀察表(1) ……	506
	……………	436	第98表	遺構外出土遺物觀察表(2) ……	507
第77表	区画AF土壙出土遺物觀察表(6)		第99表	遺構外出土遺物觀察表(3) ……	508
	……………	438	第100表	遺構外出土遺物觀察表(4) ……	508
第78表	区画AF土壙出土遺物觀察表(7)		第101表	遺構外出土遺物觀察表(5) ……	511
	……………	438	第102表	遺構外出土遺物觀察表(6) ……	513
第79表	区画AF土壙出土遺物觀察表(8)		第103表	遺構外出土遺物觀察表(7) ……	514
	……………	440	第104表	第二面建物跡一覽表 ……	516
第80表	区画AF土壙出土遺物觀察表(9)		第105表	第5号建物跡出土遺物觀察表 …	517
	……………	441	第106表	第二面埋設桶一覽表 ……	517
第81表	第一面区画AG土壙一覽表 ……	442	第107表	埋設桶出土遺物觀察表 ……	524
第82表	第194号土壙出土遺物觀察表 …	447	第108表	第二面井戸跡一覽表 ……	525
第83表	第261号土壙出土遺物觀察表 …	450	第109表	井戸跡出土遺物觀察表 ……	545
第84表	第262号土壙出土遺物觀察表 …	451	第110表	第二面溝跡一覽表 ……	547
第85表	第264号土壙出土遺物觀察表 …	456	第111表	溝跡出土遺物觀察表 ……	549
第86表	第203号土壙出土遺物觀察表 …	477	第112表	第二面性格不明遺構一覽表 ……	550
第87表	区画AG土壙出土遺物觀察表(1)			……………	
	……………	491			

⑤区画 AE の土壌 (第 179 ～ 264 図)

区画 AE は第 2 号溝跡より南、第 5 号杭列より北に位置し、『絵図』にみえる「旅籠屋 / 太左衛門」、『営業便覧』にみえる「吉田作二郎」の区画である。「太左衛門」は、文政十年 (1827) に編纂された『諸國道中商人鑑』にみえる「吉田屋 / 太左衛門」であり、栗橋宿第 8 地点の遺構からは、「吉田屋」、「田」等の染付銘磁器が多数出土している。

敷地面積は AA ～ AD の各区画のおおよそ 2 倍に相当し、出土している「吉田屋」銘染付磁器の存在から、宿内でも特徴的な区画であり、『絵図』との対比においても対比の基準とすることができる区画である。

土壌は 70 基検出された。AB ～ AD の各区画より検出土壌数が多いが、これは敷地の広さに比例しているためと考えられる。検出された土壌のうち、第 329 号土壌は区画施設である第 5 号杭列と重複する。

遺構は敷地の南側に集中するが、北西部にある第 1 号建物跡と極めて多くの土壌との重複がみられる。一方で第 6 号建物跡の重複土壌は少ない。平面形態はおよそ長方形を呈するものが多く、長軸方向は日光道中と直交する方向に向く傾向がある。

本区画で抽出した土壌は第 269 号土壌で、第 179 図に遺構図、第 180 図に出土遺物を示した。非抽出となった土壌は第 181 ～ 188 図に遺構図、第 189 ～ 264 図に出土遺物を示した。第 50 表には位置・規模等の基本的な情報を示した。

第 269 号土壌 (第 179・180 図)

F 7 - E 8 グリッドに位置し、第 135・267・268 号土壌と重複する。多くの土壌と重複するため、平面形は不詳であるが、隅丸方形・長方形を呈する可能性がある。検出長軸 1.6 m、短軸 0.85 m、深さ 0.65 m を測り、長軸方位は N - 15° - W を指す。

出土遺物は一定量あり、瀬戸美濃系磁器の湯呑

形碗、端反形碗を主体とし、瀬戸美濃系磁器の陽刻文型皿 (第 180 図 7) を最新とする。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 180 図 1 は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。口縁部の反りが強い。焼継痕がみられ、高台内に朱書きの焼継印が認められる。2 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。外面に陰刻文染付が施される。

3・4 は肥前系磁器の内面染付一枚絵の手塩皿である。3 は 4 と同様に輪花状の口縁を呈する可能性がある。5 は肥前系磁器で、高台高が高い蛇ノ目凹形高台の皿である。内面に山水楼閣文染付がみられ、口縁部は輪花状に成形されている。

6 は肥前系磁器の中皿で、内面染付一枚絵の墨弾き文染付がみられる。焼継痕がみられる。

7 は瀬戸美濃系磁器の型皿である。型成形で、内面に陽刻状文染付がみられる。焼継痕がみられ、高台内に朱書きの焼継印が認められる。

8 は瀬戸美濃系磁器の瓶子形御神酒徳利である。外面に瑠璃釉が施釉される。

9 は貫入が大きく入る糠白釉が施釉された土瓶の蓋で、大堀相馬系陶器の可能性がある。

10 はかわらけ小皿で、強い酸化焰焼成で赤褐色を呈する。胎土は角閃石を含む砂質である。

11 ～ 13 は木製品で、11 は漆椀の蓋である。横木取りで、内面に赤漆、外面に黒漆が塗布される。12 は木札と推定され、墨痕が認められる。13 は行灯の部材で、黒漆が塗布されている。裏面に横木を付けた痕跡がみられる。

14 は銅製の新寛永通寶である。

第 128 号土壌 (第 187・220・236・238・241・249・257・262 図)

F 7 - E 6・E 7 グリッドに位置する。第 127 号土壌より古く、第 256 号土壌より新しい。平面形は、隅丸長方形と推定され、検出長軸 1.25 m、短軸 0.65 m、深さ 0.6 m を測る。長軸方位は N - 18° - W を指す。

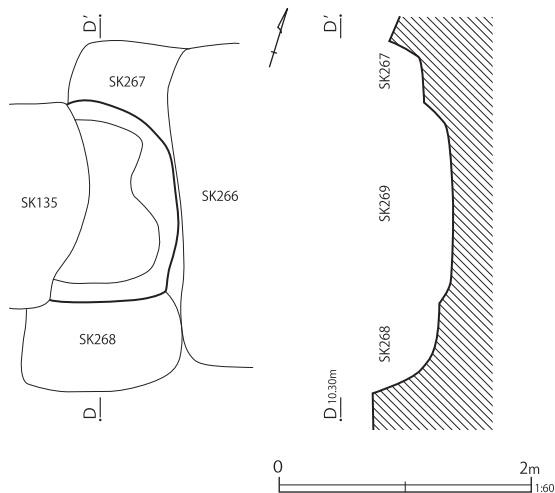
第 50 表 第一面区画 AE 土壌一覽表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
60	F7-D7	隅丸長方形	2.90	1.35	0.45	N-73° -E	SB3 より新 SK286 と重複	181
70	F7-D6・7	不整形	2.00	1.40	0.35	N-68° -E	SB3 より新	181
80	F7-D・E6	不整形	3.75	2.50	0.50	N-22° -W	SB3 より新 SK84 と重複 SK86 と隣接	181
83	F7-E6	隅丸長方形	2.65	1.45	0.25	N-15° -W	埋桶 2 より古 SK85 より新 SB3 と重複	181
84	F7-D・E6	不整形	1.35	0.85	0.30	N-58° -W	SK85 より新 SB3・SK80 と重複	181
85	F7-E6	不明	(1.10)	1.00	0.45	N-74° -E	SK83・84 より古 SB3 と重複	181
86	F7-D6	不整形	2.05	1.50	0.20	N-16° -W	SK87 より新 SB3 と重複 SK80 と隣接	182
87	F7-D6・7	隅丸方形	1.30	1.20	0.50	N-20° -W	SK86 より古 SK88 より新 SB3 と重複	182
88	F7-D7	隅丸方形	1.60	1.40	0.30	N-13° -W	SK87 より古 SB3・SK129 と重複	182
92	F7-D・E7	楕円形	1.50	0.60	0.20	N-25° -W	SK93・SD6～9 より新	182
93	F7-D・E7	不整隅丸長方形	(3.20)	0.85	0.40	N-74° -E	SK92 より古 SD6・7 より新 SB3 と重複	182
94	F7-D・E7	隅丸長方形	2.95	1.00	0.45	N-70° -E	SD8・9 より新 SB3 と重複	182
96	F7-E7	隅丸方形	2.00	1.80	0.30	N-72° -E	SB3・SD7～10 より新	182
97	F7-D7	不整形	1.90	1.45	0.45	N-72° -E	SB3 より新	182
98	F7-D7	隅丸長方形	2.30	1.70	0.45	N-18° -W		183
99	F7-D8	隅丸長方形	1.75	1.40	0.90	N-70° -E	SK265・270 と重複	183
102	F7-E7	隅丸長方形	1.35	1.15	0.50	N-70° -E	SK108 より新	183
103	F7-E6	不明	(1.10)	1.15	0.40	N-72° -E	SK104 より新	183
104	F7-E6	不明	(1.55)	1.10	0.65	N-81° -E	SK103 より古	183
105	F7-E6	不明	(1.55)	1.35	0.85	N-74° -E		183
106	F7-E6	楕円形	0.90	0.85	0.15	N-65° -E		183
107	F7-E6	隅丸長方形	1.45	1.00	0.85	N-75° -E	SK318 と重複	184
108	F7-E7	不整隅丸方形	1.30	(1.20)	1.00	N-84° -E	SK102 より古 SK256 より新	183
109	F7-E6・7	隅丸長方形	1.70	0.75	0.40	N-68° -E	SK110 より古	184
110	F7-E6・7	隅丸長方形	2.25	1.35	0.75	N-66° -E	SK109 より新	184
112	F7-E7	隅丸長方形	1.90	1.15	0.20	N-74° -E	SD12 より新	184
113	F7-E7	隅丸長方形	2.20	1.10	0.70	N-72° -E	SK134 より古 SD11・12 より新	184
114	F7-D7・8	隅丸長方形	(2.20)	1.20	0.75	N-70° -E	SB6・SK121 と重複	185
115	F7-D8	長楕円形	2.75	1.20	0.70	N-11° -W	SB6・SD4 と重複	184
116	F7-E8	不明	(1.40)	1.00	0.50	N-72° -E	SK303 より新 SK135・302 と重複	186
117	F7-E8	不明	2.40	—	0.55	計測不能	SK329 より新 SK119 と重複	186
118	F7-E8	楕円形	1.75	0.80	0.60	N-65° -E	SK132 と重複	185
119	F7-E7・8	不明	3.15	—	0.70	計測不能	SK117・132・329 と重複	186
120	F7-D・E7	隅丸長方形	3.30	1.05	0.30	N-70° -E	SK131 より新	187
121	F7-D7・8	隅丸長方形	[4.45]	0.75	0.40	N-20° -W	SB6・SK114 と重複	185
123	F7-E6	楕円形	0.60	(0.40)	0.20	N-4° -W	SK124 より古	187
124	F7-E6	楕円形	0.70	0.45	0.10	N-63° -E	SK123 より新	187
125	F7-E6・7	隅丸長方形	1.45	0.70	0.36	N-67° -E	SK256 と重複 SK128 と隣接	187
127	F7-E6・7	楕円形	1.05	0.65	0.35	N-87° -W	SK128 より新 SK256 と重複	187
128	F7-E6・7	隅丸長方形	(1.25)	0.65	0.60	N-18° -W	SK127 より古 SK256 より新 SK125 と隣接	187
129	F7-D7	隅丸長方形	1.80	0.65	0.15	N-70° -E	SB3・SK88 と重複	187
131	F7-E7	隅丸長方形	2.60	(1.40)	0.45	N-70° -E	SK120 より古	187
132	F7-E7・8	隅丸方形	1.15	1.00	0.70	N-71° -E	SK118・119 と重複	185
133	F7-E7	楕円形	0.80	0.50	0.30	N-23° -W		187
134	F7-E7	不整形	1.85	1.75	0.35	N-77° -E	SD10・11・SK113 より新	184
135	F7-E8	楕円形	1.65	1.20	0.80	N-17° -W	SK116・268・269・303 と重複	186
248	F7-E7	不整形	1.80	1.65	0.60	N-20° -W	SK249 と重複	187
249	F7-E7	不整形	(2.80)	2.50	0.25	N-85° -E	埋桶 12 より古 SK248 と重複	187
256	F7-E7	不整形	(2.95)	2.00	0.45	N-78° -E	SK108・128・257 より古 SK125・127 と重複	188
257	F7-E7	隅丸方形	1.65	1.50	0.30	N-18° -W	SK256 より新	188
265	F7-D・E8	不明	(1.40)	0.80	0.40	N-10° -W	SK99・266 と重複	186
266	F7-D・E8	不整形	2.65	2.00	0.40	N-22° -W	SK265・267 と重複	186
267	F7-E8	不明	(0.80)	(0.75)	0.40	N-78° -E	SK266・269 と重複	186
268	F7-E8	不明	1.25	(0.70)	0.50	N-70° -E	SK135・269 と重複	186

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
269	F7-E8	不明	1.60	(0.85)	0.65	N-15° -W	SK135・267・268と重複	179
270	F7-D8	隅丸方形	1.40	1.20	0.45	N-61° -E	SK99・271・295・296と重複	183
271	F7-D8	隅丸長方形	0.80	0.55	0.15	N-70° -E	SB6・SK270・296と重複	183
272	F7-D6	不整形	1.65	(0.55)	0.40	N-26° -W	SK272 a・b	187
277	F7-D・E8	不明	0.75	(0.40)	0.50	N-11° -W		187
278	F7-D8	楕円形	1.60	0.80	0.20	N-76° -E	SK295より古	183
286	F7-D7	楕円形か	(0.95)	1.00	0.10	N-43° -W	SK60と重複	188
295	F7-D8	不明	(2.50)	(0.70)	0.10	N-73° -E	SK278・296より新 SK270と重複	183
296	F7-D8	不明	(3.15)	(0.60)	0.15	N-68° -E	SB6・SK295より古 SK270・271と重複	183
299	F7-D8	不整形	1.35	0.90	0.50	N-48° -W	SB6と重複	188
302	F7-E8	不明	(1.10)	(1.00)	0.60	N-21° -W	SK303より古 SK116と重複	186
303	F7-E8	隅丸長方形	(1.30)	0.85	0.50	N-15° -W	SK116より古 SK302より新 SK135と重複	186
307	F7-D7	不整形	0.80	0.65	0.20	N-35° -E	SK308と重複	188
308	F7-D7	不整形	1.45	0.75	0.10	N-35° -W	SK307と重複	188
318	F7-E6	—	—	—	—	—	SK107と重複	184
329	F7-E7・8	不明	(0.85)	—	0.50	計測不能	杭列5・SK117より古 SK119と重複	186

SK269



第179図 区画AE土壌(1)

下層は粘土質で木片や板材等が多量に含まれており、中・上層には炭化物が含まれる。特に中層で多量に含まれる。最上層は砂質土である。

出土遺物は19世紀中葉頃の陶磁器が主体だが、残存率50%を越える型紙摺絵染付丸碗が1個体みられる。重複する第127号土壌は、型紙摺絵染付磁器を主体としているため、上層の遺構からの混入であろう。しかし、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付駄知井(第220図210)は、混入か判断が困難である。また、非掲載遺物には第7地点等で出土が確認されている信楽産陶器の大型壺

(『栗橋宿跡IV』第138図326)の破片がみられる。磁器は卵殻手坏を主体とし、瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗(第220図205)を組成する。推定廃絶期は19世紀後葉である。

出土遺物は第220図に陶磁器類、第236図4・5に小型土器、第238図19・20に土製品のミニチュア、第241図14に土製品の人形類、第249図32に木製品、第257図79～83に金属製品、第262図15～18に石製品を図示した。

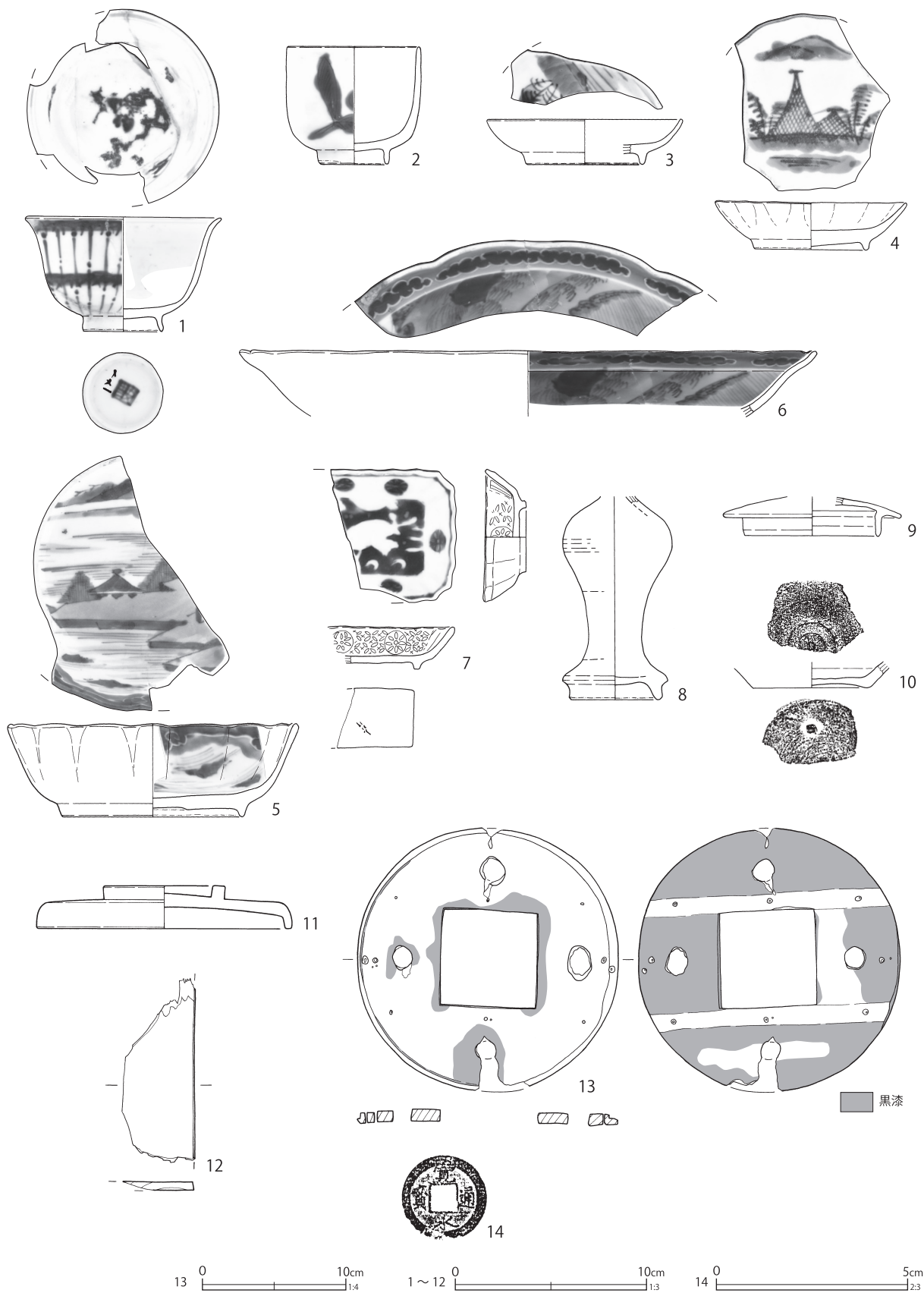
第220図203・205は瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗である。203は外面に陰刻文染付がみられ、205は強く被熱している。204は外面瑠璃釉の小碗である。

206～209は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。206～208は内面に江戸絵付けが施され、209は染付のみである。畳付に段が付くものではなく、すべて輪高台である。

210は瀬戸美濃系磁器の鉢である。口縁部が肥厚する所謂「駄知井」であり、酸化コバルト染付が施される。体部中位には段が付く。

213は瀬戸美濃系陶器の坏である。外面上位から内面にかけて施釉し、体部が屈曲する器高の低い坏で、19世紀後半頃にみられる。

216～218は手づくね成形のかわらけ小皿であ



第 180 図 第 269 号土壙出土遺物

第 51 表 第 269 号土壙出土遺物観察表 (第 180 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	10.0	6.0	4.1	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	77-13	
2	磁器	碗	(6.8)	6.1	(3.4)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付		
3	磁器	皿	(10.1)	2.3	(6.0)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付		
4	磁器	皿	(9.9)	2.5	5.8	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅		
5	磁器	皿	(14.9)	4.8	9.4	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付		
6	磁器	皿	(29.8)	[3.4]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼継痕あり		
7	磁器	皿	縦 6.9 横 [6.1] 高さ 2.2			—	70	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内面陽刻文・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	77-14	
8	磁器	徳利	—	[10.5]	4.6	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 外面瑠璃釉		
9	陶器	蓋	(9.2)	[2.0]	(6.9)	HK	20	良好	灰白	大堀相馬系カ 上面糠白釉		
10	かわらけ	小皿	—	[1.3]	(6.0)	CIK	20	普通	赤褐	底部糸切痕 胎土砂質 強い酸化焰焼成		
11	木製品	漆椀蓋	口径 / 径 (12.8) 高さ 2.2 つまみ径 6.2								横木取り 内面赤漆 外面黒漆	130-10
12	木製品	木札	長さ [9.5] 幅 [3.7] 厚さ 0.4								板目 表面墨痕	
13	木製品	行灯	口径 / 径 18.2 厚さ 0.8								板目 表裏面黒漆 中央に 6.8 × 6.1 cm の方形孔 4 方向に径 1.5 cm の円孔 側板接着痕	130-11
14	銅製品	銭貨	径 22.5 厚さ 1.1 重さ 1.7								寛永通寶 (新)	

る。白色胎土を呈し、217 は色調が若干異なるが、いずれも同一の胎土である。底部に指頭圧痕がみられ、外面上位にナデ調整が 1 周廻る。区画 AB 第 20 号土壙出土製品に類似する。

220 は瓦質土器の仕切盤である。栗橋宿での出土は稀で、形を成しているものはさらに稀少である。城や石垣、灯籠等のミニチュアである所謂「箱庭道具」を飾るための鉢と考えられ、内面中央に波打つ間仕切りがみられる。底部にムシロ状の圧痕がみられ、口唇部にはミガキ調整が施される。外面下位にケズリ、内外面に指頭痕がみられる。

第 236 図 4・5 は土師質土器の小壺である。5 は底部に左回転の糸切痕、二次穿孔がみられる。

第 238 図 19・20 は江戸在地系のミニチュアである。いずれも型成形で、19 は鉢、20 は碗である。第 241 図 14 は亀を模した江戸在地系の人形である。上下合わせの二枚型成形で、中空である。透明釉が施釉される。

第 249 図 32 は木樋ないし竹樋の継手である。円形の孔が「L」にあげられており、樋の走行を 90° 転換させる機能を有している。

第 257 図 79 は銅製煙管の吸口、80 は簪である。81～83 は鉄製品で、81 は刀子、82 は掛金具、

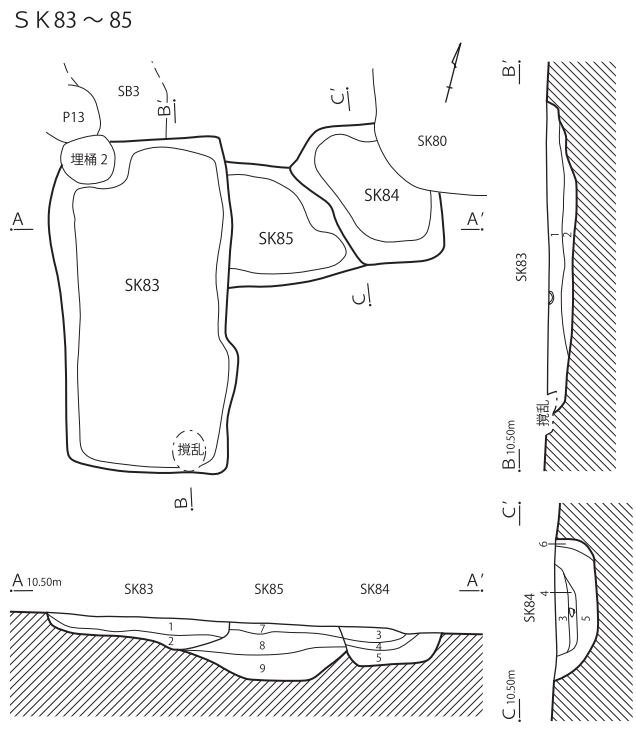
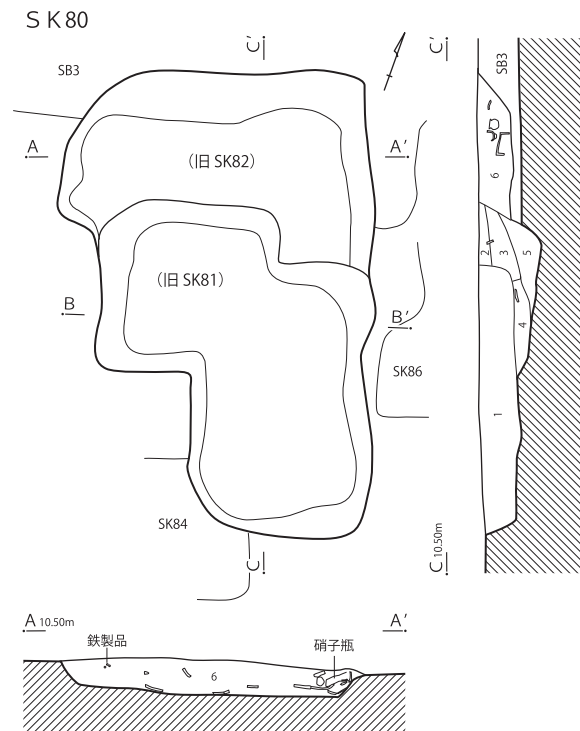
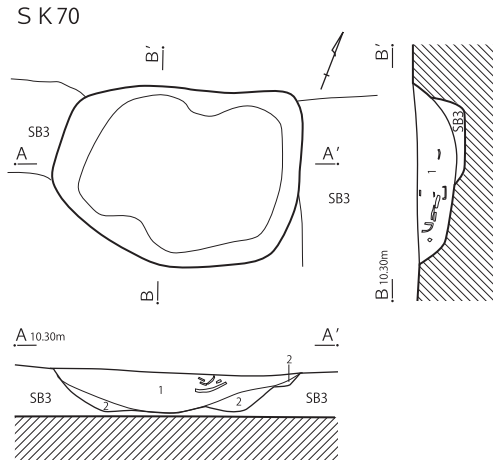
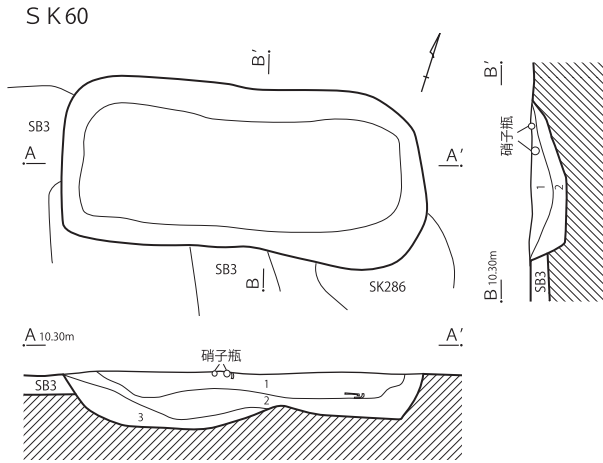
83 は包丁である。包丁には木柄が遺存する。

第 262 図 15 は滑石製の印章である。両端面に篆書体が刻まれ、上面には壺状の図柄内に配されている。文字は判読が困難である。印字面には朱が付着する。16 は白色の流紋岩製砥石である。左側面に段が付くノコギリ状工具痕が見られ、その他の側面や裏面にはチョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕がみられる。17 は白色の流紋岩製砥石で、裏・側面に刃幅の広い工具痕がみられる。18 は粘板岩製の携帯用硯で、内面に朱墨が付着する。

第 249 号土壙 (第 187・223・224・238・242・244・246・258・260・262 図)

F7-E7 グリッドに位置する。第 12 号埋設桶より古く、第 248 号土壙と重複する。平面形は不整形で、検出長軸 2.8 m、短軸 2.5 m、深さ 0.25 m を測る。長軸方位は N-85°-E を指す。

出土遺物は混在が極めて多く、遺構の平面形から方形もしくは長方形を呈する複数基の土壙の存在が示唆される。遺構の南側には桶の底板があり、第 12 号埋設桶が重複していることから関係性が示唆される。推定廃絶期は 19 世紀後半以降であ

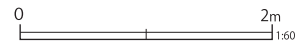


- S K 60
- 1 木質層 木質多量 杭等の大型木材含む 硝子瓶類・ゴム製品含む 酸化鉄少量
 - 2 灰黄褐色土 粘土質 木質少量 プラスチック含む
 - 3 炭化物層 木材出土

- S K 70
- 1 黒色土 硝子多量 木材、ゴム製品、靴底含む
 - 2 灰褐色土 シルト質 粘性強

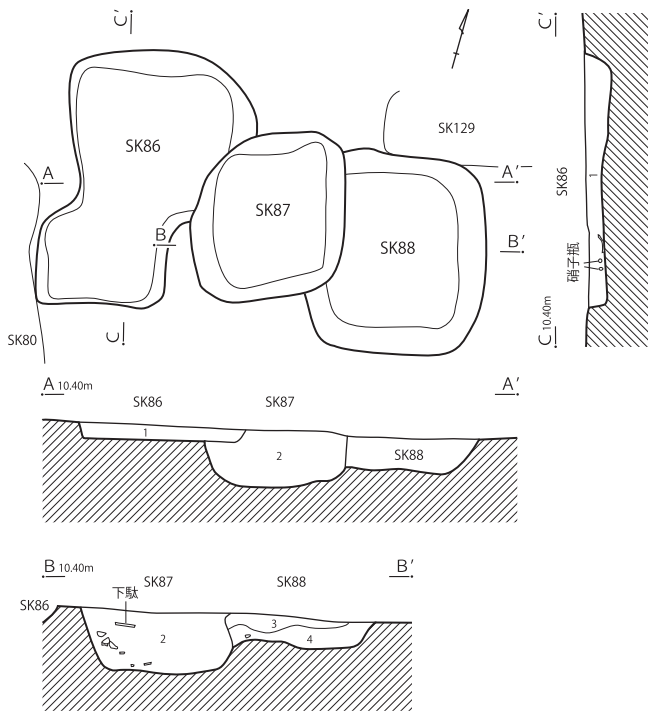
- S K 80
- 1 黒褐色土 炭化物・焼土塊・木片・硝子瓶・陶器・貝類含む
 - 2 黒褐色土 炭化物・焼土塊・陶磁器・硝子瓶含む
 - 3 暗褐色土 黒褐色土・灰褐色土・砂質土を混在 炭化物・陶磁器含む
 - 4 黒褐色土 炭化物・焼土塊・陶磁器・硝子瓶含む
 - 5 褐色土 砂質土主体 硝子片含む
 - 6 黒褐色土 炭化物・焼土塊・木片・硝子瓶・陶磁器含む

- S K 83 (1, 2)・S K 84 (3~6)・S K 85 (7~9)
- 1 黒褐色土 炭化物・焼土塊・ローム粒子多量 瓦・硝子瓶・陶磁器含む
 - 2 灰褐色土 粘土質 炭化物粒子
 - 3 黒褐色土 炭化物・焼土塊多量 硝子・陶磁器・瓦含む
 - 4 赤褐色土 焼土塊主体
 - 5 暗褐色土 焼土粒子・炭化物含む
 - 6 灰褐色土 粘土質 炭化物粒子含む
 - 7 灰褐色土 砂質 焼土塊含む
 - 8 暗褐色土 木片多量 炭化物・焼土塊含む
 - 9 灰褐色土 粘土質 炭化物・焼土塊含む

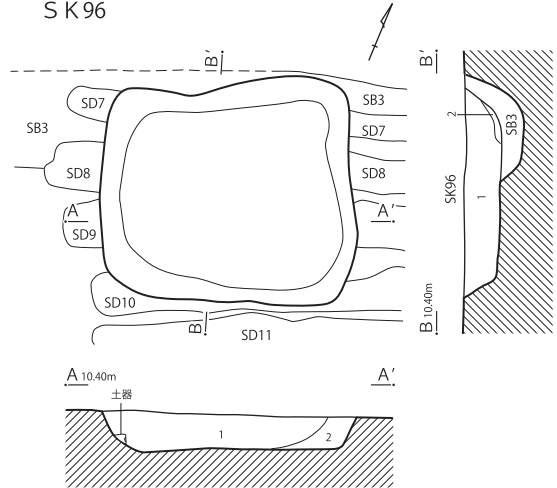


第 181 図 区画 AE 土 壙 (2)

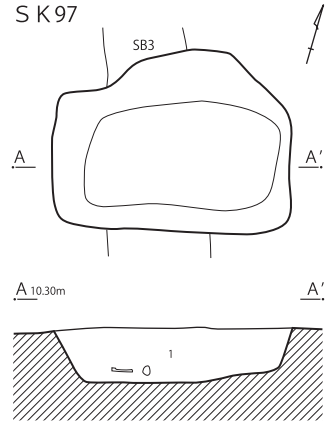
S K 86 ~ 88



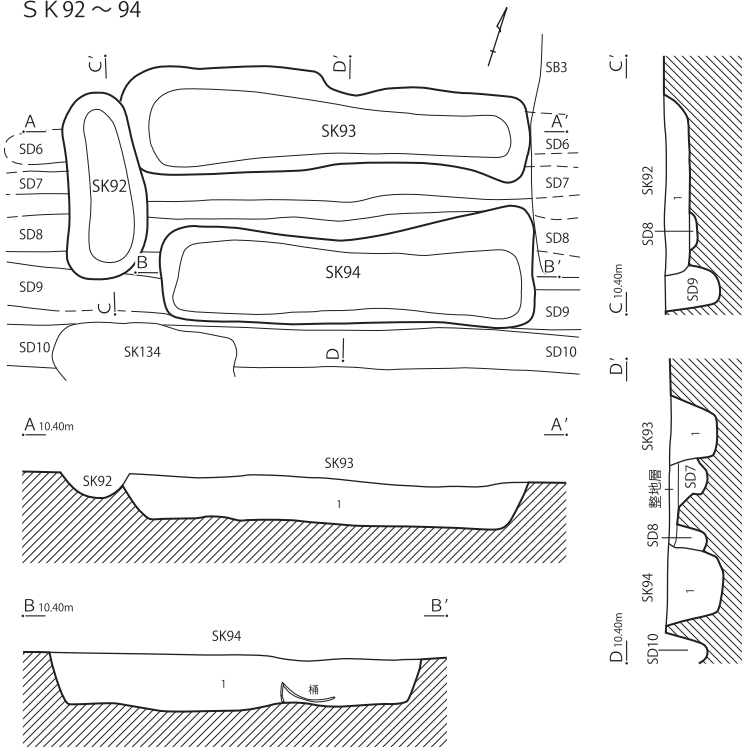
S K 96



S K 97



S K 92 ~ 94



- S K 86 (1)・S K 87 (2)・S K 88 (3、4)
- 1 黒褐色土 炭化物・粘土塊・木片・硝子瓶・陶磁器含む
 - 2 黒褐色土 炭化物・焼土塊・木片・硝子瓶・陶磁器・貝類含む
 - 3 暗褐色土 砂質 炭化物粒子・焼土粒子・木片含む
 - 4 黒褐色土 粘土質 炭化物粒子・焼土粒子・陶磁器含む

- S K 92
- 1 黒色土 粘土質 炭化物・酸化鉄・木質・陶器・瓦片含む

- S K 93
- 1 黒褐色土 シルト質 炭化物・酸化鉄・鉄製品含む

- S K 94
- 1 黒褐色土 シルト質 硝子片・硝子瓶・鉄製品・陶磁器含む

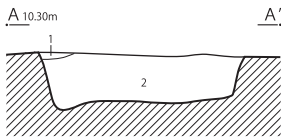
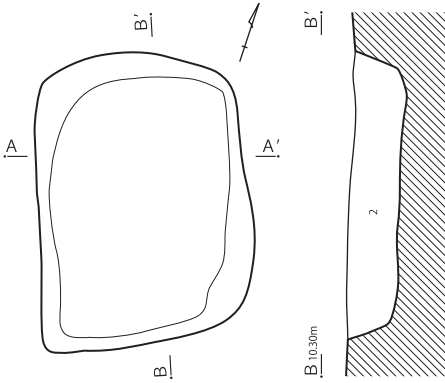
- S K 96
- 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子含む 木片・硝子・硝子瓶・陶磁器含む
 - 2 褐色土 地山土多量 炭化物・地山土ブロック混在

- S K 97
- 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子・硝子・木片・硝子瓶・陶器類含む

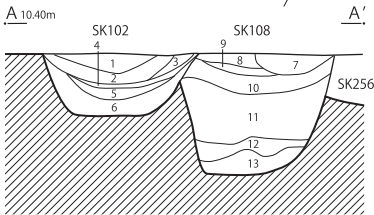
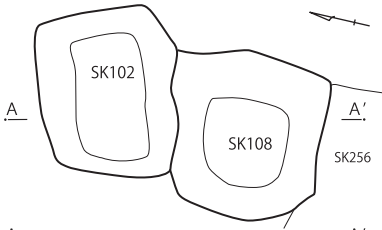


第 182 図 区画 AE 土 壤 (3)

S K 98



S K 102・108



S K 98

- 1 褐色土 砂質 炭化物少量 しまり強
- 2 黒褐色土 粘土質 炭化物・木質・陶磁器片・硝子製品・プラスチック含む

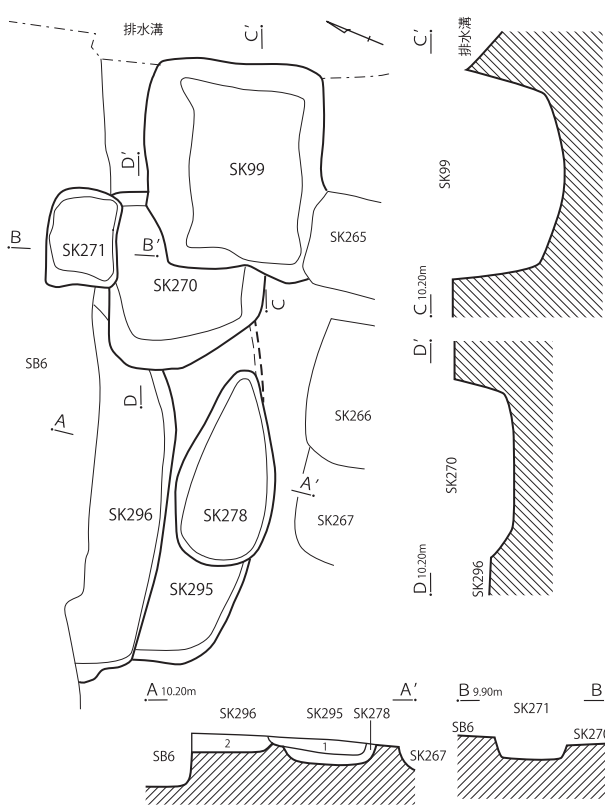
S K 102 (1~6)・S K 108 (7~13)

- 1 白黄色土 砂質 方形の黄色砂質土ブロック (φ30 mm) 含む 陶磁器片・硝子片含む
- 2 褐色土 シルト質 木質多量 漆喰含む
- 3 灰黄褐色土 砂質 黄色砂質土ブロック含む
- 4 黒褐色土 粘土質 細かい木片・炭化物多量
- 5 灰褐色土 粘土質 細かい木片・酸化鉄少量 陶磁器・鉄製品・ゴム製品含む
- 6 灰黄褐色土 粘土質 木質少量 方形の黄褐色粘土ブロック (φ30 mm) 含む
- 7 黒褐色土 砂質 炭化物多量 木質少量
- 8 黄褐色土 砂質 粘性弱 木質・炭化物・鉄分は含まず 陶磁器片少量
- 9 灰褐色土 粘土質 炭化物多量 木質少量 板材・木片含む 雑草などの茎である
- 10 灰色土 シルト質 木片微量 板材少量
- 11 褐色土 シルト質 炭化物少量
- 12 灰褐色土 砂質 砂粒 (φ0.5 mm) 含む 木片多量
- 13 灰黄褐色土 シルト質 粘性強 木片少量

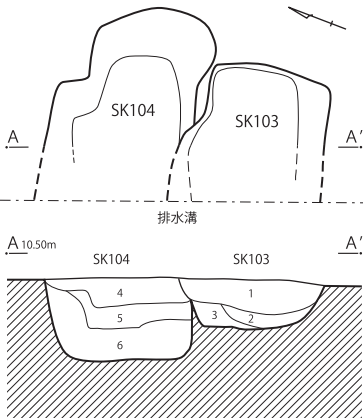
S K 103 (1~3)・S K 104 (4~6)

- 1 黒褐色土 砂質 酸化鉄・炭化物少量 陶磁器片含む
- 2 褐色土 粘土質 炭化物少量
- 3 黄色土 砂質 炭化物微量 粘性弱
- 4 暗灰色土 砂質 炭化物多量 粘性弱 酸化鉄・木質少量 磁器片・木片含む
- 5 黒褐色土 粘土質 炭化物・木質少量
- 6 灰褐色土 粘土質 木質少量 陶磁器多量

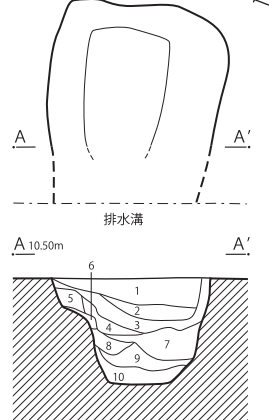
S K 99・270・271・278・295・296



S K 103・104



S K 105



S K 105

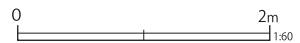
- 1 灰褐色土 シルト質 炭化物含む 酸化鉄少量
- 2 黒褐色土 シルト質 炭化物・酸化鉄多量 粘性強
- 3 灰褐色土 砂質 円形の黄褐色粘土ブロック (φ10 mm) 含む 酸化鉄・炭化物少量
- 4 灰褐色土 粘土質 木質多量 炭化物少量
- 5 灰褐色土 シルト質 炭化物・酸化鉄・木質少量
- 6 明灰色土 砂質 酸化鉄微量
- 7 褐色土 粘土質 木片・木質多量 炭化物少量
- 8 黄灰色土 粘土質 木質微量
- 9 灰褐色土 シルト質 粘性強 木片多量 鉄板含む
- 10 灰色土 粘土質 木質微量

S K 106

- 1 黄褐色土 砂質 炭化物少量 鉄製品・瓦・陶磁器含む
- 2 黒褐色土 シルト質 炭化物・木質少量

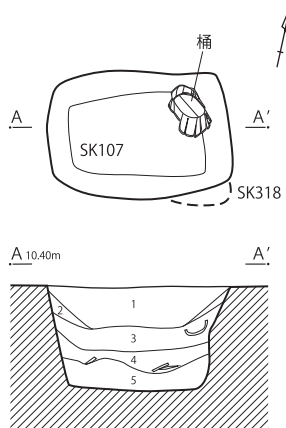
S K 295 (1)・S K 296 (2)

- 1 暗褐色土 炭化物 (φ10 mm) 少量
- 2 暗褐色土 炭化物 (φ10 mm) 少量

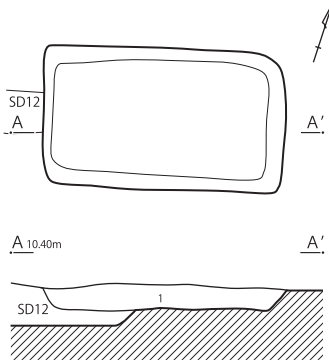


第 183 図 区画 AE 土壌 (4)

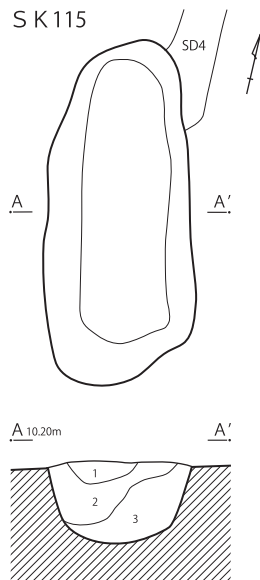
S K 107・318



S K 112



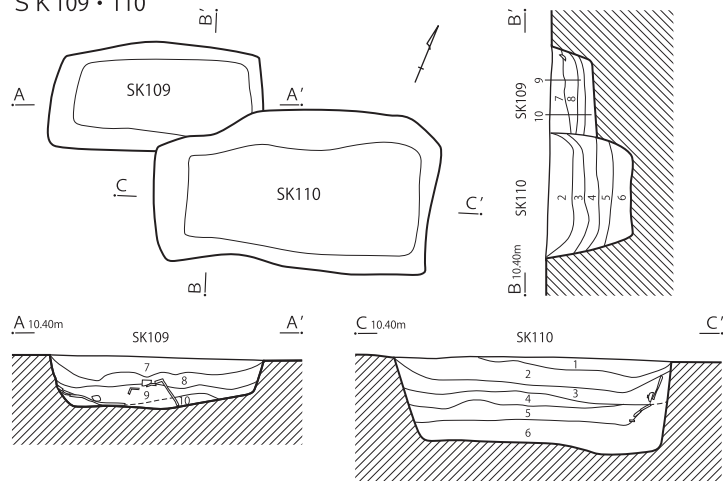
S K 115



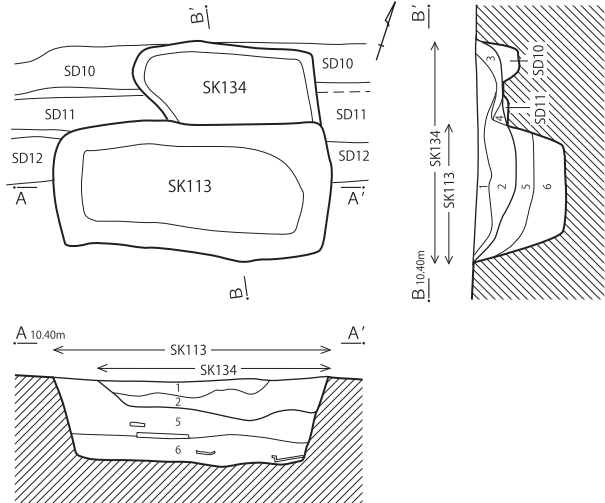
S K 107

- 1 黒褐色土 砂質 炭化物・木片少量 陶磁器片・プラスチック含む
- 2 灰色土 粘土質 炭化物少量
- 3 黄褐色土 砂質 木片・木質多量 炭化物少量
- 4 黒褐色土 シルト質 木質少量 陶磁器・皮含む
- 5 灰黄褐色土 シルト質 炭化物少量

S K 109・110



S K 113・134



S K 109 (7~10)・S K 110 (1~6)

- 1 黄褐色土 砂質 パウダー状 炭化物少量
- 2 黒色土 砂質 木質・炭化物少量
- 3 灰褐色土 シルト質 粘性強 木片(φ30mm)含む 部分的に炭化物が層状に堆積
- 4 灰褐色土 3層と類似 木質多量
- 5 褐色土 粘土質 木片少量 木質多量
- 6 灰黄褐色土 粘土質
- 7 黄褐色土 砂質 パウダー状 炭化物少量
- 8 褐色土 砂質 粘性弱 木質・炭化物少量
- 9 黒褐色土 砂質 木材(50×50mm程度の角材、板材)の木質多量 陶磁器含む
- 10 灰黄褐色土 粘土質 木質微量

S K 112

- 1 黒色土 砂質 炭化物主体層 磁器・硝子瓶・プラスチック含む

S K 113 (5, 6)・S K 134 (1~4)

- 1 黒褐色土 シルト質 炭化物多量
- 2 黒色土 粘土質 方形の黄色粘土ブロック含む 粘性強 木片(φ10mm~20mm)含む
- 3 黄褐色土 シルト質 炭化物粒子含む
- 4 砂層 白色粒(φ0.5mm~1mm)・黒色粒子含む SD11からの混入
- 5 木材廃棄層 桶、丸太、角材を一括廃棄した層
- 6 廃棄層 鉄製品 硝子瓶を廃棄した層 層の大半を鉄分が占めている 陶器類含む

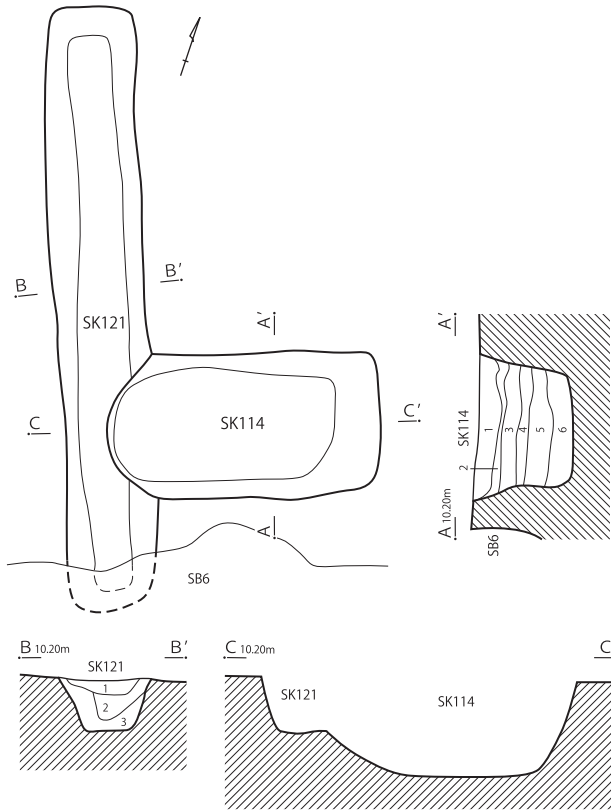
S K 115

- 1 灰黄色土 均一 炭化物(φ3~10mm)・灰色土ブロック(φ10~30mm)少量 酸化鉄多量
- 2 灰色土 均一 炭化物(φ2~5mm)少量 酸化鉄多量
- 3 灰色土 不均一 遺物多量 硝子・金属・木質含む 灰色土ブロック少量



第184図 区画AE土壌(5)

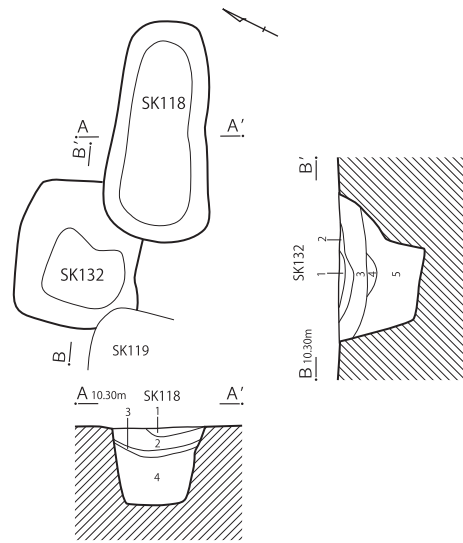
S K 114・121



S K 114

- 1 褐色土 砂質 方形の明褐色粘土ブロック (φ50 ~ 100 mm) 含む 炭化物少量
- 2 黄褐色土 砂質 1層と類似しているがシルト質ブロックの混入が少なく、酸化鉄少量
- 3 明橙色土 砂質 円形の白黄色粘土ブロック (φ30 ~ 50 mm) 多量 酸化鉄多量
- 4 白色土 砂質 方形の白色粘土ブロック (φ30 ~ 100 mm) 含む 酸化鉄微量
- 5 白黄色土 砂質 方形の白色粘土ブロック (φ50 ~ 100 mm) 含む 砂粒子は3・4層より粗い (φ0.1 ~ 0.5 mm) 酸化鉄微量
- 6 黄褐色土 砂質 砂粒子は5層と同等 酸化鉄微量

S K 118・132



S K 118

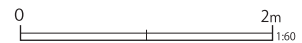
- 1 灰色土 シルト質 均一 木片 (φ5 ~ 10 mm) 少量
- 2 灰色土 シルト質 やや不均一 焼土 (φ1 ~ 2 mm) 少量 木片 (φ10 ~ 20 mm) 多量
- 3 炭化物層 シルト質 均一 草灰主体
- 4 灰色土 シルト質 均一 木片 (φ10 ~ 30 mm) 多量

S K 121

- 1 灰色土 シルト質 均一 炭化物 (φ3 ~ 5 mm) 少量
- 2 灰色土 シルト質 均一 粗粒 炭化物 (φ5 mm以上)
- 3 明灰色土 シルト質 均一 炭化物 (φ2 ~ 5 mm)・木片 (φ3 ~ 5 mm) 少量

S K 132

- 1 灰色土 均一 炭化物 (φ2 ~ 5 mm) 少量 酸化鉄多量
- 2 灰色土 均一 炭化物 (φ2 ~ 5 mm) 少量 酸化鉄少量
- 3 暗灰色土 やや均一 炭化物多量 木片・瓦等含む
- 4 暗灰色土 やや均一 炭化物多量 木片・瓦等含む ブロック状の土 (φ10 ~ 30 mm) 多量
- 5 暗灰色土 均一 炭化物多量 木片・瓦等含む 炭化物が4層より多い



第 185 図 区画 AE 土壌 (6)

る。第 223・224 図に陶磁器類、第 238・242 図に土製品、第 244・246 図に瓦、第 258 図に金属製品、第 260 図に銭貨、第 262 図に石製品を示した。

第 223 図 241 は瀬戸美濃系磁器の紅皿である。型成形で、外面に陰刻蛸唐草文、高台内に陽刻文がみられる。外面上位から内面にかけて施釉する。

244 は瀬戸美濃系磁器の猪口で、外面に酸化コバルト染付で、「三河屋」と書かれている。第 3 地点第 169 号土壙出土木札 (埒埋文 2018b) に「三河屋 / 平蔵」がみえ、関連性が示唆される。

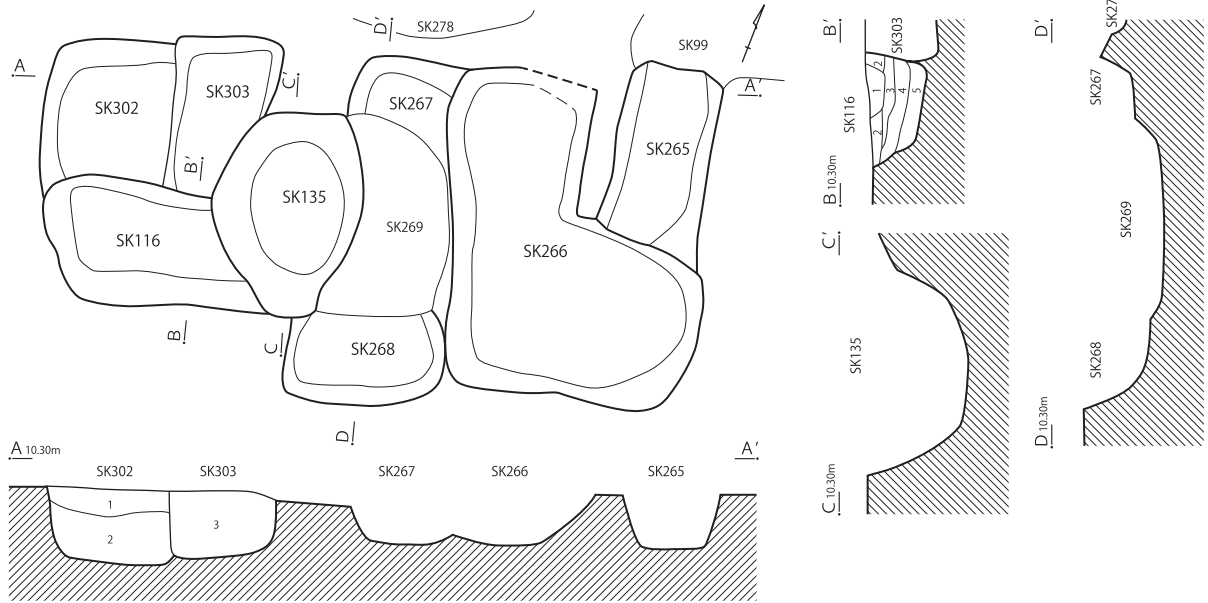
247 は土師質土器の丸底焙烙である。底部の丸

みは極めて弱く、中心部が上げ底状を呈し、扁平な器形である。底部に無調整のシワ状痕、内底面に渦巻状のナデがみられる。3 対の補修痕がみられる。内耳はほぼ均等配置されている。胎土に角閃石が含まれ、在地産と推定される。

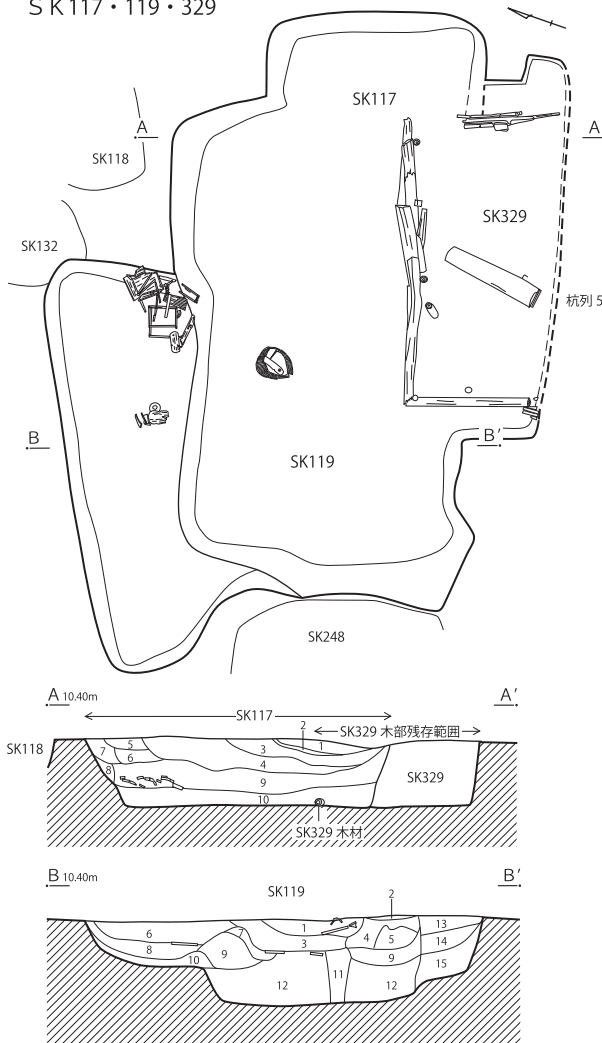
第 224 図 250 ~ 254 は砲弾形を呈する土製の埴塙である。銅製品の生産に関わるもので、251 ~ 254 には緑青が付着し、251 の外面には銅が付着する。254 は胎土に炭化物が多量に含まれており、混和剤が炭化したものと考えられる。

第 238 図 28 は江戸在地系のミニチュアである。所謂釜形土製品であるが、煤等の使用痕跡が認め

S K 116・135・265～268・302・303



S K 117・119・329



- S K 116
- 1 灰色土 シルト質 やや均一 黄色シルト (φ10～20 mm) 少量
炭化物 (φ2～5 mm) 少量 酸化鉄多量
 - 2 灰色土 シルト質 均一 炭化物 (φ2～10 mm) 多量
黄色シルト (φ1～2 mm) 少量
 - 3 灰色土 シルト質 均一 炭化物 (φ2～10 mm) 多量
 - 4 灰色土 シルト質 均一 炭化物 (φ2～10 mm) 多量
黄色シルト (φ1～2 mm) 少量
 - 5 灰色土 シルト質 均一 炭化物 (φ2～10 mm) 多量

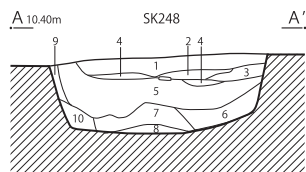
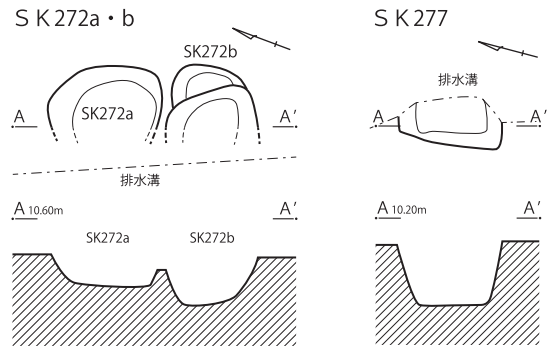
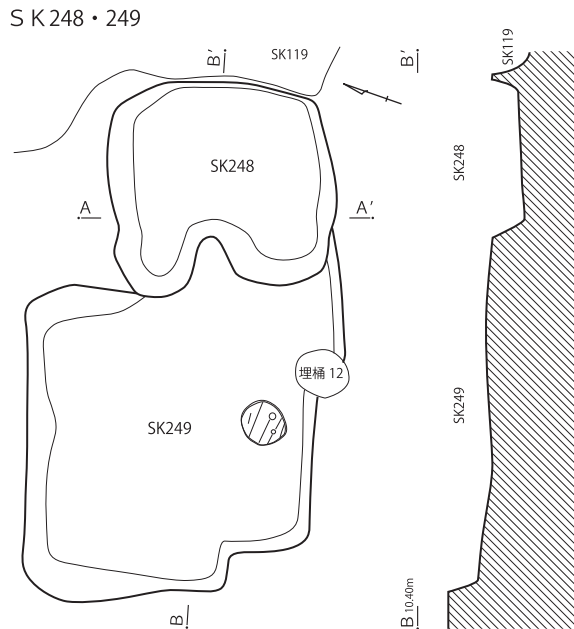
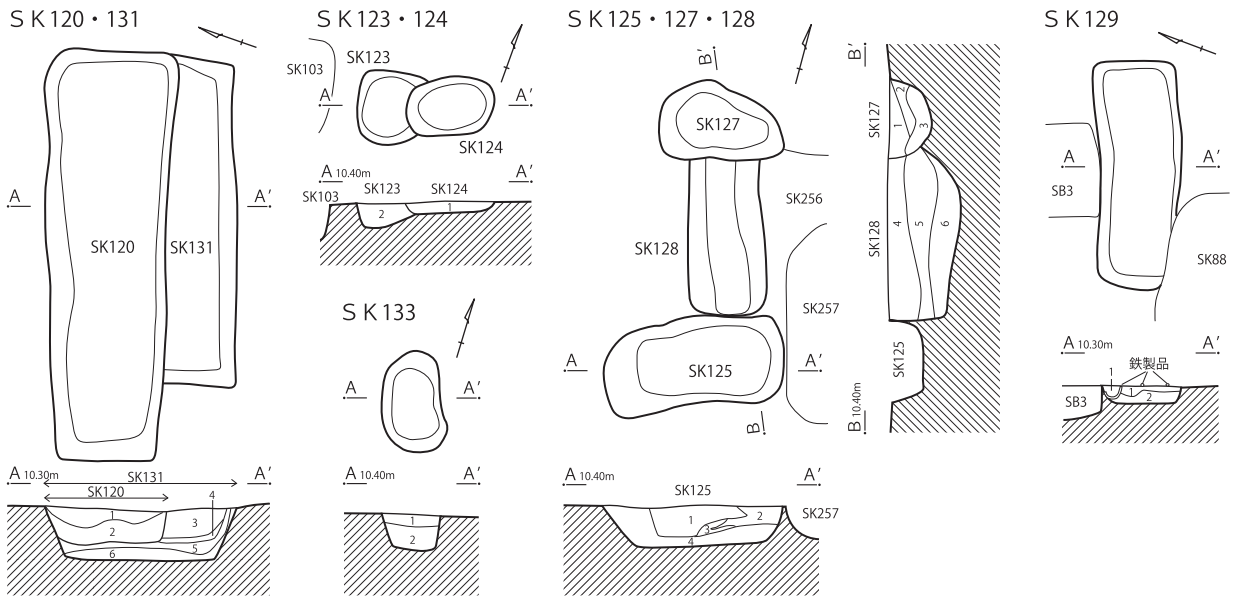
- S K 117
- 1 灰色土 シルト質 均一 橙色粒子 (φ1～2 mm) 少量 木片多量
 - 2 灰色土 シルト質 均一 橙色粒子 (φ1～2 mm) 少量 木片多量
酸化鉄多量
 - 3 暗灰色土 シルト質 やや均一 木片多量
 - 4 暗灰色土 シルト質 やや均一 3層より木片多量
 - 5 暗灰色土 シルト質 やや均一 4層より木片多量 4層より粒子が粗い
 - 6 灰色土 シルト質 やや均一 5層より粒子大きい 遺物微量
 - 7 灰黄色土 シルト質 黄褐色土含む
 - 8 褐色土 炭化物粒子多量
 - 9 褐色土 砂質
 - 10 暗褐色土 砂質

- S K 119
- 1 灰褐色土
 - 2 灰色土 灰黄色砂多量
 - 3 黒褐色土 木片多量
 - 4 灰色土 炭化物粒子多量 しまり強
 - 5 暗黄褐色土
 - 6 黒褐色土 粗粒
 - 7 灰黄褐色土 砂質 しまり強
 - 8 灰褐色土 砂質
 - 9 暗灰褐色土 炭化物粒子多量
 - 10 黄褐色土 砂質
 - 11 灰褐色土 橙色土 (酸化鉄含む)
 - 12 暗褐色土 木材片極多量
 - 13 灰褐色土
 - 14 暗灰色土 炭化物粒子・黄褐色土含む
 - 15 黄褐色土 砂質 灰色粘土極多量

- S K 302 (1, 2)・S K 303 (3)
- 1 暗褐色土 炭化物 (φ5 mm) 多量 しまり強
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土 炭化物 (φ5 mm) 多量 しまり強



第186図 区画AE土壤(7)



- S K 120 (1, 2)・S K 131 (3~6)
- 1 炭化物 鉄分(鉄板等の廃棄)・黄褐色粘土(厚さφ2cm)・炭化物の互層
 - 2 灰褐色土 木質少量 ゴム製品含む
 - 3 灰褐色土 シルト質 粘性強 方形の黄褐色粘土ブロック(φ30~50mm)含む 炭化物少量
 - 4 黒褐色土 粘土質 木質・炭化物含む
 - 5 灰褐色土 シルト質 木質少量
 - 6 木質層 植物(籾殻か)の層

- S K 123 (2)・S K 124 (1)
- 1 灰褐色土 砂質 炭化物含む
 - 2 灰黄褐色土 粘土質 炭化物多量 酸化鉄少量 陶磁器片含む

- S K 125
- 1 酸化鉄層 鉄製品の層(薄い鉄板か)
 - 2 褐色土 粘土質 木質多量 コンクリート片含む
 - 3 灰色土 粘土質 酸化鉄少量
 - 4 灰黄褐色土 砂質 炭化物少量
- S K 127 (1~3)・S K 128 (4~6)
- 1 黒褐色土 砂質 炭化物微量
 - 2 黄褐色土 砂質
 - 3 褐色土 粘土質 木片(φ30~50mm)多量
 - 4 黄褐色土 砂質 酸化鉄・炭化物少量
 - 5 黒灰褐色土 シルト質 粘性強 炭化物多量 木質少量
 - 6 灰色土 粘土質 木片(50~100mm)・板材・木質多量

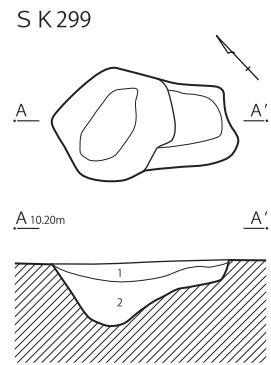
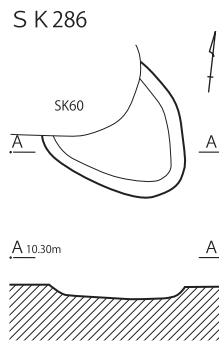
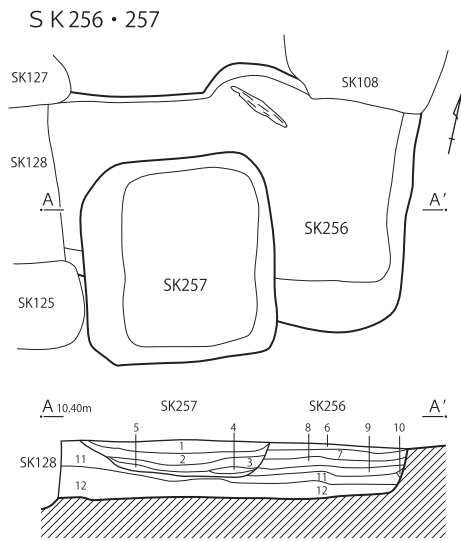
- S K 129
- 1 灰白色土 砂質 パウダー状 酸化鉄多量 コンクリート混入
 - 2 褐色土 砂質 酸化鉄多量 木製品(桶の底部、板材)含む

- S K 133
- 1 灰褐色土 砂質 炭化物少量
 - 2 灰褐色土 粘土質 炭化物含む 陶磁器含む

- S K 248
- 1 暗灰黄褐色土 砂質
 - 2 灰黄褐色土 黄褐色土・炭化物粒子少量
 - 3 暗褐色土
 - 4 灰黄褐色土 粘土質
 - 5 黒褐色土 板材・木片極多量
 - 6 灰色土 木片微量
 - 7 灰黄褐色土 砂質
 - 8 灰色土 やや粘土質
 - 9 灰黄褐色土 砂質
 - 10 暗褐色土 灰色土微量 橙色土微量

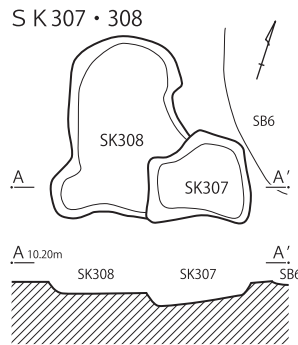


第 187 図 区画 AE 土 壤 (8)



S K 299
 1 暗褐色土 黄色土ブロック少量
 2 黒褐色土 黄色土ブロック多量 炭化物多量

- S K 256 (6 ~ 12)・S K 257 (1 ~ 5)
- 1 黄色土 砂質
 - 2 灰黄色土 砂質 炭化物粒子含む 円礫(φ10mm)含む
 - 3 黄褐色土 粘土質 大谷石・コンクリート含む
 - 4 暗褐色土 粘土質 木質多量
 - 5 黒色土 粘土質 木質含む 貝類微量
 - 6 黄褐色土 砂質 炭化物粒子少量
 - 7 灰褐色土 砂質 炭化物粒子・木質少量
 - 8 灰褐色土 砂質 木質含む
 - 9 暗灰色土 粘土質 木質多量
 - 10 灰色土 シルト質
 - 11 暗褐色土 粘土質 木質多量 黄色砂粒少量
 - 12 灰色土 粘土質 板材(50×300mm程)多量



第188図 区画AE土壌(9)

られないためミニチュアとして扱った。粉質な胎土で、底部に左回転の糸切痕が遺存する。外面上位から内面にかけて透明釉が施釉される。

第244図18は江戸式の軒棧瓦である。第246図37は丸瓦で、二次穿孔が2箇所みられる。38は鬼瓦で、正面右下部分にあたると考えられる。

第262図24は多孔質の角閃石安山岩転石製の磨石である。主要な使用面は平坦で、自然面の一部に使用痕が認められる。

第256号土壌 (第188・224・225・239・242・244・246・250・262・264図)

F7-E7グリッドに位置する。多くの土壌と重複しており、第108・128・257号土壌より古く、第125・127号土壌と重複する。平面形は不整形で、検出長軸2.95m、短軸2.0m、深さ0.45mを測る。長軸方位はN-78°-Eを指す。

覆土は水平堆積で、下層は多量の木質を含む粘土質土を主体とし、上層は炭化物を含む砂質土

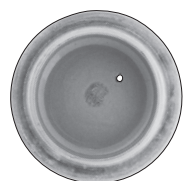
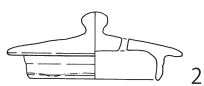
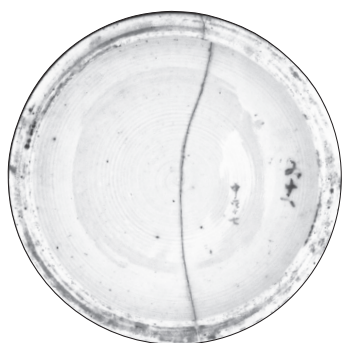
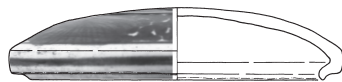
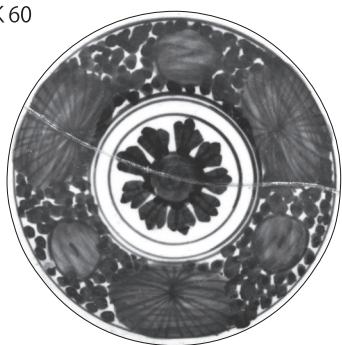
で構成されている。

出土遺物は多量だが近代の遺物が混在する。近代に位置付けられる陶磁器は少量であるため、遺構の規模や重複関係を考慮すると、混入と考えるのが妥当である。混入陶磁器を除くと、瀬戸美濃系磁器の小碗、卵殻手坏、型押し陰刻文染付のそり皿が最新である。推定廃絶期は19世紀中葉である。

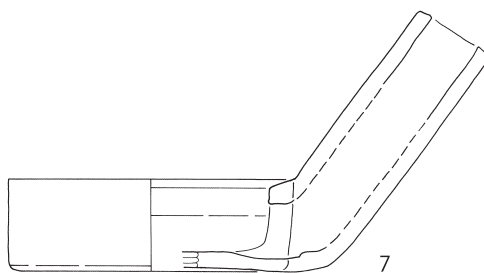
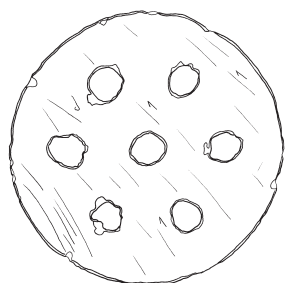
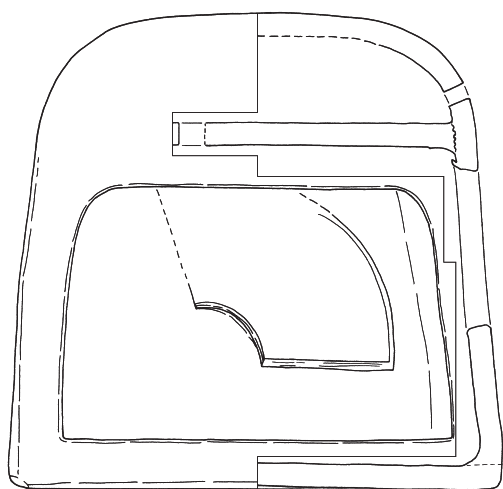
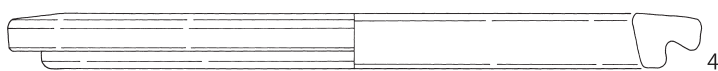
第224図255～264・第225図に陶磁器類、第239図29・第242図17・18に土製品類、第244図19・20・第246図39・40に瓦、第250図37・38に木製品、第262図25・26に石製品、第264図2に硝子製品を示した。

第224図258は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。極めて薄手で、底部は輪高台である。内面に青・黄・黒で上絵付が施される。259は肥前系磁器の紅皿である。型成形で、外面に陽刻蛸唐草文が施文される。外面上位から内面にかけて施

S K 60



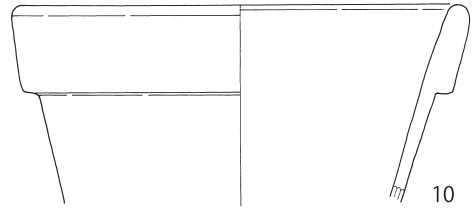
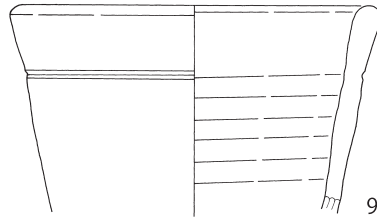
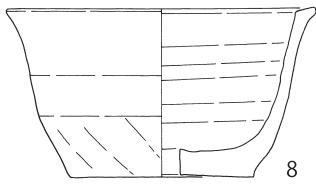
刻印部分
S=1/2



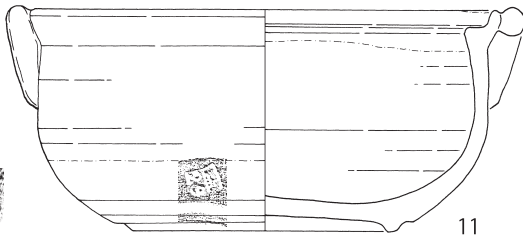
3~5 0 10cm 1/4 1·2·6·7 0 10cm 1/3

第 189 图 区画 AE 土壙出土遺物 (1)

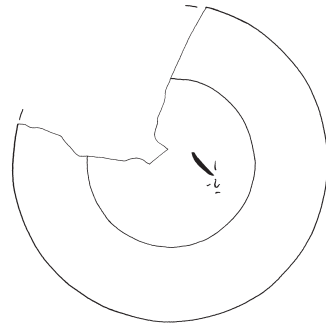
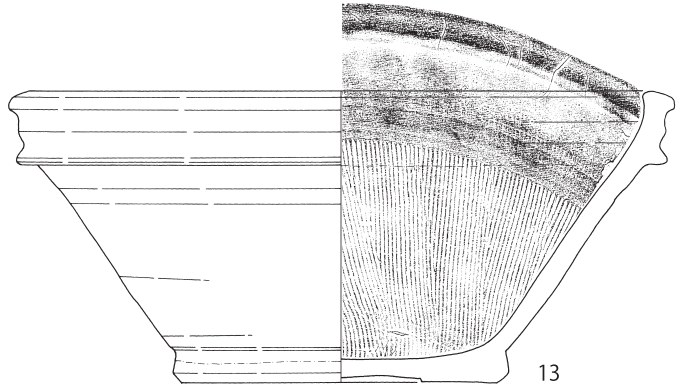
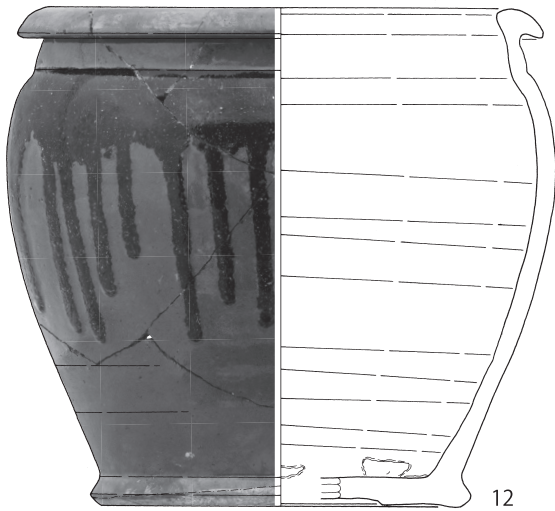
SK60



SK70



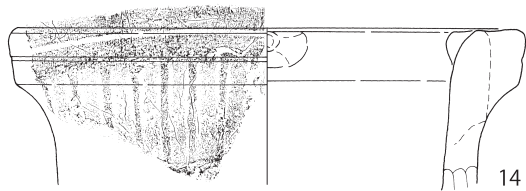
刻印部分
S=1/2



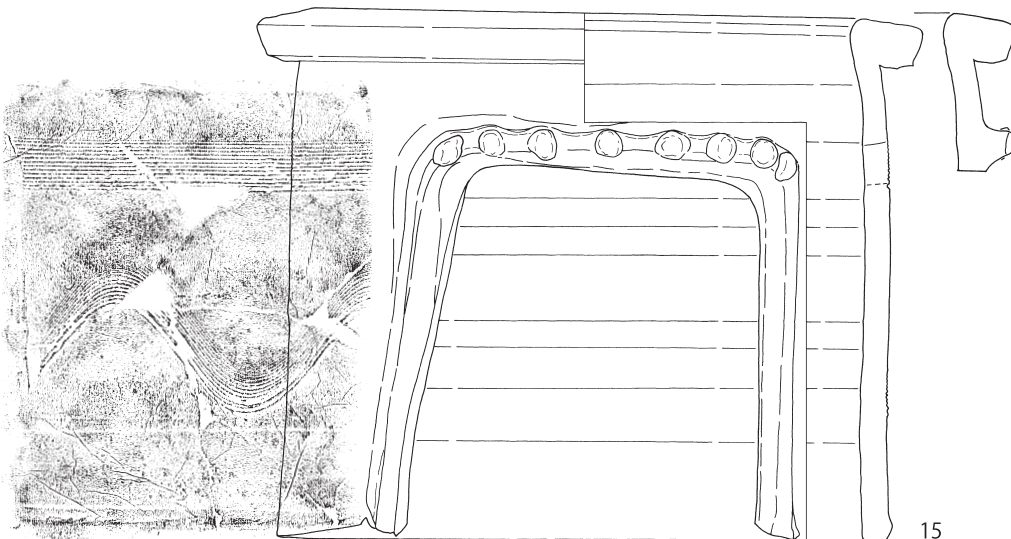
12・13 0 10cm 1/4 8~11 0 10cm 1/3

第190图 区画AE土壤出土遺物(2)

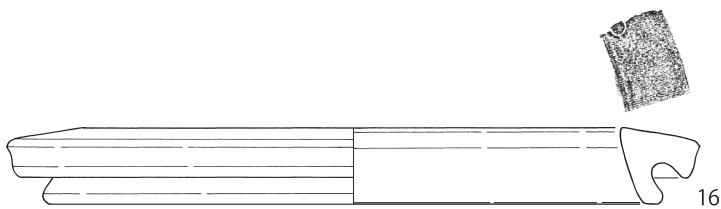
S K70



14



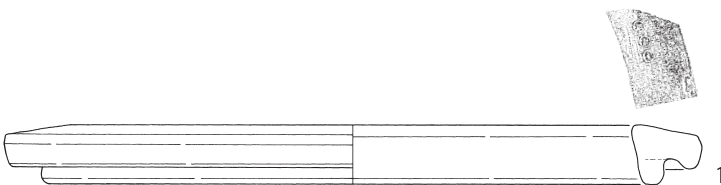
15



16



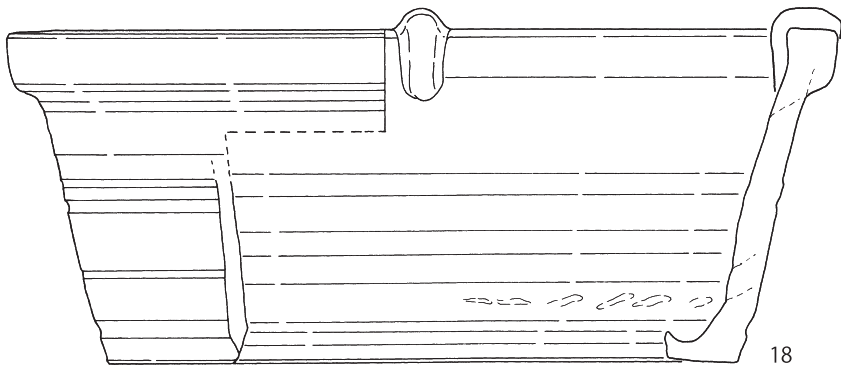
刻印部分
S=1/2



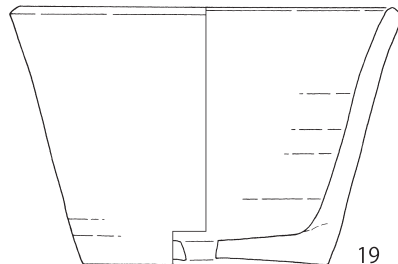
17



刻印部分
S=1/2



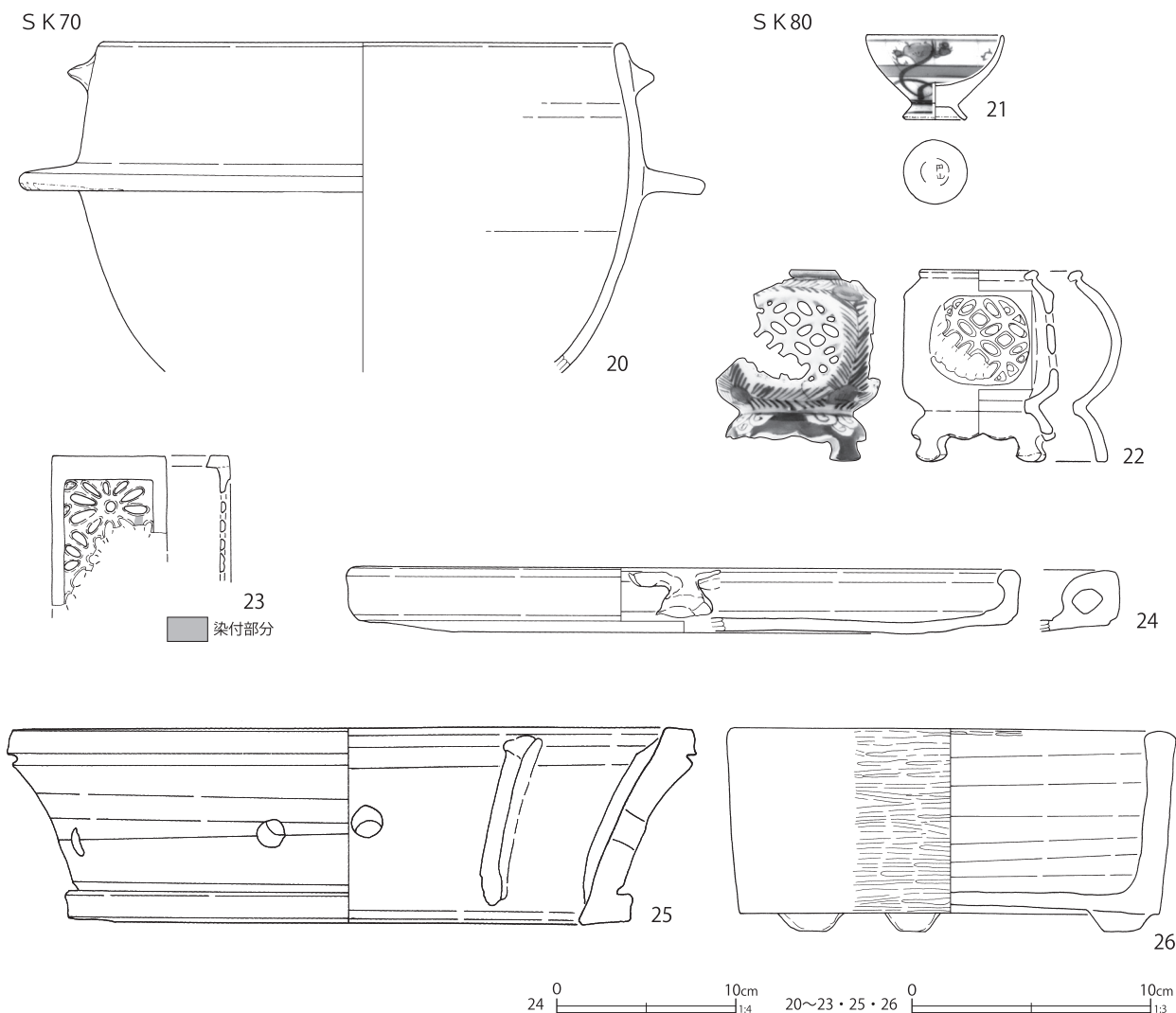
18



19

14~17 0 10cm 14 18·19 0 10cm 13

第 191 图 区画 AE 土壤出土遺物 (3)



第 192 図 区画 AE 土壌出土遺物 (4)

釉される。260 は内面に陰刻文染付が施されたそり皿である。最新期の陶磁器である。261 は瀬戸美濃系磁器の爛徳利である。底部に墨書が「王」がみられ、板屋の屋号の可能性はあるが、下部につく「△」にあたる部分は欠損している。

264 は京都信楽系陶器の坏である。胎土磁質で、外面に上絵付で「浅紅」の文字の一部がみられる。栗橋宿では多量に出土しており、浅草諏訪町に店を構えた「紅粉屋諫蔵」に関わる資料である(村山 2021)。

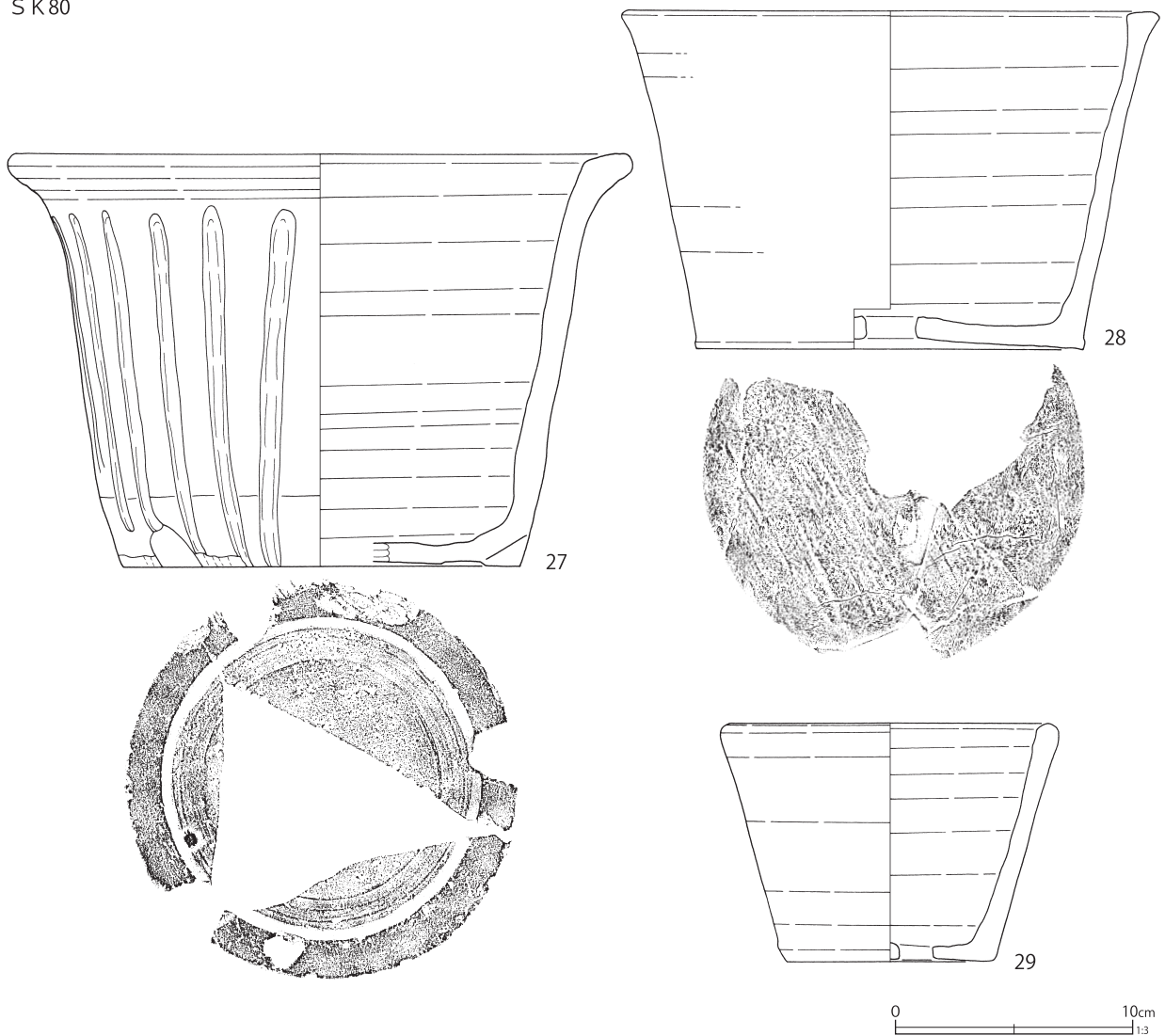
第 225 図 268 は京都信楽系の爛徳利で、底部に「乙丑六」、「口徳」、「吉兵[衛]」と推定される墨書がみられる。「乙丑」は遺構の廃絶年代、

爛徳利の年代から、1865 年と推定される。「吉兵衛」は『絵図』にみえる「小賣酒屋 / 吉兵衛」を指す可能性が高い。場所は栗橋宿南部に位置する常薫寺のさらに南である。宿の入り口付近をクランクする角にあたる。

271 は産地不詳陶器の蓋だが、多数の孔があり、蒸し器状を呈する。口縁部付近にはアーチ状の把手が 1 箇所遺存する。

272 は瀬戸美濃系陶器の手焙りで、ドーム形を呈する天井部の破片である。栗橋宿での出土は稀である。上面に環状の把手が付き、正面に開口する窓の一部が遺存する。

第 239 図 29 は京都系陶器皿のミニチュアであ



第 193 図 区画 AE 土壙出土遺物 (5)

る。型成形で、内面に陰刻文、緑釉と赤褐色の彩色がみられる。

第 329 号土壙 (第 186・235・259 図)

F 7-E 7・E 8 グリッドに位置する。第 5 号杭列、第 117 号土壙より古く、第 119 号土壙と重複する。複数の遺構と重複しているため、全体の形状は不明瞭であるが、底面に遺存する木枠状の丸太材と杭の範囲から、長軸が日光道中に直交する長方形の土壙と推定される。検出長軸 0.85 m で、深さ 0.5 m を測る。

また、後世の土壙である第 117 号土壙の底面に、「L」字に配された丸太材が検出されており、第

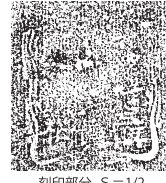
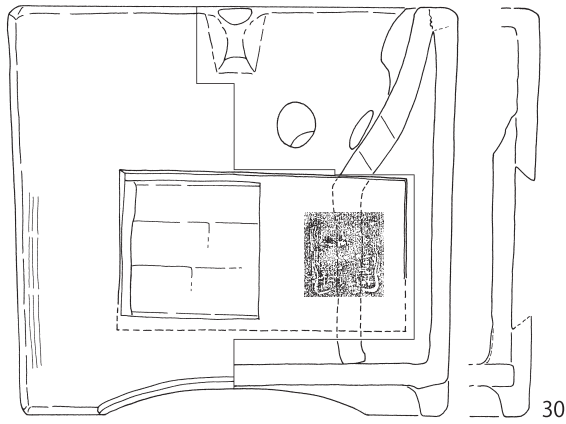
329 号土壙に伴うものと考えられる。第 5 号杭列と重複していることから、区画施設に付随する施設、もしくは『本陣跡Ⅱ』(埜埋文 2020b) で検出されている第 111 号土壙のような地下蔵状の土壙の可能性が疑われる。

出土遺物は少量だが、瀬戸美濃系磁器の端反形碗と肥前系磁器八角鉢、陶器の青土瓶が出土していることから、推定廃絶期は 19 世紀前半と考えられる。

以上に取り上げた土壙の他にも特徴的な遺物が出土しているため、以下に記述していく。

第 192 図 21 は瀬戸美濃系磁器の坏である。酸

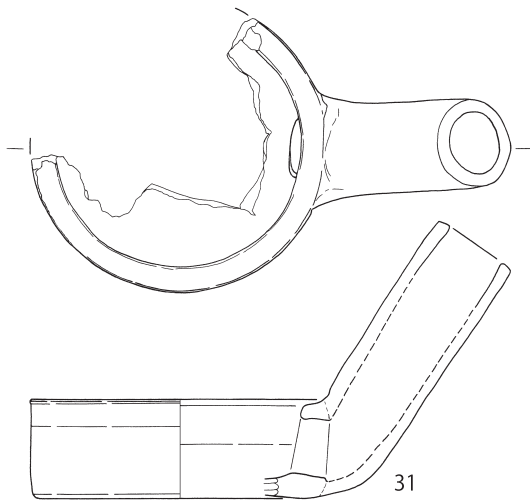
SK84



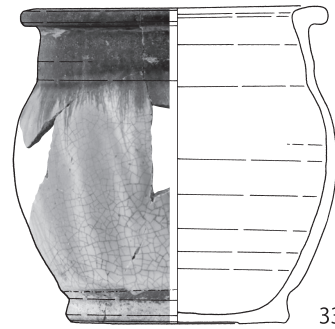
刻印部分 S=1/2

30

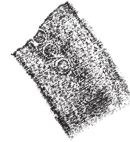
SK87



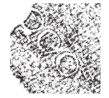
31



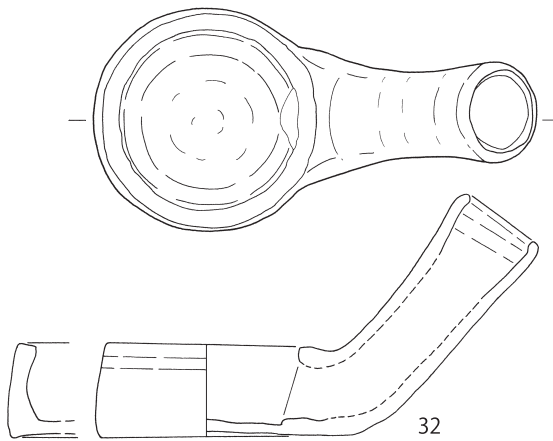
33



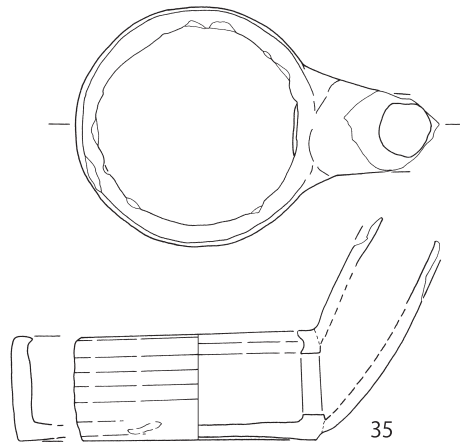
34



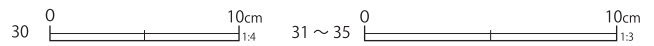
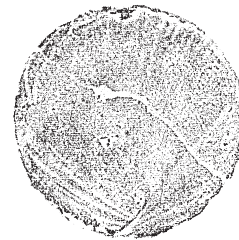
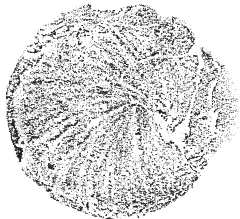
刻印部分 S=1/2



32

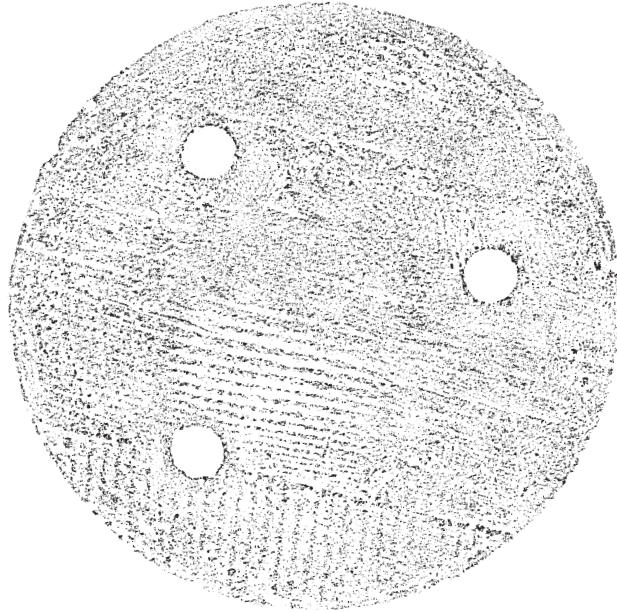
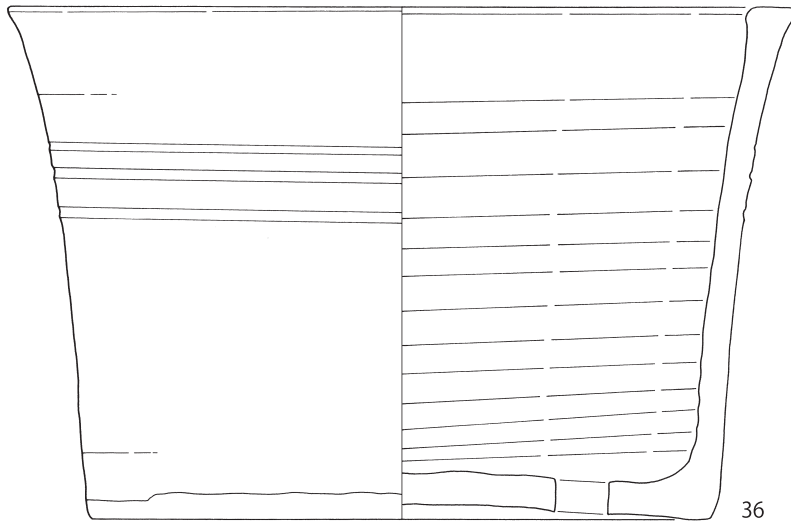


35

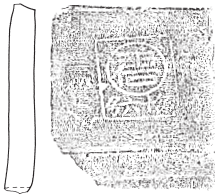
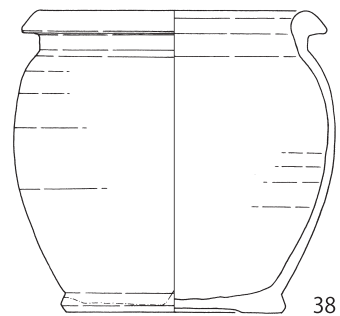
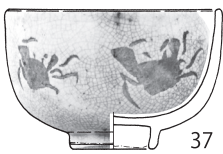


第194图 区画AE土壤出土遺物(6)

S K 87



S K 88



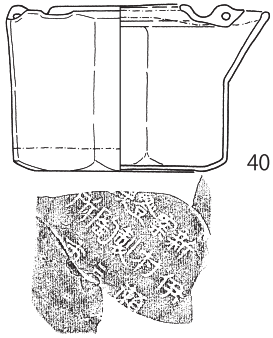
刻印部分 S=1/2

38 0 10cm 1:4

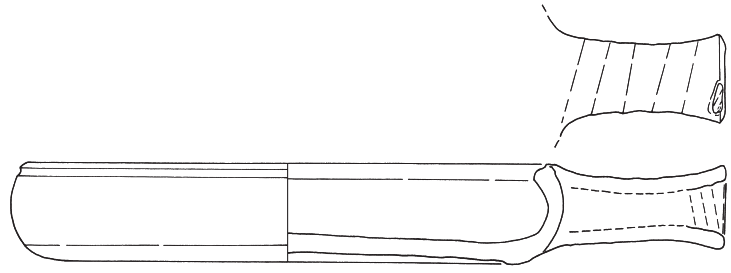
36・37・39 0 10cm 1:3

第 195 图 区画 AE 土壙出土遺物 (7)

S K 94



40



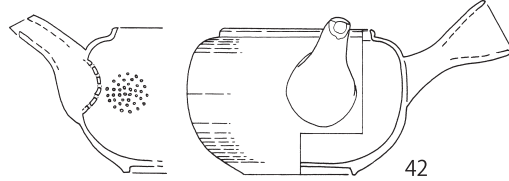
41



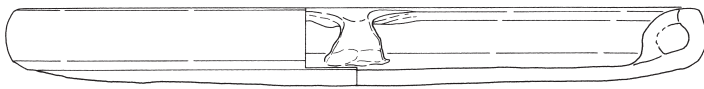
S K 96



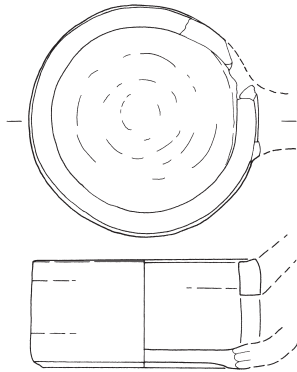
刻印部分
S=1/2



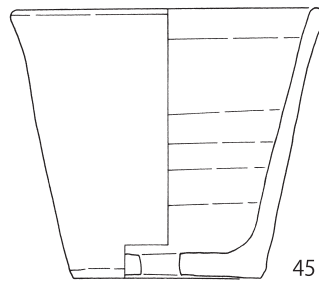
42



43



44

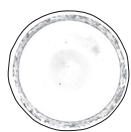


45

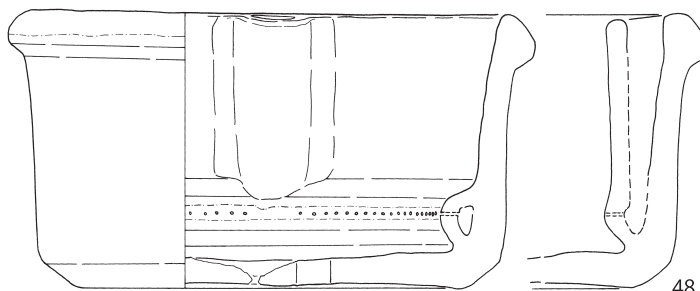


第 196 图 区画 AE 土壤出土遺物 (8)

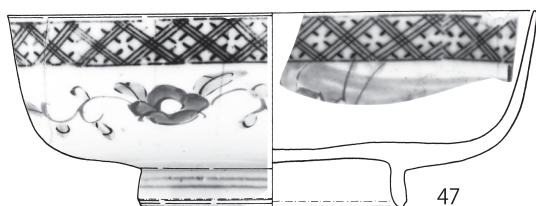
SK97



46

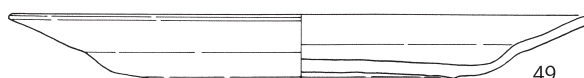
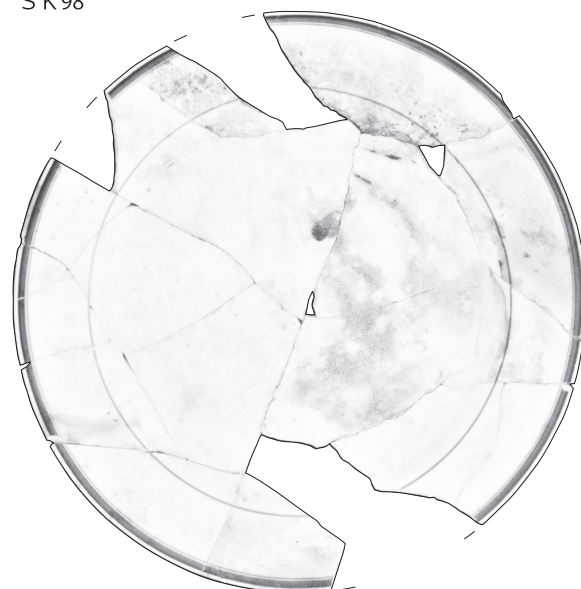


48

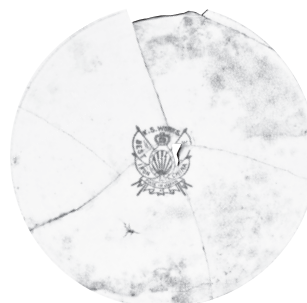
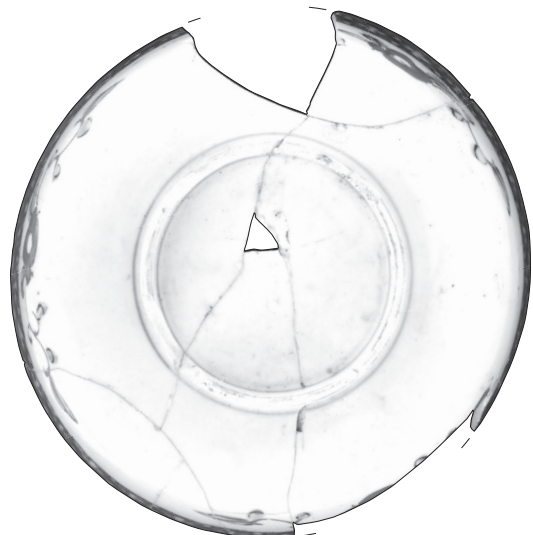


47

SK98

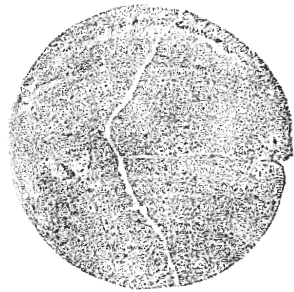
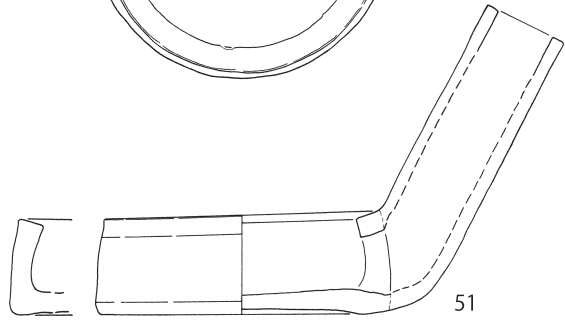
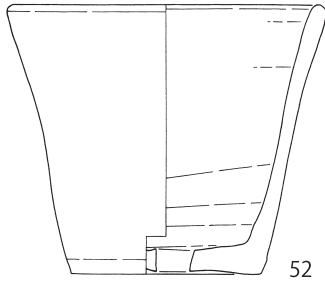
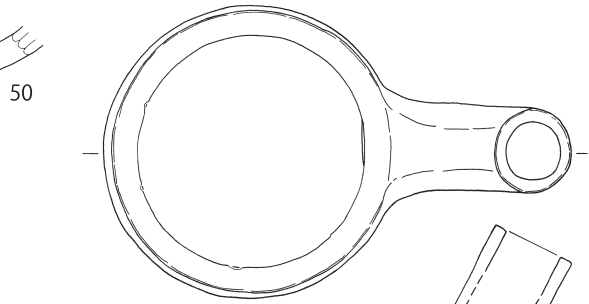
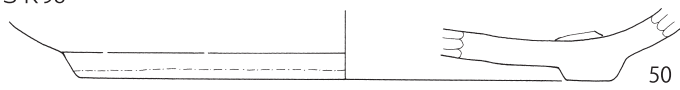


49

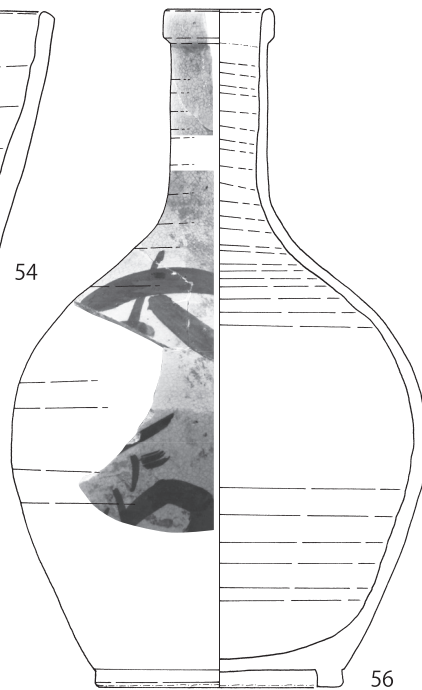
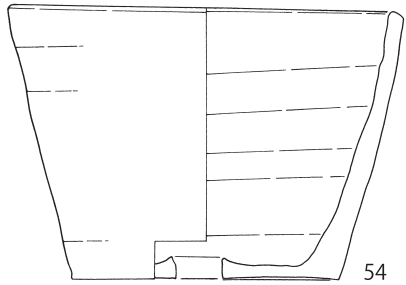
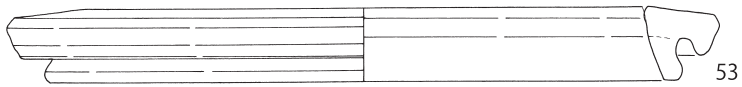


第197图 区画AE土壤出土遺物(9)

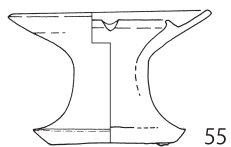
S K 98



S K 99



S K 102

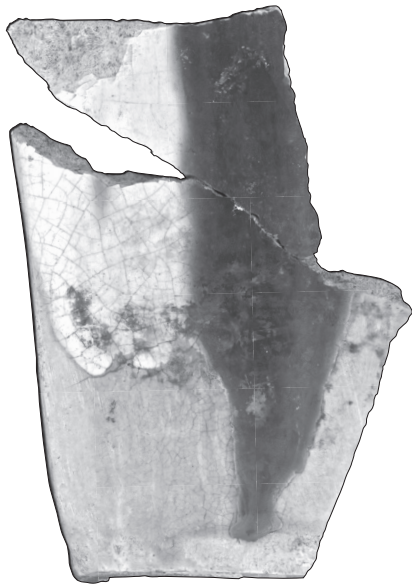


0 10cm 1:4 50・53

0 10cm 1:3 51・52・54~56

第 198 図 区画 AE 土壙出土遺物 (10)

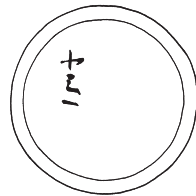
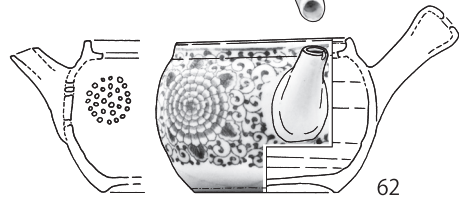
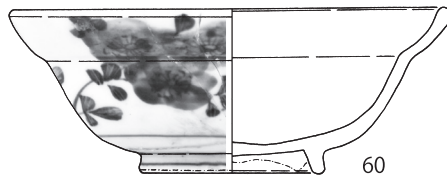
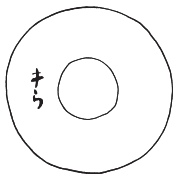
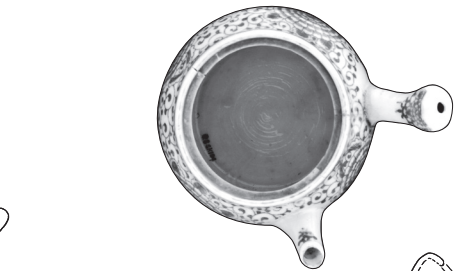
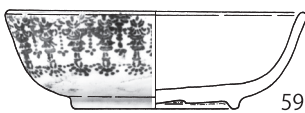
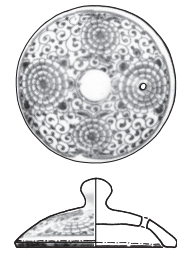
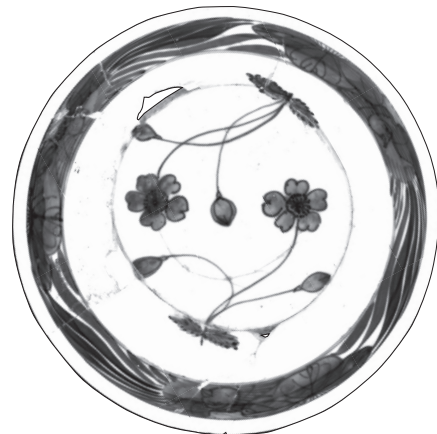
S K 102



刻印部分
S=1/2



S K 104

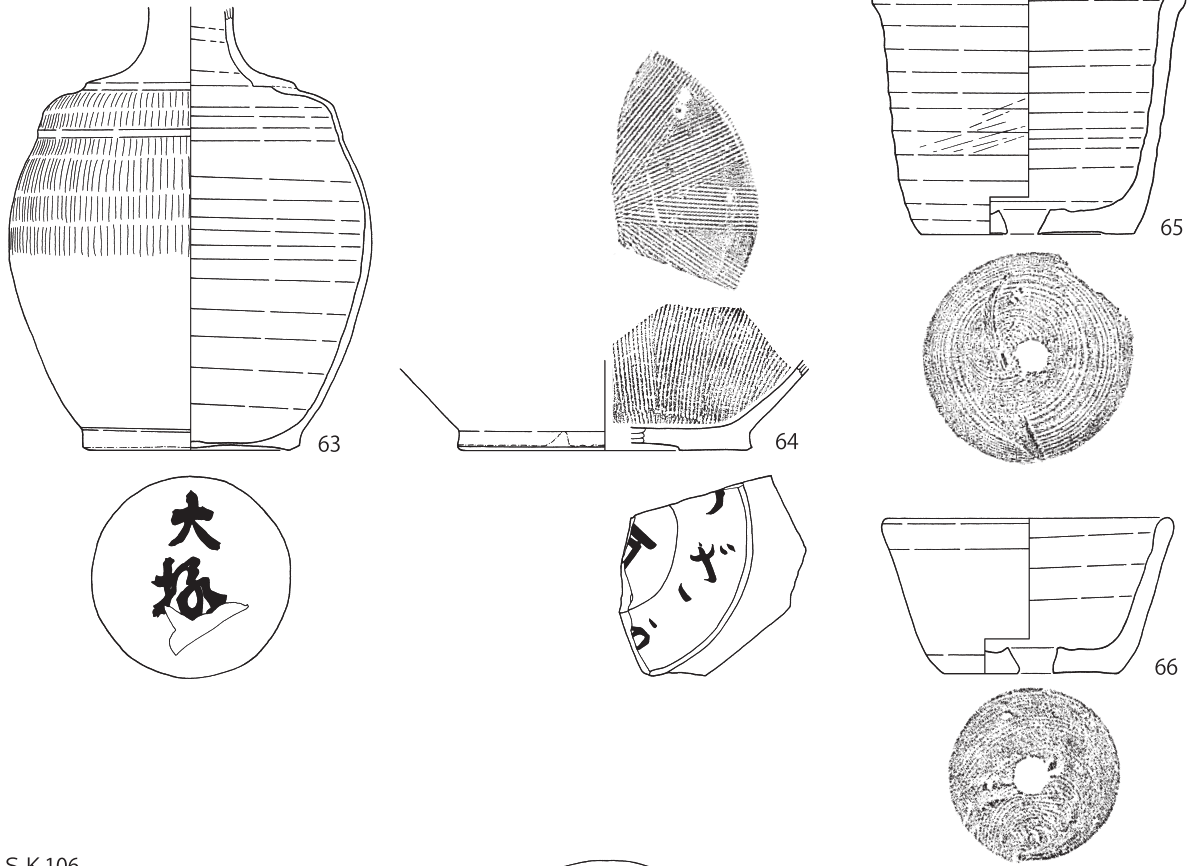


0 10cm 1/4 58

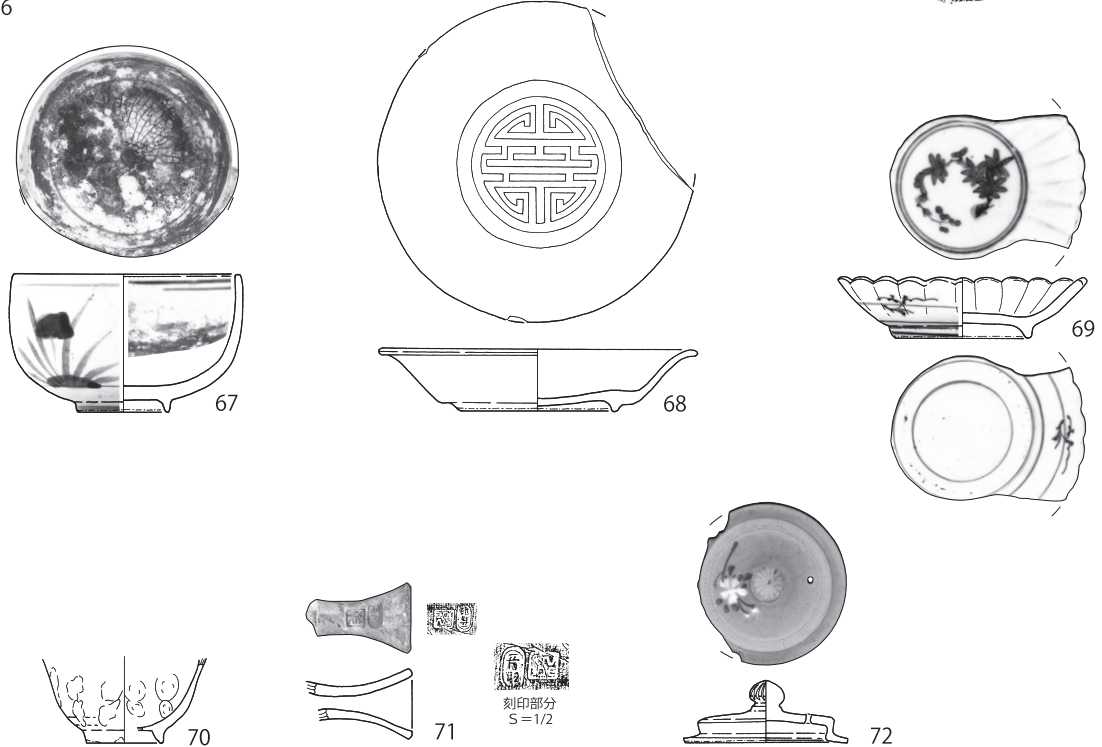
0 10cm 1/3 57・59~62

第 199 図 区画 AE 土壙出土遺物 (11)

S K 104



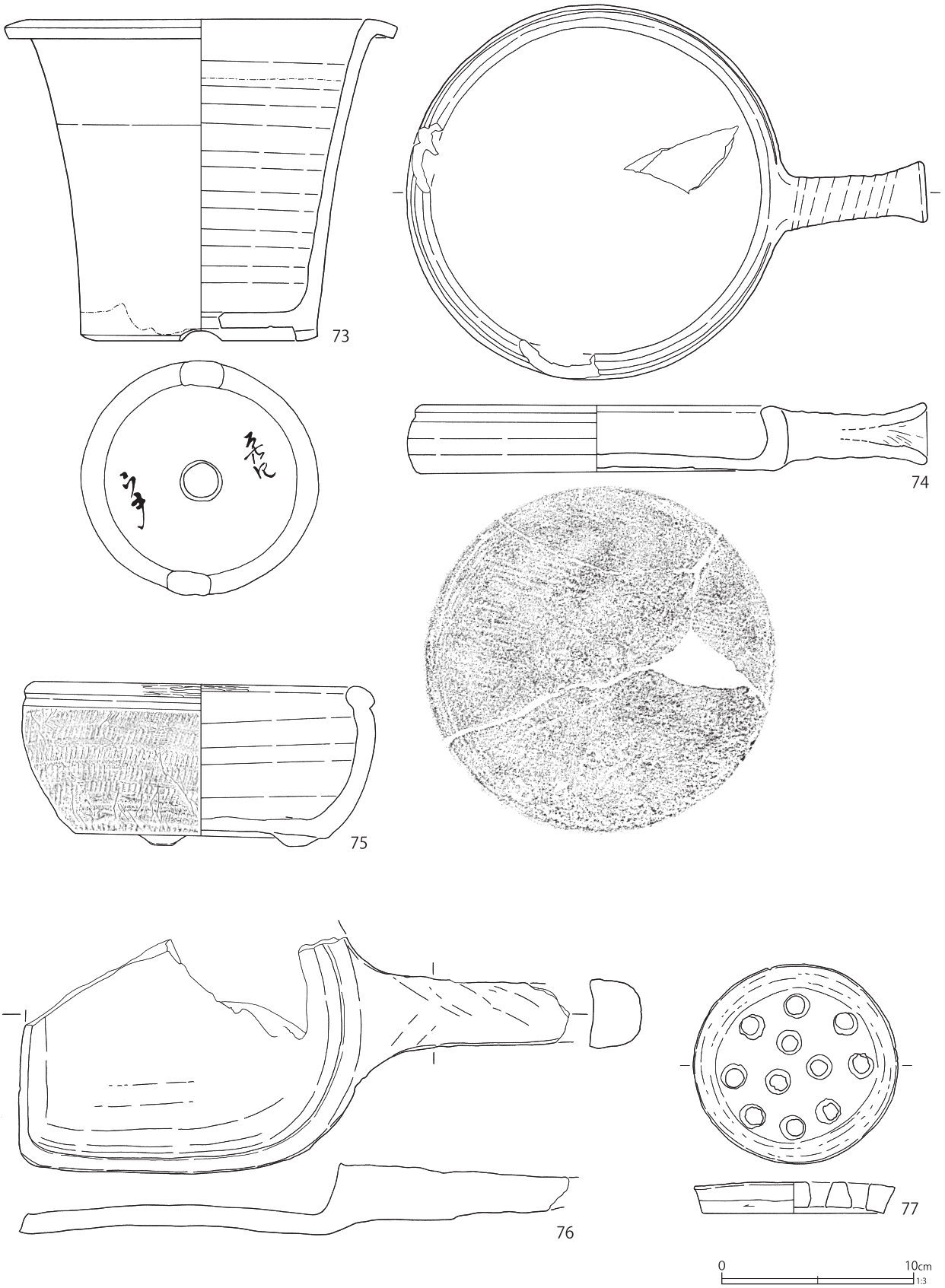
S K 106



0 10cm 1/4 63・65~72 0 10cm 1/3

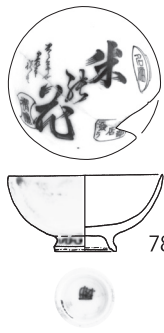
第 200 図 区画 AE 土壇出土遺物 (12)

S K107

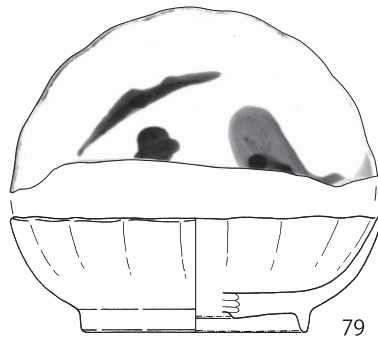


第 201 图 区画 AE 土壙出土遺物 (13)

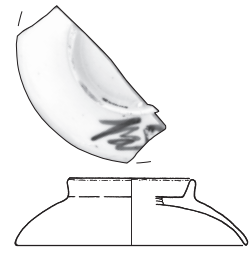
S K 108



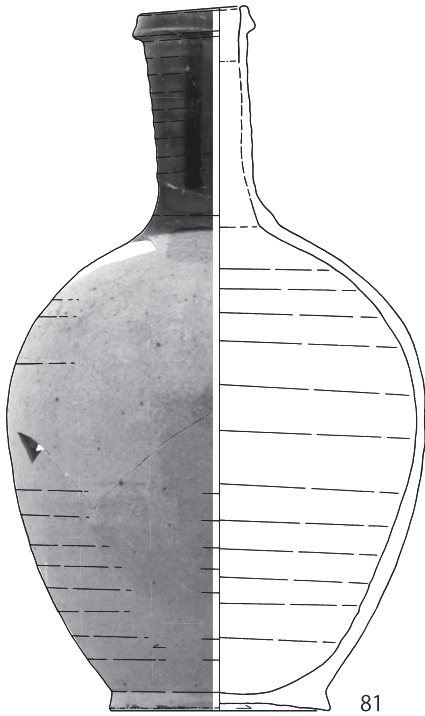
78



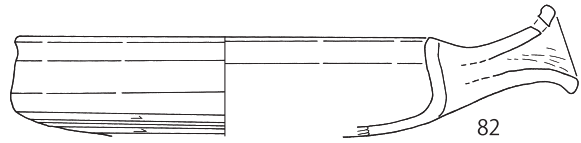
79



80



81

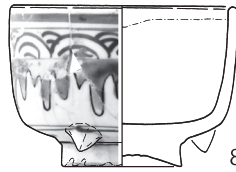


82



83

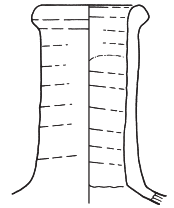
S K 109



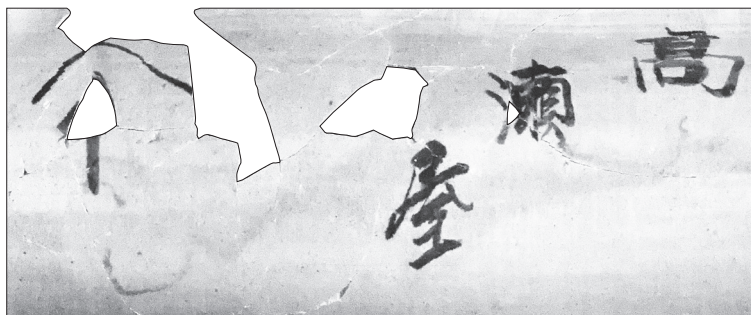
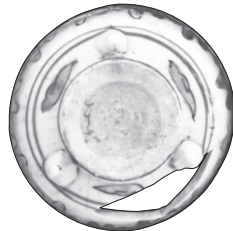
84



85



86



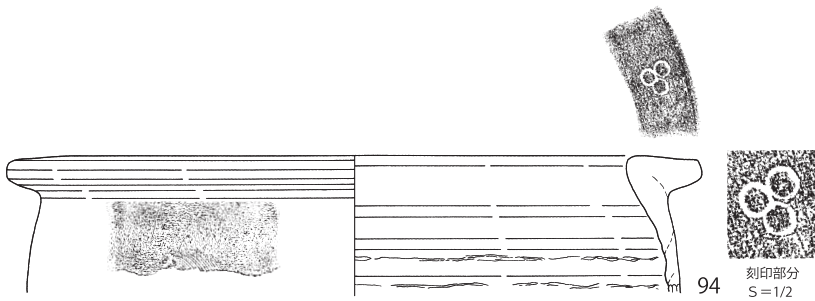
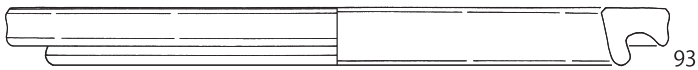
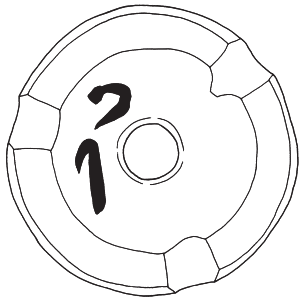
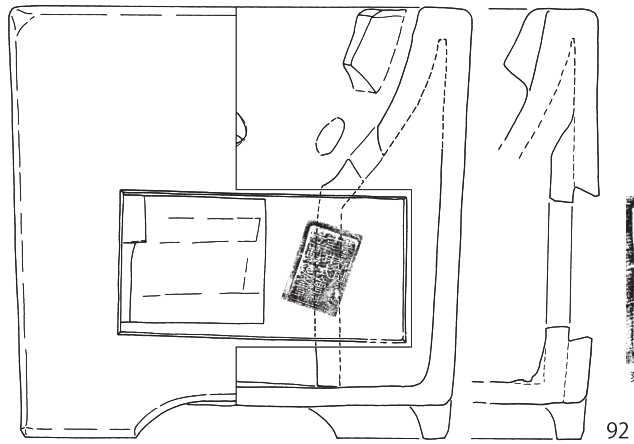
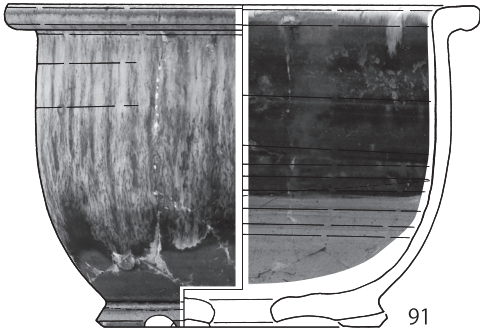
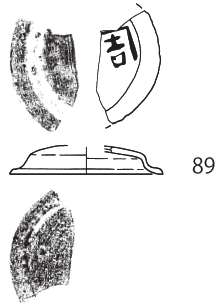
87

0 10cm 1:4

78 ~ 82 · 84 ~ 87 0 10cm 1:3

第 202 図 区画 AE 土壙出土遺物 (14)

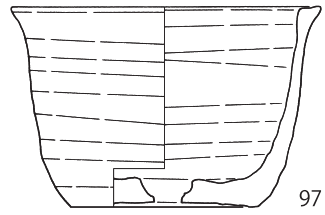
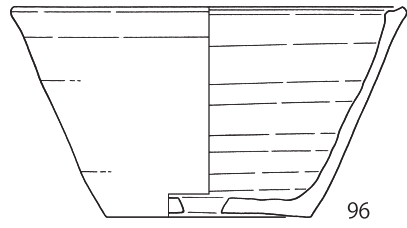
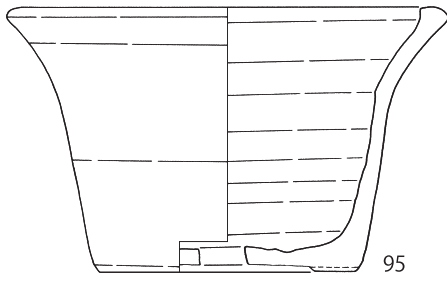
S K 109



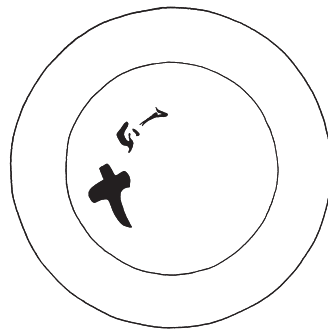
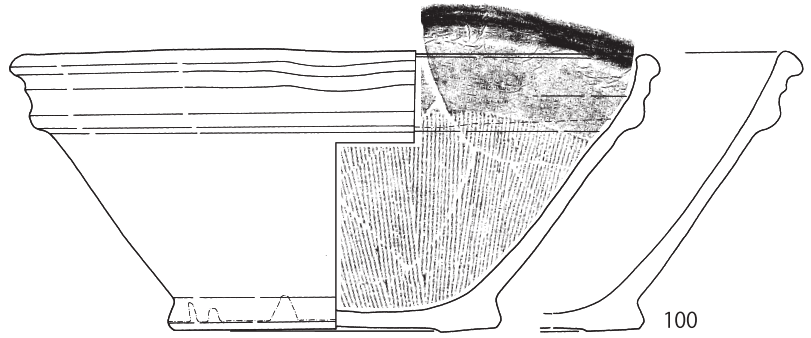
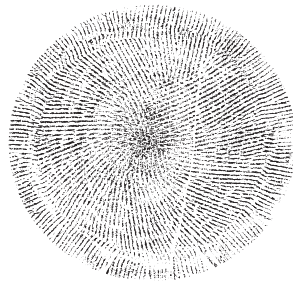
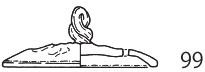
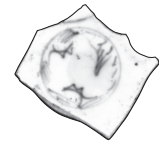
92~94 0 10cm 1:4 88~91 0 10cm 1:3

第 203 图 区画 AE 土壙出土遺物 (15)

SK109



SK110

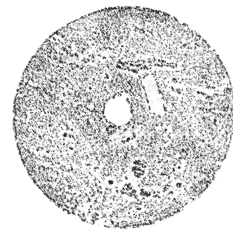
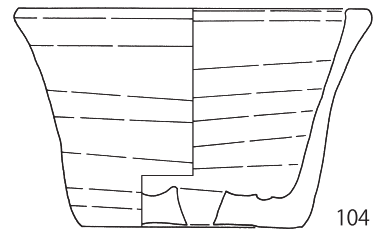
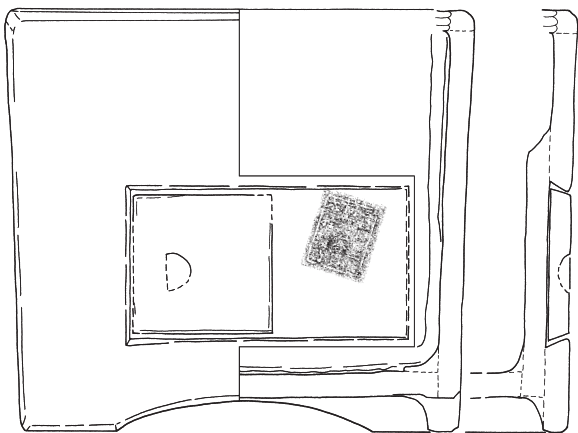
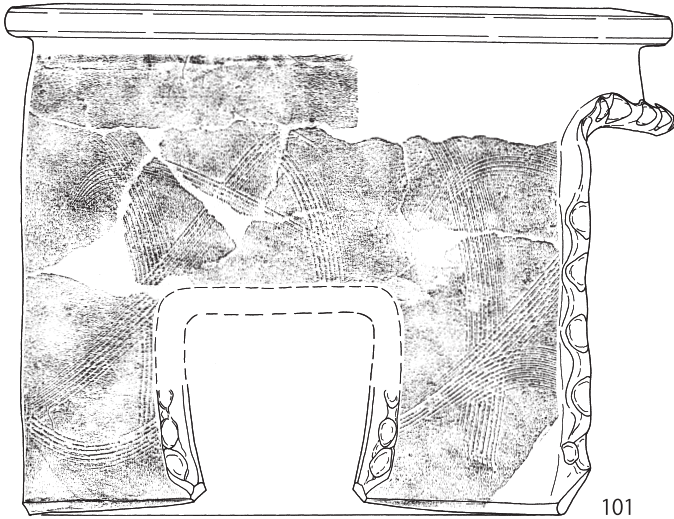
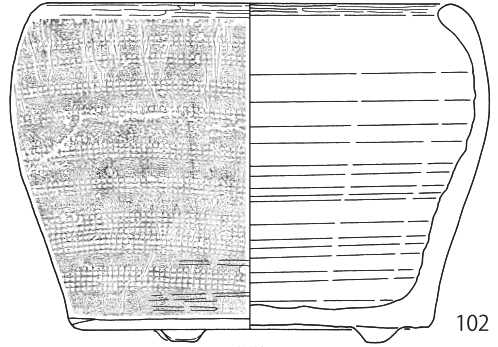
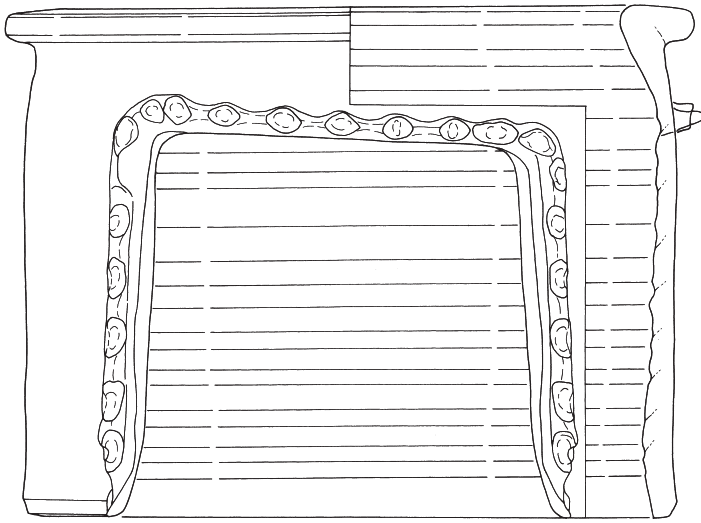


0 10cm 1:4

0 10cm 1:3

第 204 图 区画 AE 土壤出土遺物 (16)

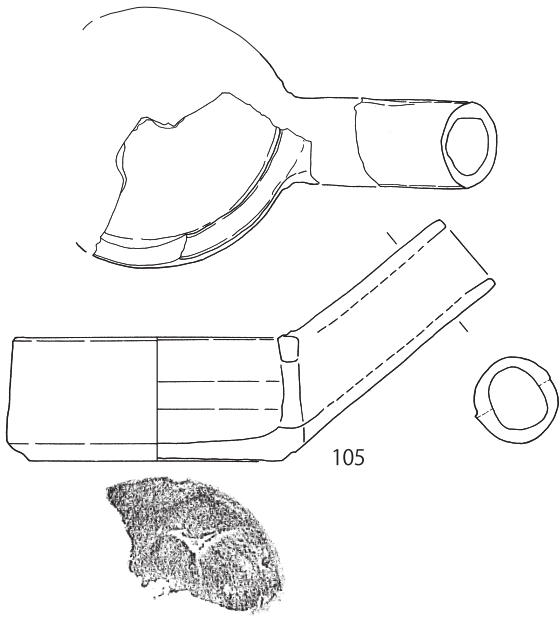
SK110



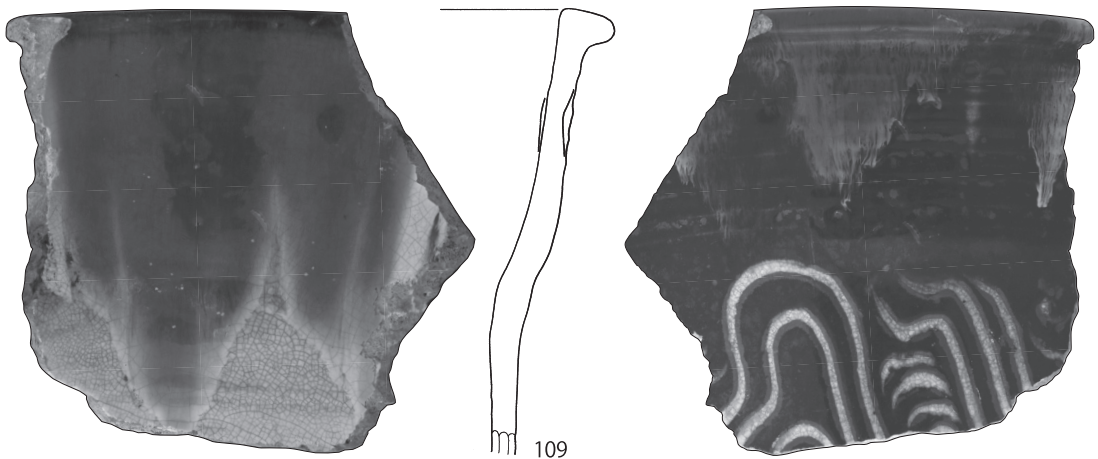
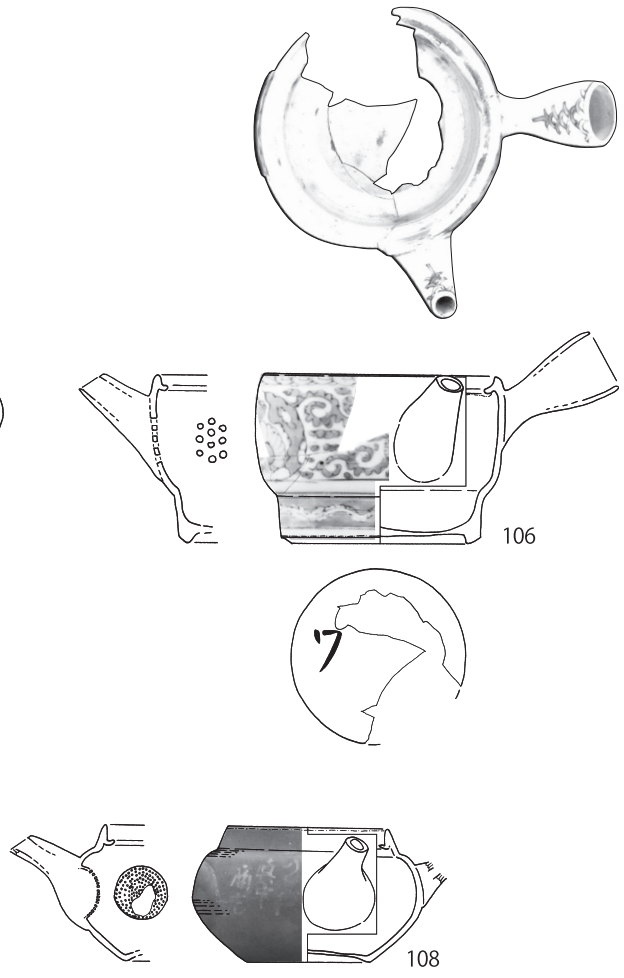
101~103 0 10cm 1:4 104 0 10cm 1:3

第 205 图 区画 AE 土壤出土遺物 (17)

SK112



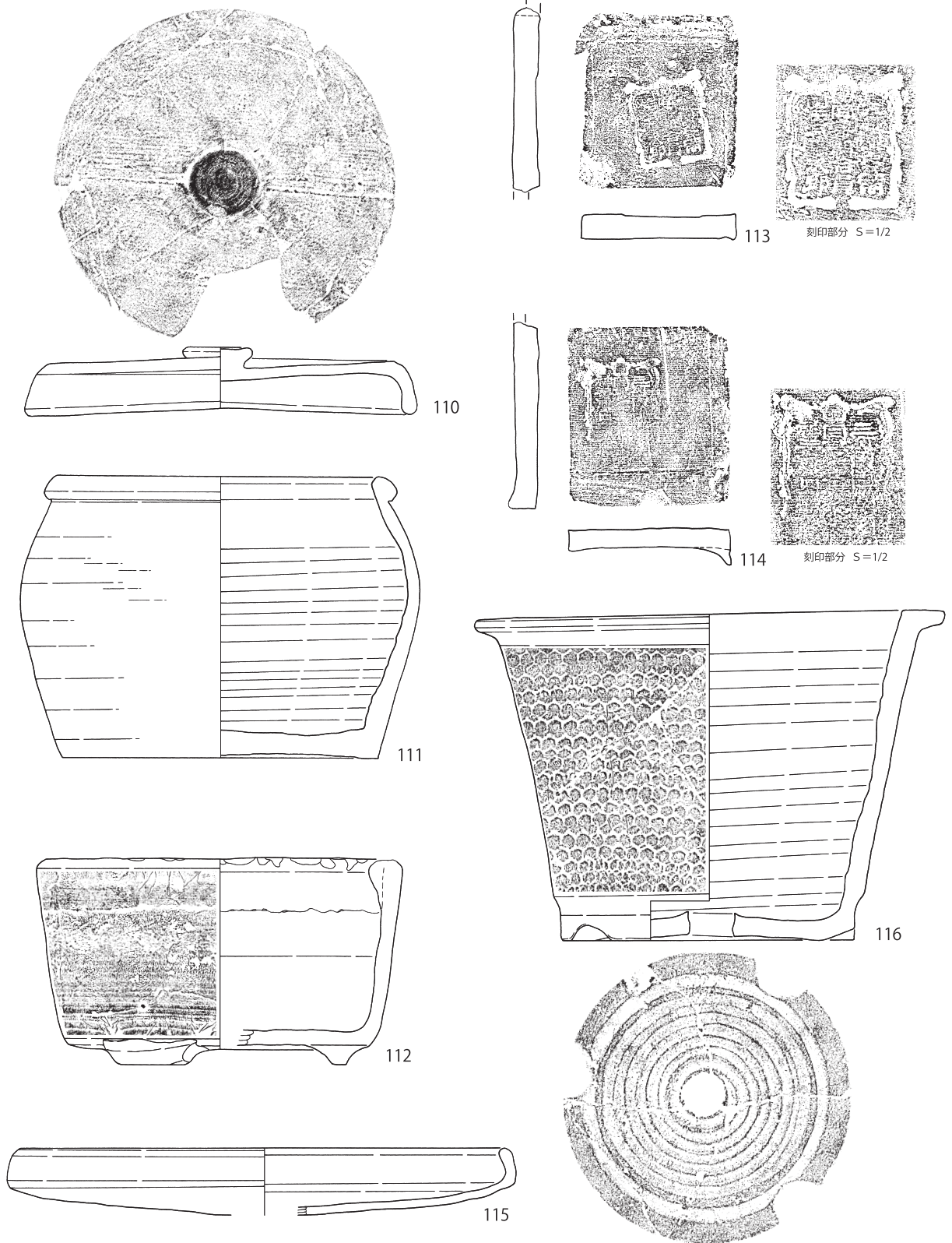
SK113



0 10cm
1:3

第 206 图 区画 AE 土壤出土遺物 (18)

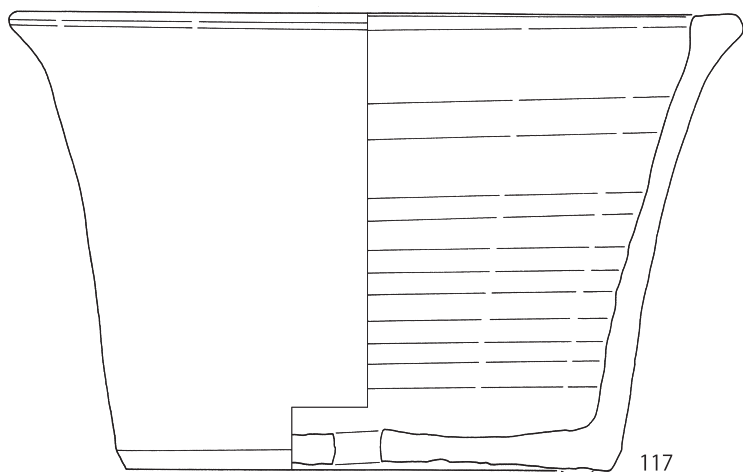
SK113



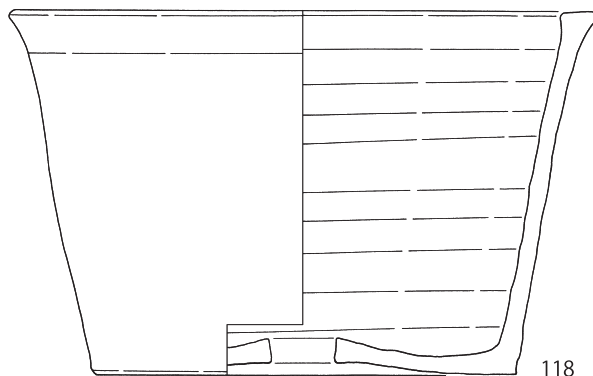
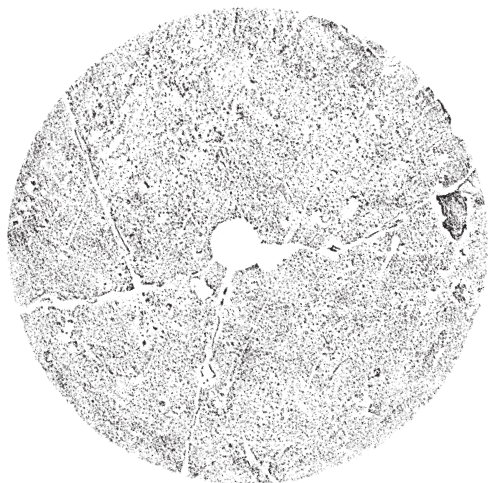
110・111・115 0 10cm 1:4 112~114・116 0 10cm 1:3

第 207 図 区画 AE 土壙出土遺物 (19)

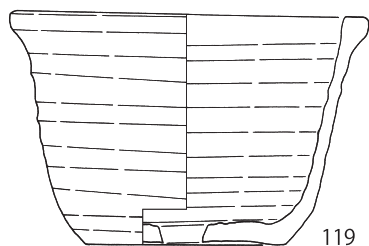
SK113



117



118

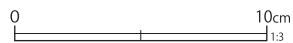
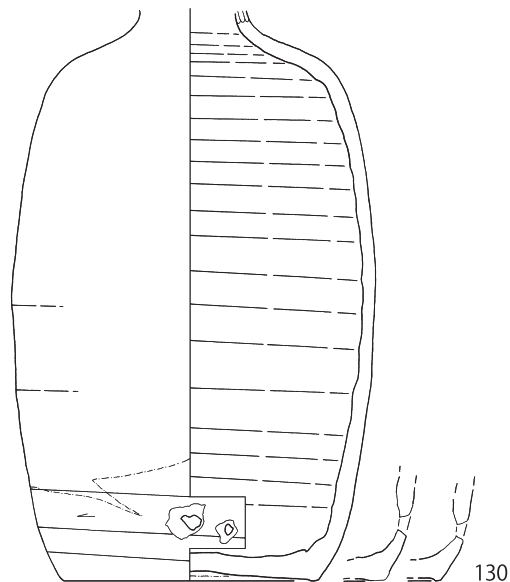
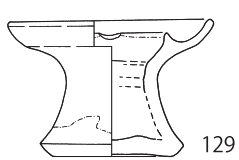
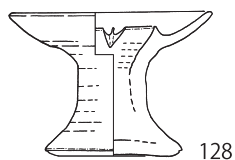
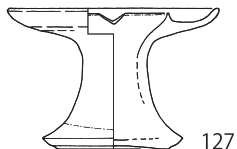
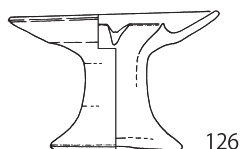
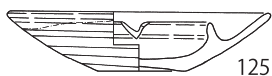
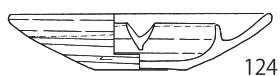
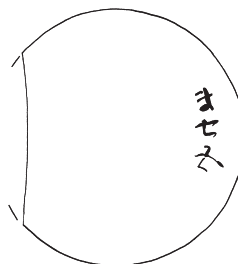
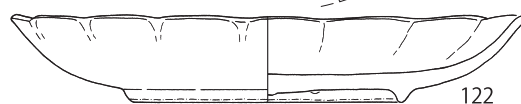
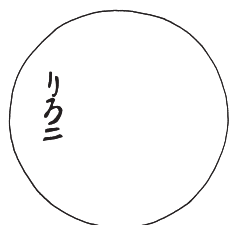
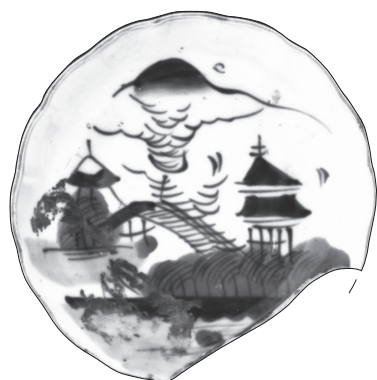


119



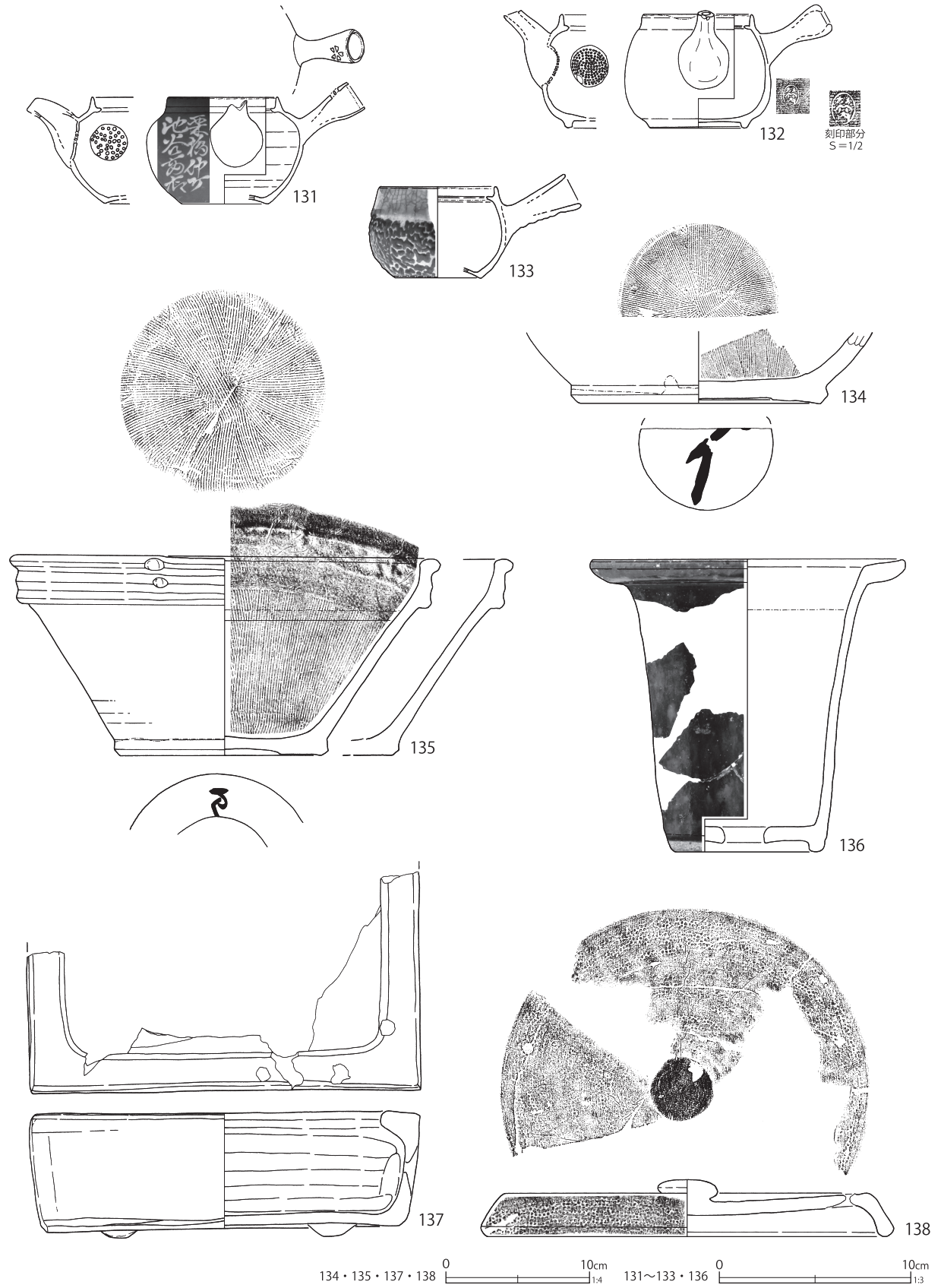
第 208 図 区画 AE 土壙出土遺物 (20)

SK115



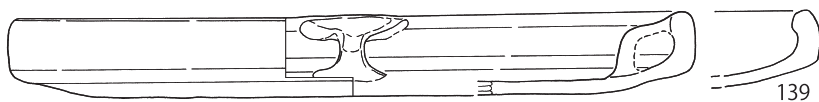
第 209 図 区画 AE 土壙出土遺物 (21)

SK115

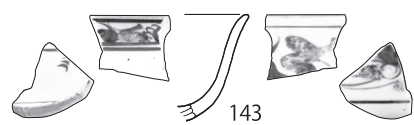
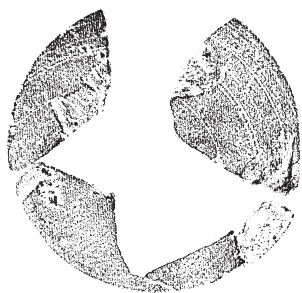
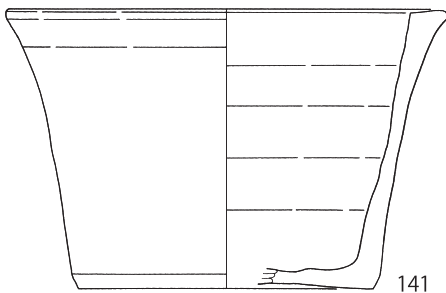
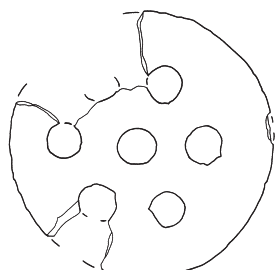
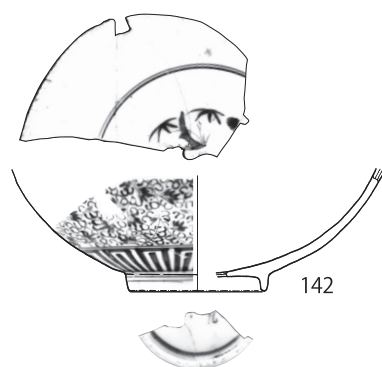


第 210 图 区画 AE 土壙出土遺物 (22)

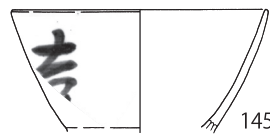
SK115



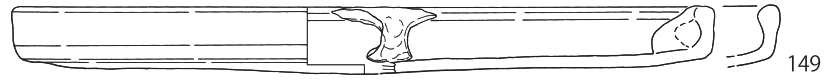
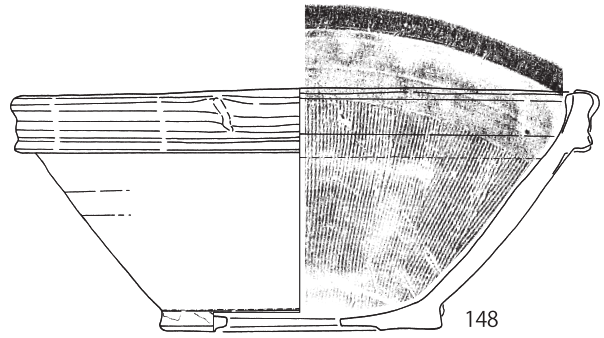
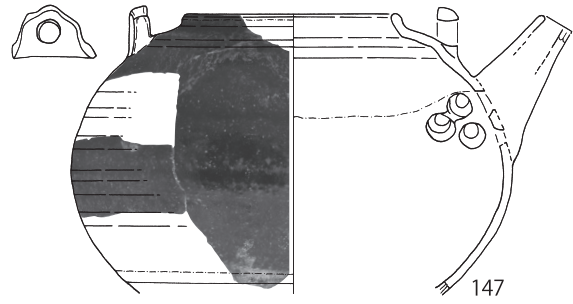
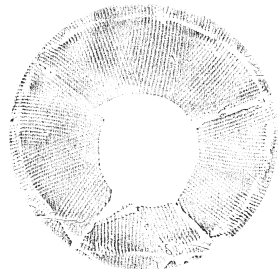
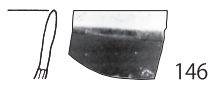
SK116



SK117

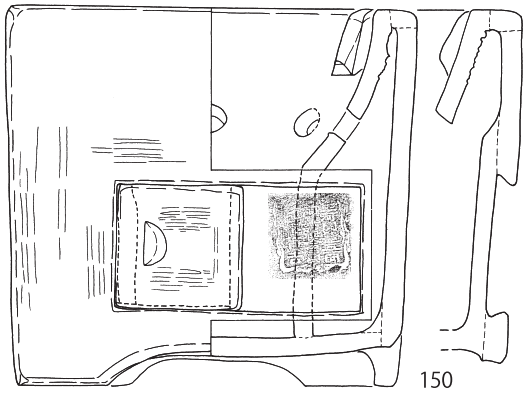


SK118



第211图 区画AE土壤出土遺物(23)

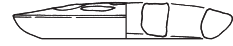
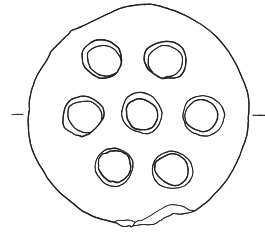
SK118



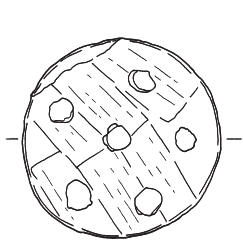
150



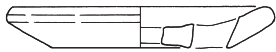
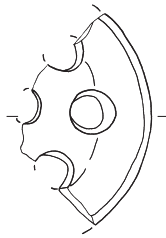
刻印部分 S=1/2



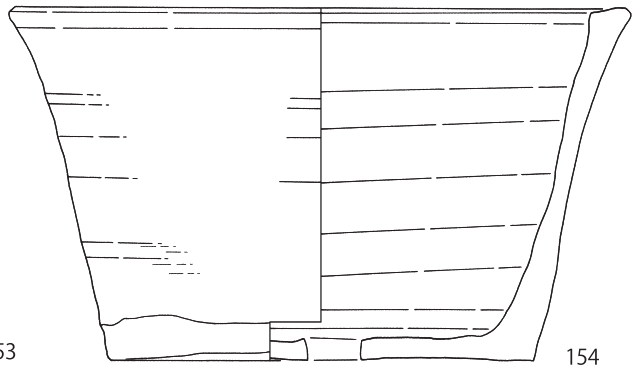
151



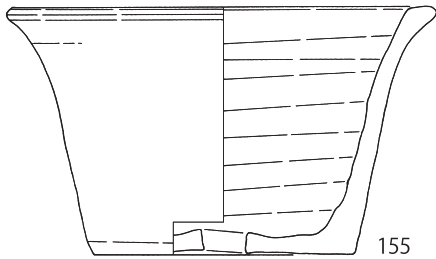
152



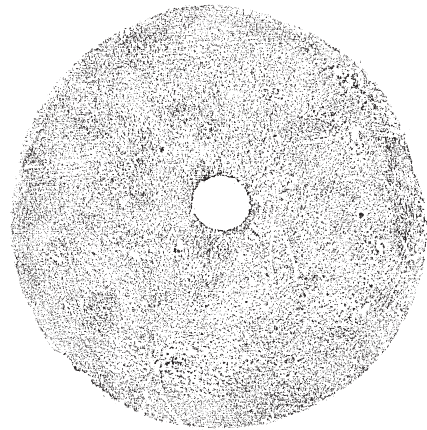
153



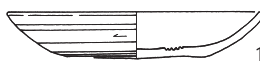
154



155



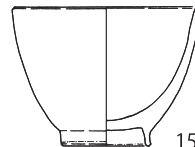
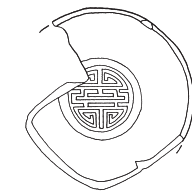
SK119



156



157



158



159

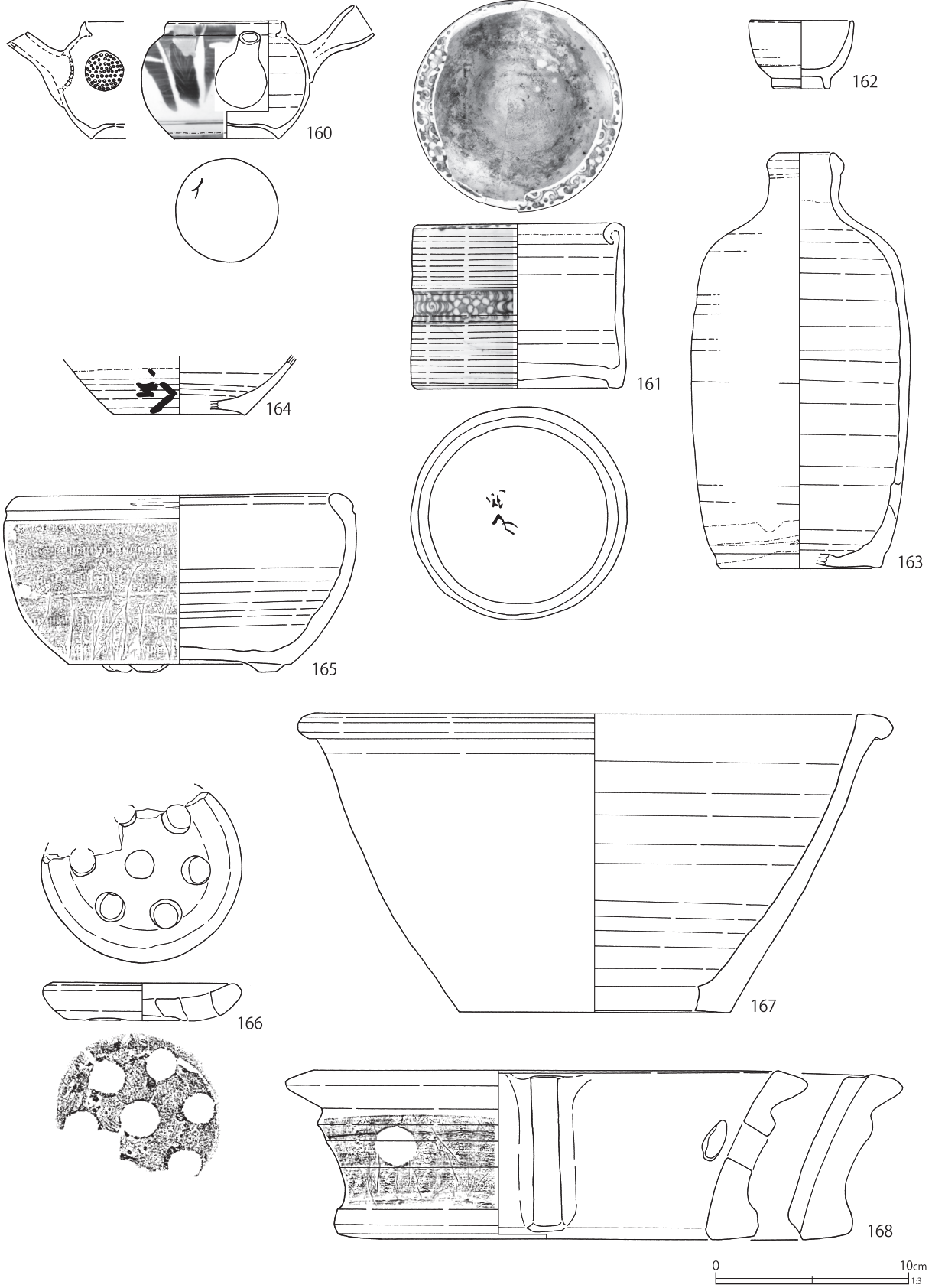


0 10cm 1:4

0 10cm 1:3

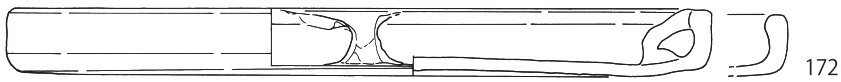
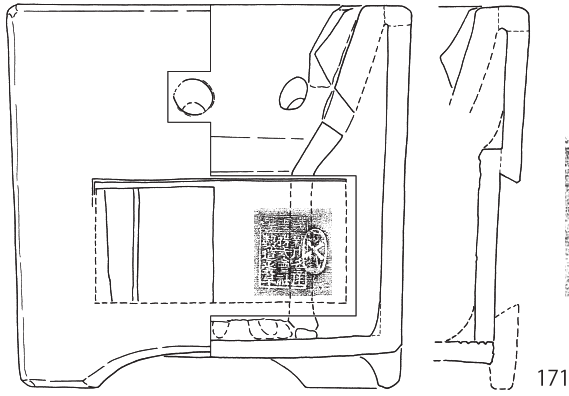
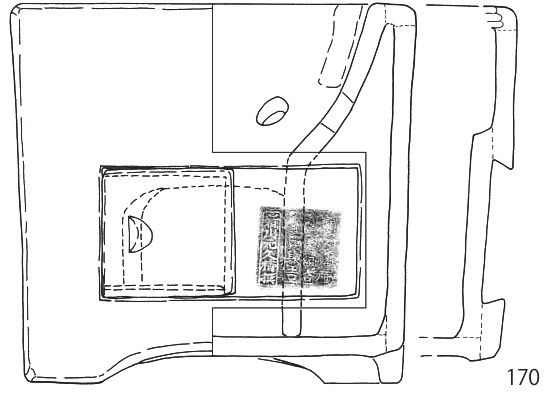
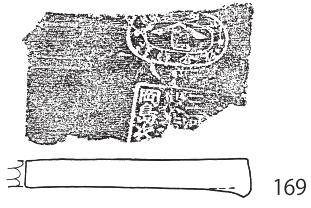
第 212 図 区画 AE 土壇出土遺物 (24)

SK119



第 213 图 区画 AE 土壙出土遺物 (25)

SK119

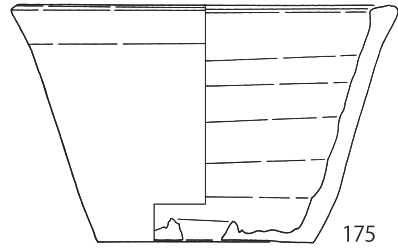
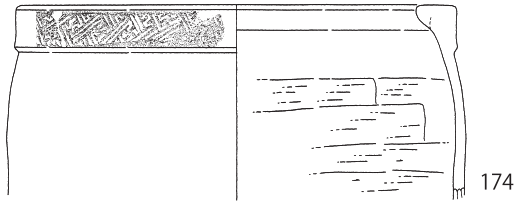
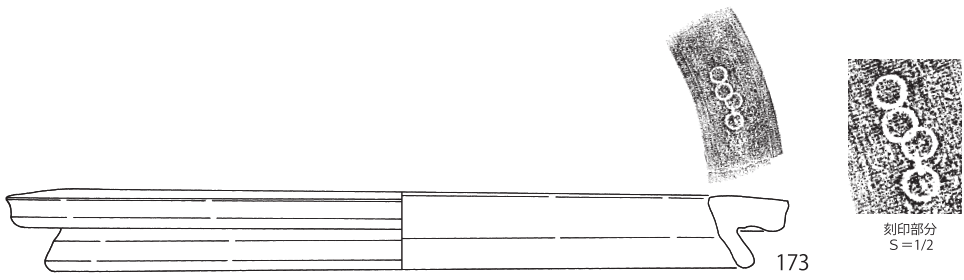


170~172 0 10cm 1:4

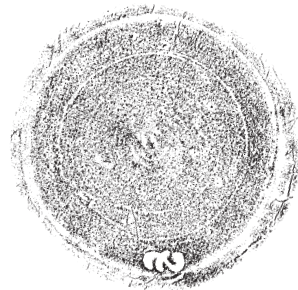
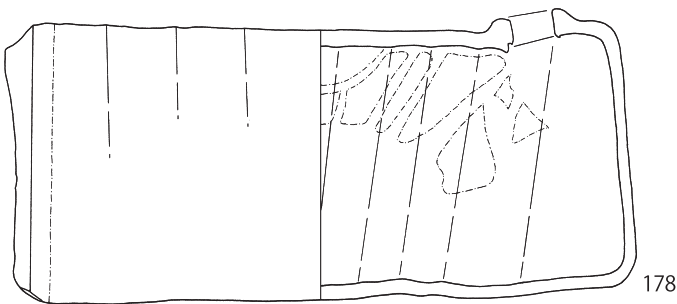
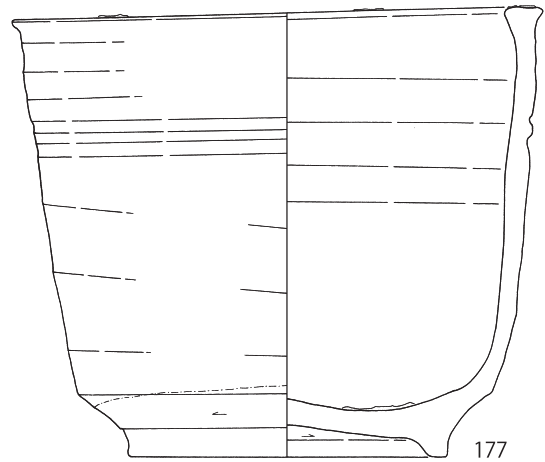
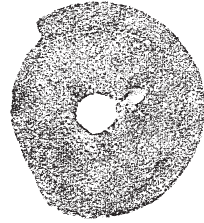
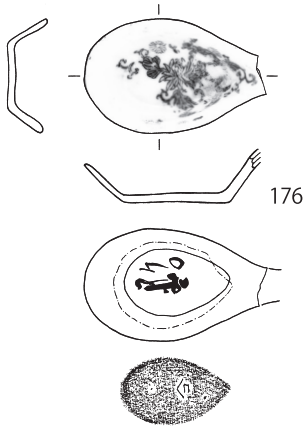
169 0 10cm 1:3

第 214 図 区画 AE 土壇出土遺物 (26)

S K119



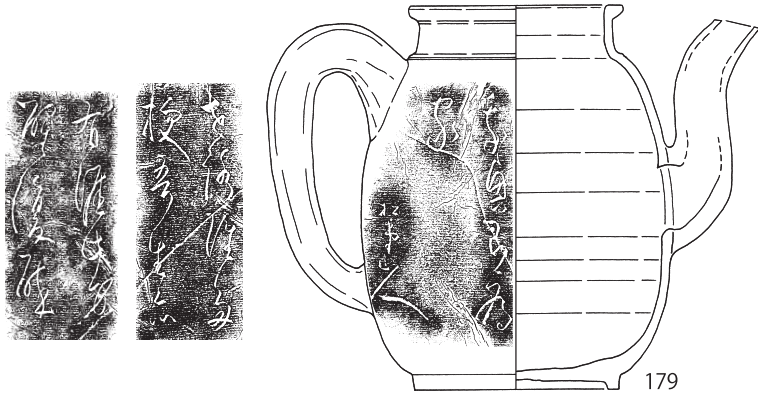
S K120



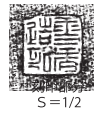
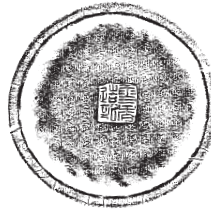
174 $\frac{0}{20\text{cm}}$ $\frac{1}{1.8}$ 173 $\frac{0}{10\text{cm}}$ $\frac{1}{1.4}$ 175 ~ 178 $\frac{0}{10\text{cm}}$ $\frac{1}{1.3}$

第 215 图 区画 AE 土壤出土遺物 (27)

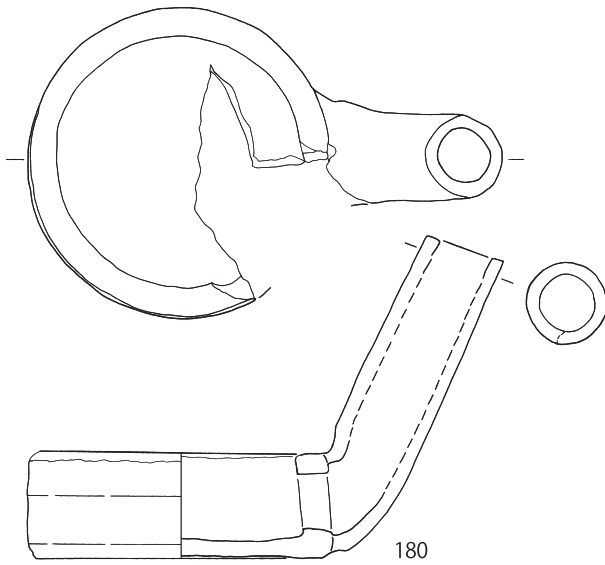
SK120



179



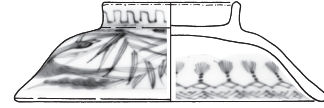
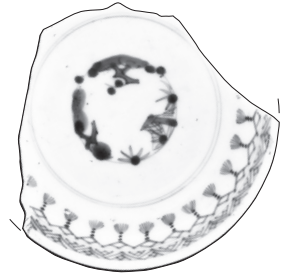
S=1/2



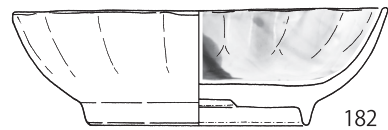
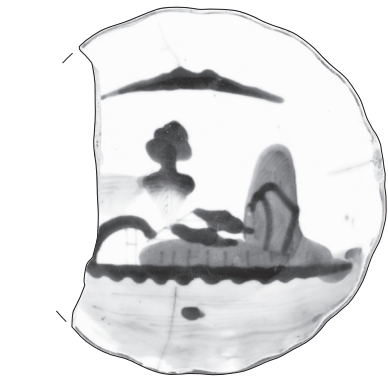
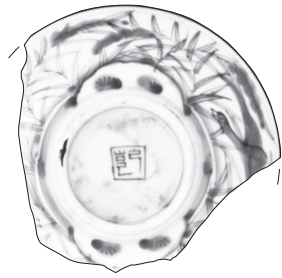
180



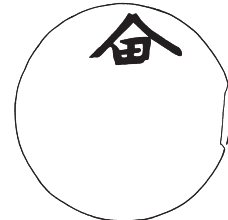
SK121



181

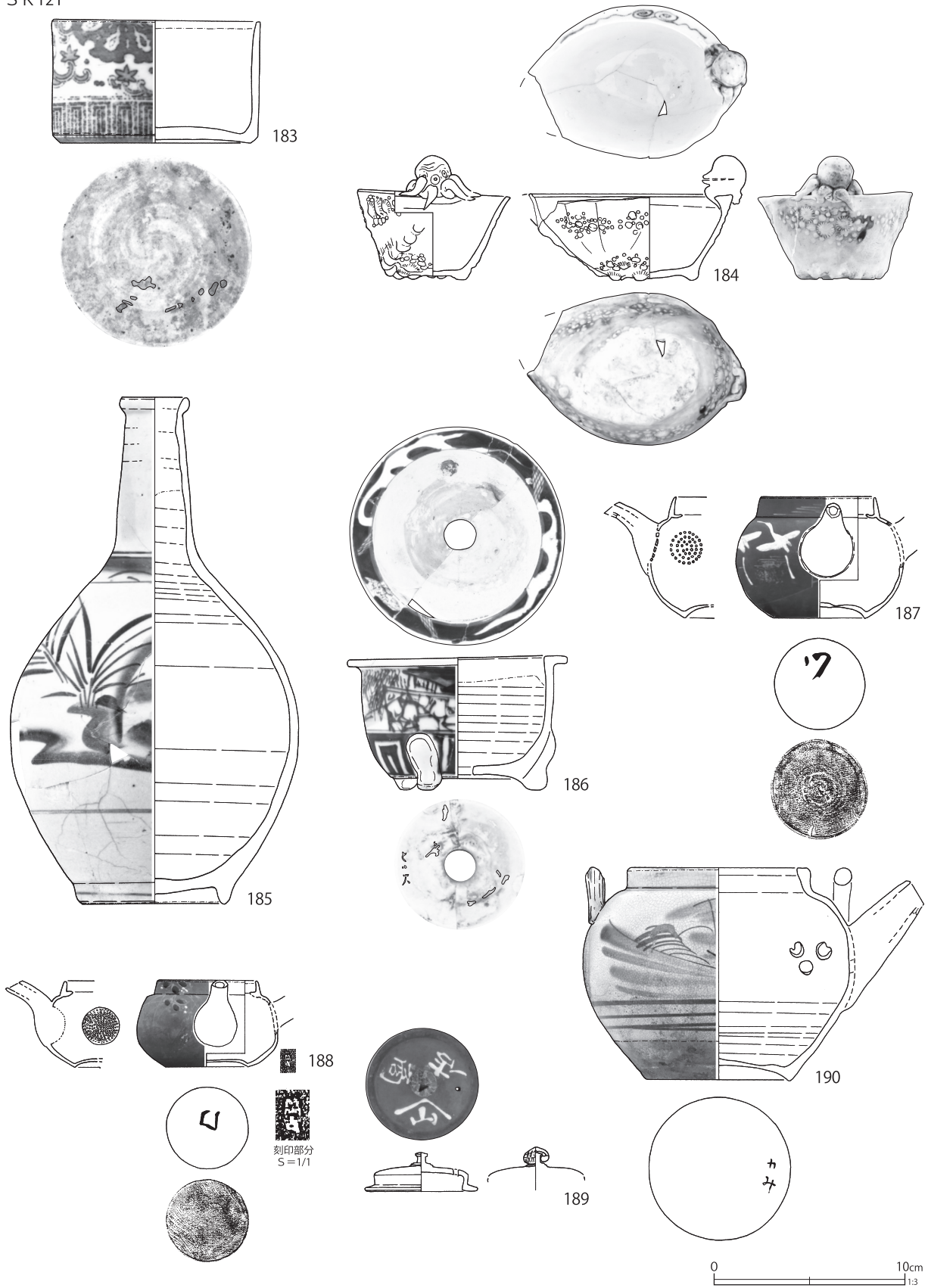


182



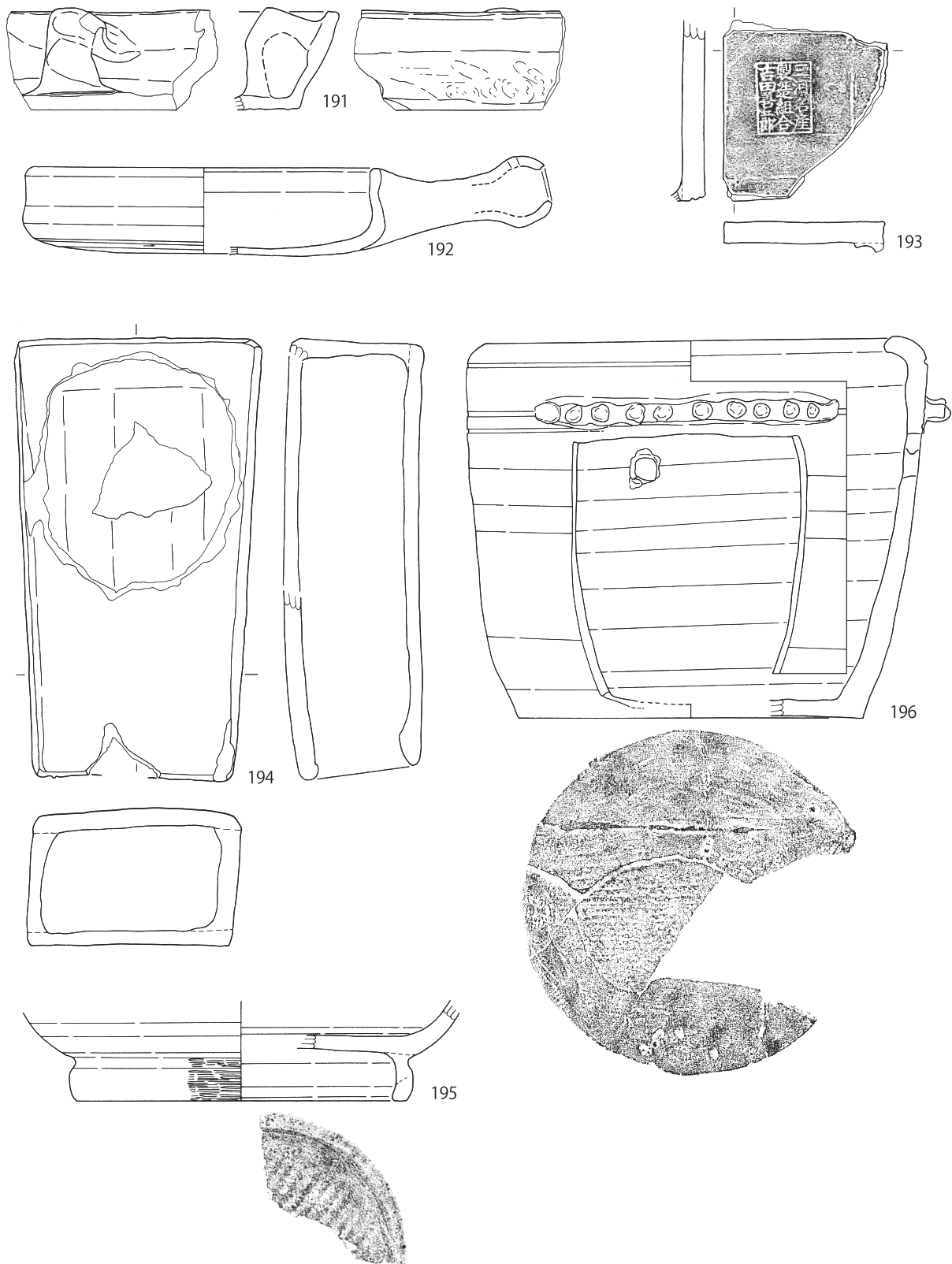
第 216 图 区画 AE 土壙出土遺物 (28)

SK121



第 217 图 区画 AE 土壙出土遺物 (29)

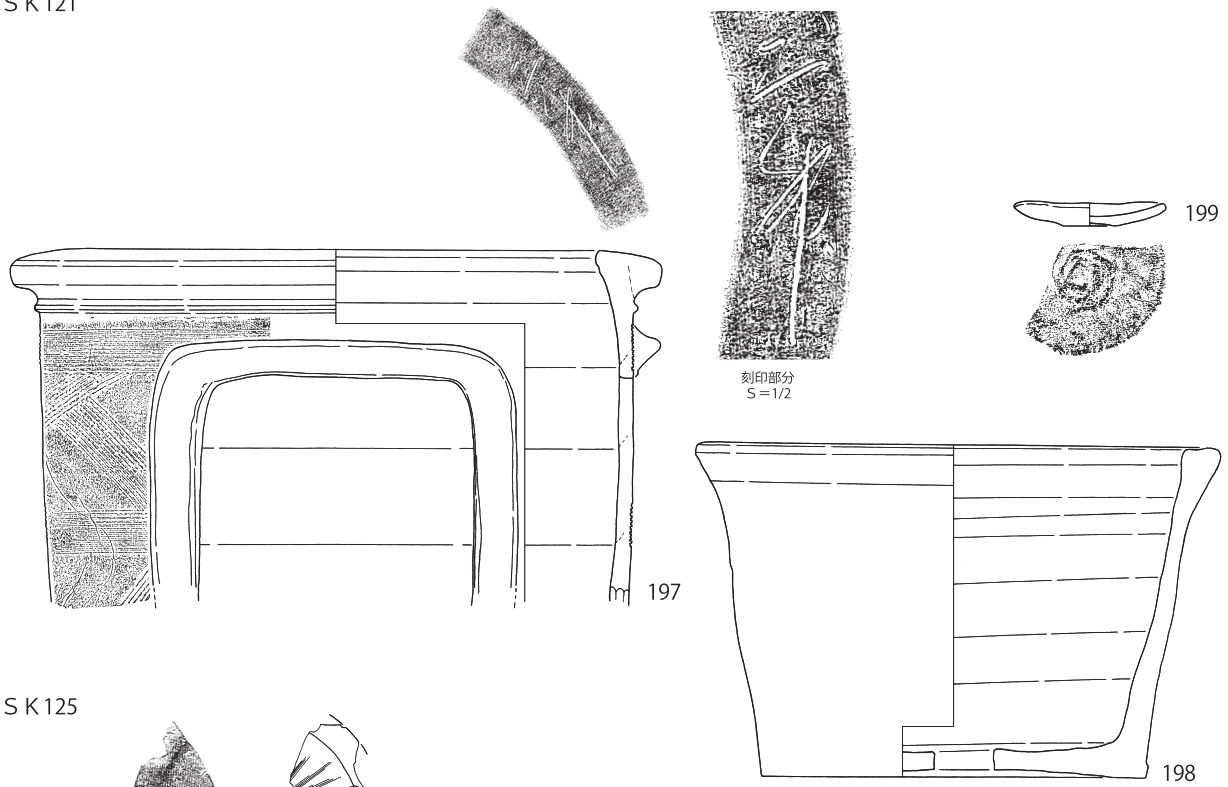
S K121



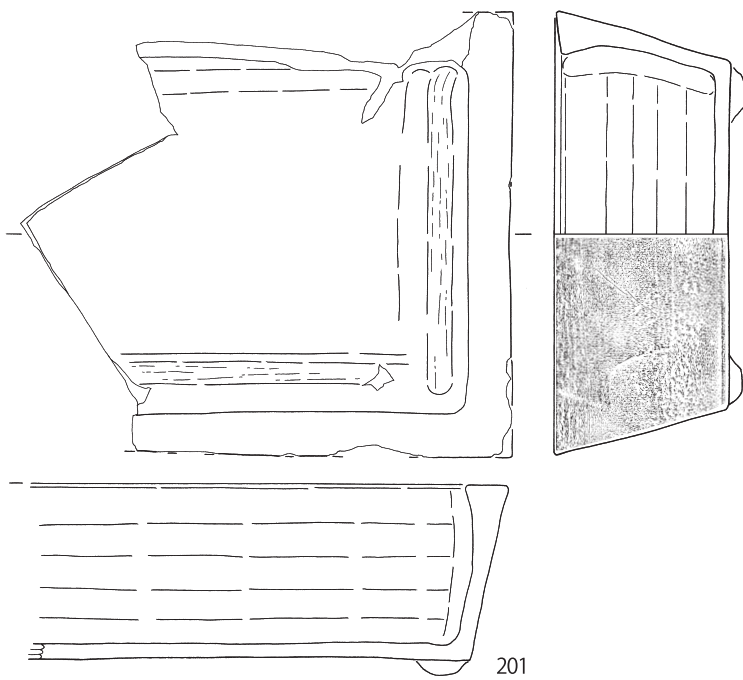
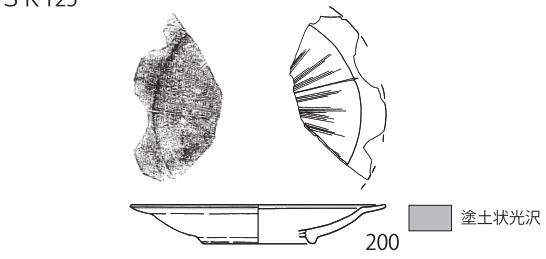
195・196 0 10cm 1:4 191~194 0 10cm 1:3

第 218 図 区画 AE 土壇出土遺物 (30)

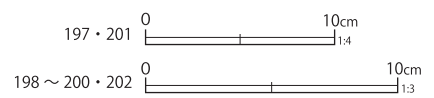
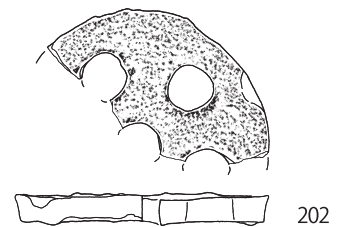
SK121



SK125

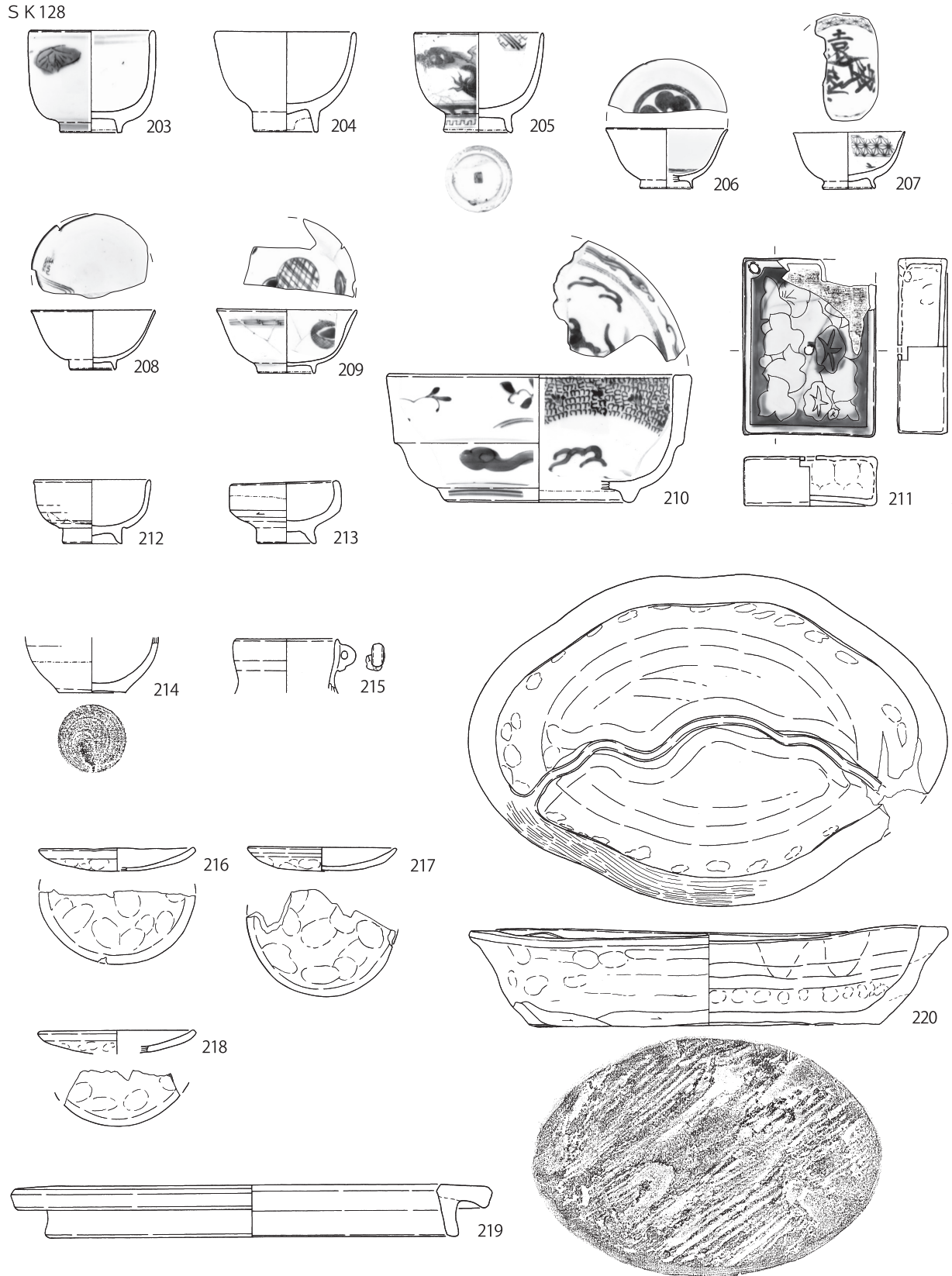


SK127



第 219 图 区画 AE 土壙出土遺物 (31)

S K 128



219・220 0 10cm 1:4 203~218 0 10cm 1:3

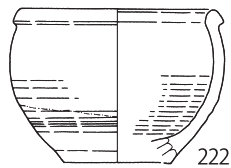
第 220 図 区画 AE 土壙出土遺物 (32)

SK131

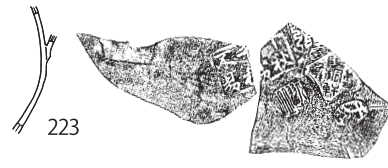


221

SK132

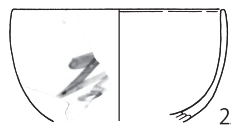


222

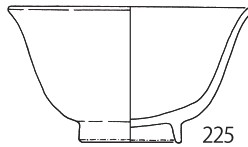


223

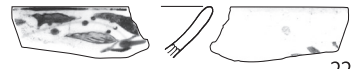
SK135



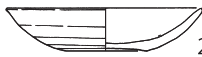
224



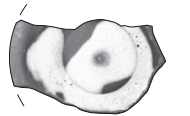
225



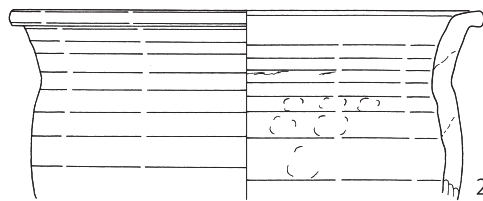
226



227

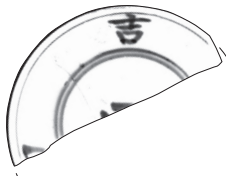


228

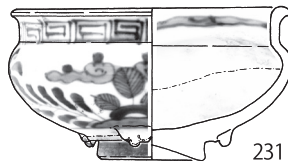


229

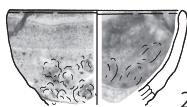
SK248



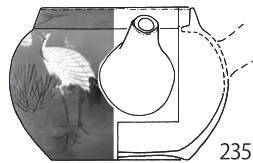
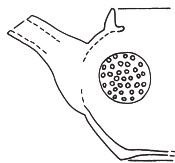
230



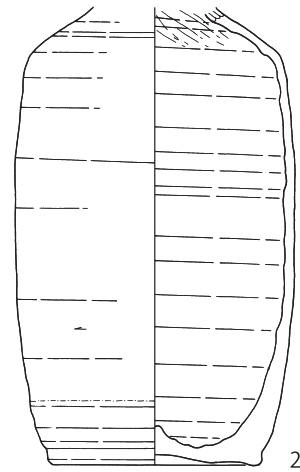
231



232



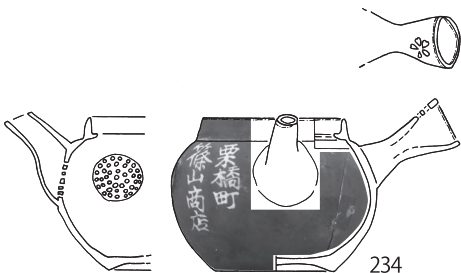
235



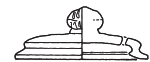
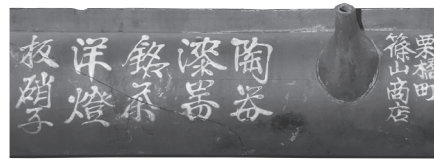
233



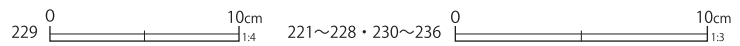
朱書



234

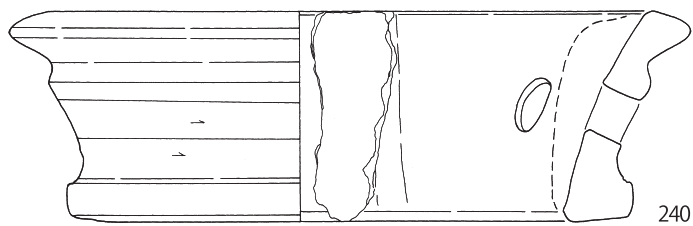
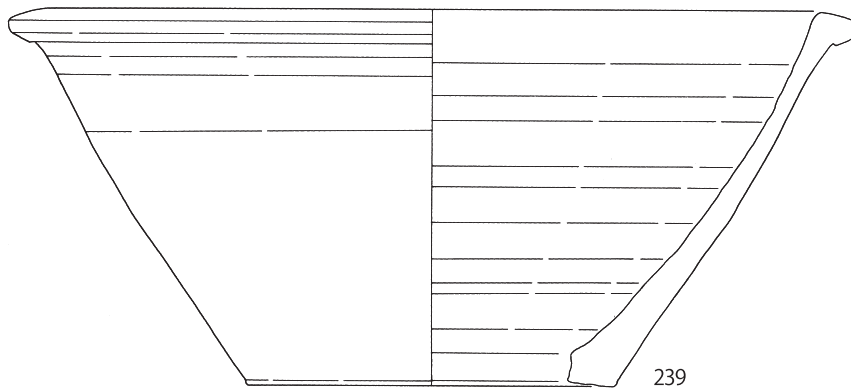
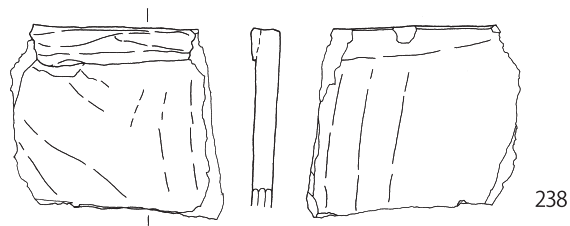
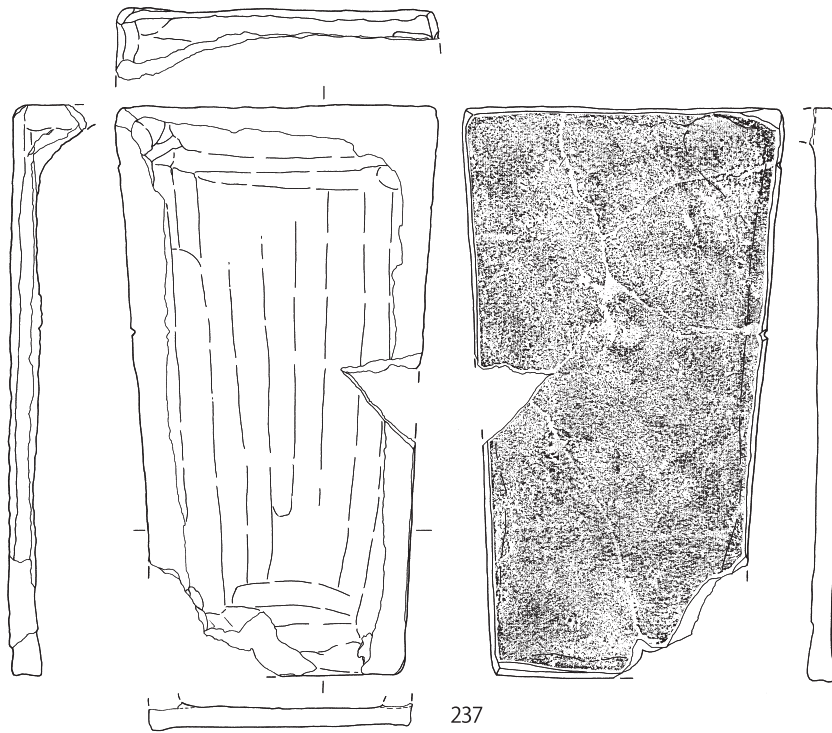


236



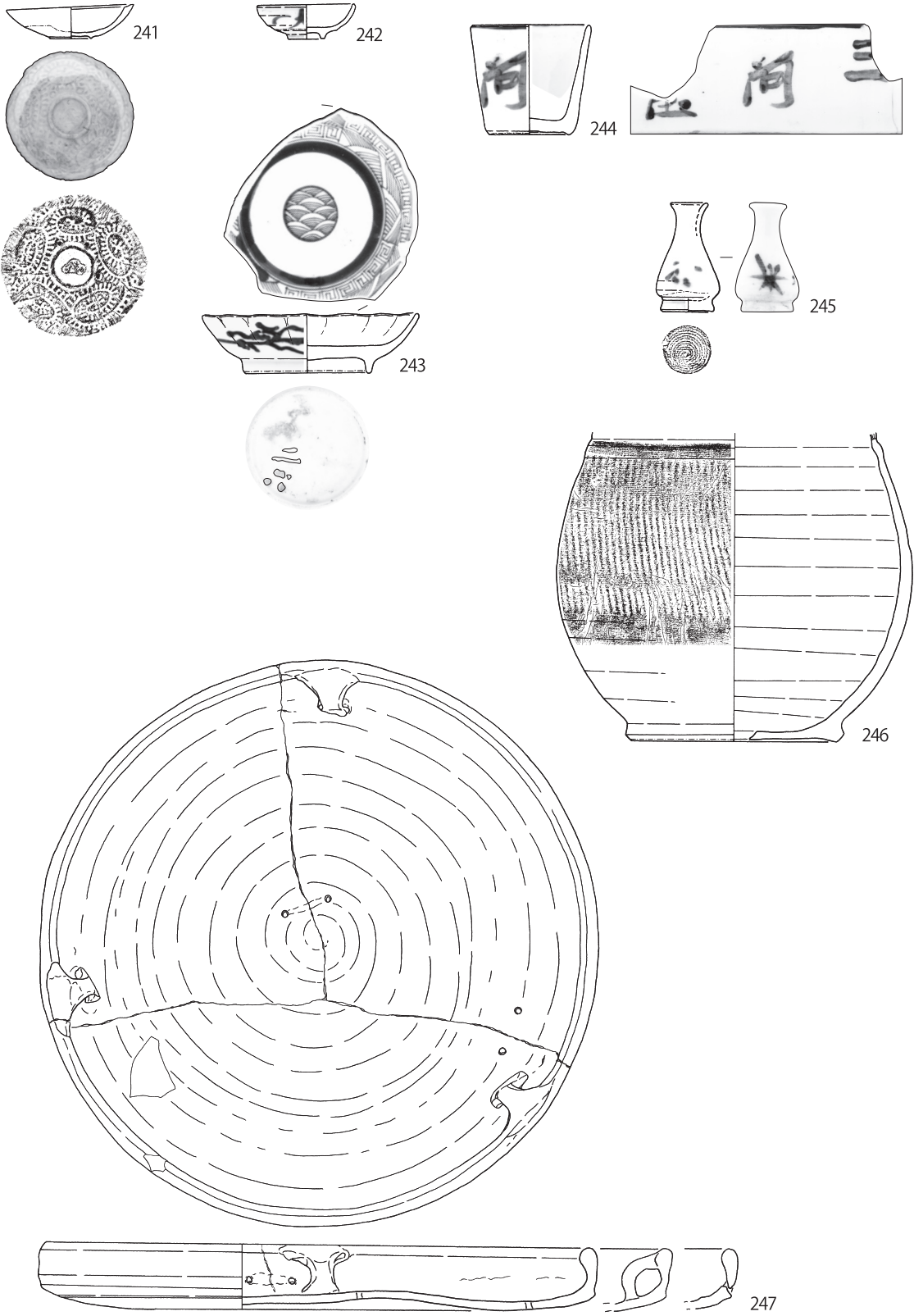
第221図 区画AE土壙出土遺物(33)

S K 248



第 222 図 区画 AE 土壇出土遺物 (34)

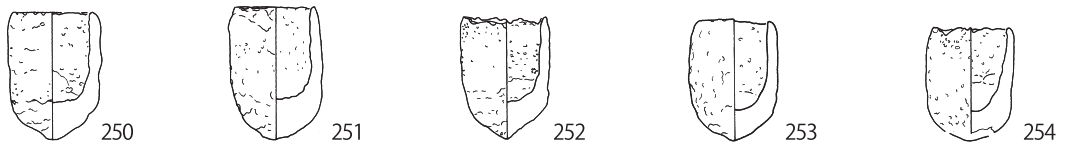
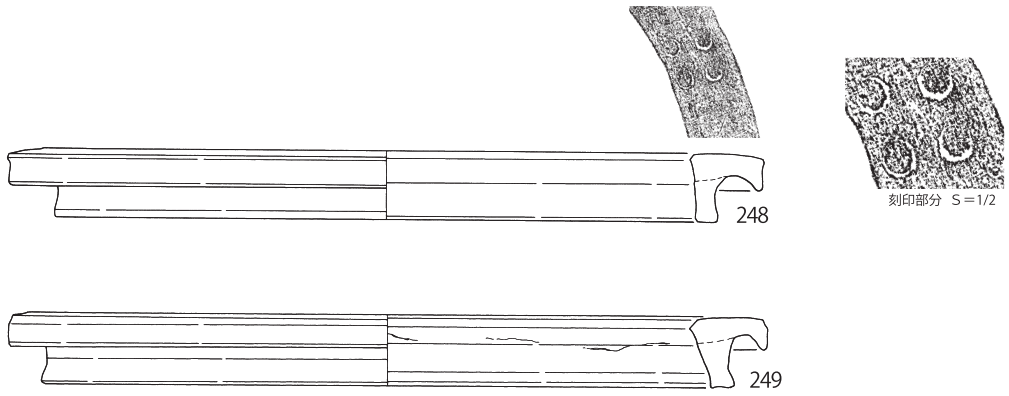
S K 249



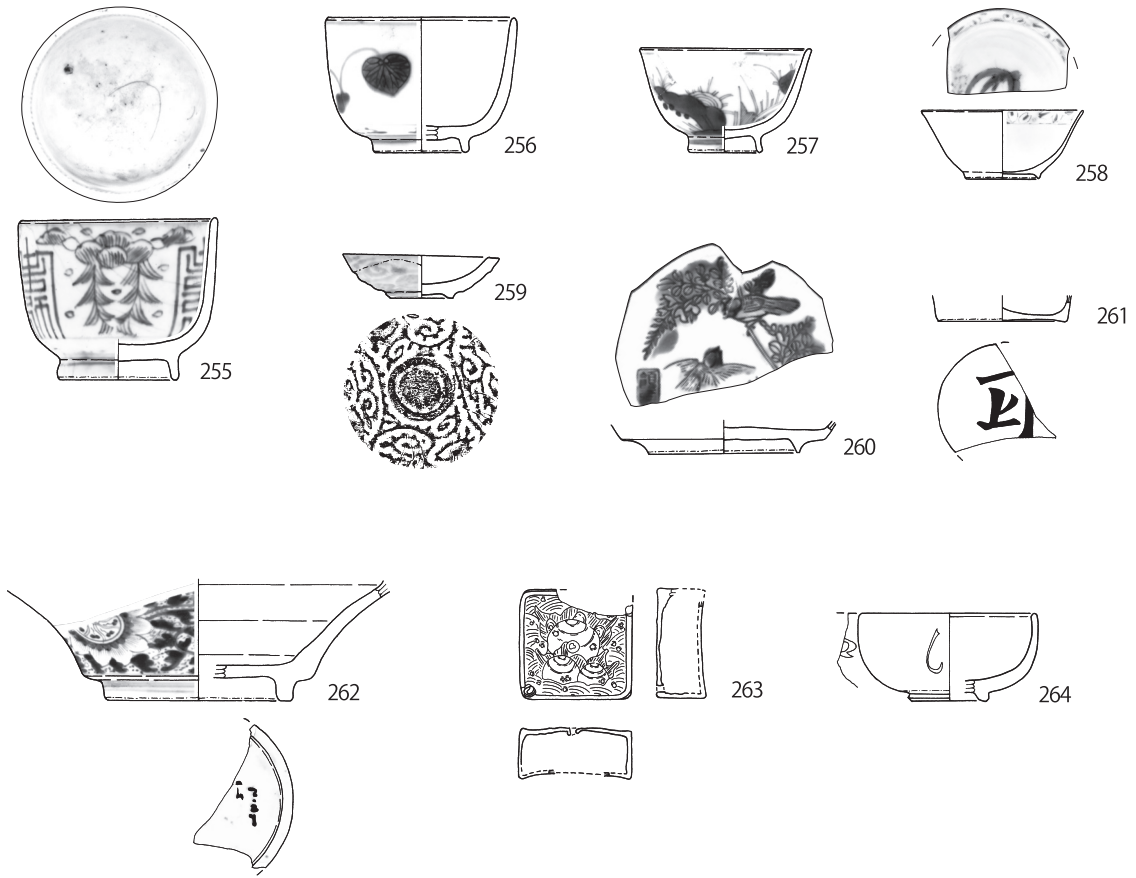
0 10cm 0 10cm
247 1:4 241~246 1:3

第 223 图 区画 AE 土壙出土遺物 (35)

S K 249



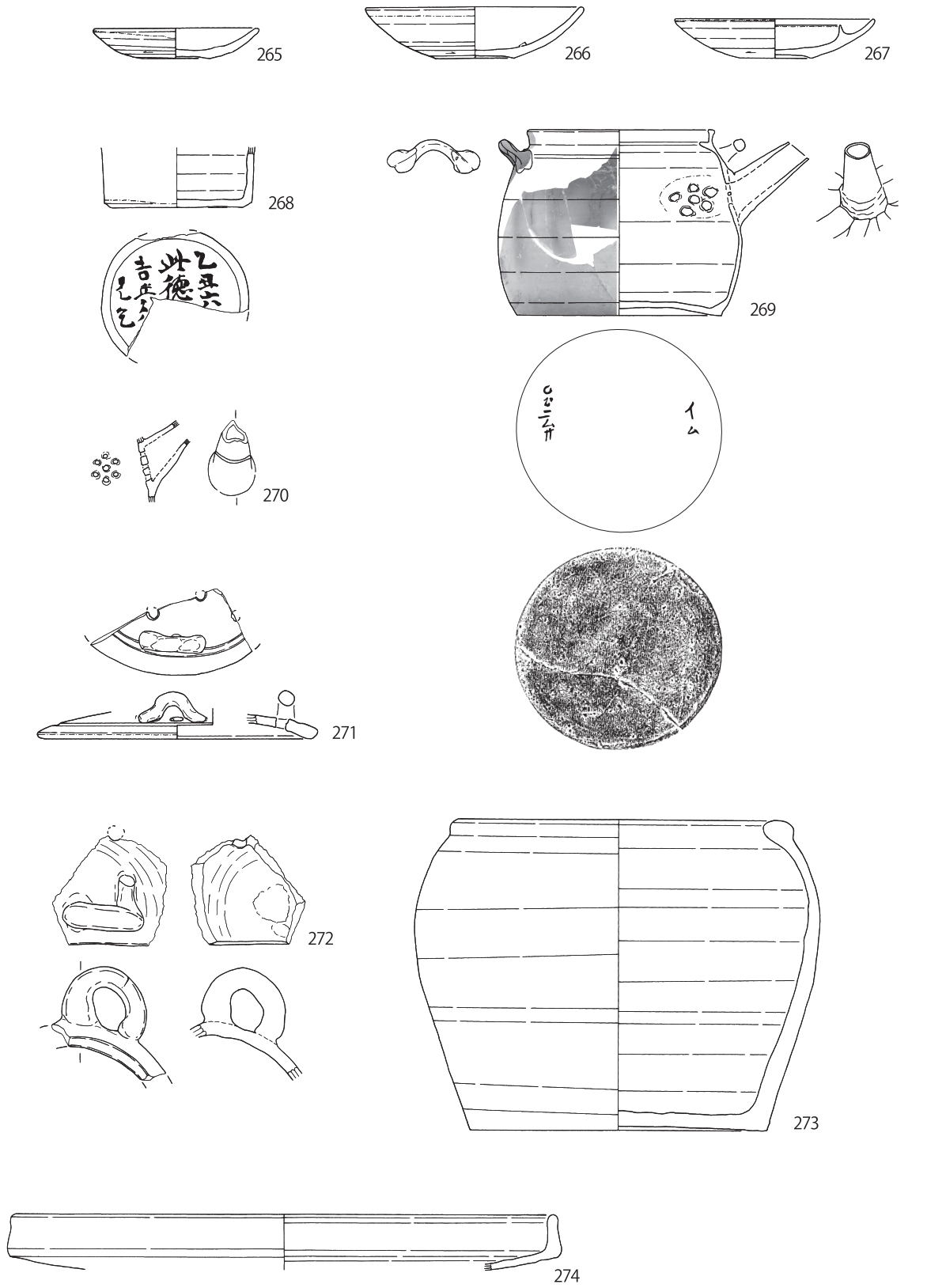
S K 256



248・249 0 10cm 1:4 250~264 0 10cm 1:3

第 224 図 区画 AE 土壇出土遺物 (36)

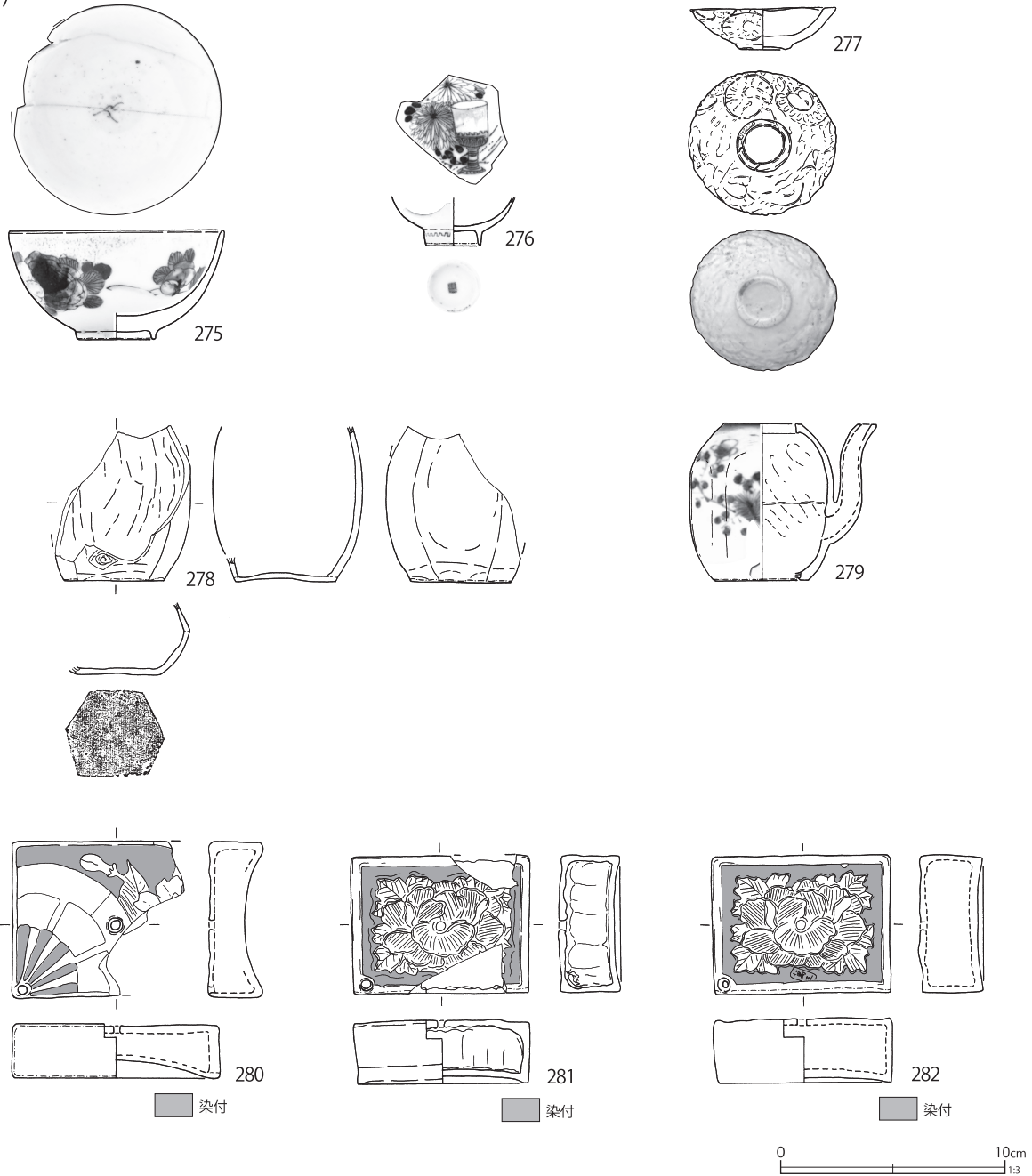
S K 256



273・274 0 10cm 1/4 265~272 0 10cm 1/3

第 225 図 区画 AE 土壙出土遺物 (37)

S K 257



第 226 図 区画 AE 土壌出土遺物 (38)

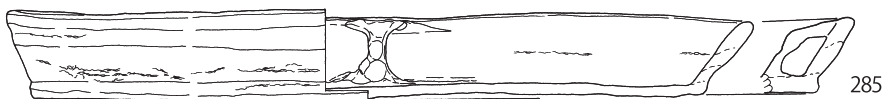
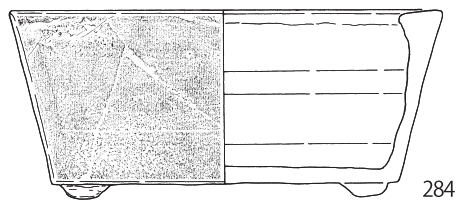
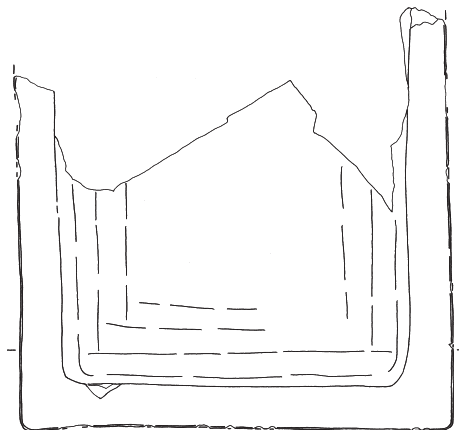
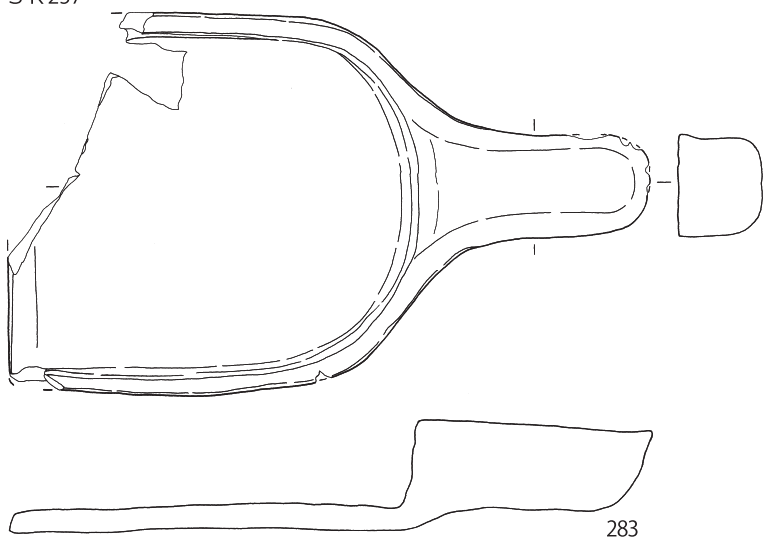
化コバルト染付で丁寧に絵付けられており、高台内に刻印「円山」がみえる。

第 196 図 43 は土師質土器の内耳丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、内底面は同心円状のナデ、中心部はランダムなナデがみられる。胎土は金雲母が含まれるが、在地的な様相を呈しており、胎土・調整共に栗橋宿でみられる内耳丸焙烙では異質な様相である。

第 198 図 56 は東北から北関東地方を中心に分布する大型の長頸壺で、所謂「すず徳利」である。外面に灰釉を施釉し、緑色の釉下彩文字で「豊」と書かれる。栗橋宿では第 5 地点に位置する原勢屋の屋号として知られる。欠失が大きく判読できなかったが、背面には「原勢屋」と書かれている可能性がある。

第 230 図 311 は 56 と同様で、「原勢屋」銘の

SK257

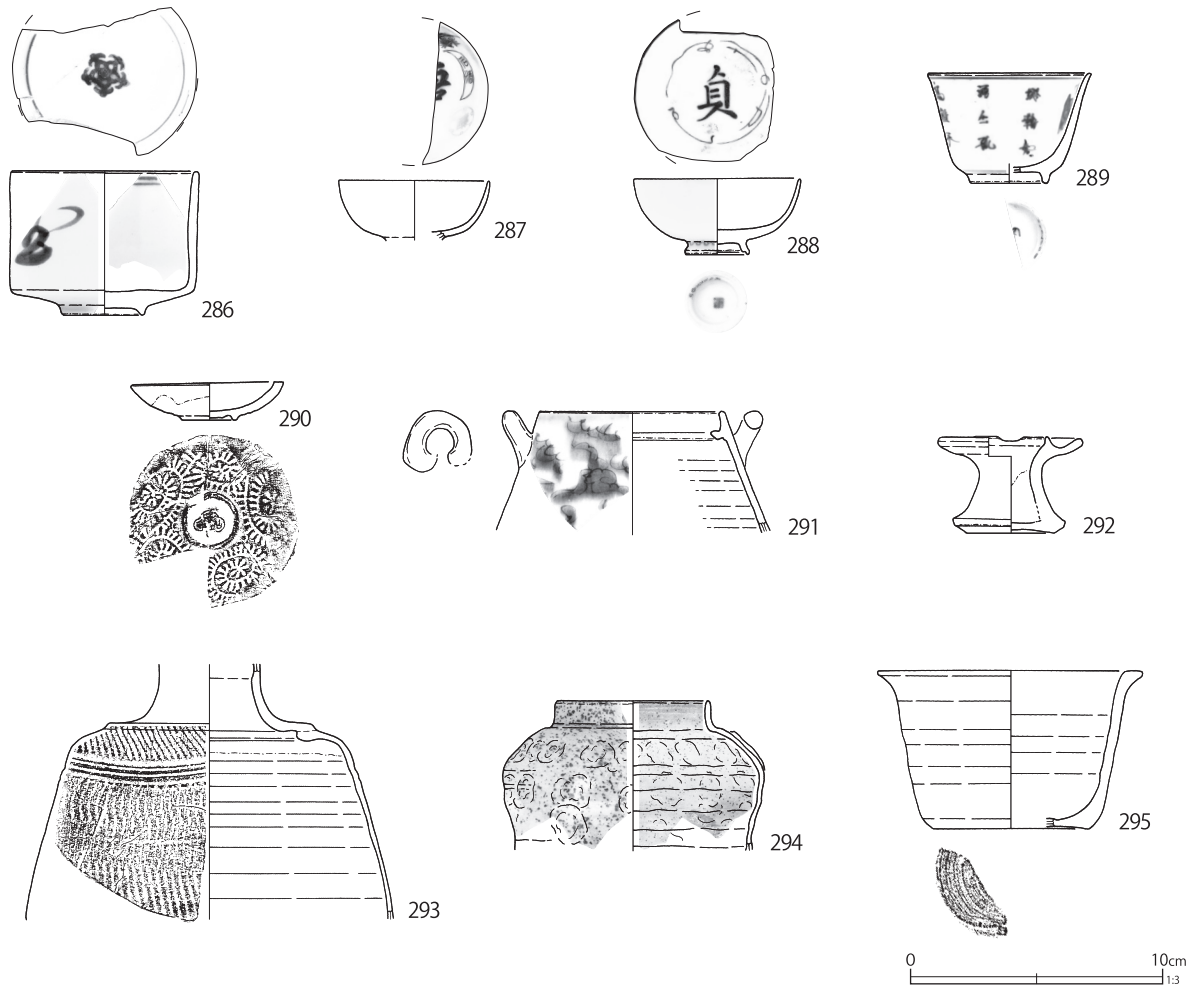


284・285 0 10cm 1.4

283 0 10cm 1.3

第 227 図 区画 AE 土壙出土遺物 (39)

S K 265



第 228 図 区画 AE 土壌出土遺物 (40)

すず徳利である。「原」が欠失し、「勢屋」の文字が遺存している。

第 230 図 310 はすず徳利である。外面に灰釉が施釉され、外面は酸化コバルトの呉須文字がみられる。文字は欠失している部分もあるが、「いなりや / く (りは) し」と推定され、舟戸町に位置する鯉料理店、「稲荷屋」の徳利と考えられる。

第 199 図 62 は瀬戸美濃系磁器の急須で、底部に墨書「くり中 / 大つか」がみえる。既報告である第 7 地点の区画 AL は、『営業便覧』に「大塚恒次」がみえ、関連性が示唆される。なお、職種は不詳である。

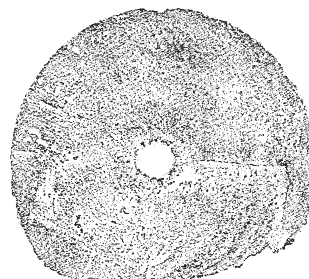
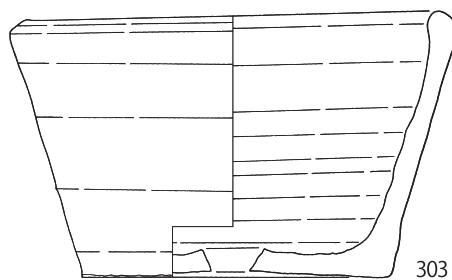
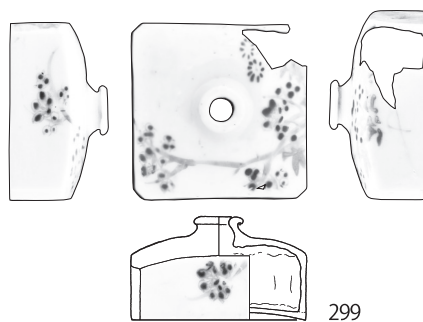
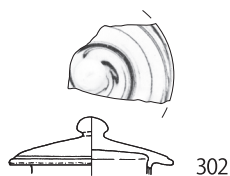
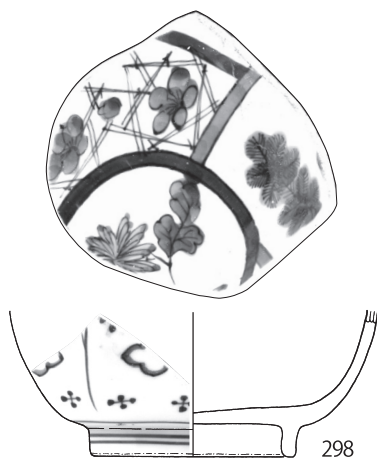
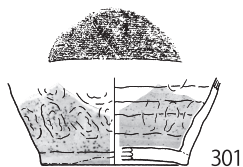
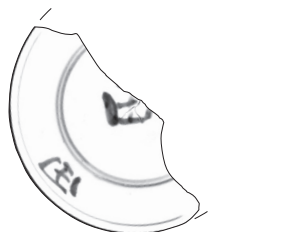
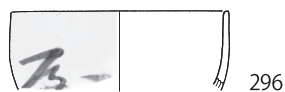
第 200 図 63 は外面にトビガンナ施文がみられるすず徳利である。62 と同様に、底部に墨書「大

塚」がみえる。急須、徳利に書かれていることから料理を提供する店舗の類であろうか。

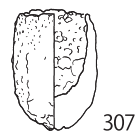
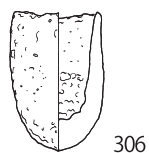
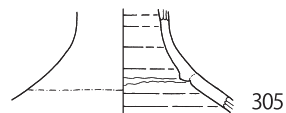
71 は京都系陶器で、急須の把手である。白色胎土で、刻印「音羽」がみえる。横にみえる刻印は篆書体であろうか、判読できない。18 世紀前半の京焼の状況を記した『京都御役所向大概覚書』には音羽焼の記事がみえる (岡 2005)。京都の五条坂にあった京焼の一つ、「音羽焼」と考えられる。京都信楽系陶器の量産によって、京焼の高級化が進んだ 19 世紀の五条坂の窯場では、煎茶具や抹茶具の量産が行われた。各窯で印や署名を入れることで日用雑器との差別化が図られていることが指摘されている (岡 2005)。

第 202 図 79・第 216 図 182 は肥前系磁器の皿

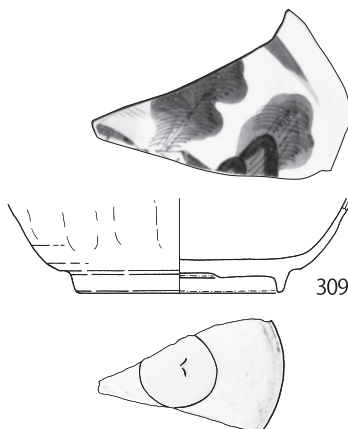
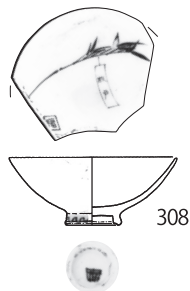
S K 266



S K 267

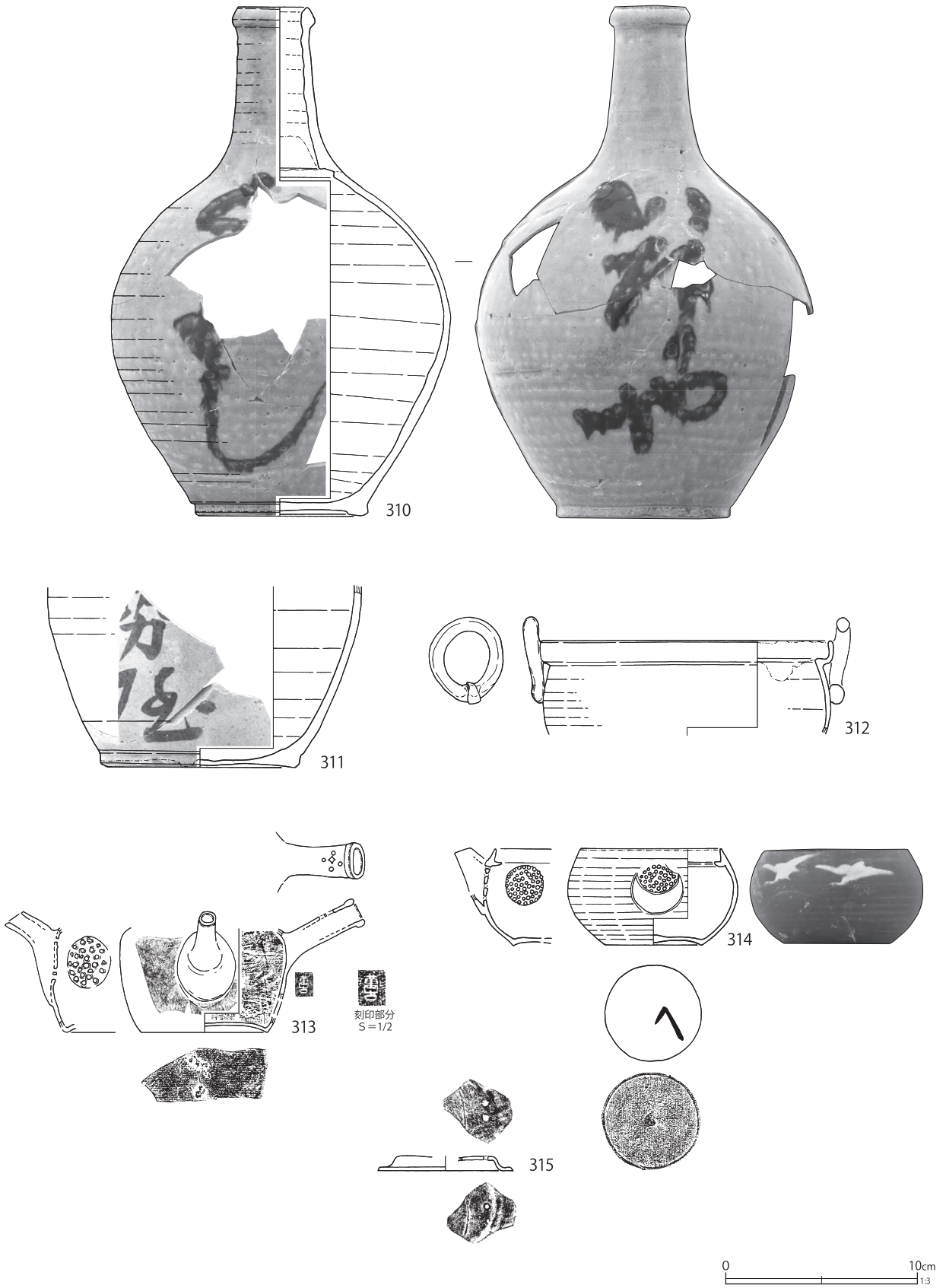


S K 268



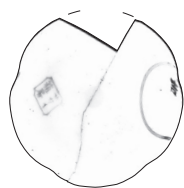
第 229 图 区画 AE 土壙出土遺物 (41)

S K268

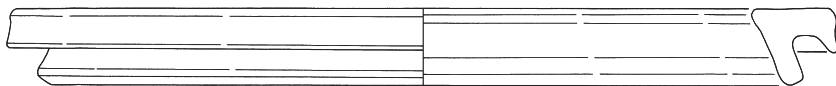


第 230 图 区画 AE 土壙出土遺物 (42)

S K270



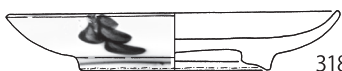
316



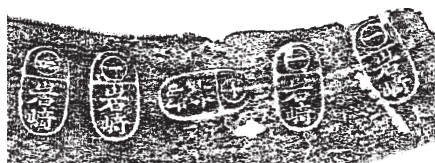
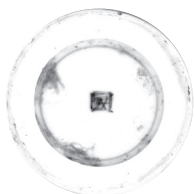
317



S K271

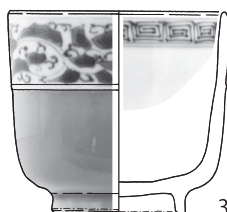


318



刻印部分 S=1/2

S K272



319



320



S K277



322



323



324



325

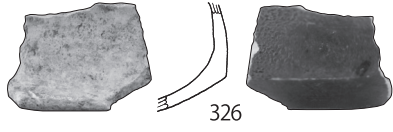


321

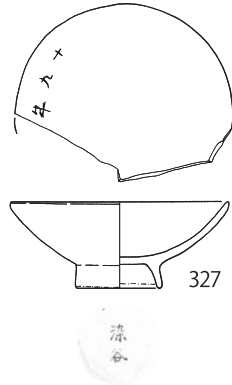
0 10cm 1/4 317 0 10cm 1/3 316・318~325

第 231 图 区画 AE 土壙出土遺物 (43)

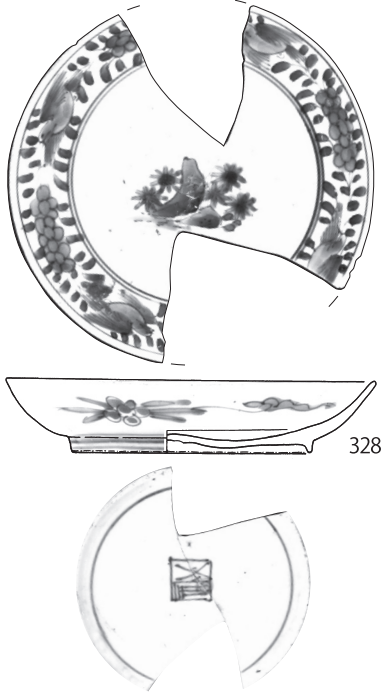
S K 278



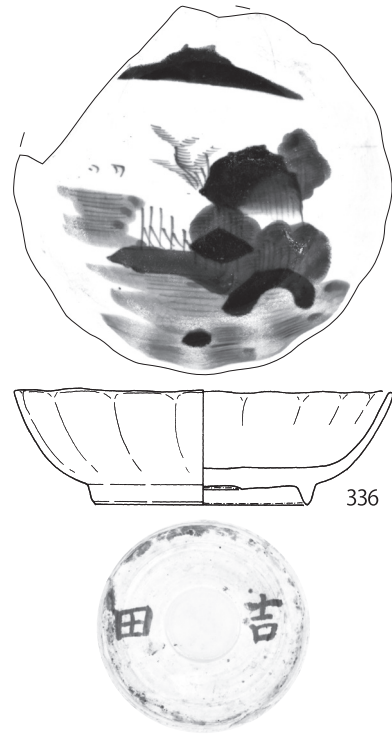
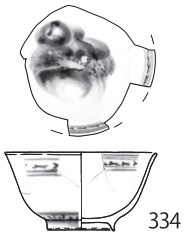
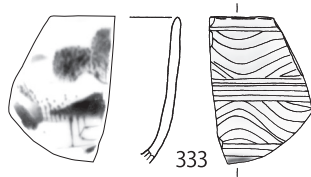
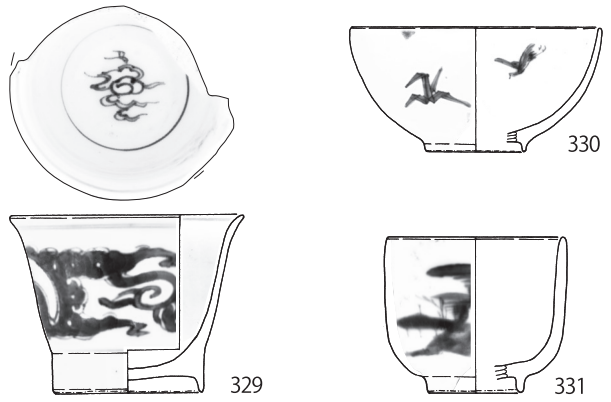
S K 286



S K 299

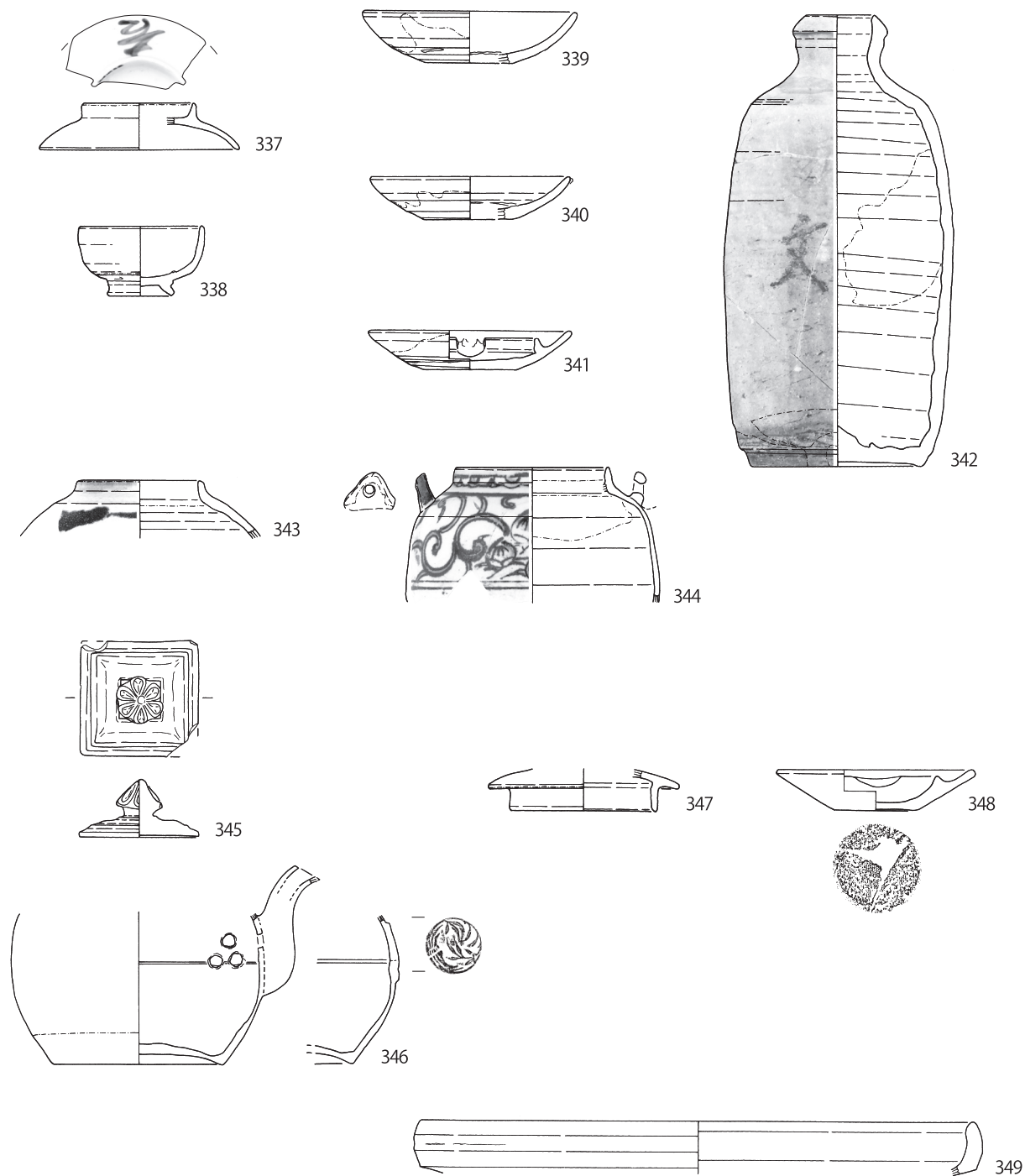


S K 302



第 232 図 区画 AE 土壙出土遺物 (44)

S K 302

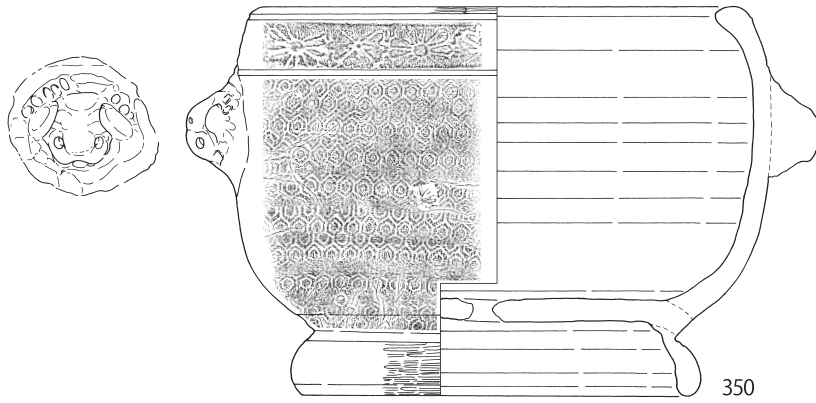


349 0 10cm 1:4

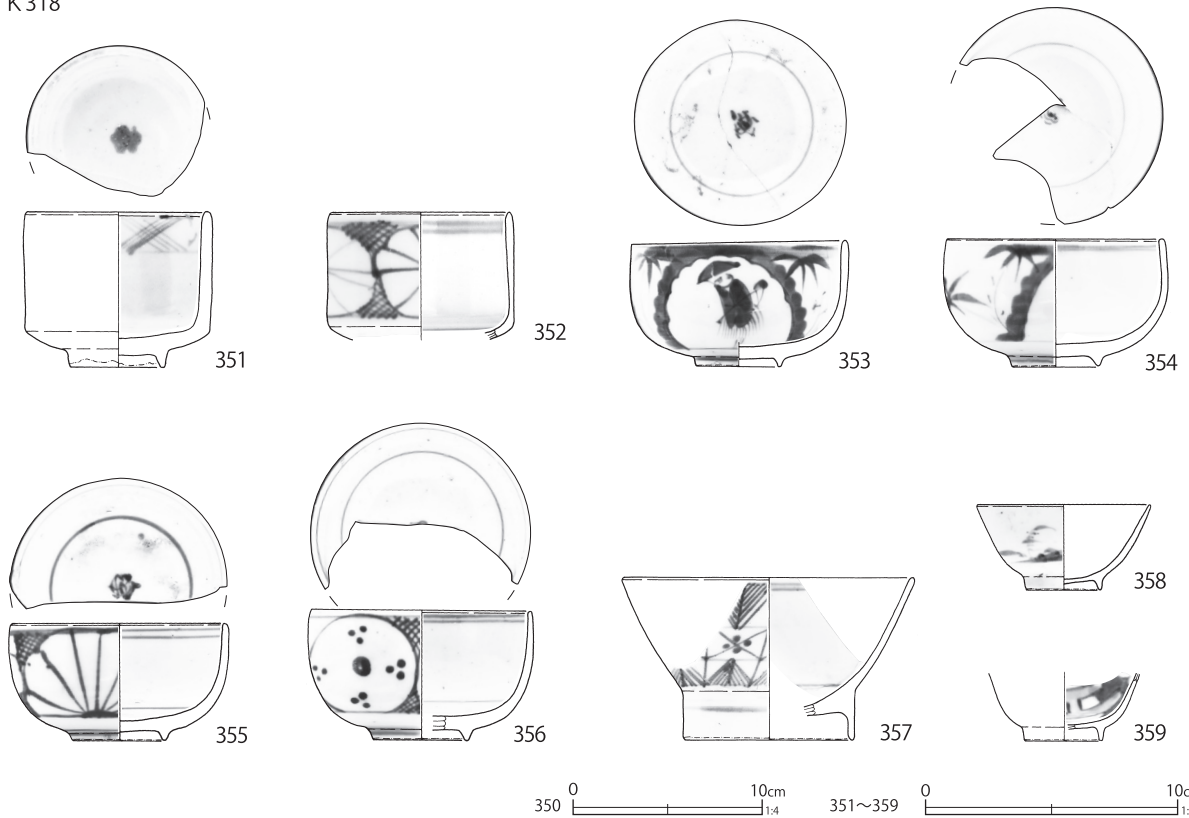
337~348 0 10cm 1:3

第 233 图 区画 AE 土壙出土遺物 (45)

S K 307



S K 318



第 234 図 区画 AE 土壌出土遺物 (46)

である。高台高が高い蛇ノ目凹形高台で、高台内に墨書「畚」がみえる。磁器の釘書資料が多い屋号で、北二丁目陣屋跡（埼玉文 2020a）、本陣跡（埼玉文 2020b）、第 7 地点（埼玉文 2019d）で確認されており、宿の広範囲に分布する。

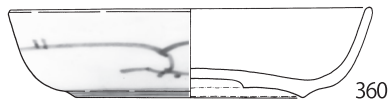
第 202 図 85 は大堀相馬系陶器の坏である。内面に走馬文の鉄絵がみられる。

87 は陶器の灰釉すず徳利で、外面に酸化コバ

ルトの呉須文字で「高瀬屋」、背面には屋号「彳」がみえる。『絵図』の「小賣酒屋 / 権八」、『営業便覧』の「旅館 / 高瀬屋 / 高瀬蔵之介」と考えられる。位置は第 9 地点の「青物屋 / 庄次郎」の日光道中を挟んだ対面である。

第 205 図 101 は瓦質土器の竈である。底抜けで、外面に櫛描き文様が施文される。左側面に小さな窓がつき、栗橋宿で出土するこの形状の竈では極

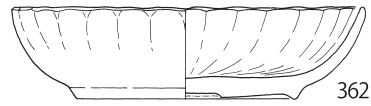
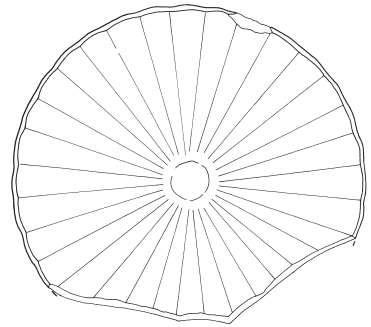
S K 318



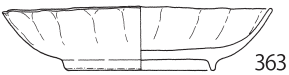
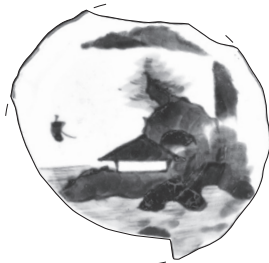
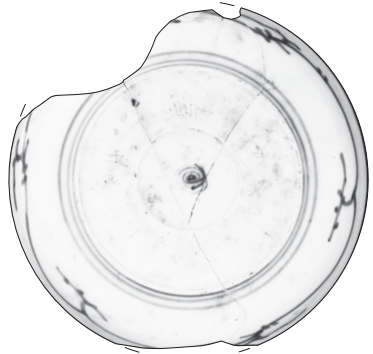
360



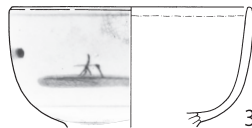
361



362



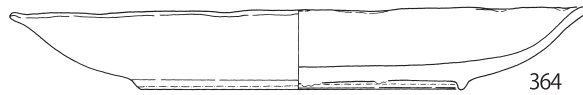
363



365



366



364



S K 329



367



第 235 図 区画 AE 土壙出土遺物 (47)

第52表 区画AE土壌出土遺物観察表(1)(第189~235図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	—	2.8	11.5	—	100	良好	白	SK60	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 内面焼継印(赤) 2 最大径13.2cm	73-13
2	磁器	蓋	—	2.6	5.0	—	100	良好	緑灰	SK60	瀬戸美濃系 内外面施釉 胎土酸化クロム練り込み 内面刻印「龍山」最大径6.9cm	73-14
3	土師質土器	焙烙	37.6	3.6	37.1	AFHI	25	普通	にぶい橙	SK60	砂目底・圧痕 底部周縁煤付着 内耳1遺存	
4	瓦質土器	竈鏝	(29.6)	2.9	(32.2)	AK	20	普通	にぶい黄橙	SK60	ほぼ酸化焰焼成	
5	瓦質土器	行火	縦25.6 横25.6 高さ25.1			AEHI	70	普通	にぶい橙	SK60	江戸在地系 板作り成形 外面ミガキ 燻す 焼成前穿孔2あり 窓3面(左右円形・背面扇形)	
6	土師質土器	目皿	10.9	1.3	9.4	ADEGHI	100	普通	にぶい黄橙	SK60	三河産 下面砂目	
7	土師質土器	練炭おこし	11.2	10.3	10.3	K	90	普通	浅黄橙	SK60	板作り成形 内面・口唇・底部被熱	
8	瓦質土器	植木鉢	12.1	6.6	7.3	AHIK	70	普通	灰	SK60	底部糸切痕(左) 燻す	
9	瓦質土器	植木鉢	13.8	[8.2]	—	CFH	55	普通	淡黄	SK60	ほぼ酸化焰焼成	
10	陶器	植木鉢	(17.0)	[7.8]	—	I	10	良好	淡黄	SK60	土器質 型成形	
11	陶器	鍋	(18.2)	8.7	10.4	IK	45	普通	にぶい橙	SK70	内外面施釉 受口部白化粧 露胎部煤付着 刻印	75-7
12	陶器	甕	(24.2)	26.3	18.9	EIK	45	良好	明褐灰	SK70	笠間系 内外面柿釉 体部黒釉流し掛け 底部白化粧 内面目跡4遺存	
13	陶器	播鉢	(32.8)	15.3	16.6	IK	40	普通	明褐灰	SK70	益子・笠間系 内面上位・外面鉄釉 内面播目	
14	土師質土器	焜炉	(26.4)	[8.6]	—	ADEHK	15	普通	橙	SK70	三河産カ 外面陽刻状施文・黒色付着物 内面下位煤付着	
15	瓦質土器	竈	28.7	28.0	32.2	CIK	85	普通	赤褐	SK70	ほぼ酸化焰焼成 外面櫛状施文 背面焼成前穿孔2あり 内面上位煤付着	
16	瓦質土器	竈鏝	(28.4)	4.0	(32.0)	ACIK	30	普通	明黄褐	SK70	燻す 口唇部刻印「〇[]」被熱・煤付着	
17	瓦質土器	竈鏝	29.8	3.1	32.0	CI	80	普通	にぶい黄橙	SK70	胎土中心部黒褐色 燻す 口唇部刻印「〇〇〇」煤付着	
18	瓦質土器	器台	(29.4)	14.0	(25.0)	ACHIK	40	普通	にぶい橙	SK70	ほぼ酸化焰焼成 被熱 外面下位・内面煤付着 窓は推定復元	
19	瓦質土器	植木鉢	(14.7)	10.1	9.7	ACI	50	普通	灰	SK70	底部ヘラナデ・焼成前穿孔 燻す	
20	施釉土器	羽釜	21.6	[13.7]	—	AEHI	60	普通	にぶい橙	SK70	外面上位・内面施釉 露胎部煤付着	
21	磁器	坏	5.7	3.5	2.5	—	95	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 高台内刻印「円山」	74-2
22	磁器	坏台	(4.7)	6.9	6.2	—	40	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 体部透彫り 内外面施釉 外面染付 口紅煤付着	68-2
23	磁器	筆筒	4.7	[6.2]	—	—	30	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 板作り成形 透彫り 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
24	土師質土器	焙烙	(36.4)	3.6	(36.2)	HI	30	普通	にぶい橙	SK80	底部シワ状痕 内底面円周状のナデ・中央ランダムなナデ	
25	土師質土器	器台	26.3	8.2	19.5	ACHIK	95	普通	橙	SK80	内面突起3 焼成前穿孔6 内面煤付着	
26	瓦質土器	火鉢	18.0	8.4	17.5	CK	95	普通	灰白	SK80	底部ヘラナデ 体部・口唇部ミガキ 燻す	
27	瓦質土器	植木鉢	25.5	17.3	16.6	AK	70	普通	灰白	SK80	底部ヘラナデ 体部鑄 燻す 高台挟り3	
28	瓦質土器	植木鉢	(22.0)	14.2	(16.3)	CHIK	40	普通	褐灰	SK80	底部ムシロ状圧痕 ほぼ酸化焰焼成	
29	瓦質土器	植木鉢	(13.4)	10.0	8.7	AIK	65	普通	灰白	SK80	底部糸切痕(左)・摩耗 燻す	
30	土師質土器	焜炉	22.4	21.5	21.8	AEHK	80	普通	橙	SK84	三河産 板作り成形 外面ミガキ 窓に刻印 中筒上位被熱(白色化) 上面煤付着	
31	土師質土器	練炭おこし	11.4	10.9	10.8	AIK	65	普通	灰白	SK84	被熱 内底面剥落	
32	土師質土器	練炭おこし	8.4	9.6	8.6	CEHIK	100	普通	橙	SK84	底部糸切後ケズリ	
33	陶器	甕	11.0	12.5	8.5	EIK	60	良好	褐灰	SK87	笠間系 内面鉄釉 外面二彩釉(白・緑) 外面上位鉄釉流し掛け 底部白化粧	
34	瓦質土器	竈鏝	—	3.2	—	AIK	5	普通	灰白	SK87	口唇部刻印「〇〇〇[]」被熱(黒化)・煤付着	
35	土師質土器	練炭おこし	9.2	8.8	9.2	A	80	普通	にぶい橙	SK87	底部糸切後ケズリ 口唇部・内面被熱(白色化・剥落)	
36	瓦質土器	植木鉢	(30.8)	20.3	24.4	CIK	60	普通	褐灰	SK87	底部ムシロ状圧痕・焼成前穿孔3 内底面渦巻状のナデ 燻す	
37	陶器	碗	8.3	5.5	3.2	K	95	普通	灰白	SK88	京都信楽系 内外面施釉 外面刻書	74-3
38	陶器	甕	(14.2)	16.0	11.4	EIK	50	普通	にぶい橙	SK88	笠間系 底部白化粧 内外面柿釉	68-2
39	土師質土器	焜炉	—	[9.6]	—	ADEHK	5	普通	にぶい黄橙	SK88	三河産 窓部 刻印 内面黒化	74-4
40	磁器	土瓶	5.2	6.6	6.6	—	80	普通	白	SK94	瀬戸美濃系 外面施釉 底部刻印「新案登録/伊村製陶所/瀬戸市」	74-10
41	土師質土器	焙烙	20.5	3.9	17.2	ACHIK	75	普通	にぶい赤褐	SK94	底部ヘラナデ 被熱(一部黒化)	
42	陶器	急須	5.8	6.8	4.4	—	95	良好	赤灰	SK96	萬古系 注口部布目痕 体部ヘラ書き「栗橋/舟戸/和洋酒醬油味噌」・刻印「陶楽」	74-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
43	土師質土器	焙烙	(35.0)	4.0	(34.5)	AHI	60	普通	橙	SK96	底部シワ状痕 内面同心円状のナデ・中央ランダムなナデ	
44	土師質土器	練炭おこし	8.6	[4.3]	8.0	AK	50	普通	浅黄橙	SK96	底部回転ケズリ 口縁部煤付着	
45	土師質土器	植木鉢	11.8	10.7	7.4	AHIK	75	普通	橙	SK96	底部ヘラナデ	
46	磁器	坏	4.5	4.5	2.4	—	100	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付 外面上絵付(赤・金・黒・白・緑)	
47	磁器	鉢	20.8	7.7	10.2	—	80	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付・上絵付(赤・緑・黄・青・黒)	
48	陶器	煮蘭鍋	18.8	10.9	15.0	HIK	80	普通	にぶい橙	SK97	内面・口縁部白釉 胎土黒色粒子多量 底部二次穿孔1あり	
49	硬質陶器	洋皿	22.8	2.5	12.1	—	85	普通	白	SK98	国産 内外面施釉 内面青色釉下彩 高台内銘鑑(緑)	74-13
50	陶器	水甕	—	[2.9]	(21.0)	EK	5	普通	灰白	SK98	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡1遺存 高台内墨書	74-12
51	土師質土器	練炭おこし	10.8	12.1	11.2	AHIK	95	良好	明赤褐	SK98	底部静止糸切後ヘラナデ 把手内面布目痕 内面被熱	
52	土師質土器	植木鉢	(12.0)	10.6	7.5	ACHIK	60	普通	橙	SK98	底部ヘラナデ	
53	瓦質土器	竈罏	(30.0)	3.9	(33.0)	ACHIK	30	普通	にぶい褐	SK99	燻す 口唇部煤付着	
54	瓦質土器	植木鉢	15.1	10.8	10.5	CHIK	60	普通	明褐灰	SK99	底部ヘラナデ	
55	陶器	灯火具	4.4	5.3	4.8	K	90	普通	灰白	SK102	底部糸切痕(右) 内外面施釉 最大径8.0cm	
56	陶器	徳利	(4.0)	26.7	(9.5)	K	45	良好	灰白	SK102	内面施釉 外面灰釉・釉下彩(緑) 文字「□□」	
57	陶器	衛生陶器	縦[23.9] 横[16.2]			DEK	5	良好	灰白	SK102	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面白・青緑釉流し掛け SK103と接合 SK110に同一個体破片	
58	瓦質土器	竈罏	(28.6)	3.0	(30.0)	CI	35	普通	橙	SK102	口唇部刻印「○」被熱・煤付着	
59	磁器	皿	11.4	3.9	6.5	—	100	普通	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺絵染付 高台内墨書	
60	磁器	鉢	17.1	6.5	6.8	—	95	普通	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 内面釉下彩(緑) 焼継痕あり 高台内焼継印(透明)	74-16
61	磁器	蓋	—	2.7	6.3	—	100	普通	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付 62の蓋	
62	磁器	急須	6.8	7.4	5.6	—	95	良好	白	SK104	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・墨書「くり中/大つか/□□」	76-10
63	陶器	徳利	—	[17.5]	7.9	IK	80	普通	灰白	SK104	外面上位トビガンナ状施文 頸部鉄釉 体部灰釉 底部墨書「大塚」	74-17
64	陶器	播鉢	—	[4.8]	(15.0)	IK	5	普通	灰白	SK104	益子系 内外面柿釉 内面播目(17条/単位) 底部墨書	
65	瓦質土器	植木鉢	12.0	9.5	8.2	CHIK	40	普通	灰白	SK104	底部回転糸切(左)の途中で離し糸切 燻す	
66	瓦質土器	植木鉢	11.0	6.1	6.9	CHIK	60	普通	灰褐	SK104	底部糸切痕(左)・摩耗 燻す	
67	磁器	碗	8.7	5.4	3.5	—	60	普通	白	SK106	肥前系 内外面施釉・染付 内面・破断面に紅付着	68-3
68	磁器	皿	12.1	2.4	6.1	—	90	良好	白	SK106	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文	
69	磁器	皿	(9.6)	2.4	5.2	—	45	良好	白	SK106	肥前系 内外面施釉 内面染付	
70	陶器	坏	—	[3.4]	(3.0)	K	10	良好	灰白	SK106	胎土磁質 胎土凹ます 内外面灰釉	
71	陶器	急須	長[4.2] 高さ2.7			—	5	良好	灰白	SK106	京都系 把手 白色胎土 刻印「音羽/□」	74-18
72	陶器	蓋	—	2.4	6.4	K	80	普通	灰白	SK106	ツマミ型成形 上面灰釉・盛絵(白・緑)	
73	陶器	植木鉢	(17.6)	16.7	10.6	EIK	60	良好	灰白	SK107	瀬戸美濃系 内面上位・外面灰釉 高台内墨書	74-19
74	土師質土器	焙烙	18.0	3.6	18.3	CHIK	95	普通	にぶい橙	SK107	底部ムシロ状圧痕 体部黒化	
75	瓦質土器	火鉢	16.6	8.5	13.2	CHIK	70	普通	淡橙	SK107	口縁部ミガキ 体部トビガンナ状施文をナデ消し やや酸化焙焼成 胎土中心灰色	
76	瓦質土器	十能	長軸28.5 短軸12.2 高さ3.7			CI	60	普通	黒	SK107	下面シワ状痕 被熱(黒化) 下面緑青付着	
77	土師質土器	目皿	10.5	1.7	9.4	CIK	95	普通	灰白	SK107	下面砂目 体部下位ケズリ 上面被熱(白色化)	
78	磁器	坏	6.1	3.0	2.3	—	95	良好	白	SK108	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青・赤)	76-17
79	磁器	皿	14.5	4.6	8.6	—	40	良好	白	SK108	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 高台内墨書「尙」	
80	磁器	蓋	(4.8)	2.6	(9.0)	—	20	良好	白	SK108	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「[]屋」	68-4
81	陶器	徳利	4.0	27.7	8.6	IK	70	良好	灰	SK108	外面灰釉 頸部鉄釉流し掛け	
82	土師質土器	焙烙	16.0	[5.0]	—	CHI	50	普通	にぶい橙	SK108	底部ケズリ 内外面黒化	
83	瓦質土器	焙烙	(34.2)	2.8	(34.4)	CI	20	普通	灰白	SK108	底部シワ状痕 体部・内面黒化	
84	磁器	香炉	8.6	6.3	4.6	—	95	普通	白	SK109	瀬戸美濃系 外面施釉・色絵(赤・緑) 底部渦巻状のケズリ・墨書	
85	陶器	坏	—	[2.3]	2.7	K	20	良好	灰白	SK109	大堀相馬系 内外面灰釉 内面鉄絵	
86	陶器	土瓶	3.8	[7.8]	—	K	5	良好	褐灰	SK109	外面緑褐色系釉	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
87	陶器	德利	—	[21.7]	8.0	IK	90	普通	灰	SK109	外面灰釉・呉須文字(酸化コバルト)「高瀬屋」「今」	75-1
88	陶器	急須	(6.6)	[4.0]	—	K	30	良好	灰白	SK109	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 体部走馬文貼付・凹ます 内外面施釉 接点のない2片から復元	
89	陶器	蓋	—	[1.1]	(6.0)	—	30	普通	灰褐	SK109	萬古形 型成形 胎土炆器質 内外面布目痕 上面漆状 塗布物で文字「吉」	
90	陶器	蓋	—	2.3	4.4	—	100	普通	暗赤灰	SK109	萬古系 胎土炆器質 ツマミ端部施釉 上面イッチン文 字「今」/「商店」最大径5.7cm	75-6
91	陶器	植木鉢	18.5	12.8	10.8	IK	60	良好	灰白	SK109	内外面胎釉・白釉流し掛け 高台挟り3 高台内墨書	
92	土師質土器	焜炉	19.5	22.7	22.2	AIK	90	普通	にぶい橙	SK109	三河産 板作り成形 体部ミガキ 窓部刻印「第十七号 /新川名[産]/株式会社/製造[]章」高台挟り4 底部墨書	75-2
93	瓦質土器	竈鏝	(28.6)	3.0	(30.2)	CIK	40	普通	灰褐	SK109	燻す	
94	瓦質土器	竈	(30.0)	[7.2]	—	CIK	10	普通	黒	SK109	体部櫛歯状施文 燻す 口唇部刻印「○○○」	
95	瓦質土器	植木鉢	(16.2)	10.5	(10.0)	CHIK	70	普通	灰黄褐	SK109	底部静止糸切後ナデ成形・粘土貼り付け(大部分剥 落) 燻す	
96	瓦質土器	植木鉢	(15.3)	8.3	(8.0)	CHIK	40	普通	橙	SK109	底部糸切痕(左) 燻す	
97	瓦質土器	植木鉢	(12.2)	7.9	7.4	IK	60	普通	褐灰	SK109	底部糸切痕(左) 燻す	
98	磁器	碗	—	[1.7]	3.6	—	5	良好	白	SK110	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
99	陶器	蓋	—	2.3	(6.0)	K	25	良好	灰白	SK110	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 上面凹ます 内外面施釉	
100	陶器	播鉢	32.6	14.9	17.0	IK	95	良好	褐灰	SK110	笠間系 内面上位・外面柿釉 内面播目 底部墨書	
101	瓦質土器	竈	30.0	27.0	(32.2)	HIK	60	普通	明褐灰	SK110	外面櫛歯状施文 左側面に小窓あり(推定復元) 燻す 内面上位煤付着	
102	瓦質土器	火消壺	21.3	17.9	17.4	CHI	75	普通	明灰褐	SK110	底部板状圧痕 体部ミガキ・スタンプ施文 燻す 内面 煤付着	
103	土師質土器	焜炉	(23.7)	22.3	22.6	ADEHI	40	普通	にぶい橙	SK110	三河産 板作り成形 体部ミガキ 扉付 窓部刻印 上面 煤付着	
104	瓦質土器	植木鉢	13.8	8.6	8.6	CIK	70	普通	灰白	SK110	底部糸切痕をナデ消し 燻す	
105	土師質土器	練炭おこし	(10.8)	9.5	(10.0)	AEHI	30	普通	浅黄橙	SK112	底部糸切痕 把手接合痕をナデ消し 口唇部被熱(赤 色化)	
106	磁器	急須	9.1	8.4	6.9	—	75	良好	白	SK113	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 底部墨書「ワ」	75-8
107	陶器	灯明皿	8.6	2.2	3.5	K	80	良好	灰白	SK113	内外面灰釉	
108	陶器	急須	6.3	5.3	4.8	—	90	良好	灰赤	SK113	萬古系 胎土炆器質 注口端部・口唇部施釉 体部墨書 (朱)「[]真中商店」内面煤付着	
109	陶器	衛生陶器	—	[17.6]	—	EIK	10	良好	灰白	SK113	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄釉流し掛け 内外面上 位青緑・白釉流し掛け	
110	瓦質土器	蓋	—	4.6	25.8	CIK	80	普通	灰白	SK113	上面板状圧痕 燻す	
111	瓦質土器	火消壺	21.6	19.2	21.4	IK	90	普通	灰白	SK113	底部シワ状痕 燻す	
112	瓦質土器	火鉢	(17.6)	[10.4]	(15.2)	ADEH	40	普通	灰黄褐	SK113	外面ミガキ 板状脚2遺存 燻す 剥落顕著	
113	土師質土器	焜炉	—	[9.2]	—	ADEHK	5	普通	灰黄	SK113	三河産 窓部 刻印	75-3
114	土師質土器	焜炉	—	[9.4]	—	ADEIK	5	普通	にぶい橙	SK113	三河産 窓部 刻印	75-4
115	土師質土器	焙烙	32.7	[4.5]	—	CHIK	60	普通	にぶい橙	SK113	砂目底 内底面同心円状のナデ 胎土中心灰白色 底部 被熱(黒化)	
116	瓦質土器	植木鉢	19.6	16.7	14.8	CIK	70	普通	灰白	SK113	底部同心円状のナデ・挟り3 口縁端部ミガキ状光沢 体部スタンプ文 胎土中心黒色 燻す	
117	瓦質土器	植木鉢	28.1	18.0	19.2	CHIK	60	普通	明褐灰	SK113	底部ヘラナデ・粘土付着 燻す	
118	瓦質土器	植木鉢	(22.8)	14.4	16.4	CIK	60	普通	黒褐	SK113	底部ムシロ状圧痕 燻す	
119	瓦質土器	植木鉢	13.4	9.2	7.9	CHIK	60	普通	褐灰	SK113	底部糸切痕(左) 燻す	
120	磁器	坏	7.0	2.7	2.8	—	70	普通	白	SK115	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青・金)	
121	磁器	皿	14.5	4.1	8.6	—	85	普通	白	SK115	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 焼継痕あり 高台 内焼継印(赤)	
122	磁器	皿	20.0	3.4	10.5	—	80	普通	白	SK115	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡3・焼 継印(赤) 焼継痕あり	
123	陶器	猪口	7.0	5.8	3.8	K	90	普通	白	SK115	内外面施釉 外面呉須文字(酸化コバルト)	75-9
124	陶器	灯明皿	10.2	2.2	3.6	IK	95	普通	灰黄	SK115	内外面施釉	
125	陶器	灯明皿	(10.1)	2.3	3.5	IK	90	普通	灰	SK115	外面上位・内面施釉	
126	陶器	灯火具	3.6	5.5	4.9	K	90	良好	灰白	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰釉 最大径8.4cm	
127	陶器	灯火具	4.3	5.5	4.2	K	95	普通	灰白	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰釉 最大径8.4cm	
128	陶器	灯火具	3.6	5.7	4.5	I	100	普通	灰褐	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰釉 最大径8.1cm	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
129	陶器	灯火具	4.5	5.4	4.7	K	95	普通	にぶい 黄橙	SK115	底部糸切痕(右) 内外面灰釉 最大径 8.0 cm	
130	陶器	徳利	—	[22.5]	10.0	EIK	80	普通	灰白	SK115	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部二次穿孔2あり	
131	陶器	急須	(5.6)	6.3	4.4	—	30	普通	褐灰	SK115	萬古系 胎土炆器質 把手透彫り 口唇部・把手端部施釉・金彩 外面イッチン文字「栗橋仲町/池谷商店/[]商」	
132	陶器	急須	(5.6)	6.4	4.9	—	80	普通	暗赤灰	SK115	萬古系 胎土炆器質 口唇部・把手・注口端部施釉 体部刻印「[]竹内」	
133	陶器	急須	(6.0)	5.3	4.4	K	30	良好	灰白	SK115	大塚相馬系 胎土磁質 内面施釉 外面上位灰釉・下位鮫肌釉	
134	陶器	播鉢	—	[3.7]	12.5	IK	10	普通	灰白	SK115	益子系 内外面鉄釉 内面播目(17条/単位) 底部墨痕	
135	陶器	播鉢	28.7	13.9	14.0	EHIK	95	普通	浅黄橙	SK115	益子系 内外面鉄釉 内面播目(15条/単位) 底部墨書	
136	陶器	植木鉢	16.0	15.2	7.4	EIK	45	良好	灰褐	SK115	松岡系 内面上位・外面鉄釉 接点のない3片から復元	
137	瓦質土器	火鉢	22.8	8.7	24.5	CIK	30	普通	明褐灰	SK115	底部シワ状痕 外面ヘラナデ 体部二次穿孔1あり	
138	瓦質土器	蓋	—	3.9	27.6	CHI	50	普通	にぶい 褐	SK115	外面スタンブ施文後ミガキ 燻す 胎土中心黒褐色 上面二次穿孔	
139	瓦質土器	焙烙	(35.0)	[4.2]	(36.0)	HIK	20	普通	にぶい 橙	SK115	砂目底 内面円周状のナデ 底部・内底面黒化	
140	土師質土器	目皿	10.4	1.3	8.8	AEHIK	80	普通	橙	SK115	上面被熱(白色化・剥落)	
141	瓦質土器	植木鉢	(17.0)	11.0	11.6	AIK	40	普通	灰白	SK115	底部糸切痕 燻す	
142	磁器	碗	—	[4.9]	5.2	—	30	普通	白	SK116	肥前系 内外面施釉・染付	
143	磁器	碗	—	[4.2]	—	—	5	普通	灰白	SK116	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑)	
144	磁器	碗	(7.0)	4.8	2.7	—	60	良好	白	SK116	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
145	磁器	碗	(10.0)	[4.8]	—	—	10	良好	白	SK117	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「吉[]」	
146	陶器	碗	—	[2.7]	—	IK	5	良好	灰白	SK117	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面灰・鉄釉上下掛け分け	
147	陶器	土瓶	(8.0)	[11.3]	—	EIK	50	良好	灰黄褐	SK117	松岡系 内面下位鉄化粧 外面鉄釉(海鼠釉流し掛け)	68-5
148	陶器	播鉢	29.4	12.8	8.8	IK	75	普通	灰黄	SK118	益子系 内外面柿釉 内面播目(20条/単位) 底部二次穿孔 高台外周に鉄製品巻付	
149	瓦質土器	焙烙	(36.0)	3.6	(34.3)	CHIK	40	普通	灰白	SK118	底部シワ状痕 内面円周状のナデ 被熱・煤付着	
150	土師質土器	焜炉	19.0	20.2	19.8	ADEH	90	普通	橙	SK118	三河産 板作り成形 外面ミガキ 扉付 窓部刻印 内面上位被熱(白色化) 上面煤付着	75-5
151	土師質土器	目皿	8.7	1.4	6.6	AHIK	90	普通	にぶい 橙	SK118	上面被熱(白色化・剥落)	
152	土師質土器	目皿	8.0	1.3	5.1	HIK	100	普通	にぶい 橙	SK118	下面シワ状痕 上面ヘラナデ・被熱(白色化)	
153	土師質土器	目皿	(10.0)	1.6	(7.0)	CIK	30	普通	灰白	SK118	底部ヘラナデ 内面被熱(白色化・剥落)	
154	瓦質土器	植木鉢	(24.0)	13.9	(16.7)	CHI	30	普通	にぶい 黄橙	SK118	底部ヘラナデ 燻す 胎土中心灰色・小礫含む	
155	瓦質土器	植木鉢	16.5	9.8	10.3	CI	80	普通	灰	SK118	底部静止糸切痕をナデ消し 燻す	
156	かわらけ	小皿	9.9	1.8	5.4	AEI	95	普通	灰白	SK118	底部・体部回転ケズリ後ミガキ 内底面型押陰刻文	
157	磁器	坏	(6.0)	5.3	2.9	—	50	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
158	磁器	坏	(7.2)	5.5	3.3	—	60	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅 高台内刻印「カワラ」 SK118 と接合	75-12
159	磁器	猪口	7.4	5.3	(5.6)	—	25	良好	白	SK119	肥前系 内外面施釉・染付文字「吉[]」	
160	磁器	急須	5.8	6.8	5.3	—	95	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	75-14
161	磁器	香炉	10.1	8.6	10.3	—	80	良好	白	SK119	瀬戸美濃系 外面施釉・銅版転写染付 高台内墨痕	
162	陶器	坏	5.2	3.5	2.8	K	60	普通	浅黄橙	SK119	内外面鉛釉	
163	陶器	徳利	2.9	21.4	(8.2)	EIK	45	良好	灰白	SK119	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部下位・底部釉拭き取り	
164	陶器	土瓶	—	[3.0]	6.8	K	5	普通	灰白	SK119	大塚相馬系カ 外面糠白釉・墨書	75-15
165	瓦質土器	火鉢	16.2	9.2	11.4	CHIK	70	普通	褐灰	SK119	口縁部ミガキ 体部トビガンナ状施文 燻す 被熱	
166	土師質土器	目皿	9.2	1.9	8.2	CIK	60	普通	にぶい 橙	SK119	底部糸切痕(左) 内面被熱(白色化・剥落)	
167	瓦質土器	器台	28.6	15.4	14.0	IK	40	普通	灰白	SK119	内面中位被熱(白色化)	
168	土師質土器	器台	(24.0)	8.7	(17.0)	CHIK	35	普通	橙	SK119	体部中位ケズリ 内面上位・口唇部煤付着	
169	土師質土器	焜炉	—	[5.7]	—	ADEHK	5	普通	にぶい 橙	SK119	三河産 窓部 刻印	75-10
170	土師質土器	焜炉	(18.2)	20.0	19.4	ADEH	85	普通	橙	SK119	三河産 板作り成形 外面ミガキ 五徳部欠失・摩耗 扉付 窓部刻印	75-13
171	土師質土器	焜炉	(20.4)	20.2	18.8	ADEHIK	90	普通	にぶい 橙	SK119	三河産 板作り成形 高台挟り4 窓部刻印「新川名産/株式会社/製造口章」	75-11

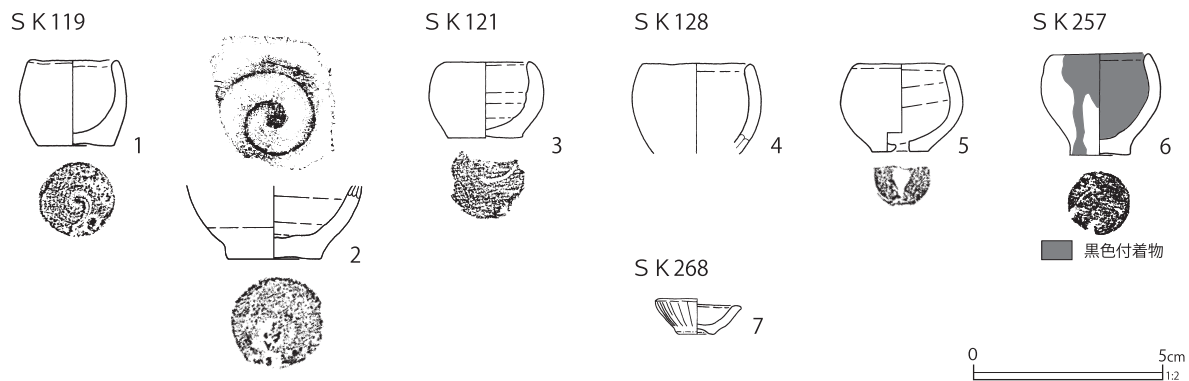
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
172	土師質土器	焙烙	36.0	3.5	36.0	CHIK	95	普通	にぶい橙	SK119	底部シワ状痕 内底面渦巻状のナデ・コゲ跡あり 体部・底部周縁に煤付着	75-16	
173	瓦質土器	竈罏	34.6	4.3	36.4	HI	90	普通	にぶい橙	SK119	燻す 口唇部刻印「○○○○」上・内面煤付着		
174	土師質土器	甕	(45.0)	[20.5]	—	ADE	20	普通	にぶい橙	SK119	真壁系 外面上位スタンプ施文		
175	瓦質土器	植木鉢	(14.4)	9.3	8.5	CEIK	40	普通	灰白	SK119	燻す		
176	磁器	蓮華	長軸 [7.2] 短軸 4.5 高さ [2.6]			—	70	良好	白	SK120	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面銅版転写染付 底部墨書		
177	陶器	半胴甕	20.7	17.8	12.4	EIK	75	良好	灰白	SK120	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 内面目跡3 口唇部目跡4 遺存 高台内刻印カ		75-17
178	陶器	湯たんぼ	長軸 24.7 短軸 13.4 高さ 11.7			IK	90	良好	黄灰	SK120	笠間系 内外面鉄釉 左端面白化粧		
179	陶器	水注	8.3	15.1	8.1	—	95	普通	にぶい赤褐	SK120	常滑焼 朱泥 胎土炆器質 体部ヘラ書き 高台内刻印「雪香造製」		75-18
180	土師質土器	練炭おこし	11.2	12.7	11.4	AEI	80	普通	橙	SK120	底部静止糸切痕 被熱 (内外面白色化・内面剥落)		
181	磁器	蓋	5.2	3.9	11.8	—	50	良好	白	SK121	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
182	磁器	皿	14.7	4.6	8.6	—	85	良好	白	SK121	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 高台内墨書「尙」		76-1
183	磁器	蓋物	10.5	6.4	10.0	—	80	普通	白	SK121	瀬戸美濃系 内面上位・外面施釉 外面・口唇部銅版転写染付 底部墨痕		
184	陶器	鉢	長軸 [11.1] 短軸 8.0 高さ 6.5			—	95	良好	白	SK121	肥前系 型成形 蛸手捻り貼付 内外面施釉 (外面鉄釉 薄掛け・蛸瑠璃釉) 口唇部酸化コバルト染付		
185	磁器	徳利	(3.4)	26.4	7.3	—	70	普通	白	SK121	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付		
186	磁器	植木鉢	11.4	7.0	6.6	—	90	良好	白	SK121	瀬戸美濃系 内面上位・外面施釉 外面・口唇部酸化コバルト染付 底部墨痕		
187	陶器	急須	5.9	6.4	4.7	—	85	良好	褐灰	SK121	萬古系 胎土炆器質 底部布目痕・墨書 注口端部・口唇部施釉 外面絵付 (白・金・赤)		76-2
188	陶器	急須	5.1	4.6	4.3	—	90	良好	褐灰	SK121	萬古系 胎土炆器質 底部布目痕・墨書 注口端部・口唇部施釉 外面絵付 (釉・金・白)		
189	陶器	蓋	—	2.3	5.1	—	95	良好	赤灰	SK121	萬古系 胎土炆器質 ツマミ上下合二枚型成形・施釉 上面イッチン文字「尙」/「商店」最大径 5.9 cm	76-3	
190	陶器	土瓶	8.8	11.1	7.4	K	90	良好	灰白	SK121	底部白化粧 外面白化粧後施釉・釉下彩 (緑・黒・茶)		
191	瓦質土器	焙烙	—	5.1	—	CHI	5	普通	明褐灰	SK121	砂目底		
192	土師質土器	焙烙	17.2	5.0	9.3	ACHIK	75	普通	にぶい橙	SK121	底部ケズリ 体部下位・内面煤付着		
193	土師質土器	焜炉	—	[9.0]	—	ADEHK	5	普通	にぶい橙	SK121	三河産 窓部 刻印「三河名産/製造組合/吉田善二郎」	76-4	
194	土師質土器	風口	長さ 22.2 幅 12.5 高さ 7.1			CHIK	80	普通	明赤褐	SK121	砂目底 板作り成形 体部ヘラナデ 上面口縁部欠失・摩耗 (周囲被熱・白色化)		
195	瓦質土器	火鉢	—	[6.7]	22.0	CHIK	5	普通	にぶい赤褐	SK121	底部圧痕 脚部外面ミガキ 燻す		
196	瓦質土器	竈	26.8	25.5	23.2	ACHIK	80	普通	にぶい赤褐	SK121	底部圧痕 燻す 内面・口唇部煤付着		
197	瓦質土器	竈	(28.2)	[18.8]	—	I	20	普通	灰白	SK121	体部櫛歯状施文 (11条/単位) 燻す 口唇部ヘラ書き 内面煤付着		
198	瓦質土器	植木鉢	19.9	13.2	15.2	ACIK	70	普通	灰白	SK121	底部糸切痕をナデ消し 胎土中心部灰色		
199	かわらけ	小皿	(5.8)	0.9	2.0	AEHIK	55	普通	橙	SK121	外面シワ状痕・指頭痕 手づくね成形	68-6	
200	陶器	播鉢	(10.0)	1.5	(4.3)	—	20	良好	灰赤	SK125	備前系 胎土炆器質 内面播目 口唇部塗土状光沢	68-7	
201	瓦質土器	火鉢	長軸 25.9 短軸 23.5 高さ 10.1			CI	45	普通	灰白	SK125	底部シワ状痕 体部シワ状痕をナデ消し 胎土中心灰色 内底面煤付着 脚2遺存		
202	土師質土器	目皿	(10.0)	1.3	(9.6)	CIK	40	普通	灰黄	SK127	上面シワ状痕・被熱 (白色化)		
203	磁器	碗	6.2	5.2	3.1	—	40	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付		
204	磁器	碗	7.0	5.1	3.1	—	60	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内面施釉 外面瑠璃釉		
205	磁器	碗	6.5	5.1	3.3	—	90	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 被熱 (強)		
206	磁器	坏	(6.1)	3.0	(2.6)	—	40	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青)		
207	磁器	坏	(5.6)	2.8	2.6	—	30	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青)	76-5	
208	磁器	坏	(6.2)	3.0	2.3	—	50	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付 (青)		
209	磁器	坏	(7.0)	3.2	(2.8)	—	30	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
210	磁器	鉢	(15.3)	6.5	(9.2)	—	10	良好	白	SK128	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付		
211	磁器	水滴	長軸 9.0 短軸 6.8 高さ 2.6			—	85	普通	白	SK128	瀬戸美濃系 型成形 上面陽刻文 内底面・底部布目痕 外面施釉・染付		
212	陶器	坏	5.8	3.2	3.0	EK	60	良好	灰白	SK128	瀬戸美濃系 内外面灰釉		
213	陶器	坏	5.1	3.2	2.9	IK	90	良好	灰白	SK128	瀬戸美濃系 内外面灰釉		
214	陶器	豆甗	—	[2.8]	3.4	EIK	30	良好	灰白	SK128	底部糸切痕 (右) 内外面鉄釉		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
215	陶器	餌猪口	(5.2)	[2.8]	—	K	10	良好	灰白	SK128	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
216	かわらけ	小皿	(7.8)	[1.2]	—	EKM	65	普通	灰白	SK128	手づくね成形 外面指頭痕 白色胎土	
217	かわらけ	小皿	(7.4)	1.2	—	EKM	40	普通	浅黄橙	SK128	手づくね成形 外面指頭痕 器形歪む	
218	かわらけ	小皿	(7.7)	[1.2]	—	EKM	25	普通	灰白	SK128	手づくね成形 外面指頭痕 白色胎土	
219	瓦質土器	竈鏝	(26.0)	3.5	(28.0)	CIK	15	普通	灰黄	SK128	燻す 内面煤付着	
220	瓦質土器	仕切盤	29.1	[6.7]	23.4	AI	95	普通	灰白	SK128	底部ムシロ状圧痕 体部下位ケズリ 口縁部ミガキ 内外面指頭痕 燻す 胎土中心灰色 底部煤付着	
221	磁器	坏	—	2.3	—	—	5	良好	白	SK131	三田系 型成形 内面陰刻文 内外面青磁釉	
222	陶器	豆甕	7.4	6.0	4.2	IK	30	普通	灰白	SK132	底部糸切痕 内外面鉄釉	
223	陶器	急須	—	[5.0]	—	I	5	良好	赤褐	SK132	萬古系 型成形 胎土炆器質 外面陽・陰刻文 接点のない2片を合成	
224	磁器	碗	(8.2)	[4.4]	—	—	5	良好	白	SK135	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「[]屋」	68-9
225	磁器	碗	(9.4)	5.3	(3.8)	—	15	良好	白	SK135	瀬戸美濃系 内外面施釉 呉須散る	
226	磁器	皿	—	[1.9]	—	—	5	不良	灰白	SK135	肥前系 内外面施釉・色絵(赤・緑・黄) 内面染付	
227	陶器	灯明皿	7.6	1.7	3.1	—	95	普通	灰白	SK135	京都信楽系 内面施釉・ピン痕3 被熱 露胎部煤付着	
228	陶器	蓋	—	2.3	3.8	I	50	良好	灰黄褐	SK135	底部離し糸切痕 胎土極硬質 上面白釉流し掛け 最大径(7.2)cm	
229	瓦質土器	火鉢	(24.6)	[9.9]	—	CHIK	10	普通	褐灰	SK135	やや酸化焰焼成	
230	磁器	皿	(9.4)	[2.1]	(7.0)	—	45	普通	白	SK248	肥前系 内外面施釉・染付 染付文字「吉[]」	
231	磁器	香炉	10.4	6.0	4.0	—	100	良好	白	SK248	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 底部墨書	
232	陶器	坏	(7.0)	[3.7]	—	K	15	普通	灰黄褐	SK248	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 内外面施釉 体部下位凹ます 焼継痕あり 被熱(強)	
233	陶器	徳利	—	[18.1]	(8.2)	IK	55	普通	灰白	SK248	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部下位・底部釉拭き取り	
234	陶器	急須	5.5	6.8	4.7	—	100	普通	暗赤灰	SK248	萬古系 胎土炆器質 把手・口唇・注口部施釉・金彩 外面イッチン文字「栗橋町/篠山商店/陶器/漆器/銘茶/洋燈/板硝子」内面に煤厚く付着	
235	陶器	急須	6.0	6.0	5.5	I	90	良好	暗赤灰	SK248	萬古系 胎土炆器質 外面絵付 口唇・注口部施釉 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・墨書「吉田屋」	
236	陶器	蓋	—	2.0	5.2	—	100	良好	暗赤灰	SK248	萬古系 胎土炆器質 ツマミ上下合二枚型成形・端部施釉 上面イッチン文字「足利屋」「命」	
237	瓦質土器	風口	長さ22.8 幅12.7 残存高[2.9]			CIK	20	普通	黄橙	SK248	板作り成形 胎土中心灰色 被熱(一部橙色化)	
238	瓦質土器	風口	長さ[7.6] 高さ[8.4]			HIK	5	普通	黄灰	SK248	板作り成形 内面上位煤付着 237と同一個体カ	
239	瓦質土器	器台	30.4	14.9	(14.4)	HIK	45	普通	黄橙	SK248	外面上位に突起僅かに遺存 やや酸化焰焼成口縁部の胎土中心部灰色 内面中位被熱(白色化)	
240	瓦質土器	器台	24.0	8.3	18.2	ACHIK	50	普通	橙	SK248	やや酸化焰焼成 胎土中心灰色 突起剥落 内面上位煤付着	
241	磁器	紅皿	6.1	1.6	1.9	—	100	良好	白	SK249	瀬戸美濃系 型成形 体部陰刻文 高台内陽刻文 内外面施釉	
242	磁器	坏	(4.5)	1.6	(1.7)	—	45	普通	白	SK249	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
243	磁器	皿	(10.3)	2.8	5.8	—	70	良好	白	SK249	肥前系 内外面施釉・染付 高台内焼継印(透明) 被熱(弱)	
244	磁器	猪口	(5.5)	5.3	3.8	—	70	普通	白	SK249	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面・口唇部酸化コバルト染付「三河屋」	
245	磁器	徳利	1.6	5.2	2.4	—	100	普通	白	SK249	瀬戸美濃系 底部離し糸切痕 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
246	陶器	徳利	—	[14.8]	9.8	IK	70	良好	黄橙	SK249	外面トビガンナ状施文 外面施釉 底部二次穿孔	
247	土師質土器	焙烙	35.0	4.3	33.5	CHI	95	普通	橙	SK249	底部シワ状痕 内底面渦巻状のナデ 補修痕3対あり 体・底部煤付着	
248	瓦質土器	竈鏝	(36.0)	3.6	(34.8)	CHIK	70	普通	灰黄褐	SK249	胎土中心灰色 口唇部刻印「○○」被熱・煤付着	
249	瓦質土器	竈鏝	(38.0)	3.8	(36.0)	CIK	50	普通	灰	SK249	燻す 被熱・煤付着	
250	土器	埴塼	3.1	5.0	—	—	100	普通	褐灰	SK249	全面発泡・ガラス化	
251	土器	埴塼	3.0	5.2	—	—	100	普通	褐灰	SK249	全面ガラス化 外面銅付着 内面緑青付着	
252	土器	埴塼	3.2	4.8	—	—	95	普通	灰	SK249	全面ガラス化 内面緑青付着	
253	土器	埴塼	2.7	4.8	—	—	100	普通	灰	SK249	全面ガラス化 内面緑青付着	
254	土器	埴塼	2.9	[4.1]	—	EI	80	普通	褐灰	SK249	胎土に炭化物多量含む 全面ガラス化 内面緑青付着	
255	磁器	碗	7.6	6.4	(4.6)	—	95	普通	白	SK256	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(強)	
256	磁器	碗	(7.3)	5.3	(3.6)	—	45	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
257	磁器	碗	6.6	4.1	2.8	—	90	普通	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	77-8
258	磁器	坏	(6.4)	2.7	(2.8)	—	30	普通	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青・黄・黒)	
259	磁器	紅皿	6.0	1.7	2.4	—	100	普通	白	SK256	肥前系 型成形 外面陽刻文 外面上位・内面施釉	
260	磁器	皿	—	[1.3]	6.0	—	30	普通	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文・染付	
261	磁器	爛德利	—	[1.0]	(5.0)	—	5	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 内外面施釉 底部墨書「正」	
262	磁器	鉢	—	[4.8]	(7.4)	—	20	良好	白	SK256	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
263	磁器	水滴	縦4.4 高さ2.1	横4.4		—	70	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 型成形 上・側面施釉 上面陽刻文・染付 底部煤付着	
264	陶器	坏	(6.8)	3.4	(3.0)	K	35	良好	灰白	SK256	京都信楽系 胎土磁質 内外面灰釉 外面上絵付(赤・緑)「浅紅」	
265	陶器	灯明皿	8.1	1.5	3.2	HIK	95	良好	灰黄	SK256	京都信楽系 外面上位・内面施釉 内面ピン痕3あり 体部中位輪状重焼痕(径5.2cm)	
266	陶器	灯明皿	(10.8)	2.5	3.8	HK	40	良好	灰白	SK256	京都信楽系 胎土磁質 外面上位・内面施釉 内面ピン痕2遺存	
267	陶器	灯明皿	(9.8)	1.9	3.6	K	45	良好	灰白	SK256	京都信楽系 胎土磁質 内面施釉	
268	陶器	爛德利	—	[3.0]	6.5	IK	15	良好	灰白	SK256	京都信楽系 外面施釉 底部墨書「乙丑六[]口徳吉兵[衛]」	
269	陶器	土瓶	9.2	9.3	10.2	IK	80	良好	にぶい黄緑	SK256	底部糸切痕をナゲ消し 胎土炆器質 内外面火襷	
270	陶器	土瓶	—	[4.0]	—	K	5	普通	灰白	SK256	外面緑釉	
271	陶器	蓋	—	[2.4]	(13.0)	IK	10	良好	灰白	SK256	上面施釉・焼成前穿孔4遺存 把手1遺存 最大径(14.0)cm	
272	陶器	手焙り	—	[5.6]	—	EI	5	良好	灰白	SK256	瀬戸美濃系 内外面灰釉 窓遺存 背面焼成前穿孔1遺存	
273	瓦質土器	火消壺	21.5	20.8	(20.0)	CIK	60	普通	白	SK256	砂目底 燻す 胎土中心灰色 内面煤付着	
274	土師質土器	焙烙	(36.0)	[3.7]	(36.8)	CHI	10	普通	にぶい黄緑	SK256	底部シワ状痕 内底面・体部下位煤付着	
275	磁器	碗	9.4	5.8	3.3	—	90	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 内外面施釉・上絵付(赤・緑・白・黄)	
276	磁器	坏	—	[2.1]	2.4	—	45	良好	白	SK257	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付(青・金)	
277	磁器	紅皿	6.5	1.9	2.4	—	100	普通	白	SK257	肥前系 型成形 外面陽刻文 全面施釉	
278	磁器	德利	—	[6.9]	4.4	—	40	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 板作り成形 底部布目痕 外面陽刻文・施釉	
279	磁器	水注	(3.4)	[6.9]	(4.1)	—	40	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 上下合型成形 内外面施釉 外面染付 被熱(弱)	
280	磁器	水滴	縦7.0 高さ2.4	横[7.6]		—	50	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 上面陽刻文・染付 施釉(側一面露胎)	
281	陶器	水滴	縦6.1 高さ2.8	横8.0		—	85	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 上面陽刻文・染付 施釉(側一面露胎) 露胎部煤付着	
282	磁器	水滴	縦6.1 高さ2.9	横7.9		—	100	普通	白	SK257	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 上面陽刻文・染付 施釉(側一面露胎) 露胎部煤付着 被熱(弱)	
283	瓦質土器	十能	長軸25.5 高さ4.4	短軸15.1		CHIK	85	普通	褐灰	SK257	下・側面シワ状痕 燻す 胎土中心灰色	
284	瓦質土器	火鉢	縦[21.9] 高さ10.1	横22.9		CIK	40	普通	灰白	SK257	底部シワ状痕 燻す 胎土中心灰色	
285	瓦質土器	焙烙	38.9	4.7	35.3	CIK	90	普通	橙	SK257	砂目底 燻す 胎土中心黒色 内底面黒色斑状 底部一部煤付着 内耳欠失2	
286	磁器	碗	(7.2)	5.6	3.1	—	30	良好	白	SK265	肥前系 内外面施釉・染付 外面染付文字「[]屋」 SK266と接合	
287	磁器	坏	(6.0)	[2.3]	—	—	40	良好	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青・金・赤)	
288	磁器	坏	(6.6)	3.0	2.5	—	50	良好	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付(青)	
289	磁器	坏	(6.3)	4.3	(3.0)	—	45	普通	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
290	磁器	紅皿	5.9	1.5	3.0	—	85	普通	白	SK265	瀬戸美濃系 型成形 内面陰刻文 高台内陽刻文 外面上位・内面施釉	
291	磁器	土瓶	(6.2)	[4.8]	—	—	15	普通	白	SK265	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
292	陶器	灯火具	(2.8)	3.8	3.5	K	80	良好	灰白	SK265	京都信楽系 内外面施釉 底部輪状重焼痕 最大径5.7cm	
293	陶器	德利	—	[10.0]	—	IK	25	良好	浅黄橙	SK265	体部トビガンナ施文 外面下位灰釉 内面上位・頸部鉄釉 SK266と接合	
294	陶器	急須	(6.0)	[5.9]	—	K	25	良好	灰	SK265	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 体部凹ます 走馬文型成形 貼付 外面施釉・鉄絵	
295	土師質土器	植木鉢	(10.4)	6.2	(6.2)	AEHK	20	普通	にぶい橙	SK265	底部糸切痕	
296	磁器	碗	(8.5)	[3.1]	—	—	10	良好	白	SK266	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「[]屋」	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
297	磁器	皿	(9.9)	2.0	(7.2)	—	45	普通	白	SK266	肥前系 内外面施釉・染付 内面染付文字「田」「□田□」	
298	磁器	鉢	—	[5.7]	7.8	—	30	普通	白	SK266	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
299	磁器	水滴	縦6.8 高さ4.1	横7.0		—	85	良好	白	SK266	瀬戸美濃系 型成形 底部布目痕 外面施釉・上絵付(赤・緑・金・茶)	
300	陶器	土瓶	—	[3.0]	—	IK	5	良好	黄橙	SK266	大堀相馬系カ 外面糠白釉 内面鉄釉状の光沢	
301	陶器	急須	—	[3.4]	(5.8)	K	15	良好	灰白	SK266	大堀相馬系 内底面布目痕 胎土砂鉄含む 体部凹ます 外面施釉	
302	陶器	蓋	—	[2.2]	—	K	15	良好	灰白	SK266	胎土黒色練り込みマーブル状・硬質 上面施釉 最大径6.5cm	
303	瓦質土器	植木鉢	16.4	10.5	12.1	CIK	80	普通	灰	SK266	底部ヘラナデ 燻す	
304	磁器	坏	(7.0)	2.7	2.6	—	35	普通	白	SK267	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(青・金)	
305	陶器	徳利	—	[4.1]	—	IK	5	普通	灰黄	SK267	外面上位鉄釉(黒)・下位灰釉	
306	土器	埴埜	3.1	5.5	—	—	100	普通	黒褐	SK267	内外面滓化 内面緑青付着	
307	土器	埴埜	2.6	4.7	—	EI	95	普通	黒褐	SK267	胎土炭化物含む 内外面滓化 内面緑青付着 外面銅付着	
308	磁器	坏	(6.6)	2.7	2.0	—	50	普通	白	SK268	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青)	
309	磁器	皿	—	[3.7]	(8.0)	—	15	良好	白	SK268	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内焼継印	
310	陶器	徳利	3.5	26.6	8.4	IK	75	普通	灰黄	SK268	内外面灰釉 外面呉須文字(酸化コバルト)「いなりや/く□□し」	
311	陶器	徳利	—	[9.4]	9.8	IK	20	普通	黄灰	SK268	外面灰釉・釉下彩(緑)「[原]勢屋」内面褐色釉薄掛け	
312	陶器	鍋	(15.0)	[6.1]	—	K	10	良好	浅黄橙	SK268	内外面鉄釉	
313	陶器	急須	—	7.0	(6.6)	—	30	普通	灰	SK268	萬古系 型成形 胎土炆器質 内外面布目圧痕 注口・把手端部施釉 刻印「萬古」	
314	陶器	急須	7.3	5.0	5.0	—	75	普通	褐灰	SK268	萬古系 胎土炆器質 底部布目圧痕・墨書 口唇部施釉	
315	陶器	蓋	—	[0.7]	(7.0)	—	15	良好	灰	SK268	萬古系 胎土炆器質 内外面布目圧痕 焼成前穿孔2あり	
316	磁器	坏	6.9	2.9	2.3	—	85	良好	白	SK270	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青・金)「サカイ/箱房」	
317	瓦質土器	竈鏝	43.0	4.1	39.0	HI	80	良好	灰白	SK270	燻す 胎土中心灰色 口唇部刻印「㊦」「岩崎」が5あり 被熱 口唇部・内面煤付着	
318	磁器	皿	13.0	2.3	7.2	—	95	普通	白	SK271	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
319	磁器	碗	8.4	8.0	5.0	—	80	良好	白	SK272	瀬戸美濃系 外面下位青磁釉 外面上位・高台内・内面施釉・染付	
320	磁器	碗	(7.6)	4.7	3.2	—	40	普通	白	SK272	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 同文別個体1あり	
321	磁器	皿	—	[1.5]	(8.0)	—	20	良好	明赤褐	SK272	淡路珉平焼 型成形 内面陰刻文 施釉	
322	磁器	碗	10.4	5.7	4.0	—	95	良好	白	SK277	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
323	磁器	碗	(6.8)	5.3	(4.0)	—	20	普通	白	SK277	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
324	磁器	紅皿	4.6	1.5	1.2	—	95	普通	白	SK277	肥前系 型成形 外面上位・内面施釉	
325	磁器	爛徳利	—	[5.0]	5.2	—	40	良好	白	SK277	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
326	陶器	土瓶	—	[4.3]	—	IK	5	普通	浅黄橙	SK278	胎土土器質 外面鉄釉 被熱 煤付着	
327	磁器	坏	8.6	3.5	3.3	—	60	普通	白	SK286	瀬戸美濃系 内外面施釉・金彩「[]十九年」「染谷」	
328	磁器	皿	14.6	2.9	9.4	—	70	普通	白	SK299	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡1あり	
329	磁器	碗	(9.1)	7.0	5.8	—	60	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付	
330	磁器	碗	(9.8)	4.9	(3.8)	—	40	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付	
331	磁器	碗	(6.9)	6.1	(3.6)	—	15	普通	白	SK302	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
332	磁器	碗	—	[2.1]	(3.4)	—	10	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉 外面染付	
333	磁器	碗	—	[5.8]	—	—	5	普通	白	SK302	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 外面陰刻文	
334	磁器	坏	5.9	3.0	2.6	—	45	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉・染付	
335	磁器	碗	—	[2.3]	2.6	—	20	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉 外面染付	
336	磁器	皿	14.9	4.5	8.4	—	85	普通	白	SK302	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内墨書「吉田」 被熱(弱)	
337	磁器	蓋	(5.1)	2.2	(9.2)	—	20	良好	白	SK302	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「吉[]」	
338	陶器	坏	5.7	3.3	2.9	IK	60	良好	灰白	SK302	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面ピン痕2遺存	
339	陶器	灯明皿	10.0	2.4	(4.2)	IK	50	良好	褐灰	SK302	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 内外面重焼痕	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
340	陶器	灯明皿	(9.2)	2.0	4.0	IK	50	普通	黄灰	SK302	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕 口縁部重焼痕 歪む	
341	陶器	灯明皿	9.3	1.8	4.3	IK	85	普通	黄灰	SK302	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部中位輪状重焼痕 (径 6.1 cm)	
342	陶器	徳利	3.1	21.3	8.0	EIK	85	普通	灰白	SK302	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部下位・底部釉拭き取り 外面釘書「文」	
343	陶器	土瓶	(5.5)	[2.7]	—	K	20	良好	にぶい黄橙	SK302	外面糠白釉薬・鉄釉流し掛け	
344	陶器	土瓶	7.2	[6.3]	—	K	45	普通	灰白	SK302	内外面施釉 外面鉄・呉須絵	
345	陶器	蓋	—	2.7	5.6	I	95	良好	オリーブ黒	SK302	胎土極硬質 上面鉄釉 被熱 (露胎部煤付着)	
346	陶器	土瓶	—	9.3	(8.0)	IK	30	普通	灰褐	SK302	型成形 外面上位陽刻文 内面施釉 外面鉄釉 被熱 (黒化)	
347	陶器	蓋	—	[1.9]	6.8	K	40	普通	灰白	SK302	大堀相馬系カ 上面糠白釉 被熱 (体部下位黒化) 最大径 9.0 cm	
348	施釉土器	灯明皿	9.0	1.9	4.0	AEIK	90	良好	橙	SK302	底部糸切痕 (左) 内外面施釉 (剥落激しい) 胎土粉質・小礫含む	
349	瓦質土器	焙烙	(35.0)	[3.3]	(35.2)	CHIK	20	普通	灰	SK302	底部シワ状痕 胎土硬質 還元焰焼成 体部黒化	
350	瓦質土器	火鉢	25.0	20.7	20.4	CHI	90	普通	褐灰	SK307	口縁・脚部ミガキ 外面スタンプ施文 燻す 胎土小礫含む 内面上位煤付着	
351	磁器	碗	7.0	6.1	3.6	K	55	良好	灰白	SK318	肥前系 内外面施釉 (外面青磁釉) 内面染付	
352	磁器	碗	(7.0)	[5.0]	—	—	30	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
353	磁器	碗	8.4	5.0	3.3	—	95	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
354	磁器	碗	(8.4)	5.0	3.4	—	60	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
355	磁器	碗	(8.4)	4.6	3.6	—	50	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
356	磁器	碗	8.6	5.1	3.6	—	50	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体 1 あり	
357	磁器	碗	(11.4)	6.4	(6.6)	—	20	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
358	磁器	碗	(6.8)	3.3	2.9	—	60	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉 外面染付	
359	磁器	坏	—	[2.6]	(3.0)	—	15	良好	白	SK318	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付	
360	磁器	皿	14.1	3.5	9.0	—	75	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
361	磁器	皿	14.1	3.8	8.5	—	95	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉・染付	
362	磁器	皿	13.8	3.6	8.6	—	80	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉 (青みがかかる)	
363	磁器	皿	10.6	2.5	5.8	—	85	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅	
364	磁器	皿	22.7	3.1	12.7	—	95	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡 4	
365	磁器	蓋物	(9.4)	[4.7]	—	—	20	良好	白	SK318	肥前系 内外面施釉 外面染付	
366	土師質土器	蓋	6.9	1.0	6.5	ACHIK	95	普通	にぶい橙	SK318	焼塩壺の蓋	
367	磁器	坏	(6.6)	3.1	(2.8)	—	15	良好	白	SK329	肥前系 内外面施釉 外面染付	



第 236 図 区画 AE 土壌出土遺物 (48)

第 53 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (2) (第 236 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	2.2	2.3	2.0	10.2	ACIK	普通	にぶい橙	SK119	底部糸切痕(中心) 胎土粉質	121-14
2	土師質土器	小壺	—	[1.9]	2.4	10.2	AIK	普通	にぶい橙	SK119	底部離し糸切痕(右)	
3	土師質土器	小壺	(2.2)	2.0	2.0	7.9	ACIK	普通	にぶい橙	SK121	底部糸切痕(左) 胎土粉質	121-14
4	土師質土器	小壺	(2.8)	[2.4]	—	4.3	AIK	普通	橙	SK128	胎土粉質	
5	土師質土器	小壺	2.5	2.3	1.5	5.3	CHIK	普通	橙	SK128	底部糸切痕(左)・二次穿孔	121-14
6	土師質土器	小壺	2.5	2.7	1.6	10.8	AIK	普通	橙	SK257	底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面黒色塗付物 附着	121-14
7	磁器	紅環	2.0	0.9	0.9	2.9	—	良好	白	SK268	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉	121-15

めて稀である。左側面の窓は上部が欠失しているため、挿図では第 9 地点出土製品を基に推定で復元した。

第 209 図 124・125 は陶器の灯明皿(油受皿)、126～129 は灯火具である。いずれも緻密・硬質な胎土で、「V」字状の切れ込みが入り、地方窯系陶器と考えられる。灯火具は右回転の糸切痕が遺存し、同一生産地と考えられる。

第 210 図 136 は松岡系陶器の植木鉢である。黒色粒子を多分に含むザラメ状の粗粒な胎土で、外面に鉄釉が施釉される。挿図では接点のない 3 片から復元した。

第 214 図 172 は土師質土器の内耳丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕がみられ、丸みは極めて弱く、ほぼ平底状である。内耳は二等辺三角形形状に付く。内底面には渦巻状のナデとゴマ粒状の無数のコゲ跡がみられ、第 3 地点第 8 号土壌出土製品(『栗橋宿跡 I』第 137 図 80)と同様に、調理痕跡の可能性はある。

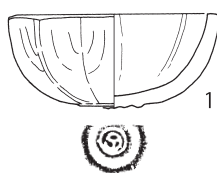
第 215 図 174 は土師質土器の甕で、胎土に金雲母、長石、石英が多量に含まれる。茨城県桜川市塙世(旧真壁町)で生産された真壁焼(源法寺焼)である。本陣跡では生産地・屋号・生産者を示したヘラ書き資料(『本陣跡 II』第 157 図 481)が確認されている(埴埋文 2020b)。

口縁部の形状とスタンプ施文は、リンズと呼ばれる回転施文具で施文した 19 世紀後半にみられる常滑系陶器のリンズ装飾甕(惟村 2018)に酷似する。常滑系陶器の影響が垣間見える。

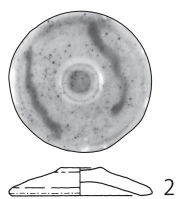
第 218 図 194 は土師質土器の風口である。焔炉類特有のオプション・部品とされ、焔炉に組み合わせたり、木材や漆喰で固めて焔炉そのものとして用いる例が知られている(小林 2019)。栗橋宿では上面の開口部は欠失・摩耗し、その周囲は被熱により白色化している。胎土は角閃石を多量に含み、在地産と推定される。

第 219 図 199 は手捏ね成形のかわらけ小皿である。橙色で胎土に雲母や石英が含まれることか

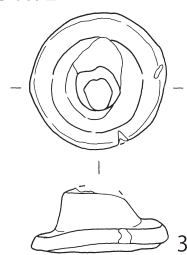
SK80



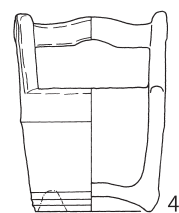
SK84



SK92



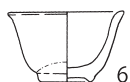
SK96



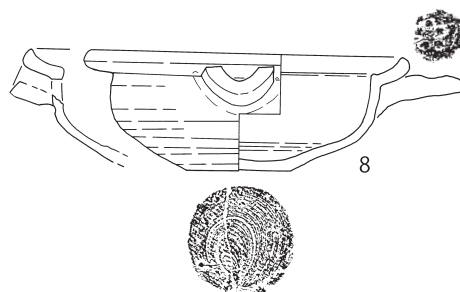
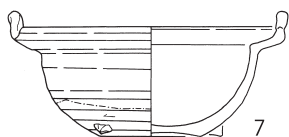
SK99



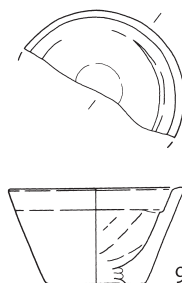
SK102



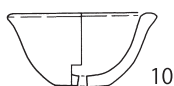
SK106



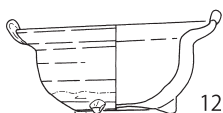
SK113



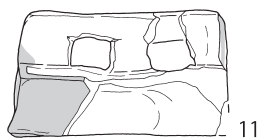
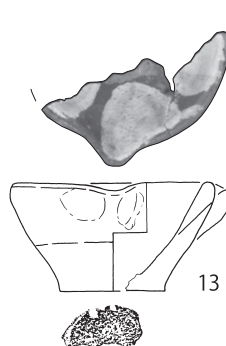
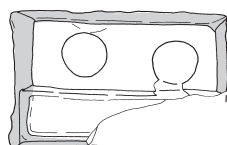
SK115



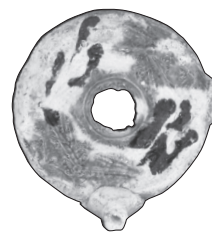
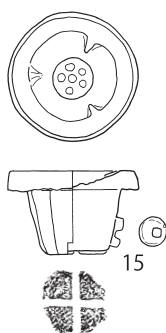
SK116



SK117



SK118

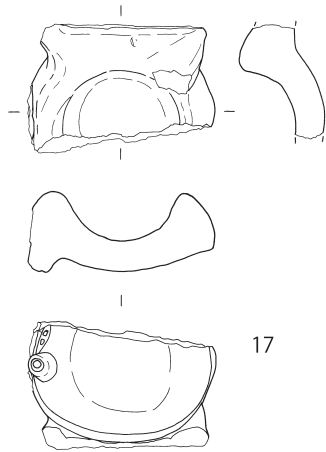


赤

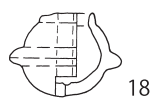


第 237 图 区画 AE 土壤出土遺物 (49)

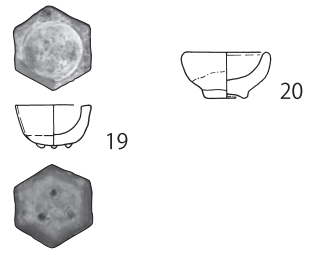
SK119



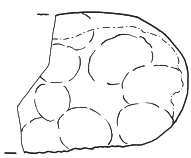
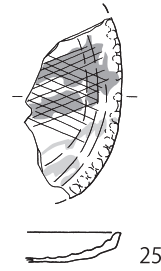
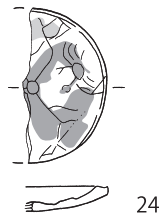
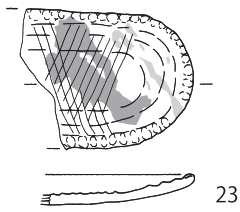
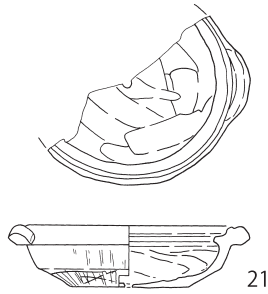
SK121



SK128



SK248



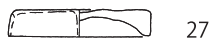
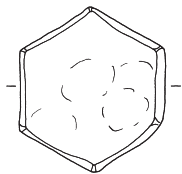
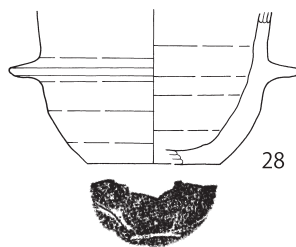
赤 緑

赤 緑

赤 緑

赤 緑

SK249

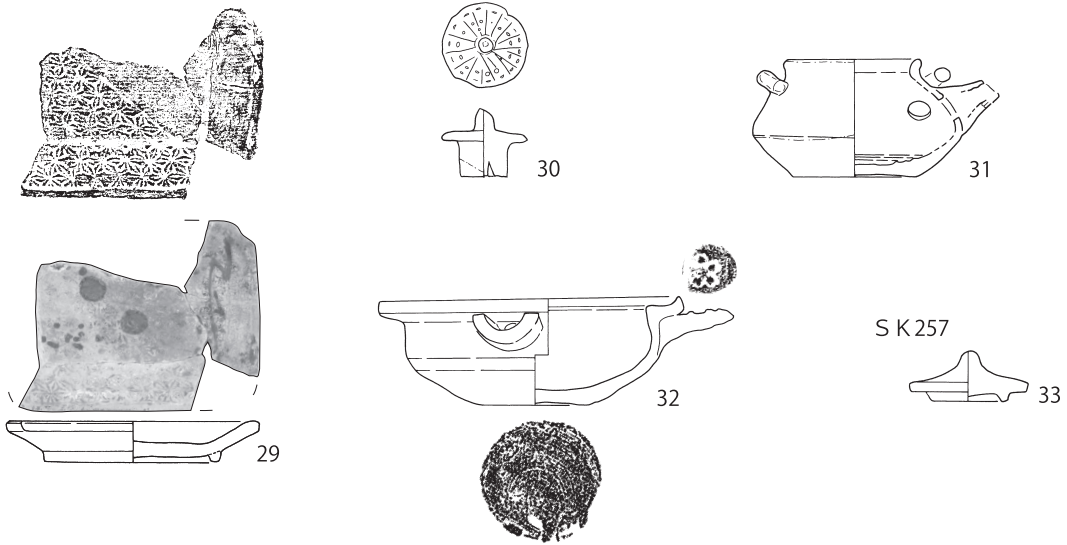


0 10cm 1:3

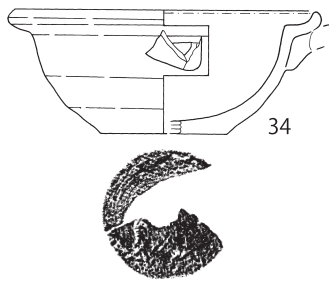
0 5cm 1:2

第 238 図 区画 AE 土壙出土遺物 (50)

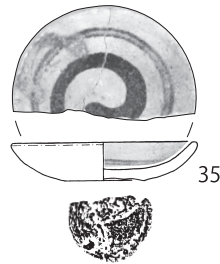
S K 256



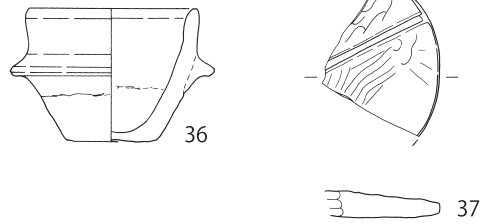
S K 266



S K 270



S K 302



第 239 図 区画 AE 土壌出土遺物 (51)

第 54 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (3) (第 237 ~ 239 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	ミニチュア	4.9	2.5	1.4	15.6	K	普通	灰白	SK80	鉢カ 型成形 外面陽刻状文・彩色 (赤)	118-1 118-2 118-3 118-4
2	磁器	ミニチュア	1.0	0.8	3.4	6.3	-	良好	白	SK84	瀬戸美濃系 蓋 型成形 上面黄褐色釉・青緑釉流し掛け	
3	土製品	ミニチュア	径 3.6 高さ [1.7]			11.9	H	良好	明赤褐	SK92	-	
4	磁器	ミニチュア	3.4	5.2	3.0	37.4	-	良好	白	SK96	瀬戸美濃系 桶 型成形 内外面施釉 口縁部・把手褐色釉	
5	陶器	ミニチュア	1.8	0.9	3.8	9.8	AIK	普通	灰白	SK99	京都系カ 不明品 無釉	
6	磁器	ミニチュア	3.0	1.9	1.3	7.7	-	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 鉢 型成形 内外面施釉	
7	陶器	ミニチュア	7.0	3.3	2.7	29.7	K	良好	灰白	SK106	両手鍋 内外面柿釉	
8	施釉土器	ミニチュア	8.2	3.2	2.8	43.2	AHK	良好	にぶい橙	SK106	行平鍋 底部糸切痕 (右) 胎土粉質 把手型押陰刻文 内外面施釉 SK128・257 と接合	
9	土製品	ミニチュア	(4.6)	2.5	(2.6)	9.3	CIK	普通	橙	SK113	植木鉢カ 胎土還元焰焼成 (褐灰) 型成形 内外面上位ナデ	
10	磁器	ミニチュア	(3.7)	1.9	(1.4)	5.2	-	良好	白	SK115	瀬戸美濃系 植木鉢 型成形 内外面施釉 (底部露胎)	
11	土製品	ミニチュア	縦 3.6 横 5.7 高さ 3.3			32.8	AHI	良好	橙	SK115	江戸在地位系 竈 上下別造り 板作り成形 外面赤彩	
12	陶器	ミニチュア	5.3	[2.5]	1.9	20.2	K	良好	にぶい橙	SK116	両手鍋 内外面柿釉	
13	土製品	ミニチュア	(5.0)	2.9	(2.8)	11.0	AHIK	良好	橙	SK116	江戸在地位系 鉢 底部糸切痕 内外面施釉 内面白土・緑釉絵付	
14	磁器	ミニチュア	2.2	2.5	1.5	11.1	-	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 鉢カ 型成形 内外面瑠璃釉 口縁部鉄釉流し	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
15	土製品	ミニチュア	3.1	2.2	1.5	12.5	AHK	普通	灰白	SK118	京都系 焜炉 上下合二枚型成形 中実 口縁部黒色塗付物	118-5
16	陶器	ミニチュア	1.3	[2.3]	1.4	13.2	—	良好	灰白	SK118	京都系 急須 上下合二枚型成形 外面上位施釉・緑釉・鉄釉	118-6
17	土製品	不明	縦 [5.0] 横 [7.4] 高さ 3.1			102.5	AEIK	普通	灰白	SK119	穿孔2あり 全面に金属コーティング	118-9
18	土製品	ミニチュア	1.3	2.2	—	8.2	AHIK	普通	浅黄橙	SK121	茶釜 左右合二枚型成形	118-10
19	土製品	ミニチュア	2.0	1.1	—	2.5	IK	普通	にぶい赤褐	SK128	江戸在地系 鉢 型成形 内外面施釉 内面白土・緑釉	118-11
20	土製品	ミニチュア	(2.1)	1.2	0.9	2.1	AK	普通	橙	SK128	江戸在地系 碗 型成形 内外面白土・施釉	
21	土製品	ミニチュア	(5.4)	1.3	(3.1)	7.1	CEK	普通	灰白	SK248	京都系 両手鍋 型成形 内面ランダムな調整痕 外面下位トビガンナ状文	119-17
22	陶器	ミニチュア	—	[1.6]	(6.0)	2.6	HK	普通	白	SK248	京都系 鍋 型成形 白色胎土	
23	陶器	ミニチュア	縦 3.7 横 [4.5] 高さ 0.8			4.4	K	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陽刻文・施釉・彩色 (緑釉・赤)	
24	陶器	ミニチュア	縦 4.1 横 [2.2] 高さ [0.7]			3.0	K	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陽刻文・施釉・彩色 (緑釉・赤)	
25	陶器	ミニチュア	—	0.8	—	2.9	K	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陽刻文 外面指頭痕 内外面施釉 内面彩色 (緑釉・茶)	
26	陶器	ミニチュア	—	0.4	—	K	1.5	良好	灰白	SK248	京都系 皿 型成形 内面陽刻文 外面指頭痕 内外面施釉 内面彩色 (緑釉・赤)	
27	土製品	ミニチュア	—	0.7	3.6	8.8	AIK	良好	にぶい橙	SK248	江戸在地系 蓋 型成形 胎土粉質	
28	土製品	ミニチュア	—	[4.0]	(3.5)	29.1	AHIK	良好	にぶい橙	SK249	江戸在地系 釜形土製品 底部糸切痕 (左) 胎土粉質 内面・外面上位施釉	119-19
29	陶器	ミニチュア	(6.4)	1.1	(4.7)	15.5	AHI	普通	浅黄	SK256	京都系 皿 型成形 内面陰刻文 内外面施釉 内面彩色 (緑・赤・黒)	
30	磁器	ミニチュア	—	1.8	1.2	4.7	—	良好	白	SK256	瀬戸美濃系 型成形 外面施釉	120-1
31	陶器	ミニチュア	2.9	3.1	3.2	31.8	K	良好	灰白	SK256	京都信楽系 土瓶 胎土磁質 外面施釉 (青緑釉気味)	120-2
32	土製品	ミニチュア	(7.9)	2.9	2.9	36.0	IK	良好	にぶい橙	SK256	行平鍋 底部糸切痕 (右) 胎土粉質 把手型押陰刻文 内外面施釉 SK108・256 と接合	
33	陶器	ミニチュア	—	1.3	1.9	7.9	—	良好	灰白	SK257	京都信楽系 蓋 胎土磁質 型成形 上面青緑釉	120-5
34	土製品	ミニチュア	8.0	3.2	1.4	35.2	AHIK	普通	灰白	SK266	京都系 行平鍋 底部糸切痕 (右) 内面施釉 底部煤付着 SK265 と接合	120-15
35	土製品	ミニチュア	4.8	1.0	2.1	6.3	AHK	良好	灰白	SK270	京都系 皿 底部糸切痕 内面施釉 (黄・褐・緑)	120-17
36	土製品	ミニチュア	(4.4)	3.5	(2.5)	17.8	ACHIK	普通	にぶい橙	SK270	釜形土製品 底部糸切痕 (摩耗) 外面下位・底部煤付着	120-18
37	土製品	ミニチュア	—	0.7	—	6.5	AHIK	普通	にぶい橙	SK302	蓋 胎土粉質 型成形 上面陽刻文	

ら、搬入品の可能性がある。底部は無調整のシワ状痕が残る。

200は備前系陶器の小型播鉢で、挿り目が非常に浅いが摩耗はみられない。栗橋宿での出土量は少ない。口縁部に塗土状の光沢がみられる。

第219図201・第227図284は長方形を呈する瓦質土器の角火鉢である。本陣跡第290号土壙(『本陣跡Ⅱ』第222図583)等で出土しており、江戸遺跡だけでなく栗橋宿でも稀である。胎土に角閃石が多く含まれ、在地産と推定される。

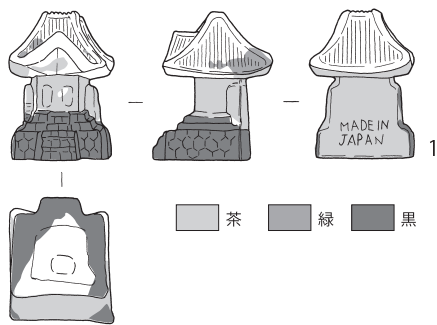
第221図221は三田系青磁の坏である。型成形で、貼り付け高台、内面は陰刻文である。

235は萬古系陶器の急須で、底部に墨書「吉田屋」がみえる。焼継痕がみられ、底部に朱書きで焼継印が確認できる。外面に白色の絵付がみられ、口唇部、注口端部は施釉される。

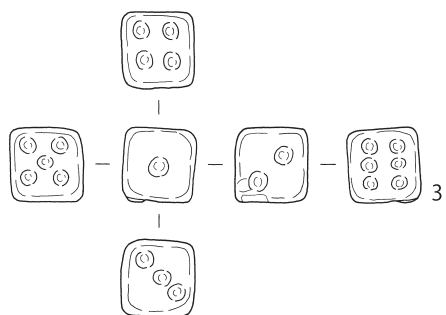
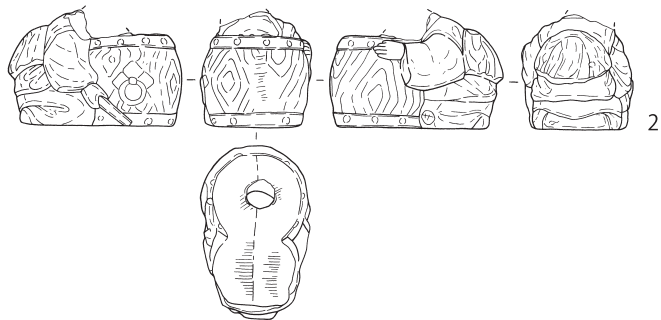
第224図248・249は瓦質土器の竈鏝である。248は口唇部に「○」が4つの刻印がみられる。置き竈の刻印にも同様のものがみられることがあり、両者は密接に関わっていると考えられる。「○」の数は規格を表し、「○」が4つの刻印がみられる置き竈とセット関係にあると思われる。いずれも口縁部内側端部は面取りが施される。

第226図277は肥前系磁器の紅皿である。型

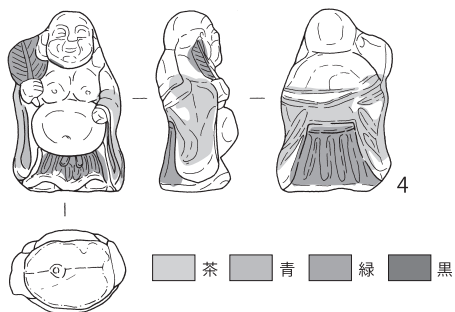
SK70



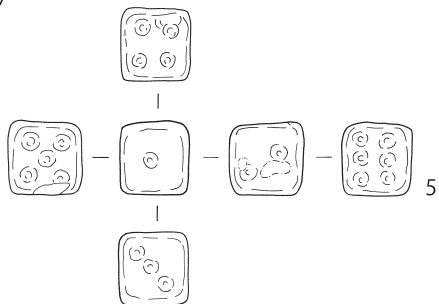
SK80



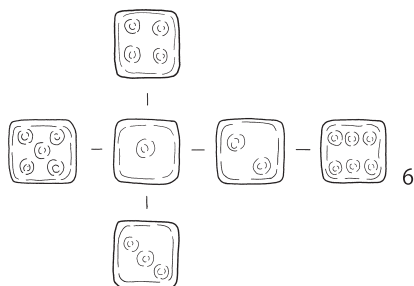
SK96



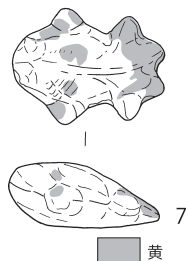
SK97



SK99



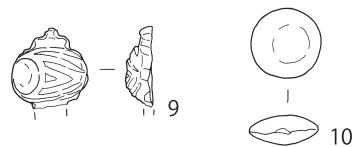
SK105



SK106



SK117

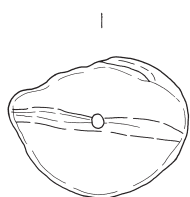
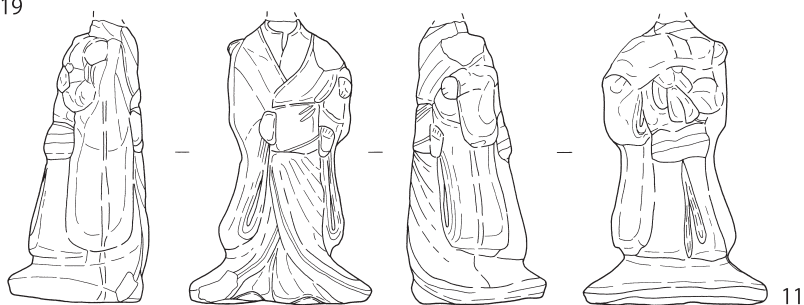


0 10cm
2 1:4

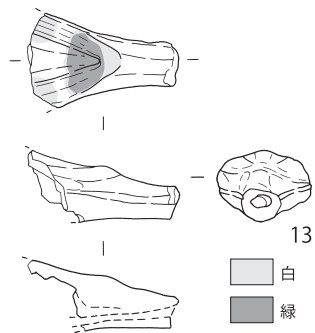
0 5cm
1・3~10 1:2

第 240 図 区画 AE 土壙出土遺物 (52)

SK119

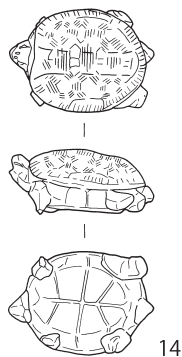


SK127



13
 白
 緑

SK128



14

SK248



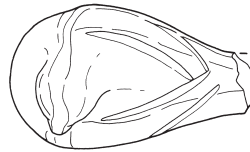
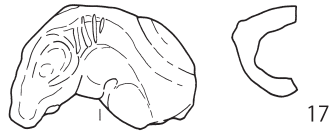
0 10cm 0 5cm
 15 1:3 11~14 1:2

第 241 図 区画 AE 土壙出土遺物 (53)

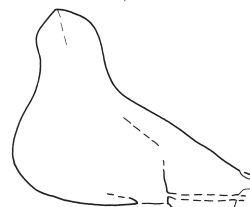
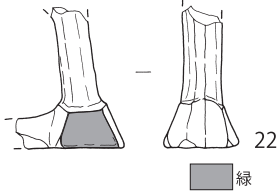
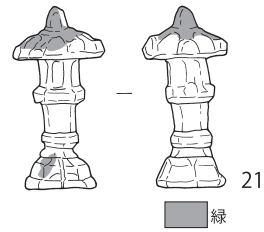
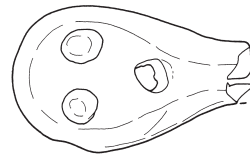
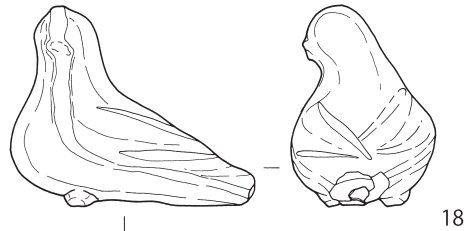
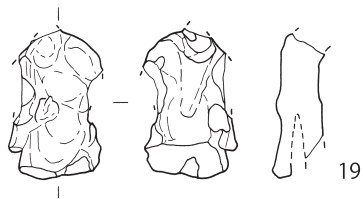
S K 249



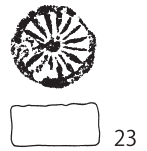
S K 256



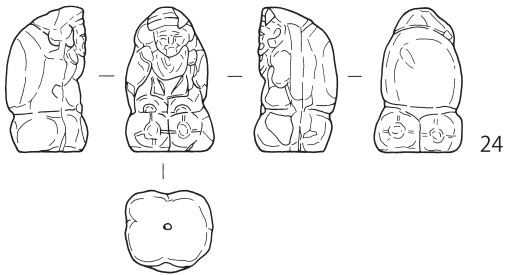
S K 257



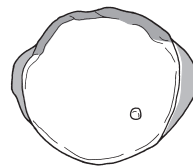
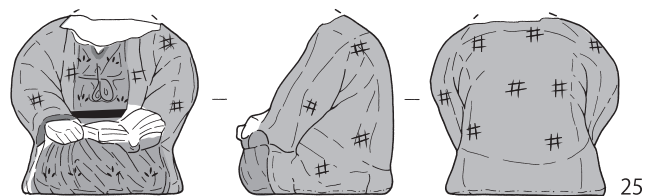
S K 266



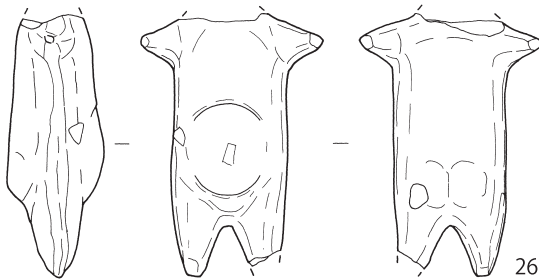
S K 267



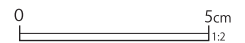
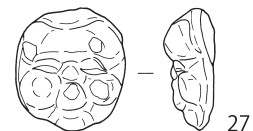
S K 270



S K 302



S K 308



第 242 図 区画 AE 土壙出土遺物 (54)

第 55 表 区画 AE 土壙出土遺物観察表 (4) (第 240 ~ 242 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	箱庭道具	3.9	2.8	3.2	28.9	—	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 祠 型成形 開口 彩色(緑・赤・黒) 刻印あり	
2	磁器	人形	[6.1]	5.9	9.2	82.7	—	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 左右合二枚型成形 中空 下面櫛歯状痕 彩色(赤) 遺存	
3	磁器	サイコロ	2.0	2.0	2.0	14.1	—	良好	白	SK80	瀬戸美濃系 彩色わずかに遺存(桃・黄・緑)	
4	磁器	人形	4.8	3.1	2.2	22.4	—	良好	白	SK96	瀬戸美濃系 布袋 前後合二枚型成形 中実 施釉(下面露胎) 彩色(緑・赤・青・金)	
5	磁器	サイコロ	2.0	1.9	2.0	14.0	—	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 施釉 彩色わずかに遺存	
6	磁器	サイコロ	1.7	1.7	1.8	10.4	—	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 施釉	
7	磁器	人形	3.1	4.0	1.7	6.4	—	良好	白	SK105	瀬戸美濃系 金魚 上下合二枚型成形 中空 上面施釉・彩色(黄)	
8	土製品	人形	[1.2]	[3.1]	0.9	3.8	AIK	良好	橙	SK106	型成形	
9	土製品	芥子面	1.1	2.0	0.7	2.1	AK	良好	橙	SK117	江戸在地系 小鏡か 一枚型成形 中実	122-13
10	土製品	碁石	径 1.8		0.8	2.1	AHIK	良好	にぶい橙	SK117	江戸在地系 手捻り成形	117-17
11	土製品	人形	[7.5]	4.8	3.7	52.3	AHI	良好	にぶい橙	SK119	背に子供おぶさる 前後合二枚型成形 中実 被熱 彩色(青) 遺存	118-7
12	土製品	人形	6.9	[6.2]	5.1	78.3	AHIK	普通	灰白	SK119	京都系 三猿(見ざる欠失) 各猿前後合二枚型成形 中実 手足手捻り貼付 彩色 黒色物付着	118-8
13	土製品	鳩笛	[1.9]	[4.0]	1.2	7.5	HI	良好	橙	SK127	江戸在地系 上下合二枚型成形 外面施釉・彩色(白・緑)	
14	土製品	人形	3.8	2.7	1.7	5.7	I	良好	橙	SK128	江戸在地系 亀 上下合二枚型成形 中空 施釉	118-12
15	土製品	人形	13.3	[8.5]	1.2	181.8	AHIK	良好	にぶい橙	SK248	江戸在地系 犬 前後合二枚型成形 底部別作り 底部白化粧	119-18
16	土製品	芥子面	1.8	2.1	0.7	2.0	IK	良好	にぶい橙	SK249	一枚型成形 胎土紛質	122-13
17	土製品	人形	3.2	4.9	0.8	14.6	AH	良好	橙	SK256	牛 一枚型成形 開口	120-3
18	土製品	鳩笛	6.4	3.8	5.3	39.5	AIK	良好	にぶい橙	SK256	江戸在地系 上下合二枚型成形 中空 施釉わずかに遺存	120-4
19	土製品	人形	[3.9]	[2.5]	1.4	10.0	AIK	普通	にぶい黄橙	SK257	手捻り成形	
20	土製品	人形	[3.0]	1.6	[2.4]	6.5	I	良好	橙	SK257	江戸在地系 馬 手捻り成形 施釉 彩色(黒・白)	120-6
21	土製品	箱庭道具	4.8	2.4	2.3	10.7	—	良好	にぶい橙	SK257	江戸在地系 灯籠 二枚型成形 中実 白土 施釉 緑釉	120-7
22	土製品	箱庭道具	[3.7]	[2.9]	2.0	8.1	AK	良好	橙	SK257	江戸在地系 前後合二枚型成形 中実 施釉 彩色(緑)(下面白化粧)	
23	土製品	泥面子	—	2.3	1.1	6.9	AHIK	良好	明赤褐	SK266	一枚型成形	122-11
24	土製品	人形	3.8	2.4	2.2	14.1	AEK	普通	灰白	SK267	京都系 大黒 前後合二枚型成形 中実	120-16
25	磁器	人形	[4.7]	5.0	4.1	50.5	—	良好	白	SK270	瀬戸美濃系 前後合二枚型成形 中実 施釉 彩色(緑・黄・黒・金)	
26	土製品	人形	[6.9]	4.8	0.4	26.7	AIK	良好	にぶい橙	SK302	ぶら人形 前後合二枚型成形 中空 胎土 中心灰白	120-19
27	土製品	芥子面	3.2	2.9	1.3	8.0	AHK	良好	橙	SK308	ひよっこ 一枚型成形	122-13

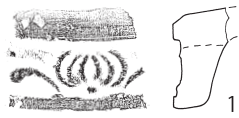
成形で、外面は陽刻蛸唐草文が施文される。高台 畳付まで全面施釉である。

第 227 図 285 は瓦質土器の平底焙烙である。底部無調整の砂目底で、外面はナゲ調整である。胎土は角閃石を多く含み在地産と推定される。器高は低く、口縁部は丸みを帯び、幅が極めて狭い内耳が付く。出土遺構の様相から栗橋宿で見られる平底焙烙の中で最新期と推定される。

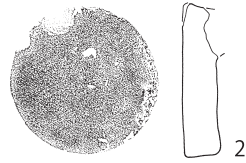
第 229 図 306・307 は砲弾形を呈する土製埴塙である。いずれも内面に緑青が付着し、307 の外面には銅が付着する。第 249 号土壙からも複数 個体出土し、さらに後述する第二・三面から鞆の羽口や鉄滓が出土していることから、第 8 地点では金属生産が盛んであったことが窺える。

第 231 図 321 は兵庫県淡路島で生産される淡路珉平焼の皿である。型成形で、内面に陰刻龍文

SK70



SK80



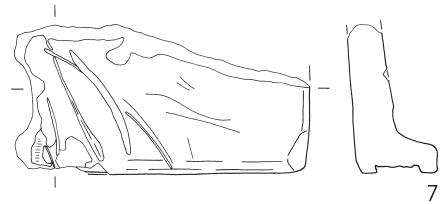
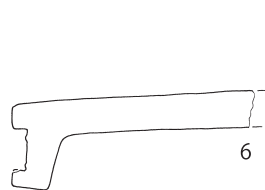
SK83



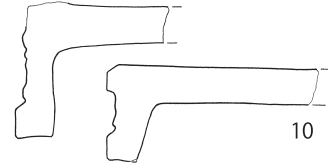
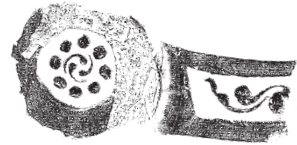
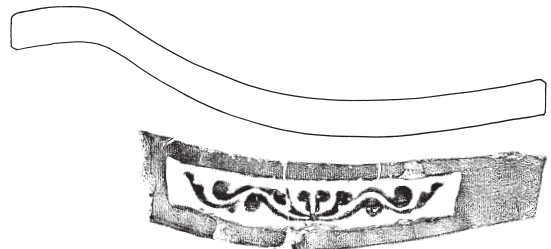
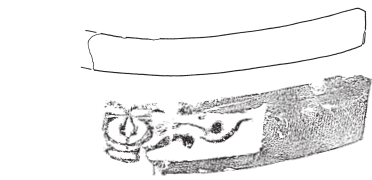
SK84



SK98



SK99



SK110



SK113



SK117

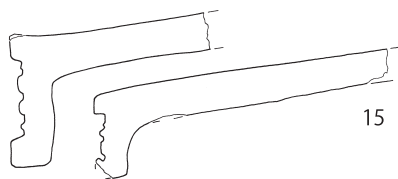


SK118



第 243 図 区画 AE 土壇出土遺物 (55)

S K 120



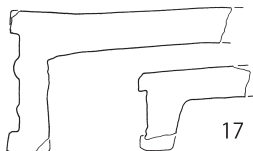
15

S K 131



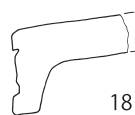
16

S K 248



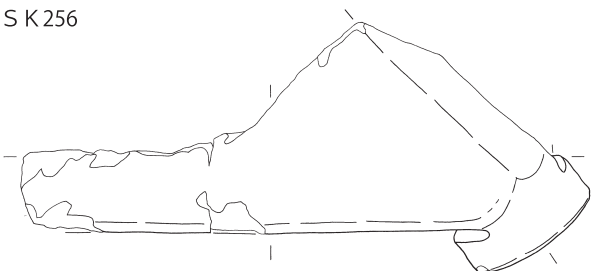
17

S K 249

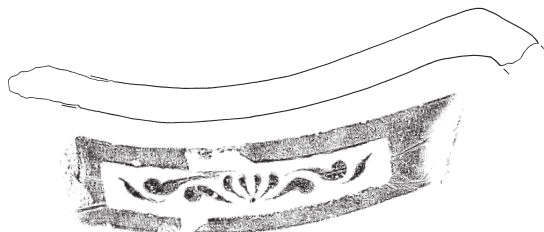


18

S K 256



19



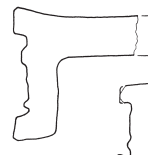
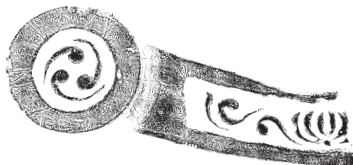
20

S K 266



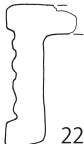
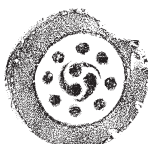
21

S K 318

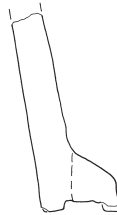
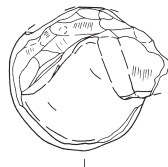


23

S K 272



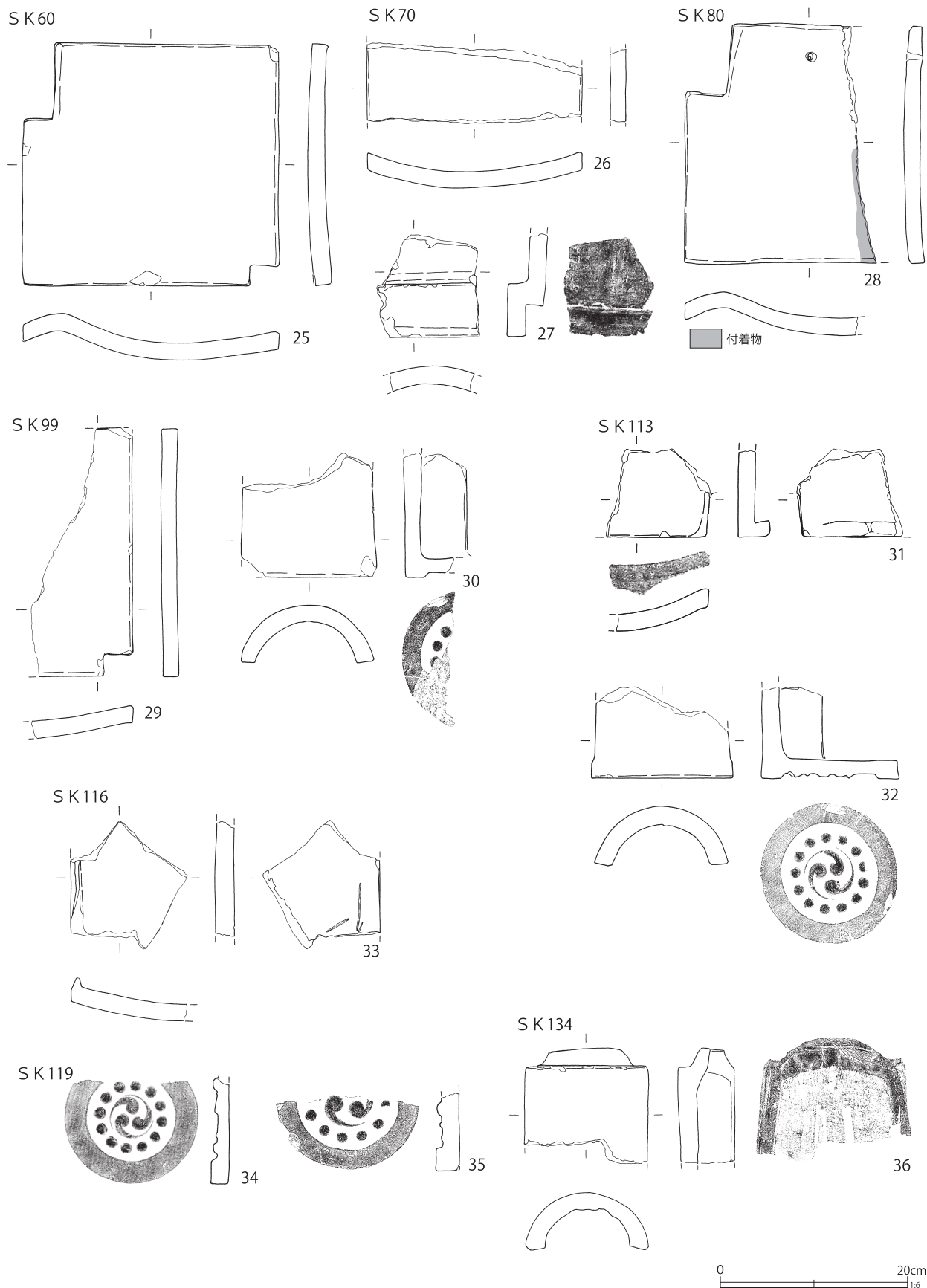
22



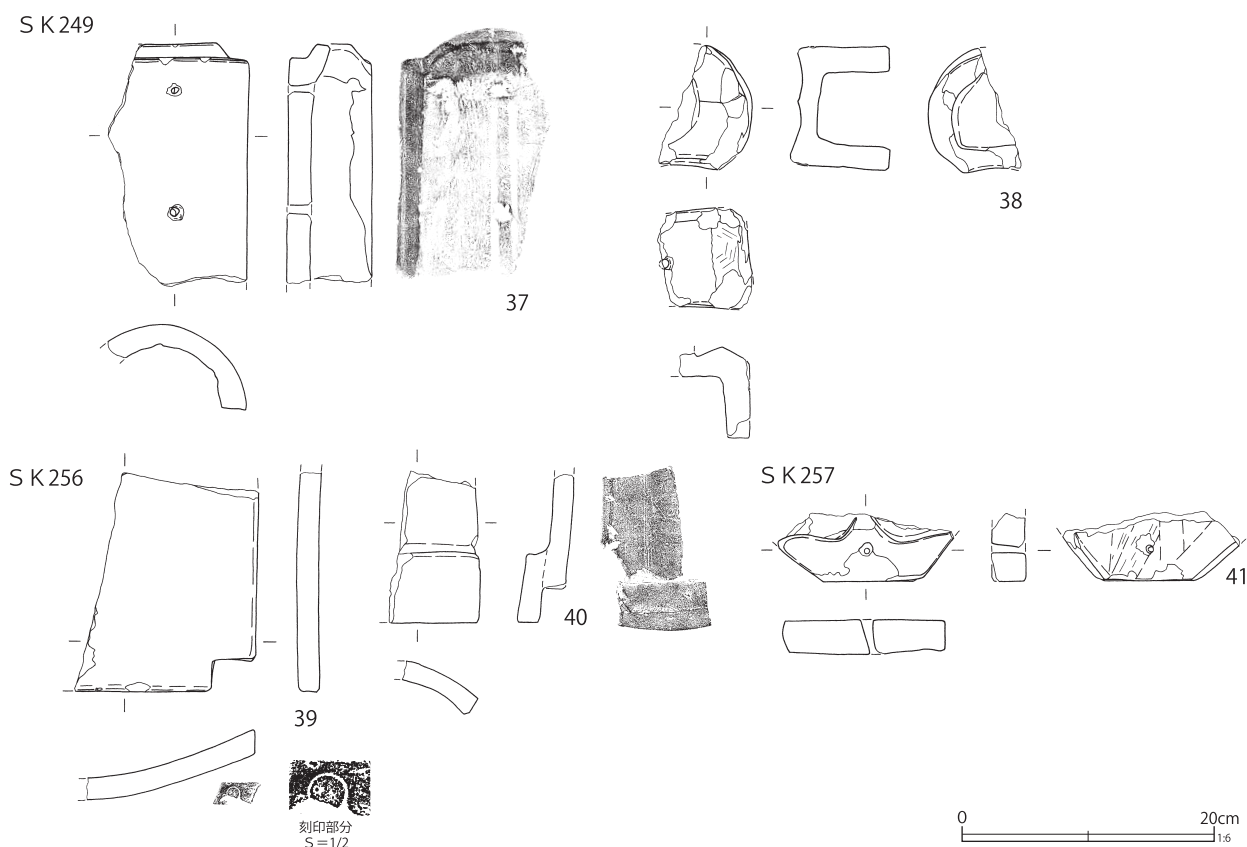
24



第 244 图 区画 AE 土壙出土遺物 (56)



第 245 図 区画 AE 土壇出土遺物 (57)



第 246 図 区画 AE 土壌出土遺物 (58)

第 56 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (5) (第 243 ~ 246 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[2.8]	[8.3]	2.4	[5.4]	—	ACIK	普通	灰白	SK70	江戸式 燻す 胎土小礫若干含む	
2	瓦	軒棧瓦	[4.4]	[12.0]	2.0	[4.3]	—	ACIK	良好	灰白	SK80	江戸式 瓦当面幅狭 銀化 燻す 雲母附着	
3	瓦	軒棧瓦	—	—	1.9	8.1	7.9	AK	良好	灰	SK83	石持瓦 弱く銀化 燻す	
4	瓦	軒棧瓦	[9.2]	[13.3]	2.3	4.4	—	AIK	良好	灰白	SK84	無文 弱く銀化 燻す	
5	瓦	軒棧瓦	5.5	[9.1]	2.4	[4.2]	—	AHK	普通	灰白	SK84	被熱か (一部赤変)	
6	瓦	軒平瓦	[13.6]	24.8	2.0	[7.2]	—	AIK	良好	灰白	SK98	江戸式 上面・瓦当面ミガキ状の光沢 瓦当面幅狭 弱く銀化 燻す	
7	瓦	軒棧瓦	[7.9]	[15.5]	2.1	[4.8]	—	AK	普通	灰白	SK98	江戸式 上面刃物痕 燻す	
8	瓦	軒棧瓦	[23.2]	28.5	1.9	[8.8]	—	AIK	良好	灰	SK99	江戸式 瓦当面幅狭 銀化 燻す	
9	瓦	軒棧瓦	[6.8]	[18.3]	1.9	6.3	—	AIK	良好	灰白	SK99	江戸式 瓦当面幅狭 銀化 燻す	
10	瓦	軒棧瓦	[12.8]	15.2	1.9	7.2	(7.8)	AHIK	普通	灰白	SK99	江戸式 右巻八連珠三巴文 瓦当面幅狭 銀化 燻す	
11	瓦	軒棧瓦	[10.2]	[15.0]	2.3	[11.2]	—	ACIK	良好	灰白	SK110	江戸式 瓦当面幅狭 弱く銀化 燻す	
12	瓦	軒棧瓦	[12.0]	[19.4]	1.8	[6.3]	—	AIK	普通	灰白	SK113	江戸式 燻す 雲母附着	
13	瓦	軒棧瓦	1.8	[14.5]	1.8	[5.2]	—	ACIK	普通	灰白	SK117	弱く銀化 燻す 版二度押カ	
14	瓦	軒棧瓦	[6.3]	[8.8]	2.0	[6.8]	—	AIK	普通	灰白	SK118	江戸式か 瓦当面幅狭 弱く銀化 燻す 刻印ヤマに「三」被熱煤附着	124-17
15	瓦	軒棧瓦	[17.8]	[16.8]	2.6	[7.7]	6.8	ACIK	良好	灰白	SK120	江戸式 右巻三巴文 燻す 雲母附着	
16	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[8.6]	2.1	[4.8]	—	AIK	良好	灰白	SK131	江戸式 銀化 燻す	
17	瓦	軒棧瓦	[12.4]	[20.4]	2.2	[8.5]	7.0	AK	良好	灰白	SK248	江戸式 右巻十二連珠三巴文 銀化 燻す 胎土中心部灰色	124-4
18	瓦	軒棧瓦	[6.7]	[21.6]	2.0	[6.3]	—	AHIK	普通	灰白	SK249	江戸式 弱く銀化 燻す	124-5
19	瓦	隅瓦	[13.3]	[30.4]	4.3	[9.0]	7.4	AIK	良好	灰白	SK256	江戸式 左巻八連珠三巴文 胎土砂質 銀化 燻す 煤附着	124-7

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
20	瓦	軒平瓦	[4.7]	[13.7]	2.0	[6.6]	—	AHIK	普通	灰白	SK256	江戸式 燻す	124-8
21	瓦	軒棧瓦	[5.6]	[11.3]	4.4	6.1	(7.6)	ACIK	普通	灰白	SK266	右巻三巴文 燻す	
22	瓦	軒棧瓦	[4.1]	[8.7]	2.1	7.5	7.2	ACIK	普通	灰白	SK272	左巻八連珠三巴文 銀化 欠質部二次利用	
23	瓦	軒棧瓦	[7.4]	[19.2]	1.9	[8.6]	6.9	AIK	良好	灰白	SK318	江戸式 右巻三巴文 胎土砂質 弱く銀化 燻す 胎土中心やや灰色	
24	瓦	軒棧瓦	[12.6]	26.6	1.8	4.4	—	AIK	普通	灰白	SK318	瓦当面一部ミガキ状光沢 弱く銀化 燻す	
25	瓦	棧瓦	26.1	27.6	1.8	5.0	—	ACIK	良好	灰	SK60	銀化 被熱 煤付着	
26	瓦	平瓦	[8.6]	23.2	1.9	3.3	—	ACHIK	普通	灰白	SK70	燻す 胎土粗粒	
27	瓦	道具瓦	[11.0]	[10.9]	3.9	—	—	AIK	良好	灰白	SK70	弱く銀化	
28	瓦	棧瓦	25.9	[20.6]	1.8	4.8	—	AIK	良好	灰白	SK80	銀化 燻す 焼成前穿孔1 上面黒色付着物あり	
29	瓦	棧瓦	26.8	[10.9]	1.8	[3.4]	—	AIK	良好	灰	SK99	銀化 燻す	
30	瓦	軒丸瓦	[13.3]	[14.6]	1.9	[6.7]	(15.0)	AK	良好	灰白	SK99	弱く銀化 燻す	
31	瓦	引掛 棧瓦	[9.4]	[11.1]	1.8	[4.6]	—	ADHIK	良好	灰白	SK113	銀化 燻す	
32	瓦	軒丸瓦	[9.7]	15.2	2.0	15.0	15.2	AIK	普通	灰白	SK113	右巻十三連珠三巴文 弱く銀化 燻す	
33	瓦	棧瓦	13.7	[12.6]	2.1	4.7	—	HIK	普通	灰白	SK116	燻す 裏面刃物傷カ	
34	瓦	軒丸瓦	—	14.9	1.9	[11.3]	14.4	AIK	良好	灰白	SK119	右巻十二連珠三巴文 弱く銀化 燻す	
35	瓦	軒丸瓦	—	15.4	2.6	8.1	15.2	AHIK	普通	灰白	SK119	右巻十四連珠三巴文 弱く銀化 燻す	
36	瓦	丸瓦	[12.4]	[12.3]	2.0	6.1	—	ACIK	良好	灰白	SK134	胎土砂質 弱く銀化 燻す	
37	瓦	丸瓦	[19.3]	[11.3]	2.0	[6.7]	—	AIK	良好	灰白	SK249	銀化 穿孔2	
38	瓦	鬼瓦	[9.9]	[7.5]	2.3	[8.3]	—	AIK	普通	灰白	SK249	燻す 焼成前穿孔1 遺存 剥落著しい 下面～側面 一部二次利用	124-6
39	瓦	棧瓦	[17.4]	[14.7]	1.8	[5.7]	—	ACIK	良好	灰白	SK256	胎土砂質 銀化 燻す 刻印「○」	129-18
40	瓦	道具瓦	[12.1]	[7.2]	3.4	[6.7]	—	ACIK	良好	灰白	SK256	胎土粉質・硬質 燻す 銀化	
41	瓦	鬼瓦	[5.4]	[14.0]	2.7	—	—	AIK	普通	灰白	SK257	裏ヘラナゲ 銀化 燻す 焼成前穿孔1	124-9

が施文される。橙色の胎土で透明釉が施釉される。

区画AEは「吉田屋」と推定される染付銘の肥前系磁器が多く出土している。多くは全ての文字を確認することができない。いずれも18世紀後半～19世紀前半の所産であろう。第211図145は広東碗である。外面に染付銘「吉」がみえる。第212図159は輪高台蕎麦猪口である。外面に染付銘「吉」、内底面に文字の一部がみえる。第221図224・第229図296は小丸碗である。外面に染付銘「屋」がみえる。第221図230・第229図297は高台高の低い蛇ノ目凹形高台の皿である。230の内面に染付銘「吉」と2箇所文字の一部がみえる。297の内面には、中央と内側面に「田」の文字がみえる。第228図286は筒形碗で、外面に染付文字「屋」がみえる。第233図337は肥前系磁器の広東碗の蓋である。外面に染付銘「吉」がみえる。

部分的にしか文字は残らないが、「吉田屋 / 太

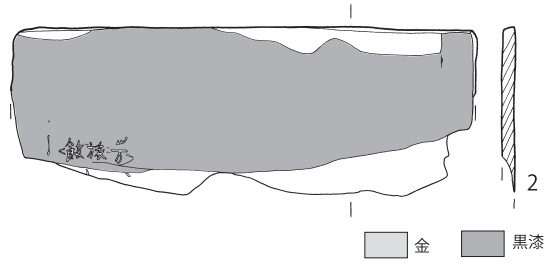
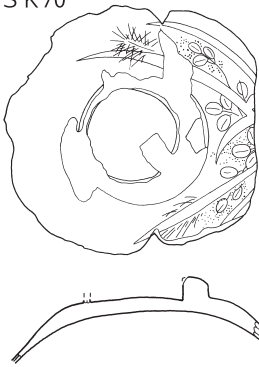
左衛門」の敷地からこれほど多く出土していることから、「吉田屋」銘染付である可能性は極めて高い。

第236図6は土師質土器の小壺である。京都系の「つぼつぼ」に類似するが、江戸在地系土器に類似する橙色の粉質胎土で、底部は左回転の糸切痕がみられる。内面から溢れ出るように墨状の付着物がみられる。

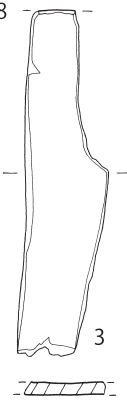
第237図11は竈を模した江戸在地系のミニチュアである。上部に円形の釜置き部、正面に焚口部がヘラで開口されている。板作り成形と推定され、上下別作りである。下部を中心に赤彩がみられる。

第241図12は京都系の土製人形である。三猿を模しており、右側の「見ざる」が欠失している。各個体が前後合わせの二枚型成形で、中実となっているが、手足は手捻り成形で貼り付けている。彩色が遺存している。

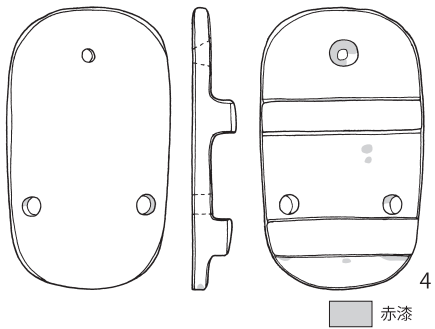
S K70



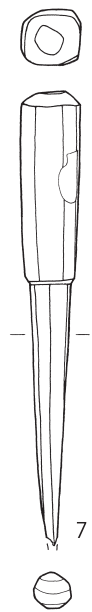
S K98



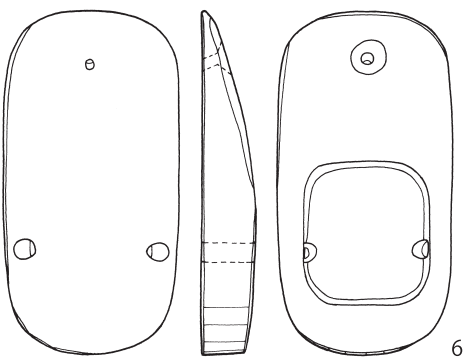
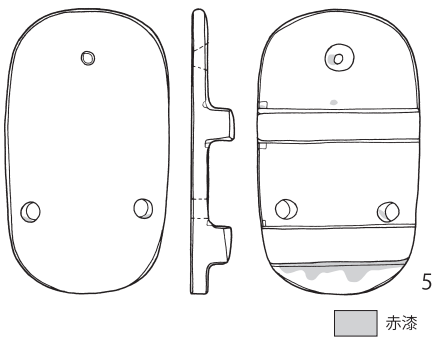
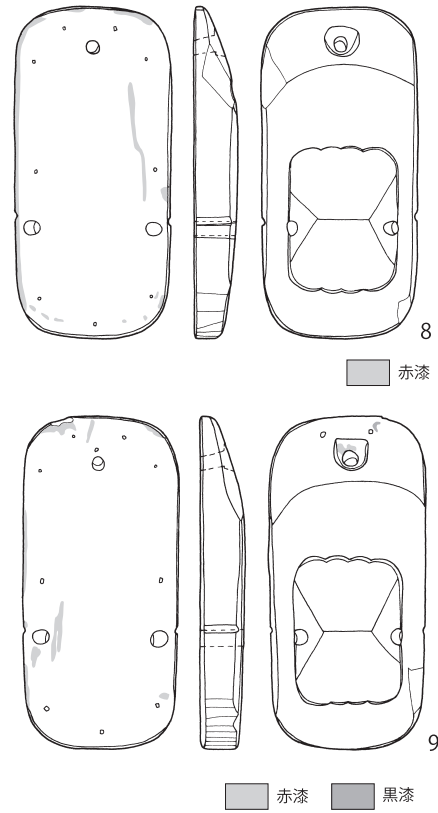
S K99



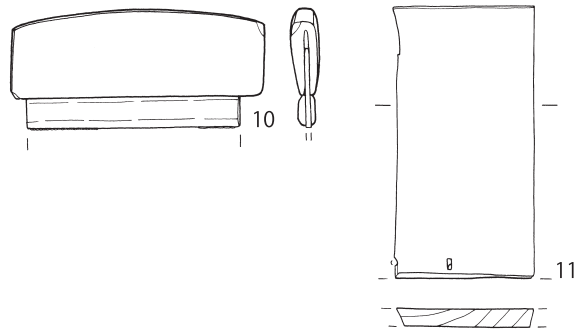
S K106



S K107



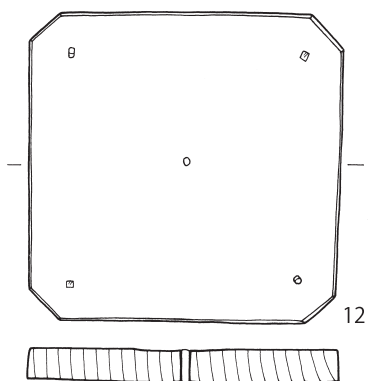
S K108



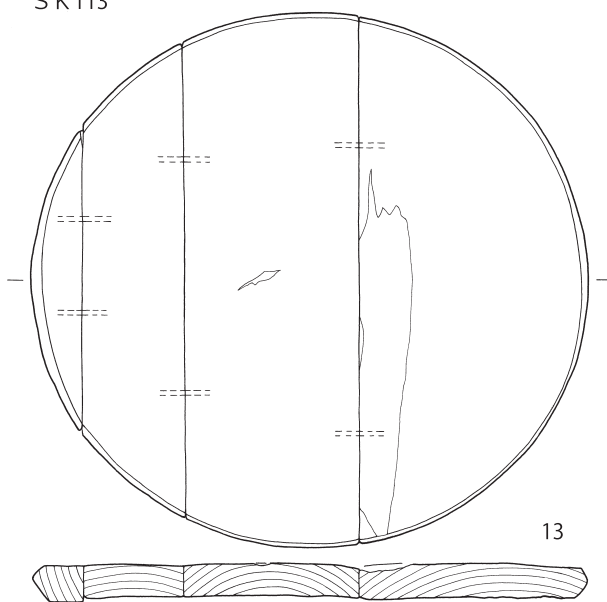
4~6・8・9 0 10cm 1/4 1~3・7・10・11 0 10cm 1/3

第 247 図 区画 AE 土壙出土遺物 (59)

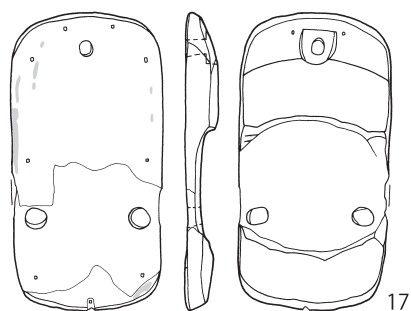
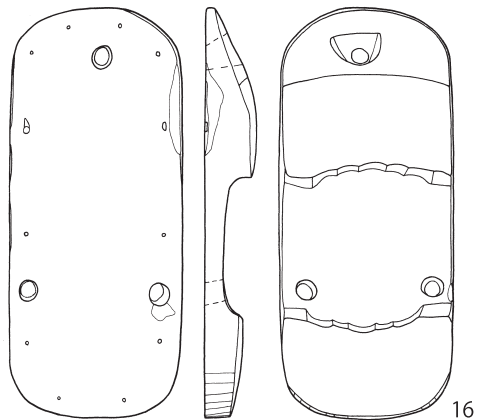
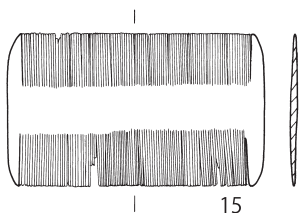
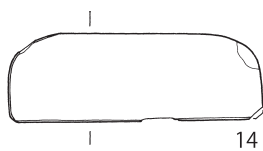
SK110



SK113

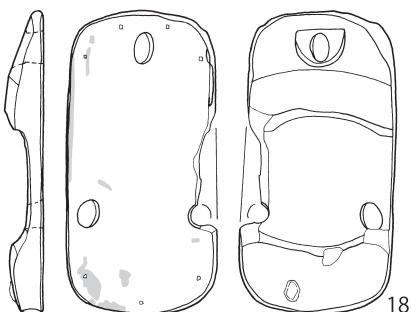


SK115

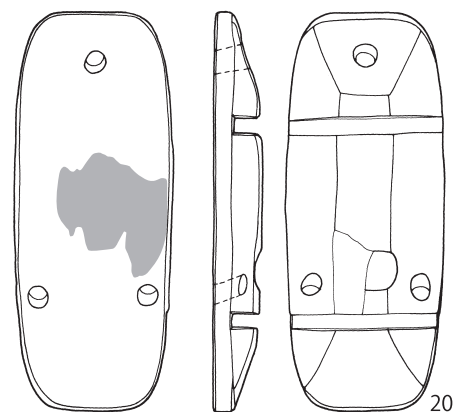


赤漆

SK116



赤漆



黒漆

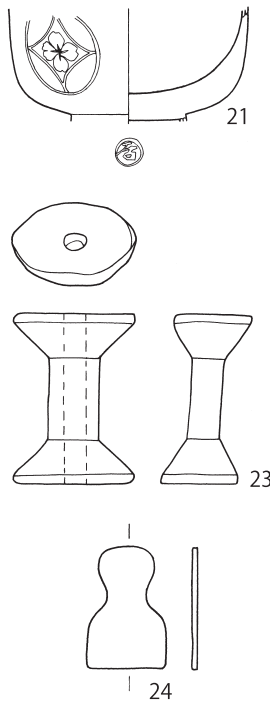
0 20cm 13 16

0 10cm 16~20 14

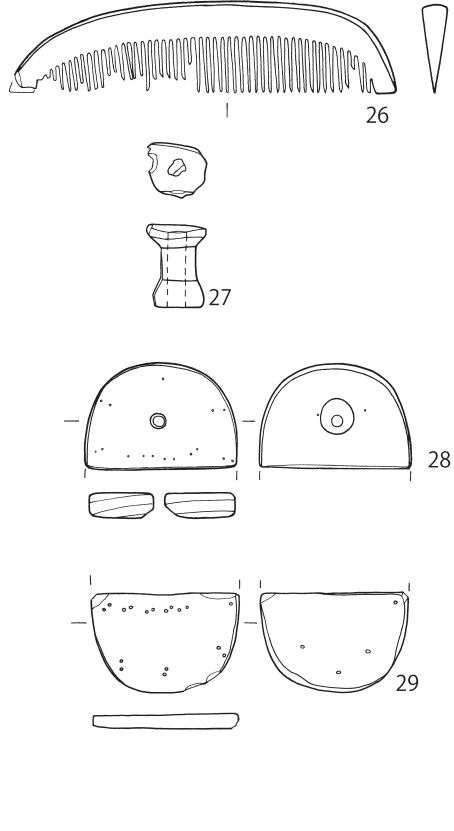
0 10cm 12・14・15 13

第 248 図 区画 AE 土壇出土遺物 (60)

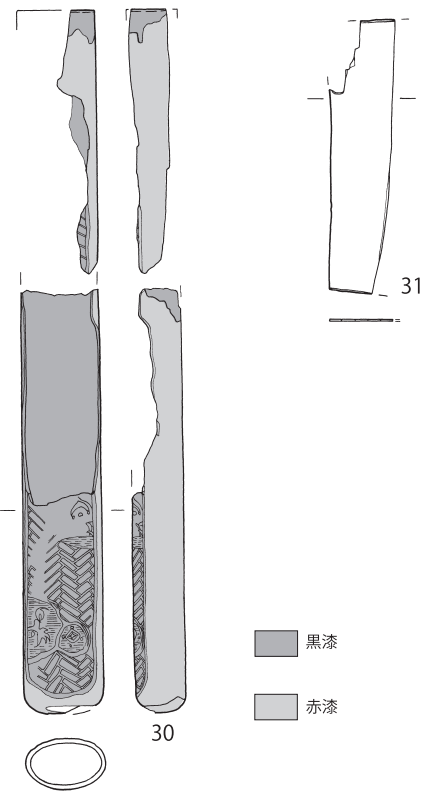
SK117



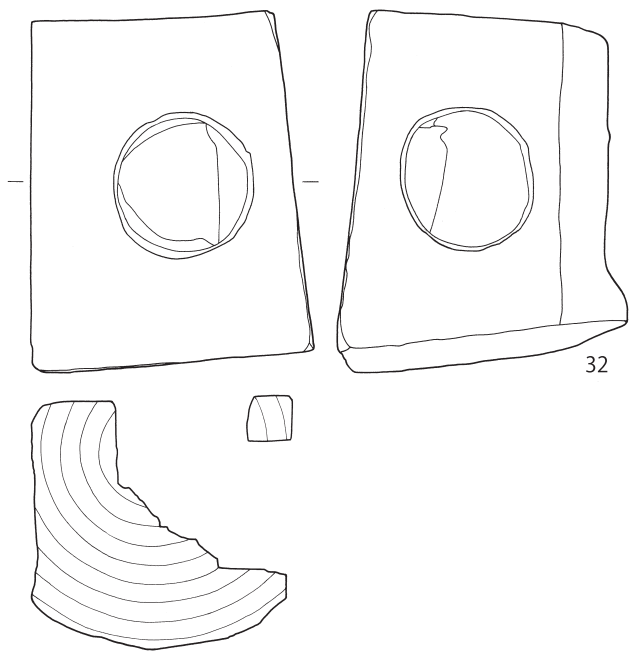
SK118



SK119



SK128

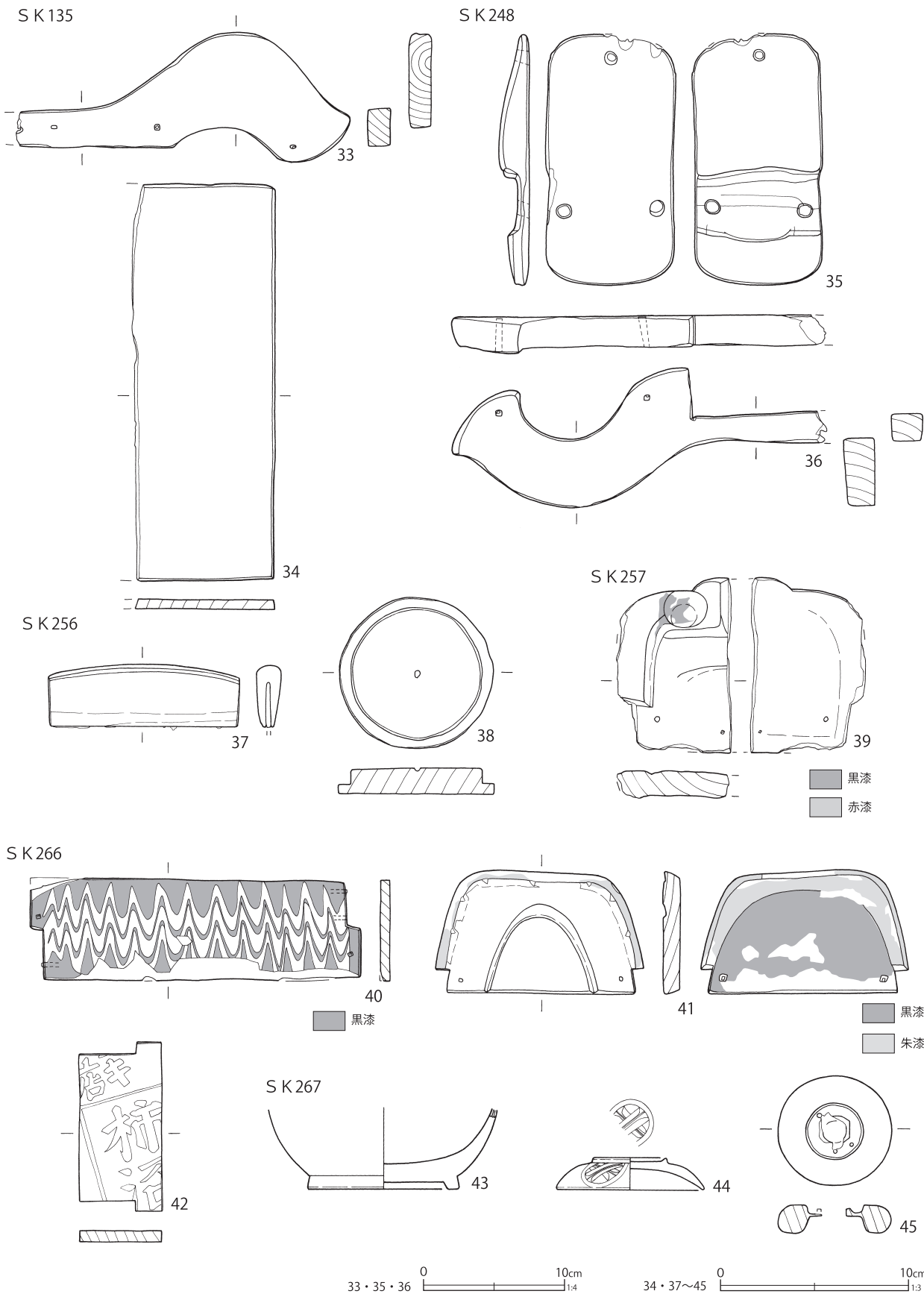


■ 黒漆
■ 赤漆

25・28・29・32 0 10cm 1:4

21~24・26・27・30・31 0 10cm 1:3

第 249 図 区画 AE 土壙出土遺物 (61)

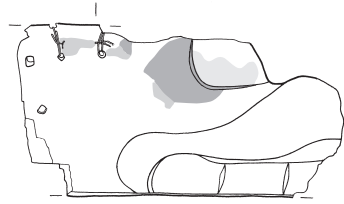


第 250 図 区画 AE 土壙出土遺物 (62)

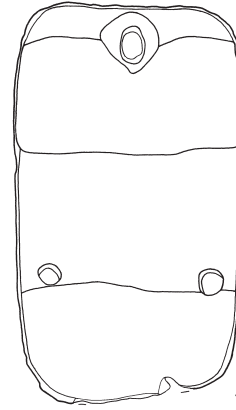
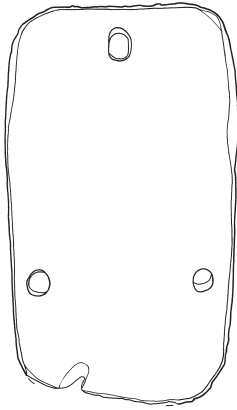
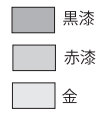
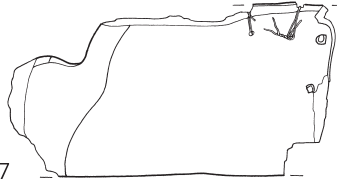
S K 267



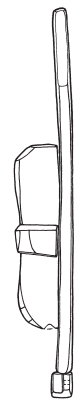
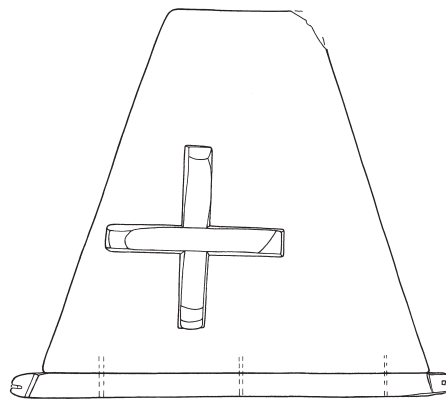
46



47

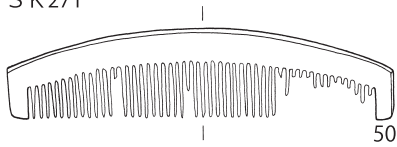


48



49

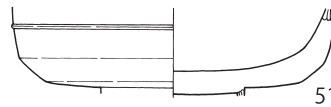
S K 271



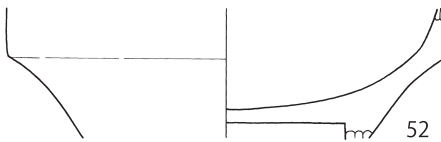
50



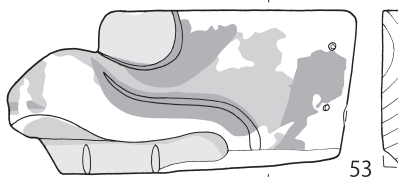
S K 302



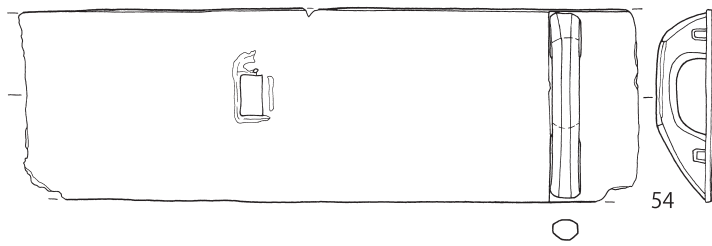
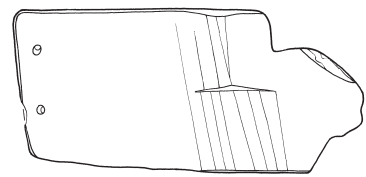
51



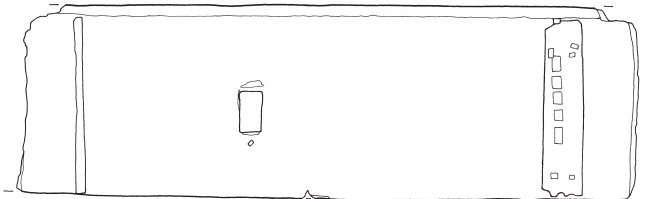
52



53



54

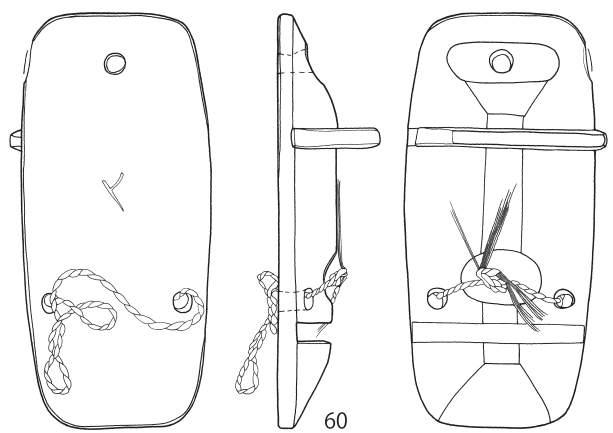
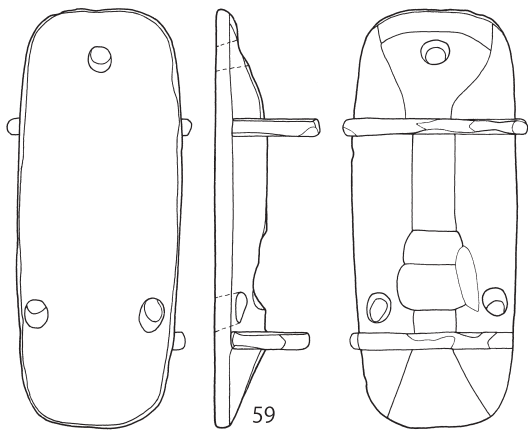
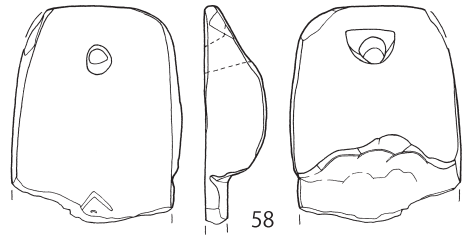
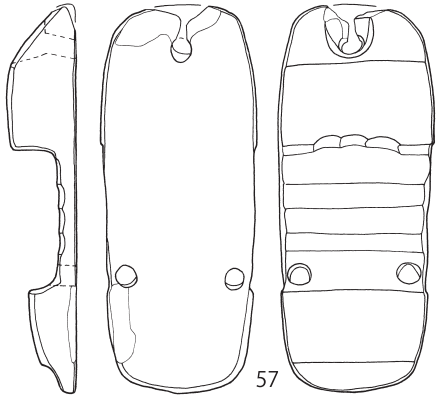
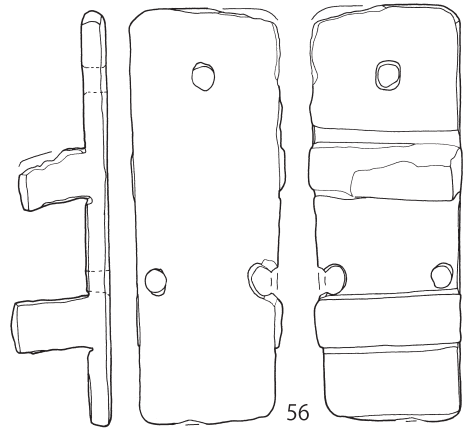
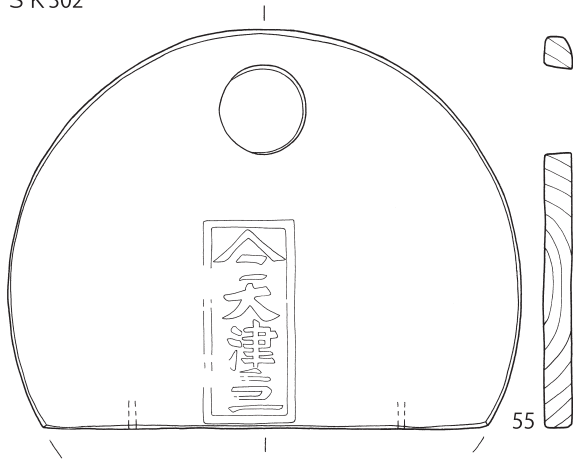


48・49・54 0 10cm 1/4

46・47・50~53 0 10cm 1:3

第 251 図 区画 AE 土壙出土遺物 (63)

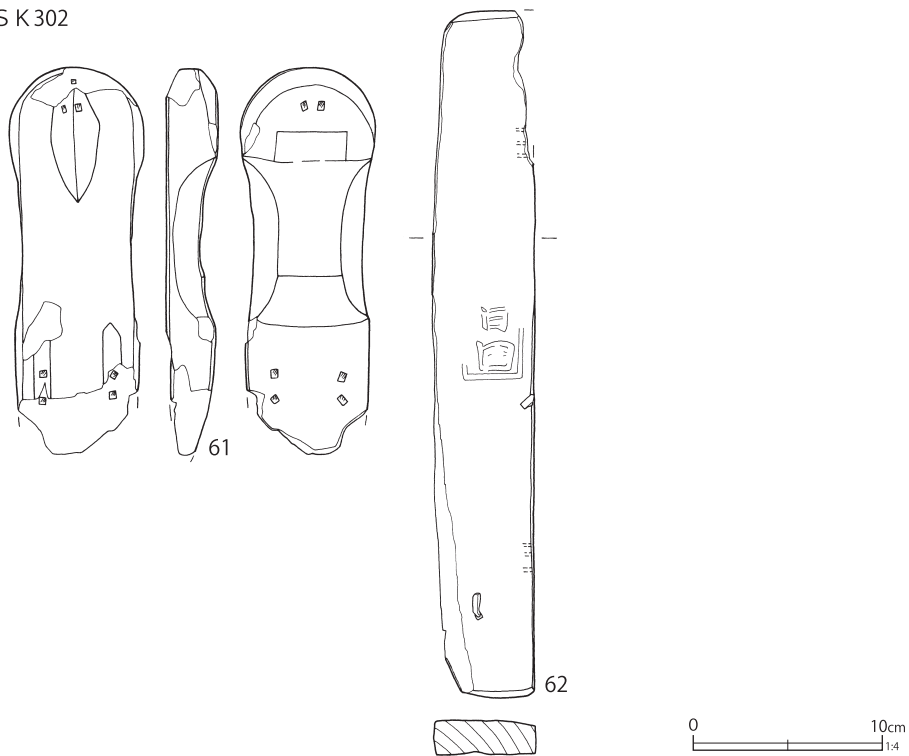
S K 302



0 10cm
1:4

第 252 図 区画 AE 土壙出土遺物 (64)

S K 302

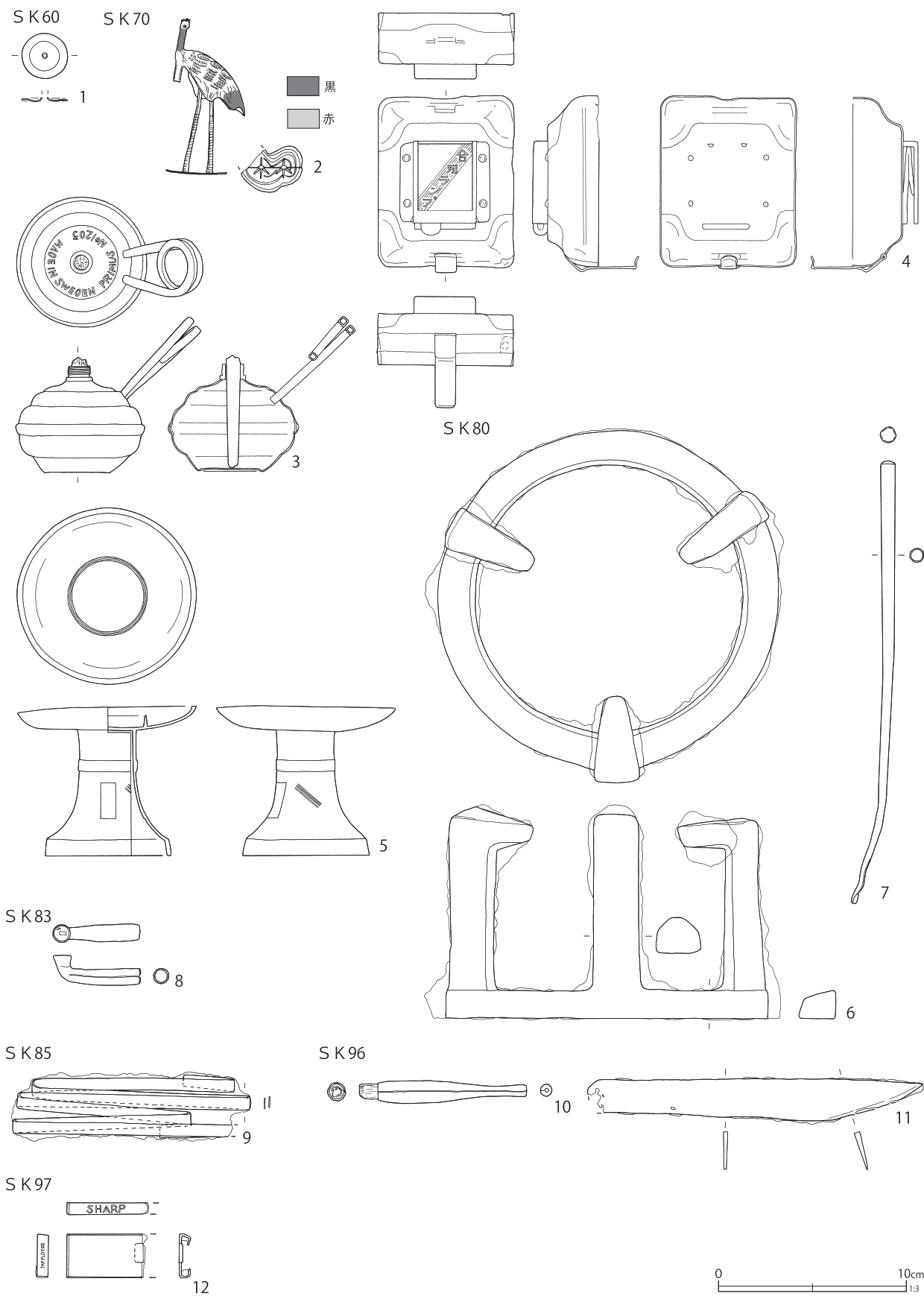


第 253 図 区画 AE 土壌出土遺物 (65)

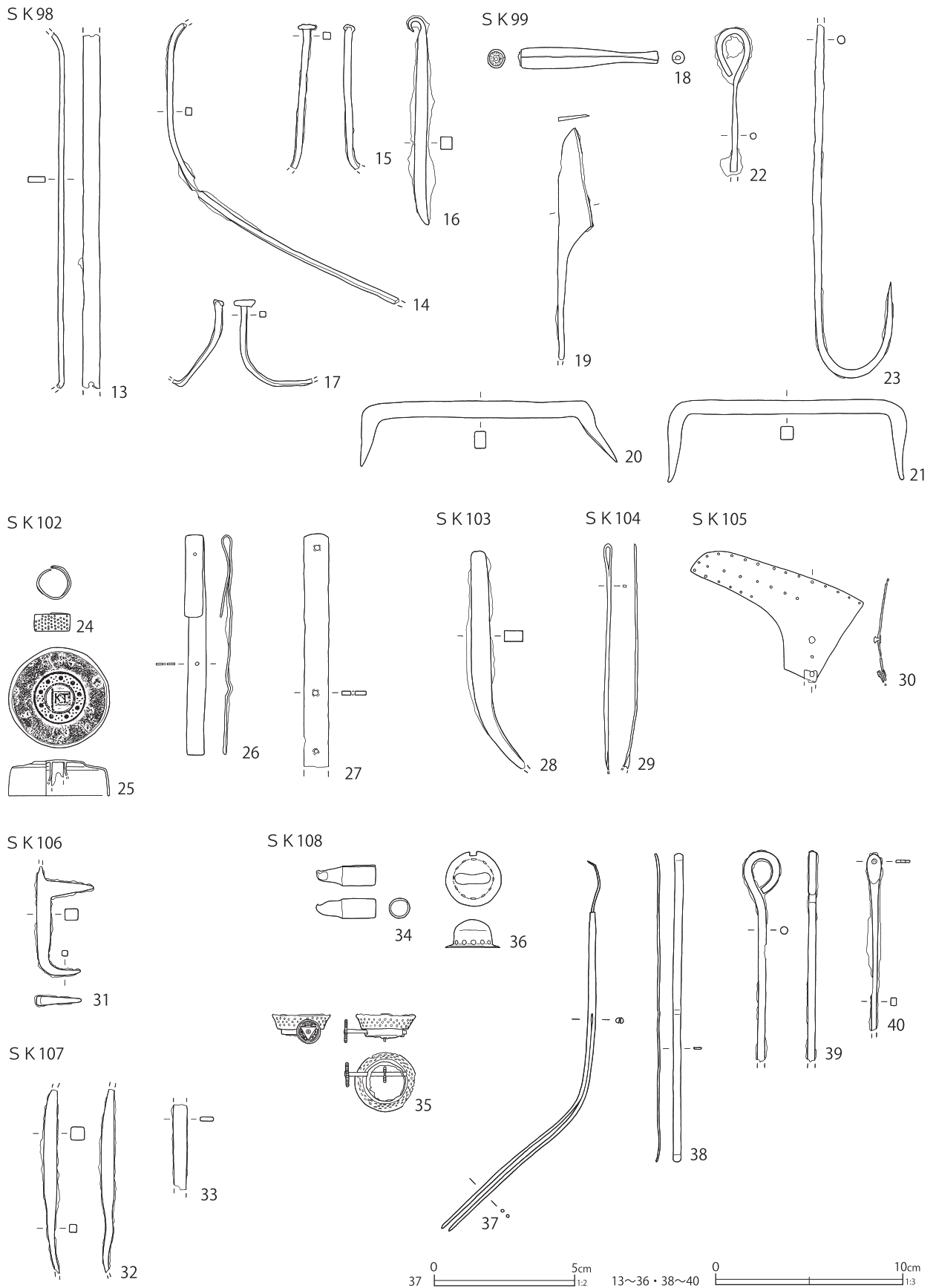
第 57 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (6) (第 247 ~ 253 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀蓋	—	つまみ径 (4.9)	—	—	[3.4]	—	横木取り	SK70	内面赤漆 外面黒漆 つまみ形非対称	
2	木製品	箱	[6.5]	18.3	0.5	—	—	—	板目	SK70	側板 全面黒漆 金の文字入	
3	木製品	木札	[13.6]	[3.3]	0.5	—	—	—	板目	SK98	表面プリント (N□)カ	
4	木製品	下駄	14.9	8.6	—	—	2.3	—	板目	SK99	連歯下駄 赤漆 5 と同一	
5	木製品	下駄	15.0	8.7	—	—	2.3	—	板目	SK99	連歯下駄 赤漆 4 と同一	
6	木製品	下駄	18.1	9.1	—	—	2.8	—	板目	SK99	刳り下駄	
7	木製品	栓	[18.0]	2.3	2.2	—	—	—	板目	SK106	先端削り 文字なし	
8	木製品	下駄	17.5	8.3	—	—	2.3	—	板目	SK107	刳り下駄 赤漆 表面の下地に墨書「けん」 表外周釘穴	144-18
9	木製品	下駄	17.5	8.2	—	—	2.4	—	板目	SK107	刳り下駄 赤朱漆 表面の下地に墨書「けん」 表外周鉄釘穴	144-18
10	木製品	櫛と鞆	10.0	4.6	1.2	—	—	—	歯柱目 鞆板目	SK108	鞆長さ 10.0 幅 3.4 厚さ 1.2 歯長さ [8.4] 幅 [3.1] 厚さ 0.2	
11	木製品	板	[10.7]	[5.4]	0.7	—	—	—	板目	SK108	表面墨書「□入口」	144-19
12	木製品	行灯	12.2	12.3	1.3	—	—	—	板目	SK110	中央に鉄 4ヶ所孔内木釘 2 残	
13	木製品	樽	42.5	44.5	2.9	—	—	—	板目	SK113	底板 片面墨書	152-6
14	木製品	櫛の鞆	10.0	3.4	0.8	—	—	—	柱目	SK115	15 とセット 鞆の圧痕あり	
15	木製品	櫛	10.2	6.0	0.3	—	—	—	板目	SK115	14 とセット	
16	木製品	下駄	21.6	9.2	—	—	2.7	—	板目	SK115	刳り下駄 表面墨書 表外周釘穴	145-1
17	木製品	下駄	15.7	8.0	—	—	1.7	—	板目	SK115	刳り下駄 表面に墨書「十六」もしくは「木 □」カ 赤漆 表外周木釘穴	145-2
18	木製品	下駄	16.0	8.0	—	—	2.0	—	板目	SK115	刳り下駄 赤漆 表外周木釘穴	
19	木製品	柄カ	26.0	[6.9]	1.7	—	—	—	板目	SK116		
20	木製品	下駄	21.1	8.4	—	—	[2.5]	—	板目	SK116	陰卯下駄 裏面中央以外黒漆	
21	木製品	漆椀	—	—	—	—	4.5	—	横木取り	SK117	内面赤漆 外面黒漆 赤で紋 高台内に赤 で「吉」	
22	木製品	箸箱	19.8	2.3	—	—	1.4	—	板目	SK117		

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
23	木製品	糸巻き	6.7	—	—	4.8	—	—	削出	SK117	中央に孔 孔径 0.9 cm	
24	木製品	不明品	4.8	3.2	0.2	—	—	—	板目	SK117		
25	木製品	木札	42.8	[2.1]	0.7	—	—	—	板目	SK117	表面墨書「埼玉県栗橋町」	145-5
26	木製品	櫛	(15.2)	3.6	1.0	—	—	—	榎目カ	SK118		
27	木製品	糸巻き	3.3	—	—	2.2	—	—	—	SK118	中央に孔 孔径 0.7 cm	
28	木製品	下駄	[5.5]	8.0	—	—	1.3	—	板目	SK118	八ッ折下駄 爪先部 表面に孔多数	
29	木製品	下駄	[5.2]	7.8	—	—	0.8	—	榎目	SK118	八ッ折下駄 踵部 表面上部金属付着 孔多数	
30	木製品	矢立	(27.7)	3.0	0.2	—	—	—	不明	SK119	外面黒漆の上に赤漆 網代模様他彫刻 内面黒漆 筒状	128-12
31	木製品	経木	10.7	[2.5]	0.04	—	—	—	榎目	SK119	表裏面墨書	145-14
32	木製品	継手	15.0	19.1	13.4	—	—	—	芯持材	SK128	L字状の孔	
33	木製品	不明品 (飾りカ)	9.2	[23.6]	1.6	—	—	—	板目	SK135		
34	木製品	板	21.0	[7.5]	0.5	—	—	—	板目	SK135	表裏面墨書 落書きカ 片面には花の咲いている木のような絵カ	145-7
35	木製品	下駄	17.7	9.0	—	—	2.1	—	板目	SK248	削り下駄	
36	木製品	不明品	7.2	[26.6]	2.2	—	—	—	板目	SK248	釘孔 2	
37	木製品	櫛の鞘	10.1	3.3	1.3	—	—	—	板目	SK256	鞘の中に櫛残存 櫛歯部欠損	
38	木製品	底板 ないし蓋	—	—	1.3	8.1	—	—	板目	SK256	中央に孔 (深さ 2 mm)	
39	木製品	獅子頭	9.2	[6.1]	1.4	—	—	—	板目	SK257	赤・黒漆で彩色	
40	木製品	側板	5.4	17.5	0.5	—	—	—	板目	SK266	表裏面黒漆 外面波状の文様	
41	木製品	獅子頭	6.4	11.1	0.9	—	—	—	板目	SK266	表面朱漆・墨書 裏面朱漆・黒漆 側面朱漆 表面接着剤のような付着物	130-6 147-17
42	木製品	容器	8.9	4.4	0.6	—	—	—	板目	SK266	側板 焼印「店キ 柿沼」	
43	木製品	漆椀	—	—	—	—	[4.2]	8.0	横木取り	SK267	内外面赤漆	
44	木製品	漆椀蓋	—	つまみ径 3.8		(7.7)	1.7	—	横木取り	SK267	内面赤漆 外面黒漆・3方向とつまみ内に金で紋	130-7
45	木製品	取っ手	—	—	1.5	6.0	—	—	板目	SK267	裏面炭化	
46	木製品	不明品	1.9	2.8	—	—	3.3	—	榎目	SK267	上面鉄釘残存	
47	木製品	獅子頭	6.7	[12.9]	0.8	—	—	—	板目	SK267	赤漆・黒漆・金 孔 4ヶ所内 2ヶ所に針金残る	130-8
48	木製品	下駄	21.2	12.2	—	—	2.9	—	板目	SK267	削り下駄	130-9
49	木製品	不明品	20.5	23.1	3.1	—	—	—	板目	SK267	十字型の材固定 木釘残存	
50	木製品	櫛	15.2	3.5	0.8	—	—	—	板目	SK271		
51	木製品	漆椀	—	—	—	—	[3.5]	—	横木取り	SK302	内外面黒漆	
52	木製品	漆鉢	—	—	—	—	[5.1]	—	横木取り	SK302	内面黒漆 外面赤漆 高台内黒漆	
53	木製品	獅子頭	6.5	13.8	1.8	—	—	—	板目	SK302	赤漆・黒漆・金 孔 2	130-12
54	木製品	湯桶	10.2	32.8	0.3	(10.4)	—	—	側板榎目 把手板目	SK302	側板、把手樹皮紐で固定後樹皮で覆う 内面底板接着痕 (漆)	
55	木製品	樽	—	—	1.4	27.1	—	—	板目	SK302	蓋 焼印「△」「大津屋」カ 孔 1 木釘残	
56	木製品	下駄	21.8	7.9	—	—	5.2	—	榎目	SK302	連歯下駄	
57	木製品	下駄	[20.5]	7.8	—	—	3.7	—	板目	SK302	削り下駄	
58	木製品	下駄	[11.4]	8.2	—	—	3.2	—	榎目	SK302	削り下駄 表面焼印	
59	木製品	下駄	22.1	8.6	—	—	5.5	—	榎目	SK302	陰卯下駄	
60	木製品	下駄	21.9	10.0	—	—	5.4	—	板目	SK302	陰卯下駄 焼印 鼻緒	
61	木製品	下駄	[20.4]	6.0	—	—	2.7	—	板目	SK302	無眼下駄	
62	木製品	板	36.2	5.4	1.9	—	—	—	板目	SK302	一部茶漆 側面木釘穴・鉄釘残 焼印	



第 254 図 区画 AE 土壙出土遺物 (66)

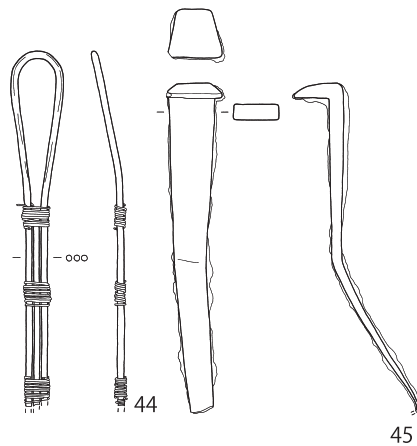
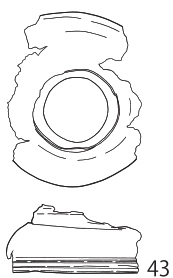
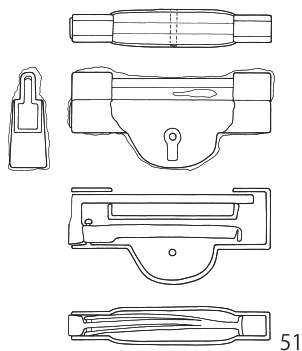
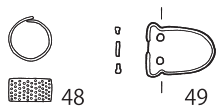


第 255 图 区画 AE 土壤出土遺物 (67)

SK110

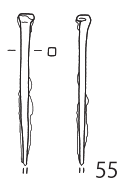
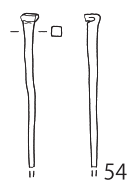
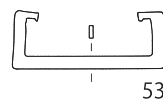
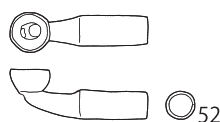


SK115

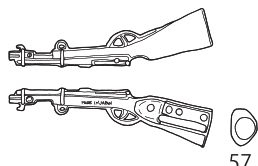
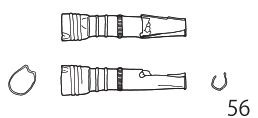


45

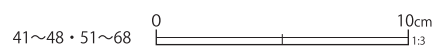
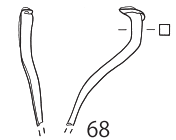
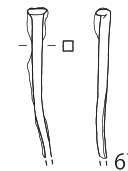
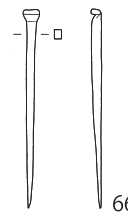
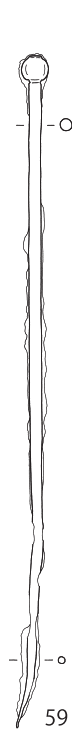
SK116



SK117

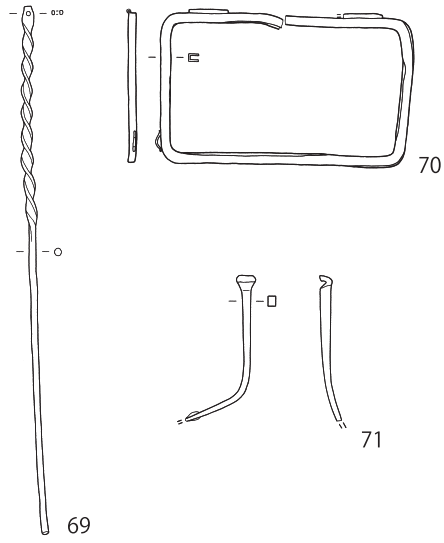


58

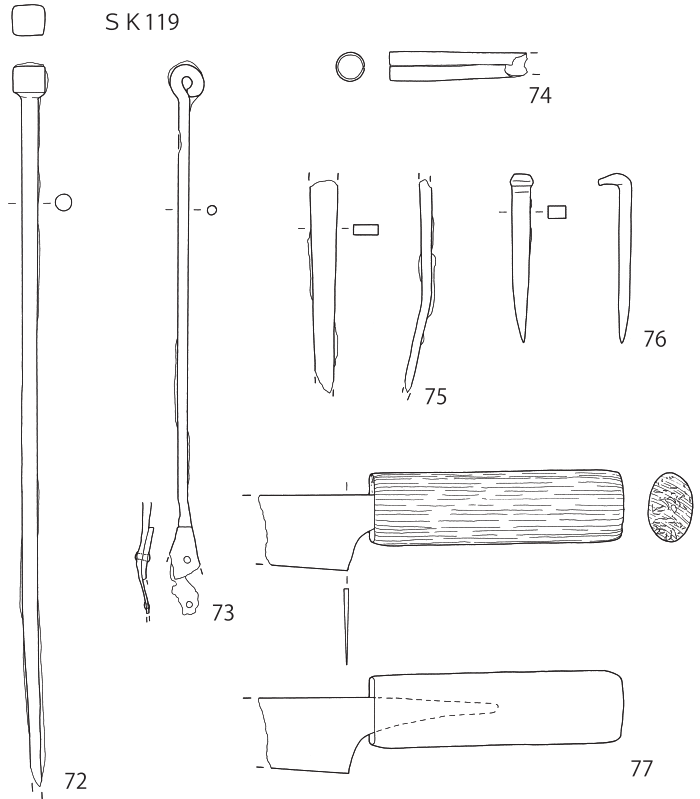


第 256 图 区画 AE 土壤出土遺物 (68)

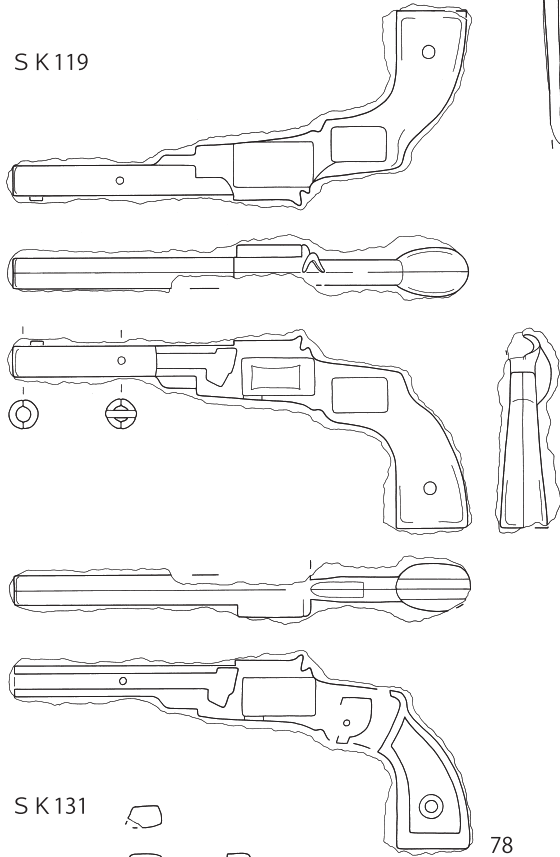
SK118



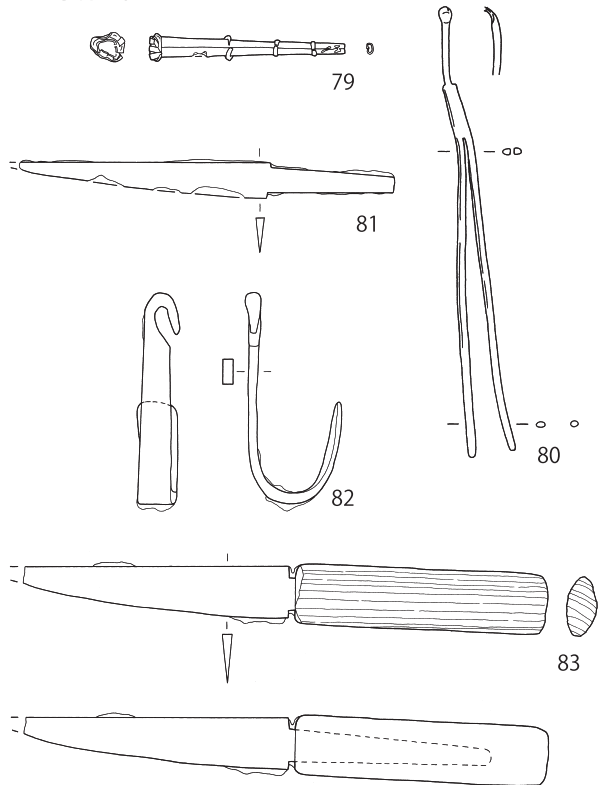
SK119



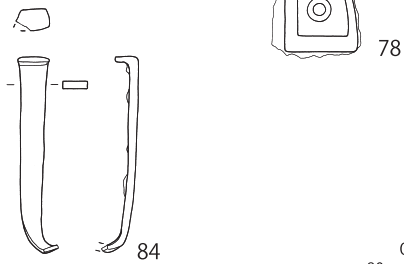
SK119



SK128



SK131

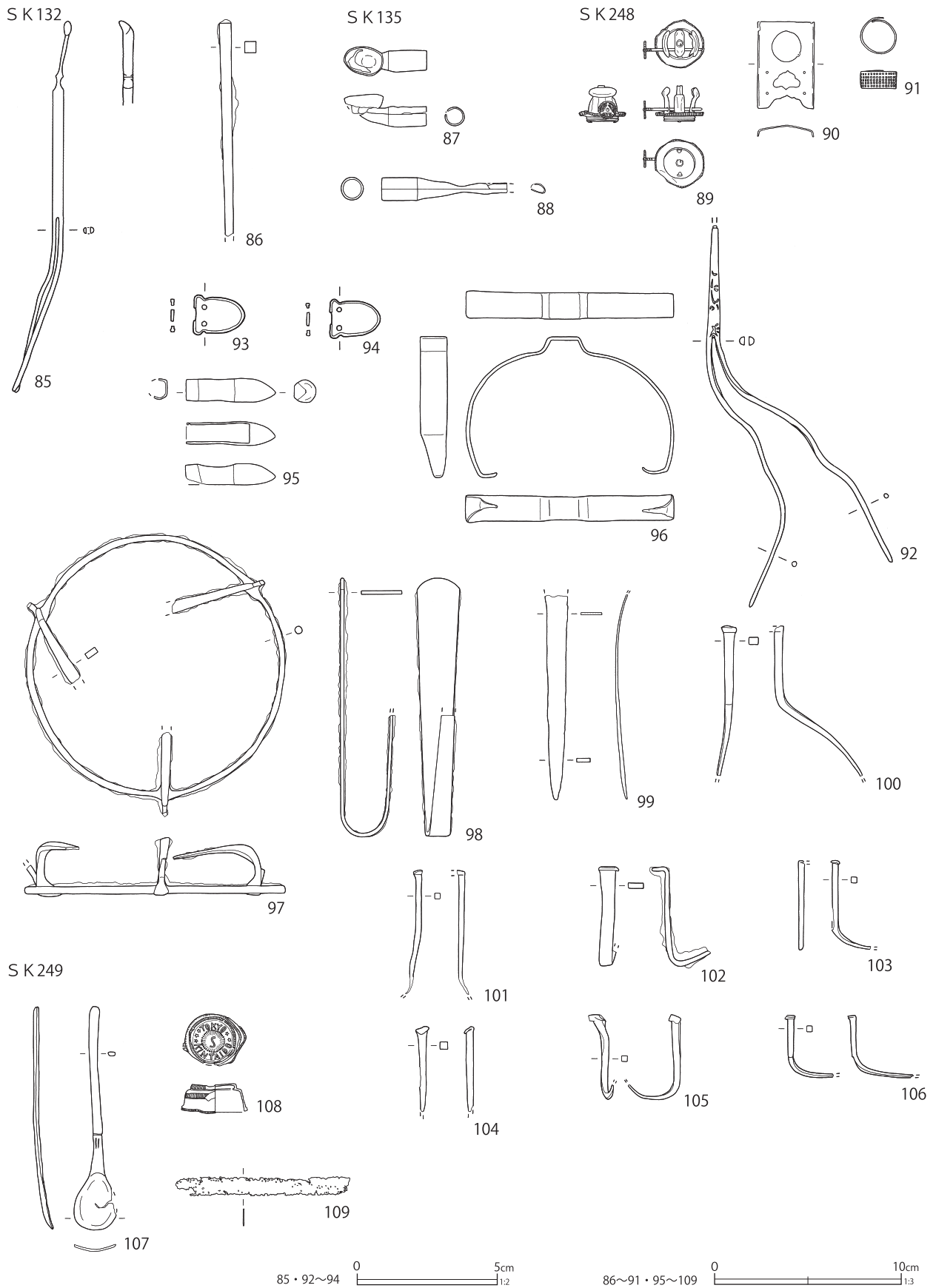


0 5cm 1:2

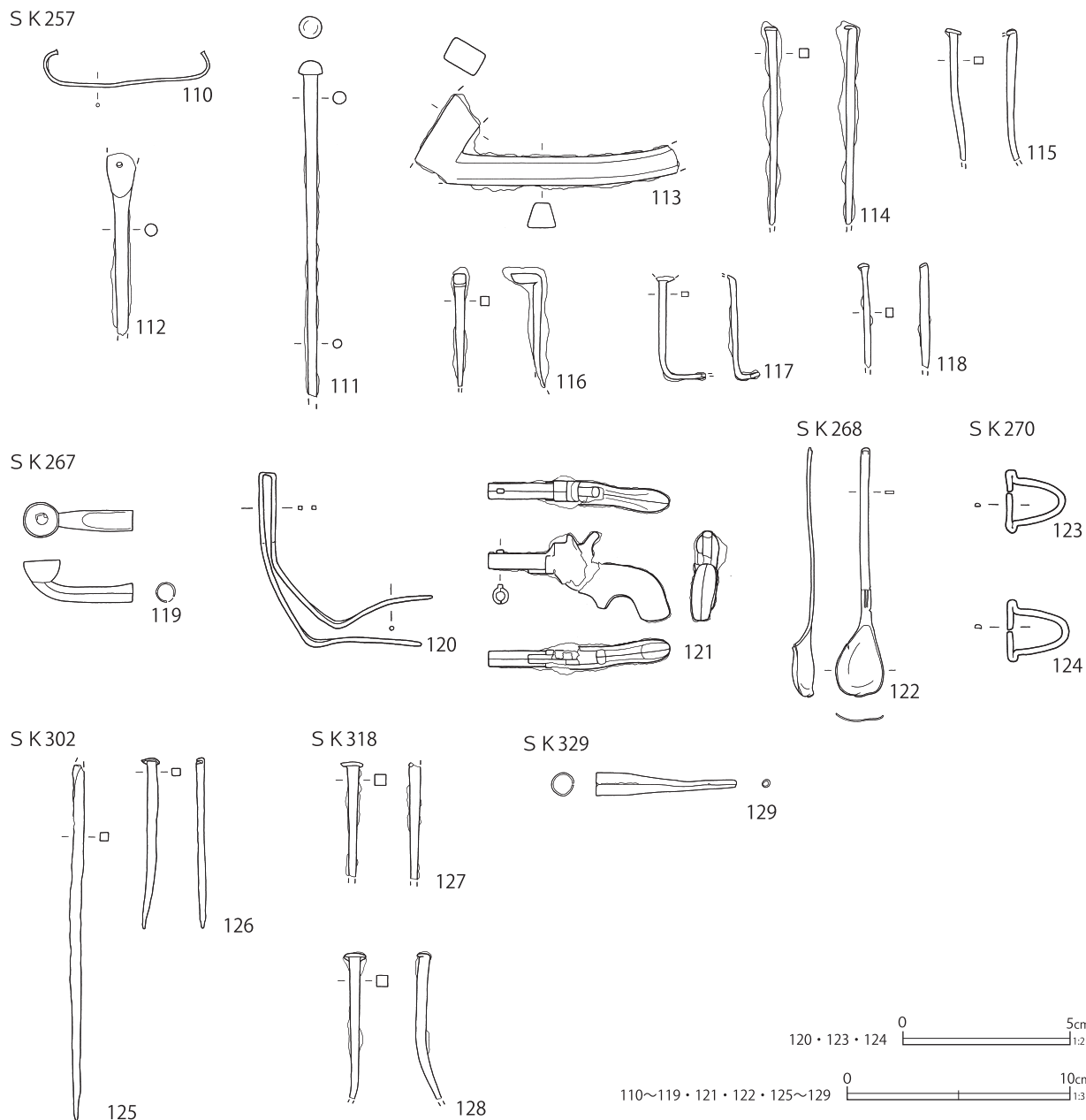
69~79 · 81~84

0 10cm 1:3

第 257 图 区画 AE 土壤出土遺物 (69)



第 258 图 区画 AE 土壤出土遺物 (70)



第259図 区画AE土壌出土遺物(71)

第241図15は犬を模した大型の江戸在地系人形である。前後合わせの二枚型成形で、中空である。底部、頭部は別づくりで、首元の接合部で欠損している。底部には白化粧がみられる。

第242図26は裸体の幼児を表現した人形で、所謂ぶら人形である。武家地・町人地・墓からの出土があることから、玩具や墓の副葬品として用いられ、御府内やその近郊のみに分布することが指摘されている(喜多2019)。前後合わせの二枚

型成形で、中空である。胎土中心部が灰色を呈している。別パーツの手足があり、本来は布もしくは紙で本体とつないだ可動式人形である。

軒瓦は江戸式に類似した文様を主体としており、中心弁は六枚(第243図1・5・6・12・第244図15・18・20・23・24)、四枚(第243図3・7~9・11・第244図19)、二枚(第244図17)におおむね分けることができる。第244図19は隅瓦で、栗橋宿での出土は稀である。22

第58表 区画AE土壌出土遺物観察表(7)(第254~259図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	燭台	径2.4 厚さ0.03 重さ1.2	SK60	燭台の蠟燭受け皿	
2	銅製品	玩具カ	縦8.3 横4.1 厚さ0.1 重さ19.8	SK70	丹頂鶴 赤・黒彩色	
3	銅製品	ランプ	本体:胴最大径7.0 高さ5.7 柄:長さ5.5 幅0.45 厚さ最大0.2 重さ64.6	SK70	バーナーヒーティングランプ 芯 残存「MAOE IN SWEON PRIMUS No1205」	
4	銅製品	ランプ	縦9.4 横7.2 高さ5.9 厚さ0.1 重さ73.3	SK70	蓋「合理ランプ」	
5	銅製品	茶台	口径9.5 器高8.0 底径6.7 厚さ0.2 重さ190.3	SK70	仏具の茶陶器の台	
6	鉄製品	五徳	径18.0 高さ10.9 厚さ1.9 重さ1,537.2	SK80		
7	銅製品	火箸カ	長さ23.6 幅0.7 厚さ0.08 重さ18.3	SK80	中空	
8	銅製品	煙管	長さ5.6 火皿径0.9 小口径0.8 重さ4.7	SK83	雁首	
9	鉄製品	不明	長12.6 幅0.6 厚さ0.03 重さ75.1	SK85	折りたたまれた細板状品	
10	銅製品	煙管	長さ7.9 小口径0.9 口付径0.6 重さ11.6	SK96	吸口 羅宇残存	
11	鉄製品	刃物	長さ17.7 刃長4.8 刃幅2.0 背幅0.3 重さ33.7	SK96	先端のみ刃部	
12	銅製品	不明	縦2.3 横[4.3] 厚さ0.1 重さ12.5	SK97	「SHARP」「TAPPLDFOR」	
13	鉄製品	不明	長さ[18.9] 幅0.9 厚さ0.3 重さ24.9	SK98		
14	鉄製品	不明	長さ[15.0] 幅0.3 厚さ0.4 重さ13.1	SK98		
15	鉄製品	釘	長さ[7.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.8	SK98		
16	鉄製品	不明	長さ11.1 幅0.6 厚さ0.7 重さ27.7	SK98		
17	鉄製品	釘	長さ4.6 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.9	SK98		
18	銅製品	煙管	長さ7.4 小口径0.9 口付径0.6 重さ10.9	SK99	吸口 内部羅宇残存	
19	鉄製品	握鋏	長さ[12.3] 刃幅1.7 背幅0.2 重さ1.0	SK99	片刃のみ残存	
20	鉄製品	鋏	長さ13.7 幅0.9 厚さ0.6 重さ53.8	SK99		
21	鉄製品	鋏	長さ12.8 幅0.7 厚さ0.7 重さ57.1	SK99		
22	鉄製品	不明	縦[7.7] 横1.7 厚さ0.3 重さ7.6	SK99	90と同一具カ	
23	鉄製品	不明	長さ[18.9] 厚さ0.4 重さ19.4	SK99	鉤金具カ	
24	銅製品	指貫	径1.8 高さ1.0 厚さ0.1 重さ2.3	SK102		
25	銅・鉄製品	ベルわん	径5.3 高さ1.9 重さ42.7	SK102	自転車の警音器	
26	銅製品	不明	長さ11.7 幅1.0 厚さ0.1 重さ11.2	SK102	銅細板 小孔2箇所	
27	鉄製品	不明	長さ[12.5] 幅1.3 厚さ0.2 重さ23.4	SK102	小孔3箇所	
28	鉄製品	釘	長さ[11.6] 幅1.0 厚さ0.6 重さ42.3	SK103		
29	銅製品	不明	長さ[12.0] 幅0.4 厚さ0.1 重さ1.8	SK104		
30	銅製品	不明	縦[5.2] 横9.3 厚さ0.1 重さ12.0	SK105	小孔縁取り 鋳留め痕あり	
31	鉄製品	不明	長さ[5.8] 幅0.7 厚さ0.6 重さ17.5	SK106		
32	鉄製品	不明	長さ[9.8] 幅0.7 厚さ0.7 重さ20.7	SK107		
33	鉄製品	不明	長さ[4.6] 幅0.7 厚さ0.2 重さ2.9	SK107		
34	銅製品	煙管	長さ3.2 小口径1.1 重さ5.9	SK108	雁首 火皿欠失	
35	銅製品	ランプ	縦[3.2] 横[3.8] 高さ[1.5] 重さ4.2	SK108	オイルランプの部品	
36	銅製品	ランプ	縦1.4 横2.9 厚さ0.03 重さ1.8	SK108	オイルランプの部品	
37	銅製品	簪	長さ13.2 幅0.3 厚さ0.1 重さ3.9	SK108		
38	銅製品	不明	長さ16.4 幅0.4 厚さ0.1 重さ4.4	SK108	鍍金残存	
39	鉄製品	不明	長さ[11.2] 厚さ0.4 重さ12.5	SK108		
40	鉄製品	不明	長さ[9.4] 幅0.8 厚さ0.4 重さ9.0	SK108	先端連結部 小孔あり	
41	銅製品	煙管	長さ6.7 小口径1.1 口付径1.0×0.1 重さ11.8	SK110	吸口 口付潰す	
42	銅製品	煙管	長さ7.7 小口径0.8 口付径0.6 重さ6.1	SK110	吸口	
43	銅製品	不明	縦[6.9] 横[5.3] 高さ[2.7] 厚さ0.1 重さ9.4	SK110		
44	鉄製品	不明	長さ[14.1] 幅2.1 厚さ0.3 重さ14.7	SK110	柄の一部 先端を輪にした鉄棒の 間に鉄棒を挟み、針金で3箇所を 固定する	
45	鉄製品	釘	長さ[13.1] 幅1.8 厚さ0.6 重さ57.2	SK110		
46	銅製品	煙管	長さ9.5 小口径1.1 口付径0.5 重さ13.5	SK115	吸口 炭化した羅宇が内部に残存	
47	銅製品	煙管	長さ8.4 口付0.5×0.4 重さ8.1	SK115	吸口 潰れて屈曲	
48	銅製品	指貫	径1.7 高さ0.9 厚さ0.1 重さ2.5	SK115		

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
49	銅製品	こはぜ	長さ 1.8 幅 1.5 厚さ 0.1 重さ 0.6	SK115	鍍金残存	
50	銅製品	簪	長さ 15.3 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 10.5	SK115	玉欠失 花・青海波文	
51	鉄製品	錠前	縦 3.8 横 8.0 幅 1.5 重さ 56.0	SK115	施錠状態	
52	銅製品	煙管	長さ 5.5 火皿径 1.6 小口径 1.1 重さ 11.3	SK116	雁首	
53	銅製品	把手	縦 2.3 横 6.0 厚さ 0.15 重さ 5.2	SK116		
54	鉄製品	釘	長さ [6.1] 幅 0.4 厚さ 0.9 重さ 3.2	SK116		
55	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.6	SK116		
56	銅製品	不明	長さ 4.9 幅 1.2 厚さ 0.1 重さ 2.8	SK117		
57	銅製品	鉛筆削り	長さ 8.1 高さ 2.3 幅 1.1 重さ 21.2	SK117	「MADE IN JAPAN」小銃形 刃欠失	
58	鉄製品	握鋏	長さ [14.9] 刃幅 1.9 背幅 0.3 重さ 50.1	SK117		
59	鉄製品	火箸	長さ 26.6 厚さ 0.5 重さ 34.9	SK117	箸頭球形	
60	鉄製品	火箸	長さ 23.3 厚さ 0.4 重さ 22.7	SK117	箸頭球形 61 と同一具	
61	鉄製品	火箸	長さ 23.3 厚さ 0.4 重さ 23.3	SK117	箸頭球形 60 と同一具	
62	鉄製品	火箸	長さ 22.8 厚さ 0.4 重さ 23.0	SK117	箸頭球形	
63	鉄製品	火箸	長さ [9.4] 厚さ 0.4 重さ 7.2	SK117	箸頭環形	
64	鉄製品	不明	長さ [9.6] 幅 1.3 厚さ 0.2 重さ 10.3	SK117		
65	鉄製品	釘	長さ [7.9] 幅 0.3 厚さ 0.4 重さ 3.6	SK117		
66	鉄製品	釘	長さ 7.9 幅 0.3 厚さ 0.4 重さ 4.4	SK117		
67	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 3.8	SK117		
68	鉄製品	釘	長さ [4.6] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 3.6	SK117		
69	銅製品	火箸	長さ [21.0] 厚さ 0.3 重さ 10.1	SK118	箸頭欠失 持ち代振り 連結孔あり	
70	銅製品	口金	縦 6.1 横 10.2 厚さ 0.04 重さ 12.2	SK118	鍍金あり	
71	鉄製品	釘	長さ [5.7] 幅 0.3 厚さ 0.4 重さ 3.6	SK118		
72	鉄製品	火箸	長さ [28.7] 厚さ 0.6 重さ 63.3	SK118	箸頭立方体	
73	鉄製品	不明	長さ [21.8] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 27.0	SK119	端部環形 一方の端部は紙留め連結	
74	銅製品	煙管	長さ [5.5] 小口径 1.1 重さ 8.6	SK119	吸口 口付側欠失	
75	鉄製品	楔	長さ [8.9] 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 16.0	SK119		
76	鉄製品	釘	長さ 6.7 幅 0.7 厚さ 0.5 重さ 11.6	SK119		
77	鉄製品	包丁	長さ [14.5] 刃長 [3.5] 刃幅 3.0 背幅 0.2 重さ 38.3	SK119	木柄付	
78	鉄製品	玩具	長さ 18.0 高さ 7.7 幅 1.9 銃口径 1.2 重さ 154.8	SK119	ピストル玩具	
79	銅製品	煙管	長さ 7.7 小口径 1.3 × 1.1 口付径 0.4 × 0.3 重さ 4.0	SK128	吸口	
80	銅製品	簪	長さ 11.9 幅 0.5 厚さ 0.2 重さ 5.4	SK128		
81	鉄製品	刀子	長さ [14.8] 刃長 [9.8] 刃幅 1.4 背幅 0.3 重さ 12.3	SK128		
82	鉄製品	掛金具	長さ 8.2 幅 0.4 厚さ 1.0 重さ 27.5	SK128		
83	鉄製品	包丁	長さ [20.8] 刃長 [10.5] 刃幅 1.9 背幅 0.4 重さ 46.4	SK128	木柄付	
84	鉄製品	釘	長さ [7.8] 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 11.9	SK131		
85	銅製品	簪	長さ 13.3 幅 0.4 厚さ 0.2 重さ 8.4	SK132		
86	鉄製品	不明	長さ [11.4] 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 12.9	SK132		
87	銅製品	煙管	長さ 4.4 火皿径 2.1 × 1.5 小口径 1.0 重さ 4.0	SK135	雁首	
88	銅製品	煙管	長さ [6.8] 小口径 1.2 重さ 7.5	SK135	吸口	
89	銅製品	ランプ	縦 2.6 横 3.3 高さ 2.0 重さ 3.7	SK248	オイルランプの部品	
90	銅製品	飾金具	縦 4.6 横 3.0 厚さ 0.1 重さ 5.4	SK248		
91	銅製品	指貫	径 2.0 × 1.9 高さ 0.9 厚さ 0.1 重さ 3.8	SK248		
92	銅製品	簪	長さ [13.6] 幅 0.5 厚さ 0.3 重さ 8.4	SK248	玉欠失 大きく歪む	
93	銅製品	こはぜ	長さ 1.8 幅 1.4 厚さ 0.1 重さ 0.8	SK248	鍍金残存	
94	銅製品	こはぜ	長さ 1.8 幅 1.4 厚さ 0.1 重さ 0.7	SK248	鍍金残存	
95	鉄製品	葉莢	長さ 4.8 径 1.2 重さ 12.6	SK248		
96	鉄製品	提灯金具	縦 1.4 横 11.1 高さ 7.5 厚さ 0.2 重さ 22.2	SK248		
97	鉄製品	五徳	径 14.0 高さ 2.8 厚さ 0.4 重さ 63.7	SK248		
98	鉄製品	不明	長さ [13.9] 幅 2.2 厚さ 0.2 重さ 28.5	SK248		
99	鉄製品	不明	長さ 10.9 幅 1.1 厚さ最大 0.2 重さ 7.6	SK248		

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
100	鉄製品	釘	長さ [8.0] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 9.3	SK248		
101	鉄製品	釘	長さ [6.6] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.2	SK248		
102	鉄製品	釘	長さ [5.3] 幅 0.8 厚さ 0.3 重さ 7.6	SK248		
103	鉄製品	釘	長さ [4.7] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.1	SK248		
104	鉄製品	釘	長さ [4.5] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 2.3	SK248		
105	鉄製品	釘	長さ [4.5] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 5.2	SK248		
106	鉄製品	釘	長さ [3.3] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.4	SK248		
107	銅製品	匙	長さ 11.9 幅 [2.2] 厚さ 0.1 重さ 10.5	SK249		
108	銅製品	キャップ	縦 [2.7] 横 3.5 高さ 1.5 厚さ最大 0.2 重さ 17.9	SK249	「TOKYO KINTAIDO」	
109	銅製品	不明	縦 [0.9] 横 [9.3] 厚さ 0.02 重さ 0.5	SK249	鍍金残存	
110	銅製品	把手	縦 1.7 横 7.4 厚さ 0.1 重さ 2.6	SK257	変形	
111	鉄製品	火箸	長さ [15.0] 厚さ 0.6 重さ 20.4	SK257	箸頭半球形	
112	鉄製品	不明	長さ [8.1] 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 11.5	SK257	先端連結部 小孔あり	
113	鉄製品	火格子カ	縦 [4.1] 横 [11.9] 厚さ 1.1 重さ 90.1	SK257		
114	鉄製品	釘	長さ [8.8] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 8.1	SK257		
115	鉄製品	釘	長さ [5.9] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 3.6	SK257		
116	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 7.0	SK257		
117	鉄製品	釘	長さ [4.6] 幅 0.3 厚さ 0.2 重さ 1.9	SK257		
118	鉄製品	釘	長さ [4.7] 幅 0.3 厚さ 0.4 重さ 2.2	SK257		
119	銅製品	煙管	長さ 4.9 火皿径 1.5 小口径 0.9 重さ 4.9	SK267	雁首	
120	銅製品	簪	長さ 5.2 幅 0.5 厚さ 0.1 重さ 4.0	SK267		
121	鉄製品	玩具	長さ 8.2 高さ 3.0 幅 1.3 銃口径 0.7 重さ 29.9	SK267	ピストル玩具	
122	銅製品	匙	長さ 11.2 幅 2.1 厚さ 0.03 重さ 7.6	SK268		
123	銅製品	こはぜ	長さ 1.8 幅 1.9 厚さ 0.1 重さ 0.7	SK270	鍍金残存	
124	銅製品	こはぜ	長さ 1.8 幅 1.8 厚さ 0.1 重さ 0.7	SK270	鍍金残存	
125	鉄製品	火箸	長さ [16.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 12.7	SK302		
126	鉄製品	釘	長さ 7.6 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 3.9	SK302		
127	鉄製品	釘	長さ [5.2] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 3.8	SK318		
128	鉄製品	釘	長さ [6.5] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 5.0	SK318		
129	銅製品	煙管	長さ 6.5 小口径 1.0 口付径 0.3 重さ 3.7	SK329	吸口	

は軒棧瓦で、欠失部が著しく摩耗しており、転用されていると考えられる。この種の転用は研具等の可能性が考えられるが実態は不明である。

第 246 図 39 は棧瓦である。端面に刻印「○」がみられる。胎土は角閃石を砂質である。

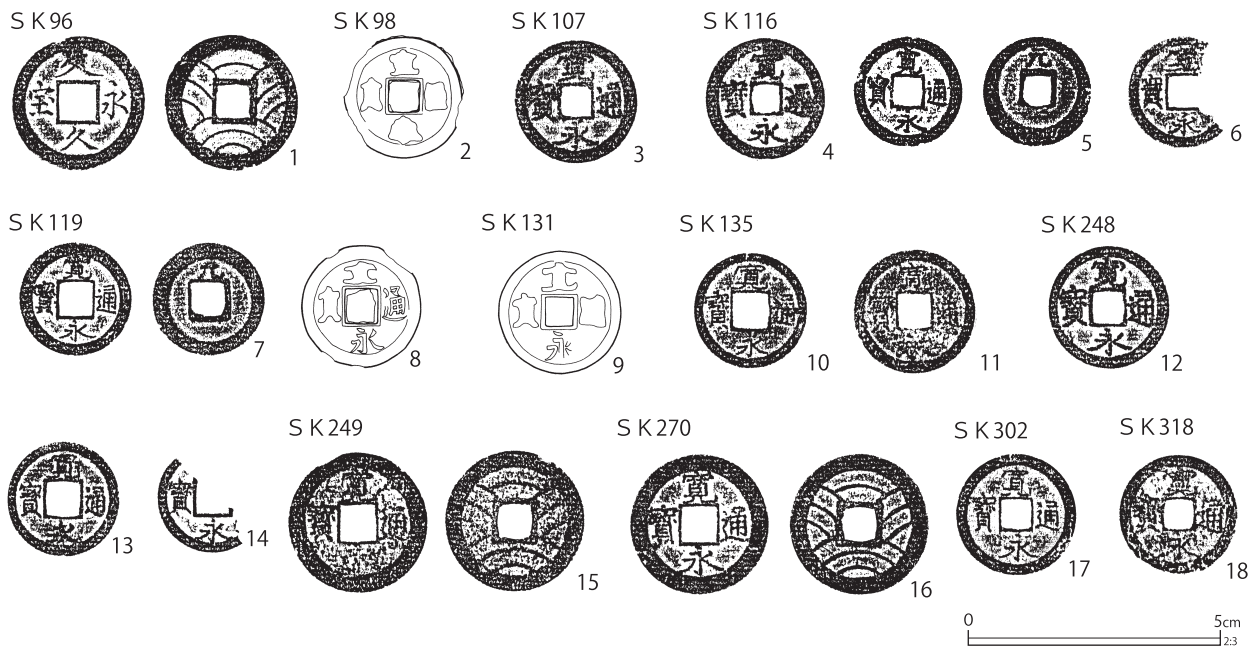
第 249 図 28・29 は同一個体の八ッ折下駄で、栗橋宿での出土は稀である。28 は爪先部、29 は踵部で、表面に多数の細かな孔がみられ、踵上部に金属が付着する。30 は矢立である。内面は黒漆、外面は黒漆の上に赤漆が塗られている。細かな彫刻状の文様で、薄く作られ、極めて丁寧な作りである。第 251 図 48 は削り下駄で、通常よりかなり幅広い。47・53 は獅子頭で、直接的な重複のない別遺構から出土しているが、左右それぞれが

半欠状態であることから同一個体の可能性が推定される。

第 256 図 50 は銅製の簪である。細かな花と青海波文が施文される。飾りの玉は欠失している。

51 は鉄製の錠前である。近世以降に特徴的な回転鍵型錠（合田 2009）で、施錠状態となっている。内部は軸が三又に分かれたバネ構造である。

第 257 図 78 は鉄製のピストル玩具である。類似品が栗橋関所番士屋敷跡の加藤家盛土から出土（埼玉文 2018a）しており、1890 年にアメリカのシェパード社が製造した「アンティーク・キャップガン」と評価されている（福田・瀧瀬 2020）。番士屋敷跡出土のキャップガンと同様に、表裏の半身を合わせ、バレルの中央を留めている。グリ



第 260 図 区画 AE 土壌出土遺物 (72)

第 59 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (8) (第 260 図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 27.0 厚さ 1.4 重さ 3.6	SK96	文久永寶	
2	鉄製品	銭貨	径 23.8 厚さ 1.3 重さ 1.7	SK98	寛永通寶 (新)	
3	銅製品	銭貨	径 24.8 厚さ 1.1 重さ 3.4	SK107	寛永通寶 (古)	
4	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.3 重さ 3.7	SK116	寛永通寶 (古)	
5	銅製品	銭貨	径 21.6 厚さ 1.5 重さ 2.0	SK116	寛永通寶 (新) 背元	
6	銅製品	銭貨	径 22.1 厚さ 0.9 重さ [1.3]	SK116	寛永通寶 (新) 1/3 欠	
7	銅製品	銭貨	径 22.5 厚さ 1.0 重さ 1.9	SK119	寛永通寶 (新) 背元	
8	鉄製品	銭貨	径 23.7 厚さ 1.4 重さ 3.4	SK119	寛永通寶 (新)	
9	銅製品	銭貨	径 23.7 厚さ 1.0 重さ 2.5	SK131	寛永通寶 (新)	
10	銅製品	銭貨	径 22.7 厚さ 1.4 重さ 2.6	SK135	寛永通寶 (新)	
11	銅製品	銭貨	径 24.8 厚さ 1.2 重さ 2.6	SK135	寛永通寶 (新)	
12	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.2 重さ 3.4	SK248	寛永通寶 (古)	
13	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.0	SK248	寛永通寶 (新)	
14	銅製品	銭貨	径 21.4 厚さ 1.0 重さ [0.7]	SK248	寛永通寶 (新) 半欠	
15	銅製品	銭貨	径 28.0 厚さ 1.2 重さ 4.5	SK249	寛永通寶 (新) 11 波	
16	銅製品	銭貨	径 28.0 厚さ 1.1 重さ 4.2	SK270	寛永通寶 (新) 11 波	
17	銅製品	銭貨	径 24.3 厚さ 1.4 重さ 3.6	SK302	寛永通寶 (新)	
18	銅製品	銭貨	径 24.0 厚さ 1.4 重さ 3.0	SK318	寛永通寶 (古)	

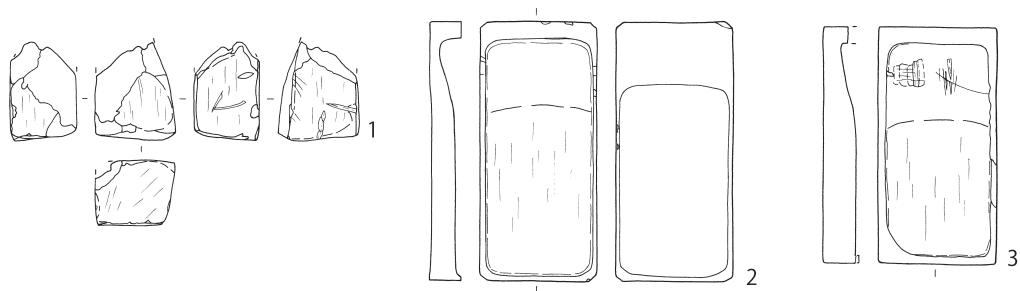
ツプエンド部分も同じように留めていると考えられる。一見すると実銃に見えるが、実銃とは内部構造が異なるため注意を要したい。

第 261 図 9 は流紋岩製砥石である。深い溝状の研ぎ痕が四面にみられ横断面が「×」状を呈する。同様の砥石が第 4 地点第 1 号土壌 (『栗橋宿跡Ⅱ』) で複数個体がまとまって出土している。

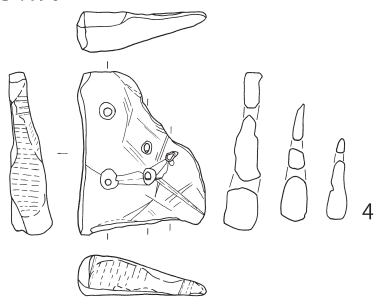
使用痕の形状からノミ状の工具を研いだと推定され、使用痕の形状が特殊なものであることから、職人系職種と関連がある遺物と推察される。

第 263 図 34 は凝灰岩製の砥石である。正面に「正一位 / 稻荷大神」、背面に「神口天？」の刻書が刻まれている。奉納された砥石と考えられる。第 6 地点の 18 世紀末から 19 世紀初頭頃に比定

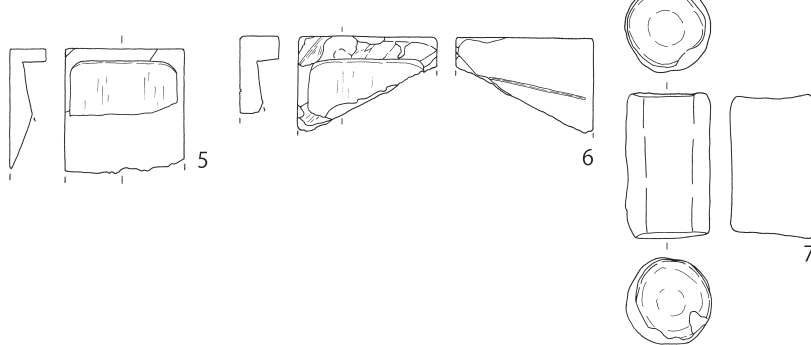
SK70



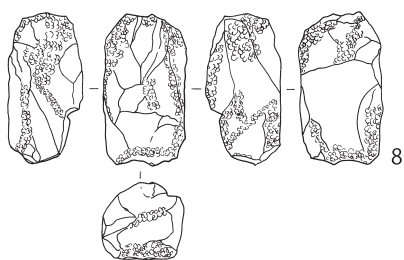
SK96



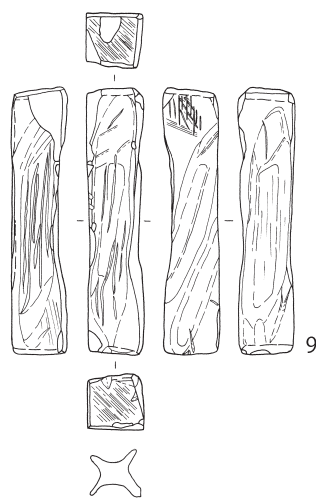
SK97



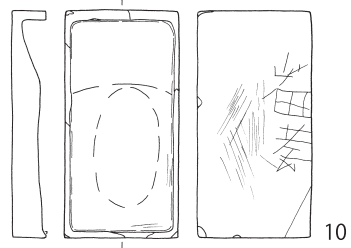
SK104



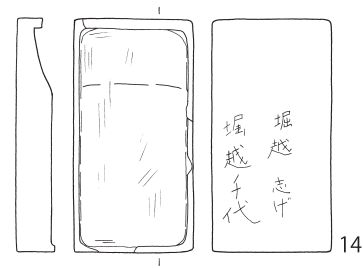
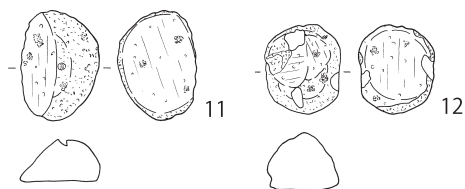
SK106



SK113



SK119



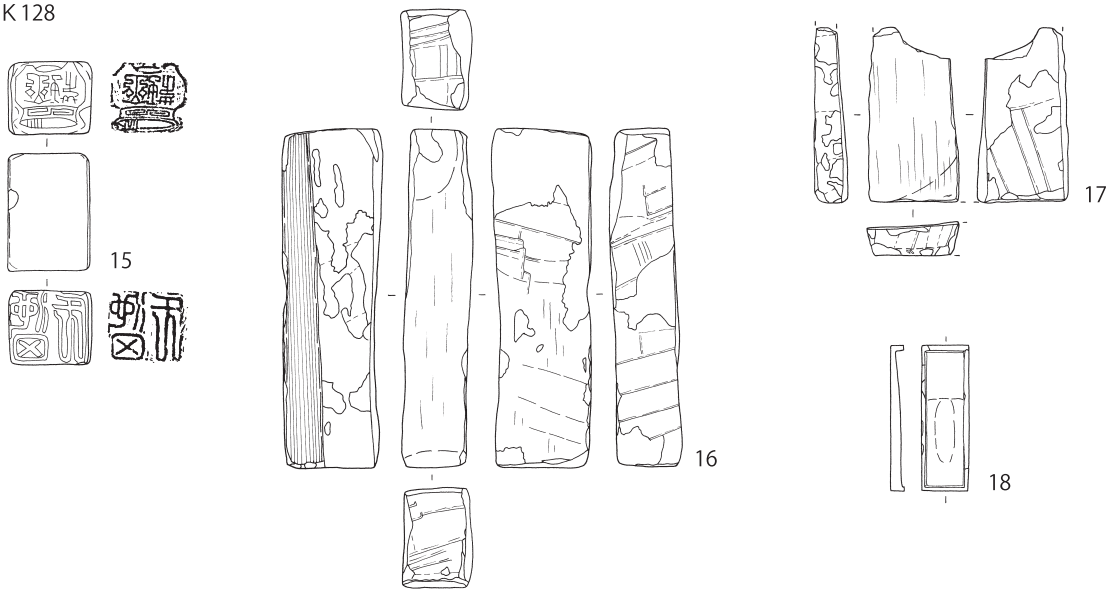
0 10cm 1:3

0 5cm 1:2

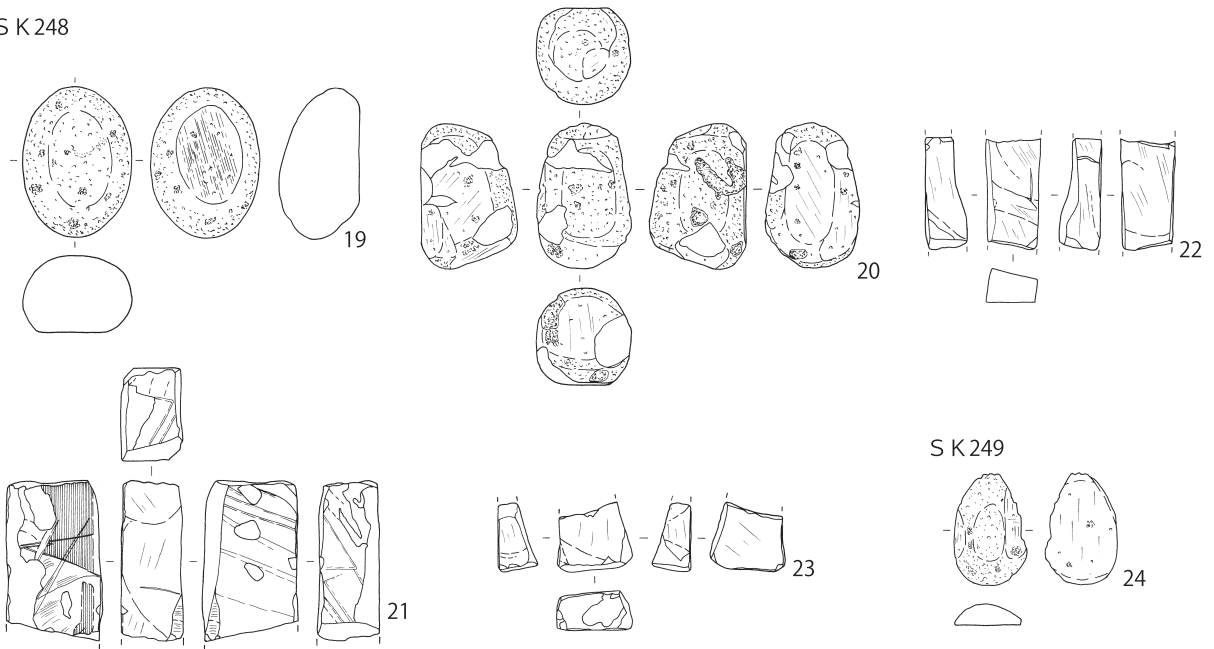
0 10cm 1:4

第 261 图 区画 AE 土壙出土遺物 (73)

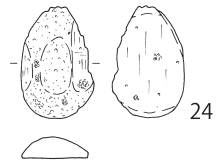
S K 128



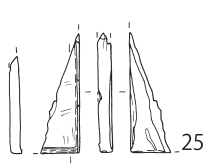
S K 248



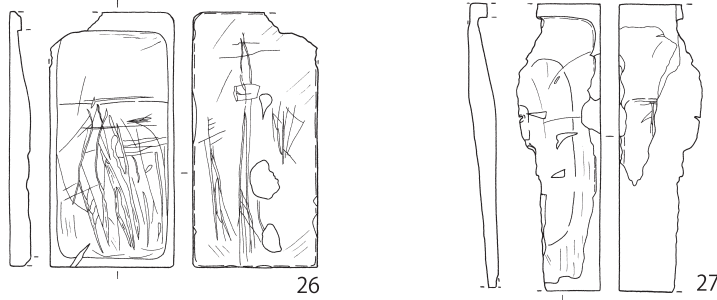
S K 249



S K 256



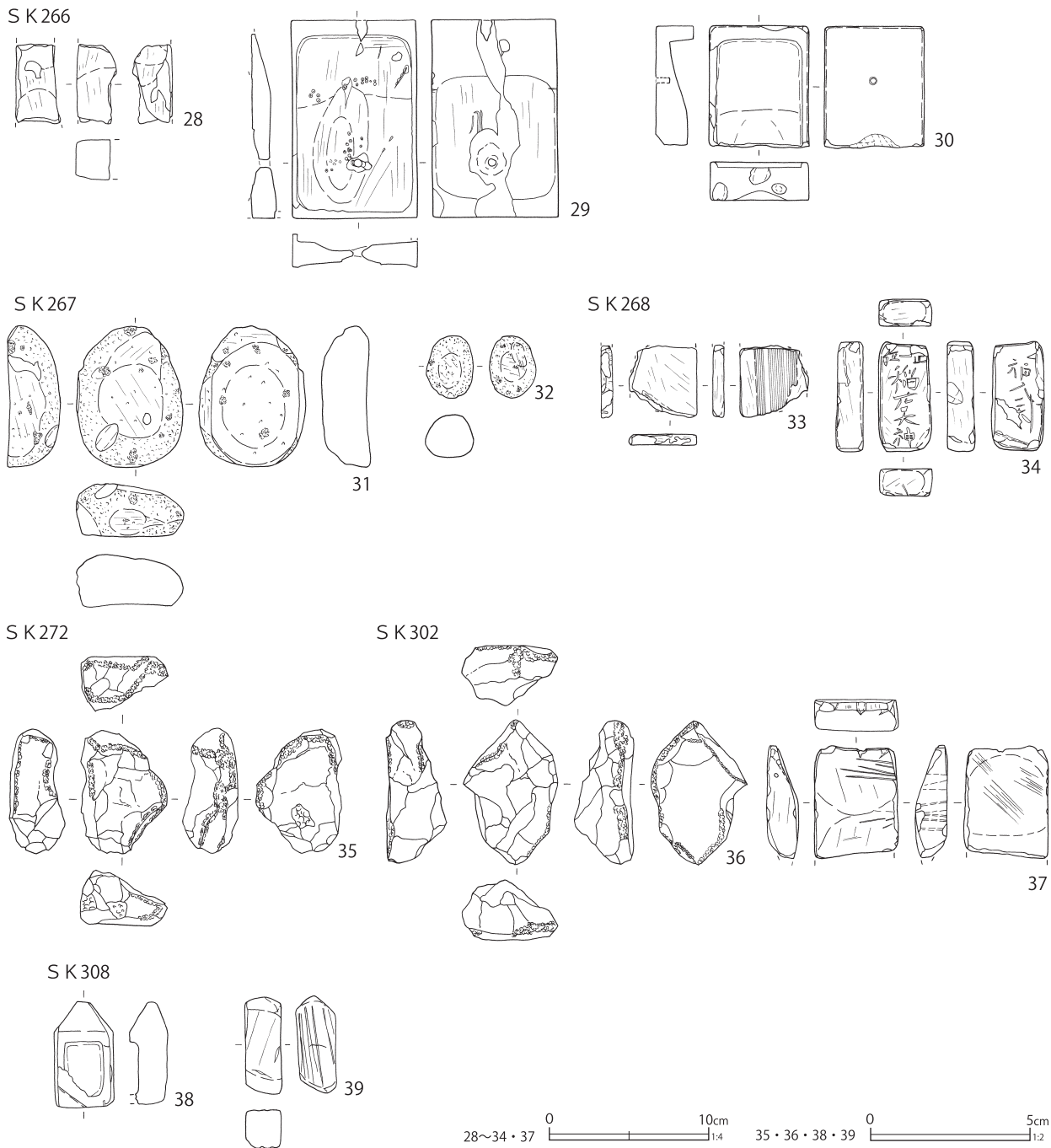
S K 257



16~27 0 10cm 1/4

15 0 5cm 1/2

第 262 図 区画 AE 土壇出土遺物 (74)



第 263 図 区画 AE 土壌出土遺物 (75)

される水塚下第 39 号土壌(埧埋文 2019c)からは、正一位 / 奉 []」の墨書が書かれた砥石(『栗橋宿跡Ⅲ』第 354 図 79)が出土しており、同じく奉納されたものと考えられる。

第 261 図 8、第 263 図 35・36 は玉髓製の火打石で、いずれも著しく稜線が潰れている。長軸 4.0cm 前後で比較的大型である。

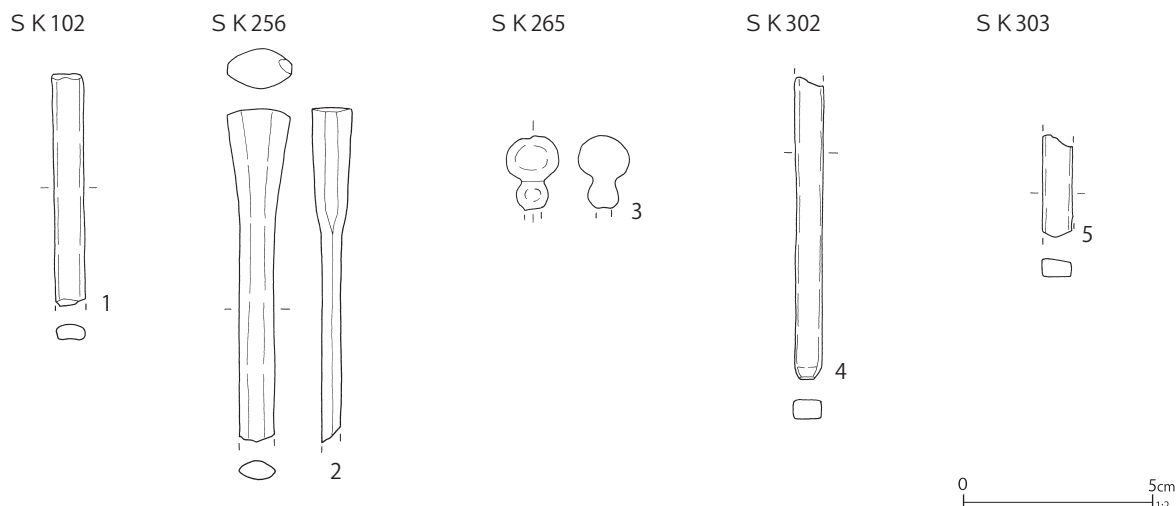
第 261 図 11・12、第 262 図 19・24、第 263 図

31・32 は多孔質の角閃石安山岩転石、第 262 図 20 は軽石を素材とした磨石である。11・12・24 は裏面が平坦で、断面形が半円状を呈する。19 は細かな线条痕が明瞭にみえる。31 は裏面中央がややくぼむ。32 はかなり小さな転石の自然面を使用し、裏面に使用痕が確認できる。

第 263 図 30 は凝灰岩製の硯である。破断面には工具による削り痕がみられ、裏面に未貫通の二

第 60 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (9) (第 261 ~ 263 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[5.2]	[4.2]	3.5	100.1	流紋岩	SK70	砥面 5 裏・側面刃物痕	141-2
2	石製品	硯	14.7	6.2	—	318.4	粘板岩	SK70	赤褐色 器高 2.2cm 墨付着	
3	石製品	硯	12.5	6.2	—	302.1	粘板岩	SK70	器高 [1.7]cm 内面削痕・刃物傷 墨付着	141-2
4	石製品	不明	6.4	[5.0]	[1.7]	43.8	滑石	SK96	側面削痕 表面刃物痕・穿孔 5	
5	石製品	硯	[6.6]	6.3	—	90.9	粘板岩	SK97	器高 1.9cm 全面に黒色塗布物	141-2
6	石製品	硯	[5.0]	7.3	—	57.7	凝灰岩 (細粒)	SK97	器高 2.1cm 裏面刃物痕 表面削痕・摩耗	
7	石製品	不明	7.7	4.5	4.5	214.7	砂岩 (粗粒)	SK97	軟質	141-2
8	石製品	火打石	4.0	2.2	2.0	24.6	玉髓	SK104	潰れが著しい	
9	石製品	砥石	14.2	3.0	3.0	164.6	流紋岩	SK106	表・側面溝状使用痕 端部ランダムな線条痕 砥面 6	141-2
10	石製品	硯	12.0	6.0	—	265.8	粘板岩	SK113	器高 1.8cm 裏面刻書・二次利用	
11	石製品	磨石	5.8	4.2	2.2	28.5	角閃石安山岩	SK119	多孔質 自然面遺存 使用面 2	140-3
12	石製品	磨石	4.7	4.0	3.1	31.8	角閃石安山岩	SK119	多孔質 自然面遺存 使用面 2	140-3
13	石製品	砥石	[6.5]	[3.8]	[1.6]	60.2	流紋岩	SK119	側面削痕 砥面 4 被熱 (赤化・剥落)	141-2
14	石製品	硯	12.4	6.8	—	359.2	粘板岩	SK119	器高 2.0cm 裏面刻書	
15	石製品	印章	3.1	2.2	2.0	29.3	滑石	SK128	篆書体 朱付着 被熱 (ひび割れ)	138-7
16	石製品	砥石	17.9	3.8	5.3	653.2	流紋岩	SK128	側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 砥面 2 被熱 (一部黒化・剥落)	139-13
17	石製品	砥石	9.3	[4.8]	1.8	111.5	流紋岩	SK128	側・裏面幅広工具痕 砥面 1	141-2
18	石製品	硯	7.7	2.5	—	20.9	粘板岩	SK128	器高 0.7cm 内面朱墨付着 側・下面黒色付着物	
19	石製品	磨石	8.0	5.8	4.3	120.4	角閃石安山岩	SK248	多孔質 自然面遺存 使用面 1 線条痕あり	140-3
20	石製品	磨石	7.7	5.0	5.1	60.0	軽石	SK248	黒色 自然面不明瞭 使用面多数	140-3
21	石製品	砥石	[8.5]	3.3	5.1	251.2	流紋岩	SK248	側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 砥面 3	139-14
22	石製品	砥石	[5.9]	2.9	2.2	49.6	凝灰岩	SK248	砥面 4 遺存 刃物痕あり	141-2
23	石製品	砥石	[3.7]	4.0	2.1	37.9	砂岩	SK248	砥面 4 遺存	
24	石製品	磨石	5.9	3.8	1.1	14.6	角閃石安山岩	SK249	多孔質 自然面遺存 使用面 3	140-3
25	石製品	硯	[6.3]	[2.1]	—	9.9	粘板岩	SK256	器高 0.5cm 側・裏面黒色塗布物 裏面削痕 側面刻書カ 被熱・煤付着	141-2
26	石製品	硯	13.5	6.6	—	177.1	粘板岩	SK256	器高 [1.1]cm 砥具転用 表・裏面に深い刃ならし痕多数 裏面刻書 側面黒色塗布物 被熱・煤付着	
27	石製品	硯	15.2	[4.4]	—	134.5	粘板岩	SK257	器高 [1.5]cm 裏面刻書カ	141-2
28	石製品	砥石	[5.0]	[2.5]	2.8	52.1	流紋岩	SK266	砥面 3 遺存	
29	石製品	硯	12.4	7.9	—	259.8	粘板岩	SK266	器高 2.1cm 側・裏面黒色塗布物 裏面刻書 二次穿孔 1 温石転用 SK267 と接合	141-2
30	石製品	硯	[7.8]	6.2	—	161.3	凝灰岩	SK266	器高 2.4cm 表・側面黒色塗布物 二次穿孔 (未貫通) 1 削痕あり	141-2
31	石製品	磨石	8.9	6.7	3.2	109.2	角閃石安山岩	SK267	多孔質 自然面遺存 使用面 4	140-3
32	石製品	磨石	3.9	2.9	2.7	19.7	角閃石安山岩	SK267	多孔質 自然面遺存 使用面 1	141-2
33	石製品	砥石	[4.5]	[4.3]	0.7	20.1	流紋岩	SK268	裏面ノコギリ痕 砥面 3 遺存	
34	石製品	砥石	6.9	3.3	1.7	56.3	凝灰岩	SK268	砥面 4 刃物痕あり 刻書「正一位 / 稻荷大神」 「神口天」	138-12
35	石製品	火打石	3.9	2.7	1.8	18.1	玉髓	SK272	稜の潰れ著しい	141-2
36	石製品	火打石	4.5	3.0	1.9	21.7	玉髓	SK302	稜の潰れ著しい	
37	石製品	砥石	[7.1]	5.3	2.0	104.3	流紋岩	SK302	側面幅広工具痕カ 上端部溝状使用痕 砥面 4 遺存 刃物痕あり	138-14
38	石製品	ミニチュアカ	3.3	1.8	1.2	9.4	砂岩	SK308	墓石カ	
39	石製品	石筆	3.0	1.1	1.2	9.1	滑石	SK308	両端使用 刃物傷多数	



第 264 図 区画 AE 土壌出土遺物 (76)

第 61 表 区画 AE 土壌出土遺物観察表 (10) (第 264 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[6.1]	0.8	0.4	2.8	SK102	透明 中実	142-1
2	硝子製品	筭	[8.8]	1.7	1.1	17.9	SK256	透明 中実	142-1
3	硝子製品	筭	[1.9]	1.4	—	5.8	SK265	青色透明 中実 被熱 (白色化)	142-1
4	硝子製品	筭	[8.0]	[0.8]	[0.5]	8.0	SK302	透明 中実 被熱カ	142-1
5	硝子製品	筭	[2.7]	0.8	0.5	3.1	SK303	青色透明 中実 被熱 (白色化)	142-1

次穿孔を施す。何らかの転用が示唆される。

第 264 図 3 は筭の飾り部分と考えられる。青色の硝子で中実である。大部分は被熱し、白色化している。

⑥区画 AF の土壌

区画 AF は第 5 号杭列より南、第 6 号杭列より北に位置する。『絵図』との対比関係から二つの区画が想定されるが実態は一つの区画である。区角 AF 1 は『絵図』にみえる「餅菓子屋 / 惣右衛門店 / 内藏之丞」、AF 2 は「旅籠屋 / 惣右衛門」である。区画 AF 1 は店名から「旅籠屋 / 惣右衛門」に関わる区画と推定される。『営業便覧』の時代には「薬種商 / 柿沼清九郎」となっており、完全に一つの区画となっている。

敷地面積は区画 AE「旅籠屋 / 吉田屋 / 太左衛門」とほぼ同程度である。

土壌は 74 基検出され、区画 AE より若干多い。土壌は建物跡を避けるように集中し、特に西側で重複が多い。平面形態はおおよそ長方形を呈するも

のが多く、長軸方向は西側の土壌は日光道中と直交、東側は平行方向に向く傾向がある。

第 62 表には位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は第 154・156・160・220・221・229・245・253・259 号土壌である。第 265・282 図に遺構図、第 266～281・283～293 図に各遺構ごとに出土遺物を示した。

非抽出となった土壌は第 294～299 図に遺構図、第 300～325 図に出土遺物を示した。

第 154 号土壌 (第 265・266 図)

F 7-F 7 グリッドに位置する。第 1 号建物跡より新しく、第 155 号土壌と重複する。単層の浅い土壌で、平面形は隅丸長方形、長軸 1.5 m、短軸 0.95 m、深さ 0.1 m を測る。長軸方位は N-62°-E を指す。覆土は白色土ブロックを多量に含む砂質土である。

出土遺物はそれほど多くはないが、陶磁器は幕末期に遡る製品のみであり、近代遺物の混在が一

第 62 表 第一面区画 AF 土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
137	F7-F7	隅丸長方形	1.60	1.35	0.15	N-68° -E	SK229・285 と重複	294
138	F7-F6・7	隅丸方形	1.70	1.55	0.10	N-68° -E	SK140 と重複	294
139	F7-F6・7	長楕円形	1.45	0.65	0.10	N-72° -E		294
140	F7-F7	隅丸長方形	1.30	1.10	0.40	N-70° -E	SK138 と重複	294
141	F7-F・G7	楕円形	0.80	0.70	0.20	N-35° -E		294
143	F7-F7	隅丸長方形	1.80	1.25	0.45	N-15° -W	SK165・285 と重複	294
144	F7-F7	隅丸長方形	1.45	0.95	0.20	N-73° -E	SK145 より新 SK229 と重複	294
145	F7-F・G7	不整形	1.60	0.85	0.60	N-76° -E	SK144 より古	294
146	F7-F・G7	不整形	2.05	1.45	0.60	N-79° -E		294
147	F7-F7	隅丸長方形	0.95	0.75	0.10	N-75° -E	SK158 と隣接	294
148	F7-F7	隅丸方形	1.30	1.15	0.15	N-75° -E	SK282 より新	294
149	F7-F8	隅丸方形	1.15	0.95	0.10	N-67° -E		294
150	F7-F7・8	不整形	1.85	0.95	0.05	N-64° -E	SB1 と重複	295
151	F7-F8	不整形	2.50	(2.45)	0.60	N-77° -E	SB1 より古 SK175・234 と重複	295
152	F7-F7	楕円形	1.45	1.20	0.30	N-17° -E	SK253 より新	295
153	F7-F7	隅丸長方形	1.30	0.80	0.20	N-72° -E	SK229・285 より新 SK172 と重複	296
154	F7-F7	隅丸長方形	1.50	0.95	0.10	N-62° -E	SB1 より新 SK155 と重複	265
155	F7-F7	隅丸長方形	1.20	(1.00)	0.10	N-58° -E	SK154 と重複	295
156	F7-F7	隅丸長方形	1.50	0.90	0.35	N-14° -W	SK171 と重複	265
157	F7-F7	円形	0.65	0.55	0.20	N-37° -E		295
158	F7-F7	隅丸長方形	1.25	1.00	0.25	N-75° -E	SK147 と隣接	294
159	F7-F7	楕円形	0.70	0.60	0.20	N-73° -E		294
160	F7-F7	隅丸長方形	1.30	[0.80]	0.10	N-71° -E	SK285 より新 SK165 と重複	265
161	F7-E・F7	不整形	(1.80)	0.95	0.15	N-17° -W	SK252 と重複	295
164	F7-F7	不明	(1.20)	(0.40)	0.20	N-15° -W	SK229 と重複	295
165	F7-F7	隅丸方形	1.75	(1.65)	0.35	N-12° -W	SK285 より新 SK143・160 と重複	296
166	F7-F7	不整形	1.70	1.40	0.35	N-11° -W	SB1・SK173 より新 SK167 と重複	295
167	F7-F7	長楕円形	2.70	0.45	0.20	N-17° -W	SB1・SK166 と重複	295
169	F7-F8	隅丸長方形	1.05	0.45	0.15	N-17° -E		296
170	F7-E・F7	楕円形	0.95	0.75	0.20	N-50° -E	SB1 と重複	296
171	F7-F7	楕円形	(0.60)	0.70	0.30	N-69° -E	SK156 と重複	295
172	F7-F7	隅丸長方形	0.80	[0.30]	0.25	N-12° -W	SK153・255・283・285 と重複	296
173	F7-F7	円形	0.70	0.65	0.45	N-35° -E	SK166 より古 SB1 より新	295
175	F7-F8	不整形	1.00	0.95	0.10	N-50° -W	SK151 と重複	296
199	F7-E8	隅丸長方形	1.30	1.10	0.25	N-77° -E	SK228・236 より新 SK259 と重複	296
213	F7-F8	楕円形	1.35	1.05	0.10	N-40° -E		296
216	F7-E・F・8	隅丸長方形	1.55	1.10	0.20	N-13° -W	SB1 と重複	296
218	F7-F8	不整形	1.40	0.70	0.40	N-40° -E	SB1・SK222 より新	297
219	F7-E8	不明	0.95	(0.40)	0.20	N-76° -E	SB1 と重複	297
220	F7-E7・8	不整形	2.65	1.95	0.70	N-68° -E	SB1 より古 SK221 より新	282
221	F7-E7	隅丸長方形	4.90	(2.30)	0.60	N-65° -E	SB1・桶 10・杭列 5・SK220 より古	282
222	F7-F8	楕円形	0.80	0.70	0.20	N-57° -E	SK218 より古 SB1 より新	297
223	F7-F8	楕円形	0.95	0.55	0.20	N-69° -E		297
224	F7-F8・9	隅丸長方形	2.15	1.25	0.45	N-16° -W	SK225 より古 SK263 より新	297
225	F7-F8・9	隅丸長方形	1.85	1.40	0.30	N-14° -W	SK224・263 より新	297
226	F7-F9	隅丸長方形	1.60	1.00	0.50	N-68° -E	SK263 より新	298
227	F7-E8・9 F8・9	楕円形	1.15	0.60	0.15	N-77° -E	SK263 より新	298
228	F7-E8	不整形	4.35	(2.60)	0.30	N-30° -W	基礎状遺構 4・SK199 より古 SK259 と重複	298
229	F7-F7	不整形	(3.45)	(2.15)	0.60	N-23° -W	SK153 より古 SK285 より新 SK137・144・164 と重複	265
233	F7-F7	隅丸長方形	[2.75]	0.95	0.45	N-65° -E	SB1 と重複 P17 と隣接	297
234	F7-F8	楕円形	(1.00)	1.00	0.20	N-65° -E	SK151 と重複	297
235	F7-E8	隅丸長方形	1.70	0.80	0.15	N-74° -E	SB1 と重複	297

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
236	F7-E8	隅丸長方形	0.90	0.45	0.15	N-15° -W	SK199 より古	297
237	F7-E8・9	隅丸長方形か	(1.30)	1.75	0.35	N-79° -E	SK259 より新	298
245	F7-F8	隅丸長方形	2.05	1.40	0.10	N-73° -E		265
246	F7-E・F7	隅丸長方形	0.70	0.50	0.10	N-25° -W		298
252	F7-E7	楕円形	0.90	0.70	0.10	N-70° -W	SK161 と重複	298
253	F7-F7	隅丸長方形	1.35	1.30	0.50	N-75° -E	SK152 より古	282
255	F7-F7	不整形	(1.45)	(1.20)	0.40	N-21° -W	SK283 より新 SK172・285 と重複	296
259	F7-E8・9	不明	4.50	(1.90)	0.80	N-19° -W	SK237 より古 SK199・228 と重複	265
263	F7-E9・F8・9	隅丸長方形	3.70	2.50	0.50	N-15° -W	SK224～227 より古	298
276	F7-F8	隅丸長方形	(2.70)	1.35	0.55	N-21° -W	SB1 より古 SD5 と重複	298
282	F7-F7・8	楕円形	1.35	1.05	0.40	N-54° -W	SK148 より古	294
283	F7-F7	楕円形	(1.15)	(0.55)	0.35	N-24° -W	SK255 より古 SK172 と重複	296
285	F7-F7	隅丸長方形	3.90	2.90	0.60	N-71° -E	SK153・160・165・229 より古 SK137・143・172・255 と重複 基礎状遺構2 と隣接	299
304	F7-F8	隅丸長方形	1.45	0.55	0.35	N-21° -W	基礎状遺構3 より古	299
305	F7-F8	隅丸長方形	0.75	0.55	0.20	N-20° -W		299
306	F7-F8	円形	0.70	0.65	0.35	N-0°	SK311 と隣接	299
310	F7-F8	楕円形	0.65	0.50	0.35	N-16° -W	SK311 より新	299
311	F7-F8	楕円形	0.80	0.55	0.10	N-86° -E	SK310 より古 SK306 と隣接	299
312	F7-F8	円形	0.75	0.70	0.15	N-80° -E	SK313 より古	299
313	F7-F8	楕円形	(0.75)	0.60	0.15	N-48° -E	SK312 より新 基礎状遺構3 と重複	299
314	F7-F8	楕円形	0.60	0.50	0.40	N-47° -E		299
325	F7-E8	楕円形	1.10	0.90	0.45	N-35° -E		299

切認められない。瀬戸美濃系磁器の小碗（第266図3）が最新期であり、推定廃絶期は19世紀中葉である。

第266図には出土遺物を図示した。1は瀬戸美濃系磁器の端反形碗で、口縁部の反りは弱く、体部は直線的に開く。重複する第155号土壌出土破片と接合関係にある。2は肥前系磁器の湯呑形小碗である。外面に細線文の染付がみられ、非掲載遺物に別個体の同文製品がみられる。3は瀬戸美濃系磁器の小碗で、最新期の陶磁器である。4は肥前系磁器の段重である。削り込み高台で、外面は蛸唐草文染付がみられる。

5は産地不詳陶器の青土瓶である。外面に青緑釉が施釉され、内底面に径3.2cmを測る輪状の重ね焼き痕がみられる。第155号土壌出土破片と接合関係にある。6は瀬戸美濃系陶器の柿釉甕である。外面上位に条線がみえる。

第156号土壌（第265・267図）

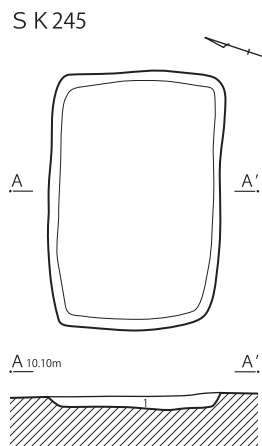
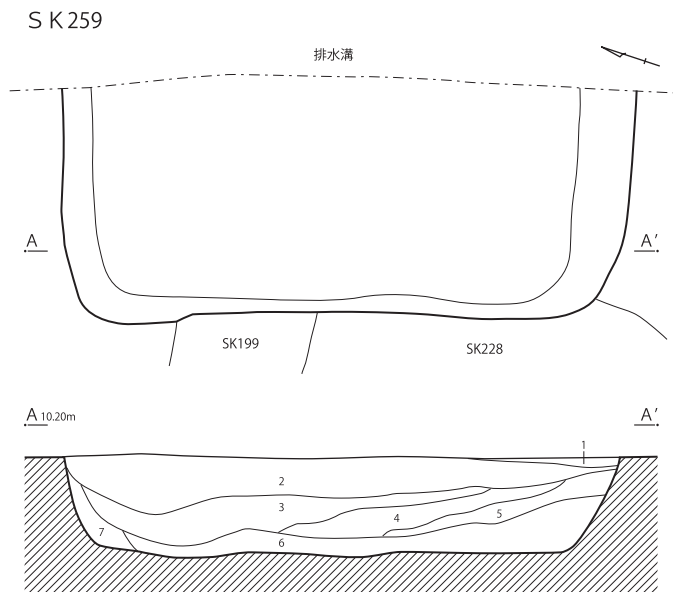
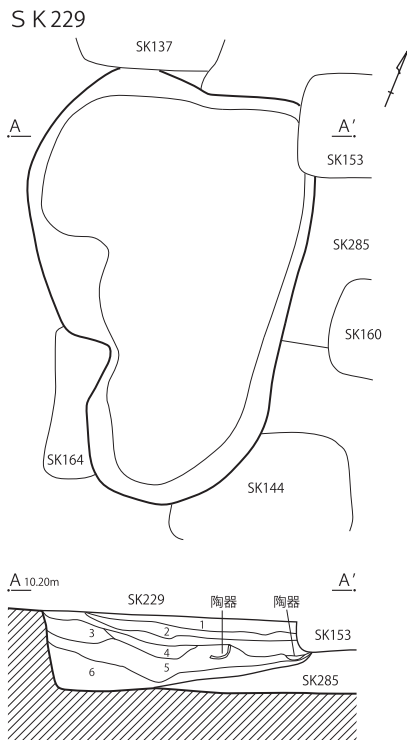
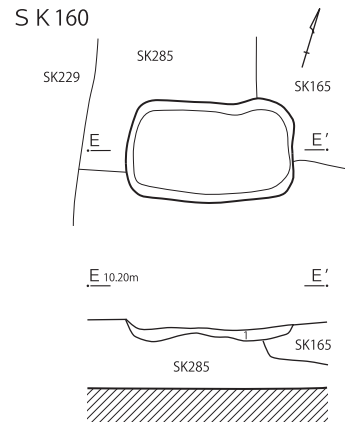
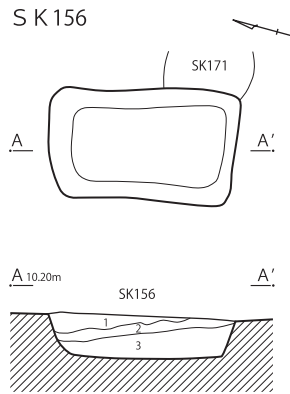
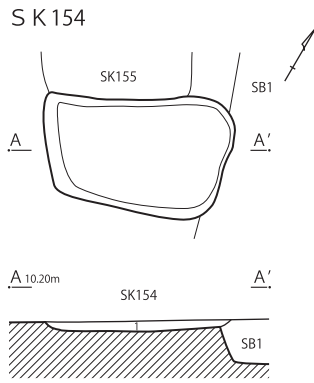
F7-F7グリッドに位置し、第171号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.5m、短軸0.9m、深さ0.35mを測る。長軸方位N-

14° -Wを指す。

覆土は斜め堆積で、中・下層は同質の土だが、中層には木片が含まれる。最上層には炭化物が含まれる。

遺物は一定量出土しており、瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏（第267図3）が最新期である。また、非掲載遺物に陶器の白土染付土瓶の破片がみられる。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第267図に出土遺物を図示した。1は瀬戸美濃系磁器の広東碗である。栗橋宿では大部分が肥前系の広東碗であり、瀬戸美濃系の出土例は少ない。3は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏で、最新期の陶磁器である。高台畳付は内側に段が付き、高台周囲に染付が施される。内面は江戸絵付けで、「盛/別造/原勢製」の銘がみえる。第5地点区画⑫に位置する「原勢屋」（埴埋文2020c）で製造されたと考えられる。4は肥前系磁器の内面一枚絵染付の皿である。口縁部は輪花状に成形されている。5は肥前系磁器の蕎麦猪口である。輪高台で、内外面は染付である。非掲載遺物に別個体の同文製品が2個体みられる。7は京都信楽系陶器の爛



SK154
1 灰白色土 細粒砂質主体
白色土ブロック(φ5mm) 多量

SK156
1 灰褐色土 炭化物・黄色土ブロック(φ2mm) 少量
2 暗灰褐色土 黄色土ブロック・木片少量
3 暗灰褐色土 均質

SK160
1 灰褐色土 砂粒主体

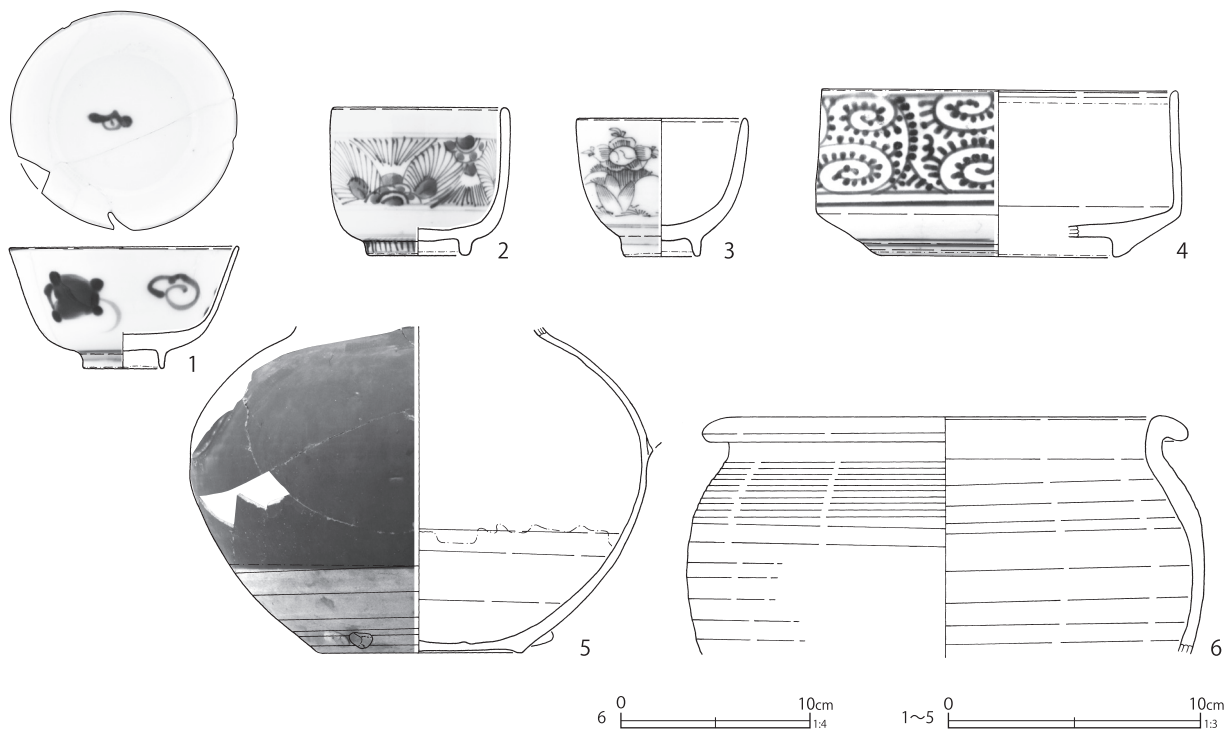
SK229
1 黄褐色土 砂質 炭化物少量
2 褐色土 粘土質 炭化物少量 木質多量
木製品含む
3 灰黄色土 粘土質 炭化物含む
4 灰黄色土 シルト質 粘性強 木片多量
5 灰色土 粘土質 炭化物少量 木片多量
貝類含む
6 黄色土 砂質 粒子(φ0.5mm以下)

SK245
1 灰褐色土 シルト質 粘性強 炭化物多量
底面固くしまる
(炭化物多量・焼土微量)

SK259
1 黄白色砂 均一 細粒純砂
2 灰黑色土 シルト質 やや均一 炭化物
(φ2~10mm) 少量
3 青灰色土 シルト質 不均一 ラミナ発達
シルト・有機物の互層 木片少量
4 黒色有機物層 やや均一 ややラミナ発達
木片多量
5 褐色土 シルト質 やや均一 木片多量
6 褐色土 シルト質 やや均一 木片極多量
7 青灰色土 シルト質 均一 含有物少量



第265図 区画AF土壤(1)



第266図 第154号土坑出土遺物

第63表 第154号土坑出土遺物観察表(第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	8.9	4.8	3.1	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅 SK155と接合	
2	磁器	碗	6.7	5.8	3.8	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり SK155と接合	
3	磁器	碗	6.5	5.4	2.8	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
4	磁器	段重	(13.8)	6.5	(9.2)	K	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
5	陶器	土瓶	—	[12.9]	8.1	IK	80	普通	灰白	外面青緑釉 内底面輪状重焼痕(径3.2cm) SK155と接合	
6	陶器	甕	(22.9)	[12.6]	—	EIK	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉	

徳利である。外面に鉄絵が施される。8は瓦質土器の竈罏である。口唇部の端部は面取りされており、下端部の断面形は丸みを帯びる。

9は銅製の古寛永通寶、10・11は新寛永通寶である。

12・13は粘板岩製の携帯用硯である。黒色塗布物により黒色を呈している。

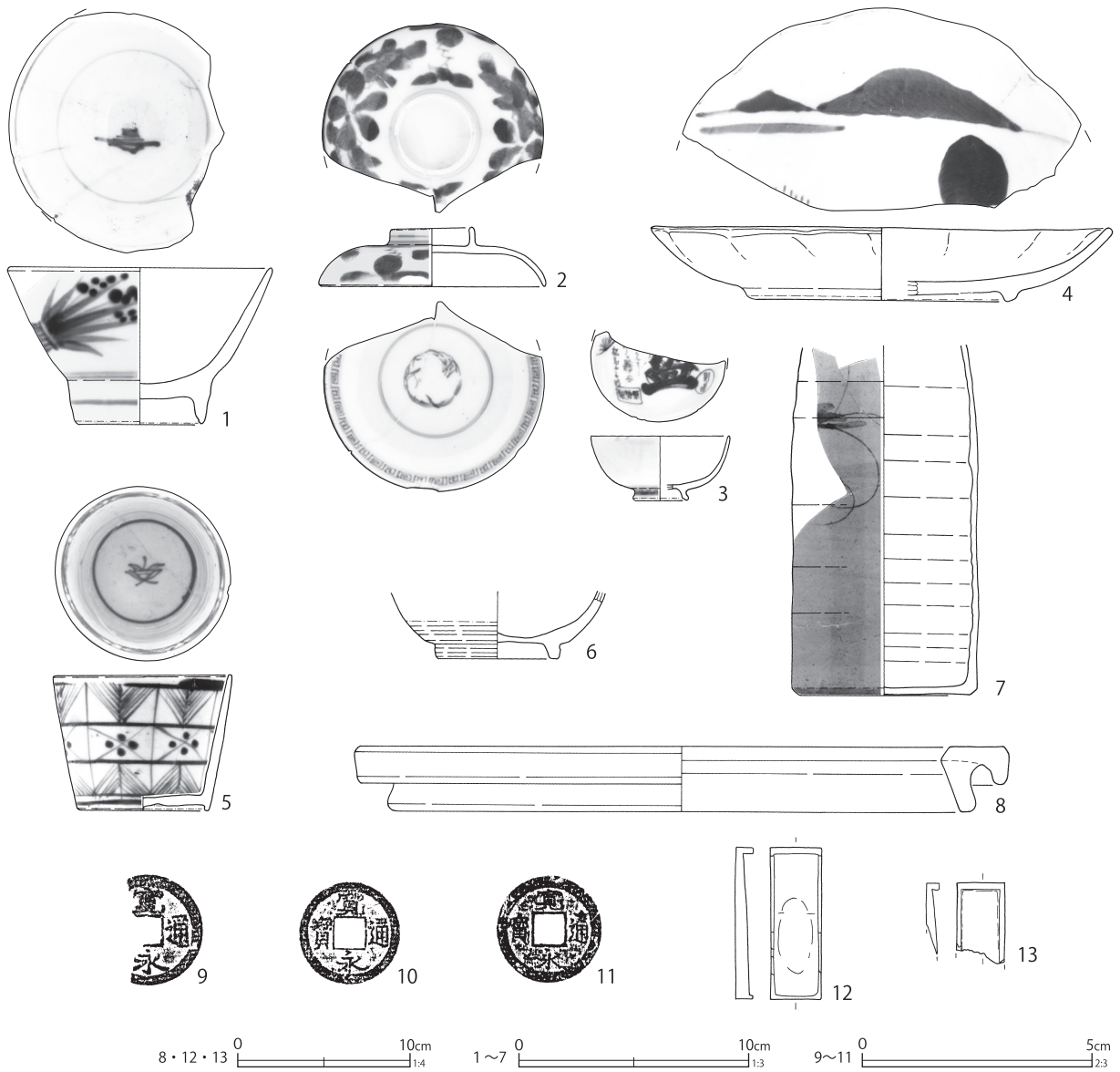
第160号土坑(第265・268・269図)

F7-F7グリッドに位置する。第285号土坑より新しく、第165号土坑と重複する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る。長軸方位N-71°-Eを指

す。覆土は単層で、砂粒を主体としている。

遺構は浅いが、磁器1443.9g、陶器1714.5g、土器594.4g、瓦2890.0g等出土遺物が多い。陶磁器は18世紀末頃を主体とするが、瀬戸美濃系磁器の小破片がいくつかみられる。瀬戸美濃系磁器の端反形碗(第268図3)、非掲載遺物にみられる肥前系磁器の八角鉢、陶器三彩土瓶の蓋(第268図12)が最新期の陶磁器である。遺構が極めて浅いため、重複する下層遺構の遺物を巻き上げている可能性が疑われる。推定廃絶期は19世紀前半である。

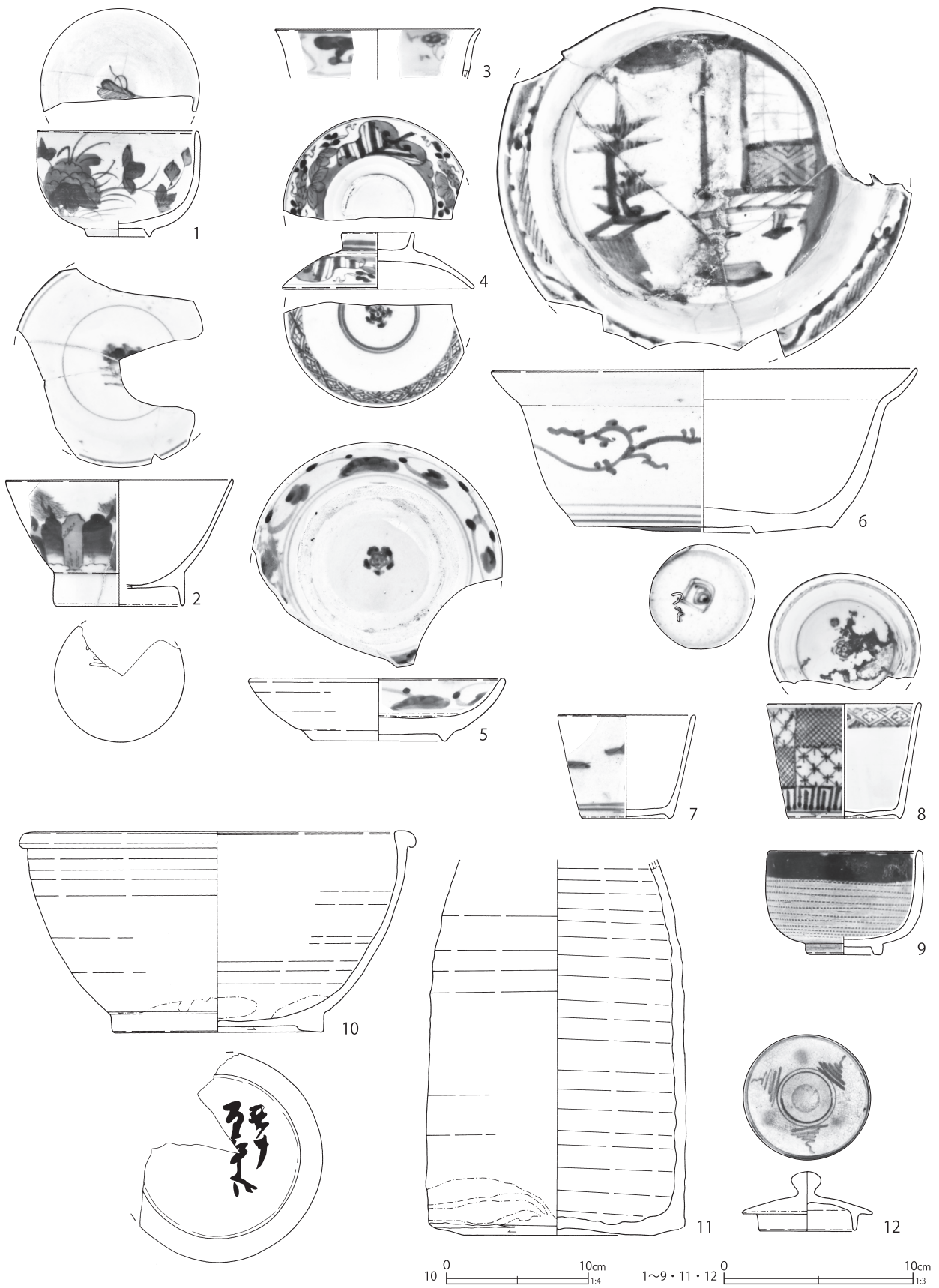
第268・269図に出土遺物を図示した。1は肥



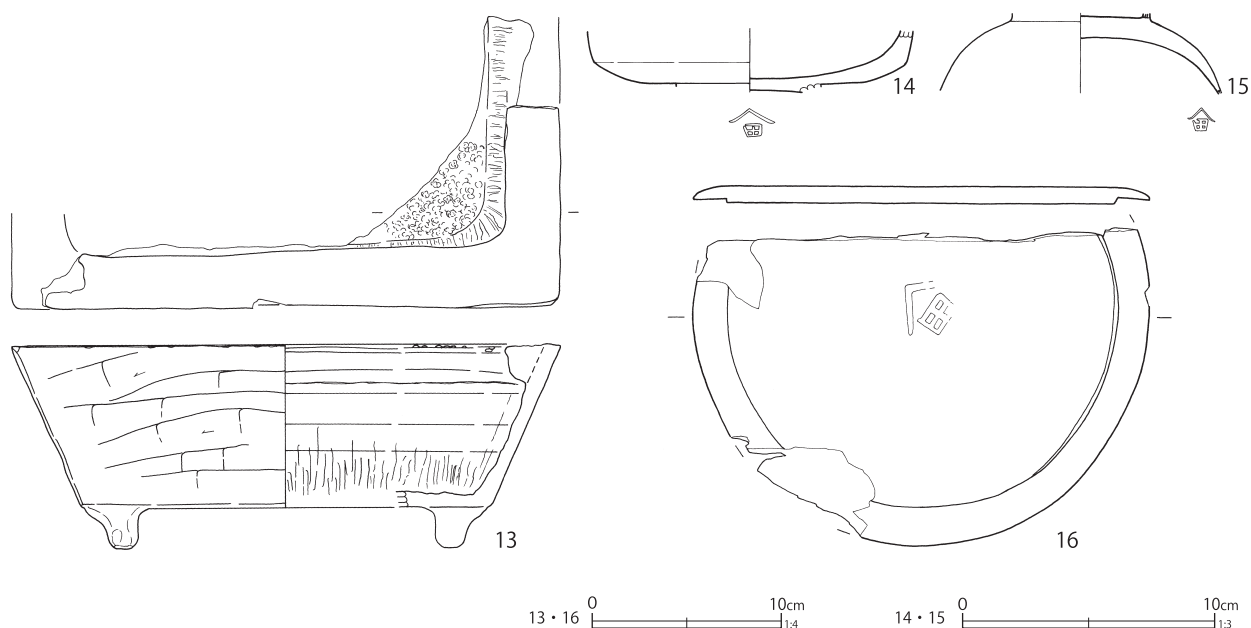
第 267 図 第 156 号土壙出土遺物

第 64 表 第 156 号土壙出土遺物観察表 (第 267 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(11.2)	6.7	5.4	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	76-6
2	磁器	蓋	9.7	2.5	3.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
3	磁器	坏	(2.9)	2.7	(2.2)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付 (青) 「盛 / 別造 / 原勢製」	
4	磁器	皿	(19.6)	3.1	(11.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡 1 遺存	
5	磁器	猪口	7.6	5.9	5.5	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体 2 あり	141-2
6	陶器	碗	—	[2.9]	5.2	IK	45	良好	灰白	京都信楽系 内外面灰釉	
7	陶器	爛徳利	—	[15.0]	7.4	K	50	良好	灰白	京都信楽系 外面施釉・鉄絵	
8	瓦質土器	竈鏝	(31.0)	3.7	(33.5)	CFI	15	普通	灰	燻す 煤付着	
9	銅製品	錢貨	径 24.4 厚さ 1.3 重さ [2.0]							寛永通寶 (古) 1/3 欠	
10	銅製品	錢貨	径 22.4 厚さ 0.9 重さ 1.7							寛永通寶 (新)	
11	銅製品	錢貨	径 23.3 厚さ 2.1 重さ 2.2							寛永通寶 (新)	
12	石製品	硯	長さ 8.8 幅 2.9 器高 1.0 重さ 50.6							粘板岩 側面黒色塗布物	
13	石製品	硯	長さ [4.7] 幅 2.8 器高 0.7 重さ 14.1							粘板岩 全面黒色塗布物	



第 268 图 第 160 号土壙出土遺物 (1)



第 269 図 第 160 号土壙出土遺物 (2)

第 65 表 第 160 号土壙出土遺物観察表 (第 268・269 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	8.3	5.5	3.3	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	(11.4)	6.4	6.4	K	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明)	
3	磁器	碗	(10.6)	[2.6]	—	—	5	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (青み強い)	
4	磁器	蓋	(9.9)	3.0	(3.8)	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
5	磁器	皿	13.1	3.3	6.8	—	80	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付	
6	磁器	鉢	21.6	8.4	13.0	—	80	良好	白	肥前系 内外面施釉 (内面青磁釉)・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱	
7	磁器	猪口	(7.1)	5.4	4.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
8	磁器	猪口	8.0	6.0	5.8	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
9	陶器	碗	7.8	5.4	3.8	EIK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 体部トビガンナ状の押型文 外面上位・内面鉄釉 外面下位施釉	
10	陶器	こね鉢	(25.8)	14.2	14.6	EI	45	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡4遺存 底部墨書	
11	陶器	德利	—	[19.7]	10.0	EK	50	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿釉 底部釉拭き取り SK172と接合	
12	陶器	蓋	6.7	3.1	5.0	HK	100	良好	灰白	上面三彩・施釉 内面タール状物質付着	
13	瓦質土器	火鉢	(29.0)	10.7	(21.3)	CHIK	30	不良	黄灰	体部ケズリ 燻す 内面下位火箸傷 被熱(剥落)	
14	木製品	漆皿カ	高さ [2.4]			横木取り 内外面黒漆 高台内金で「罇」					
15	木製品	漆椀蓋	高さ [3.1]			横木取り 内外面黒漆 内面金で「罇」					
16	木製品	漆蓋	厚さ 0.9 口径 / 径 24.0			板目 内外面黒漆 内面に焼印「罇」					

前系磁器の小丸碗、2は広東碗である。2には焼継痕がみられ、高台内には色が飛んで透明な焼継印がみえる。

3は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。染付の発色が良く、濃い青色である。

4は肥前系磁器で、体部が朝顔形を呈する碗の蓋である。内面に四方襷文と比較的丁寧な五弁花

がみえる。5は波佐見系磁器の粗製皿である。内面に蛇ノ目釉剥ぎ、梅花繫ぎ文染付がみえる。6は肥前系磁器の鉢である。蛇ノ目凹形高台で、内面に青磁釉が施釉される。焼継痕がみられ、高台内に焼継印がみえる。

7・8は肥前系磁器の蕎麦猪口である。7は輪高台、8は蛇ノ目凹形高台である。8の内面には

四方禪文と丁寧な五弁花の染付がみえる。

9は瀬戸美濃系陶器の鎧手碗である。外面上位から内面にかけて鉄釉が施釉され、外面下位は透明釉に近い色調である。トビガンナ状の細かな押型文が施文される。

10は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。内面に目跡状に釉の拭き取り痕が4箇所遺存する。底部に墨書がみられる。

11は瀬戸美濃系陶器の徳利である。舟徳利状で外面に柿釉が施釉され、底部は釉拭き取りがみられる。第172号土壙出土の破片と接合関係にある。

12は産地不詳の陶器で、三彩土瓶の蓋である。上面に緑釉彩と鉄絵がみられる。

第269図13は瓦質土器の角火鉢である。体部はケズリ調整が行われている。内面には火箸による使用痕がみられ、被熱により著しく剥落している。在地産と推定される。

14～16は漆製品である。いずれも「冨」の文字がみえる。第8地点で多くみられる屋号である。

第229号土壙（第265・270～274図）

F7-F7グリッドに位置する。第153号土壙より古く、第285号土壙より新しい。さらに、第137・144・164号土壙と重複する。平面形は不整形で、検出長軸3.45m、短軸2.15m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-23°-Wを指す。

底面は傾斜し、覆土は斜め堆積である。中層には木質や木片が多量に含まれ、全体的に炭化物がみられる。第5層にはアカニシを主体とした貝類がみられ、アカニシは39個体分確認できる。その他にアサリ、カキ、サトウガイが出土している（第243表）。

多種多様な遺物が多量に出土しており、陶磁器は端反形碗や八角鉢を主体とする。陶器の灯明皿は瀬戸美濃系を主体とし、京都信楽系（第272図36）が1点みられる。

このように、19世紀第2四半期の様相を呈し

ているが、一方で湯呑形碗や卵殻手坏が一切みられず、瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形の坏（第270図12）3点が最新期の陶磁器である。また、第274図57の木札には、「埼玉縣下栗橋（宿）」の墨書がみられる。栗橋宿が埼玉県に属するのは明治四年（1871）で、それ以前は葛飾県に属していた。また、明治二十二年（1889）には「栗橋町」となる。したがって、木札は1871～1889年間のものであり、陶磁器の年代とは齟齬が生じることとなる。

しかし、重複遺構には型紙摺絵染付丸碗を含む遺構（第144号土壙）があり、木札については混入も可能性が疑われる。一方で、木型打ち込み成形の坏3点は東大Ⅷd期の指標陶磁器であるため混入の判断は困難を極めるが、第221号土壙と接合関係にある陶磁器が確認されており（第287図28）、第221・299号土壙は同時性のある遺構と考えられる。したがって、推定廃絶期は第221号土壙と同じ19世紀前葉である。

第270～274図に出土遺物を図示した。第270図7・8は同文の肥前系磁器の端反形碗である。6は7・8と同文の蓋である。いずれかとセットになるものと考えられる。9は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。12は瀬戸美濃系磁器の坏で、最新期の陶磁器である。木型打ち込み成形で、内面に陰刻文がみられる。同文の別個体が非掲載遺物にみられる。

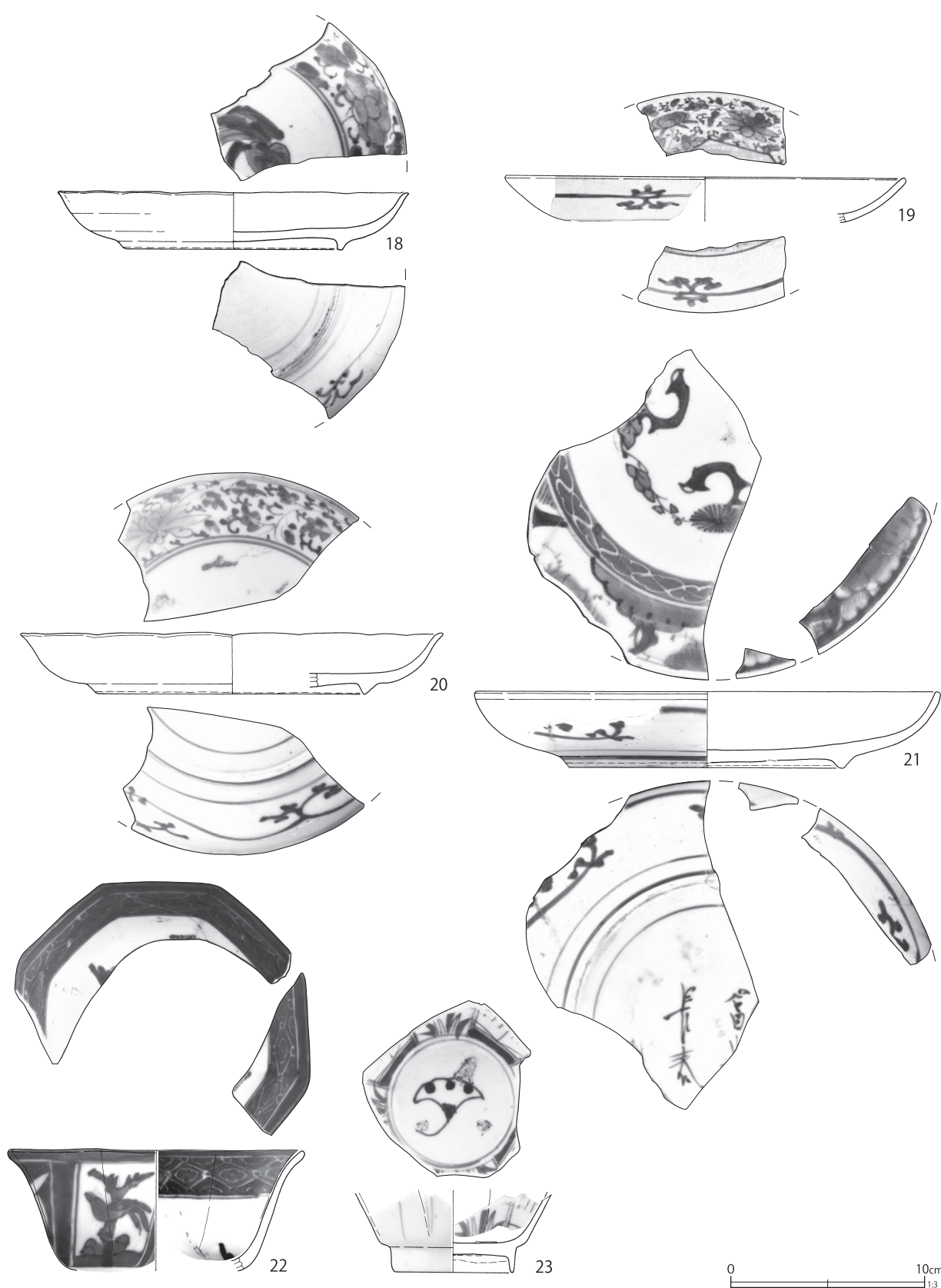
第271図22は肥前系、23は瀬戸美濃系磁器の八角鉢である。23は高台内に蛇ノ目状の釉拭き取り痕、内底面に窯道具痕が3箇所みられる。

第272図29は肥前系磁器の合子蓋である。内面に渦巻状のケズリがみられる。

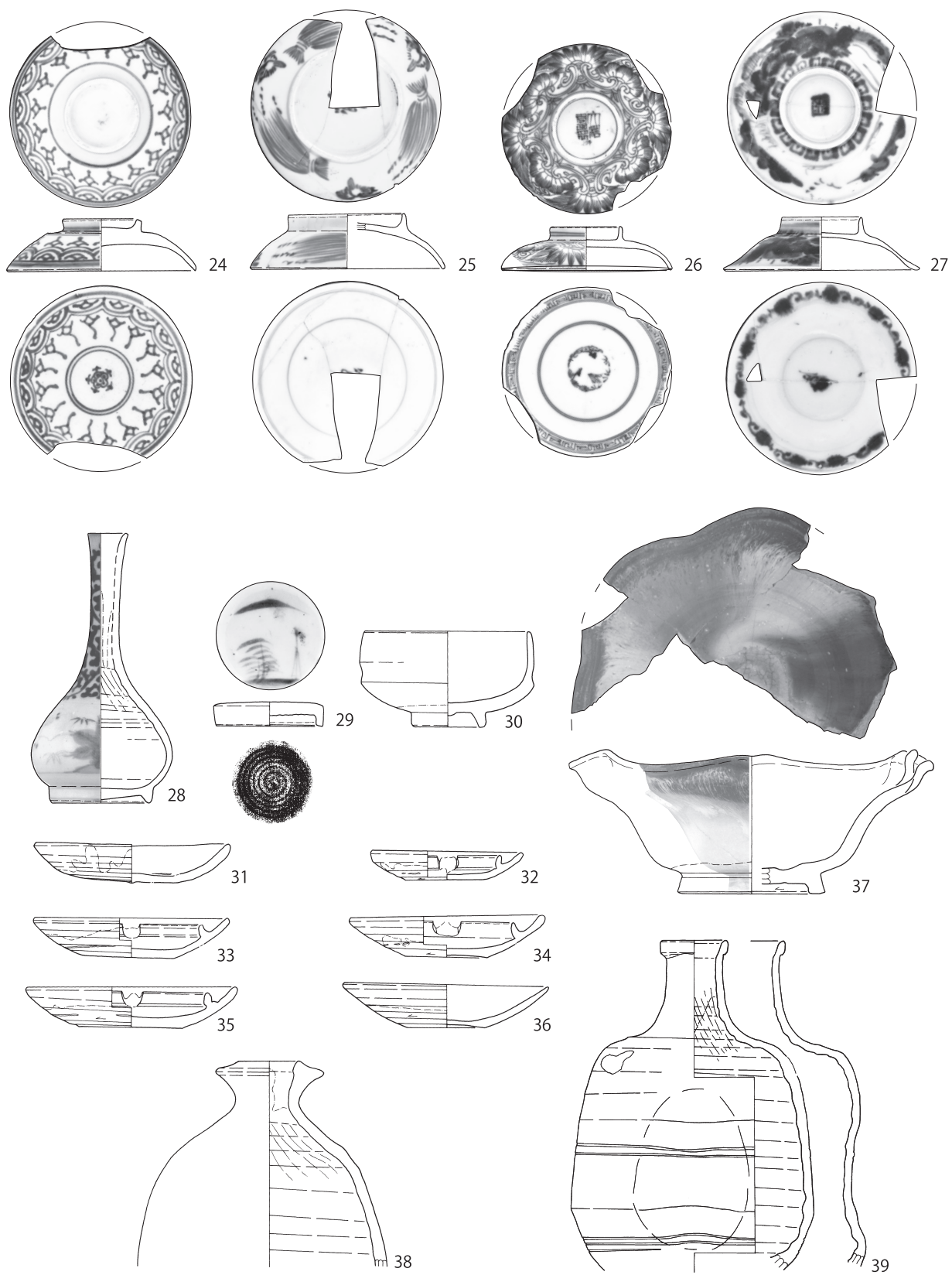
31～35は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。31は油皿で、外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。また、内面と底部に輪状重ね焼き痕がみられる。32～35は油受皿で、いずれも外面下位から底部にかけて釉が拭き取られ、輪状



第 270 图 第 229 号土壙出土遺物 (1)

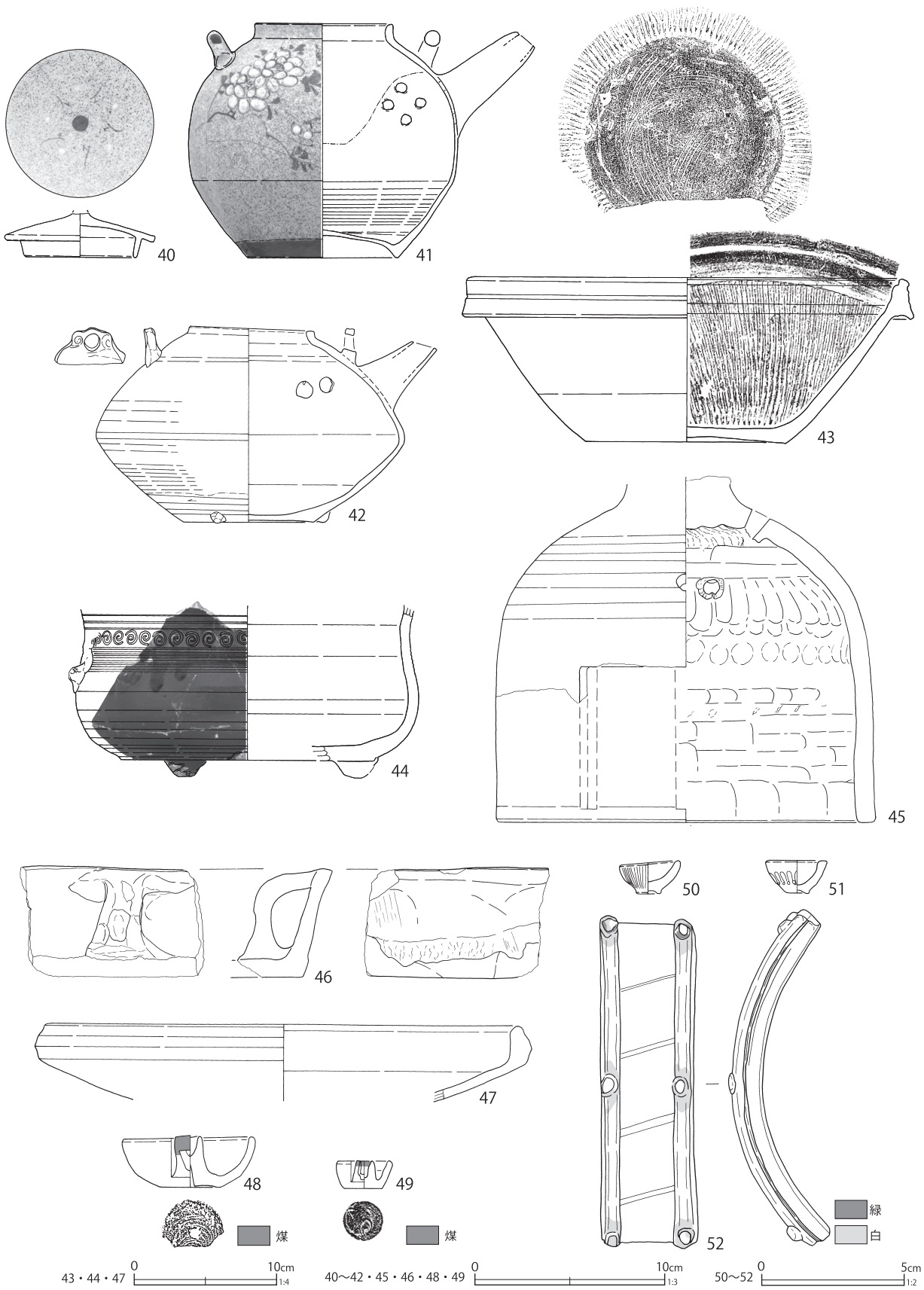


第 271 图 第 229 号土壙出土遺物 (2)

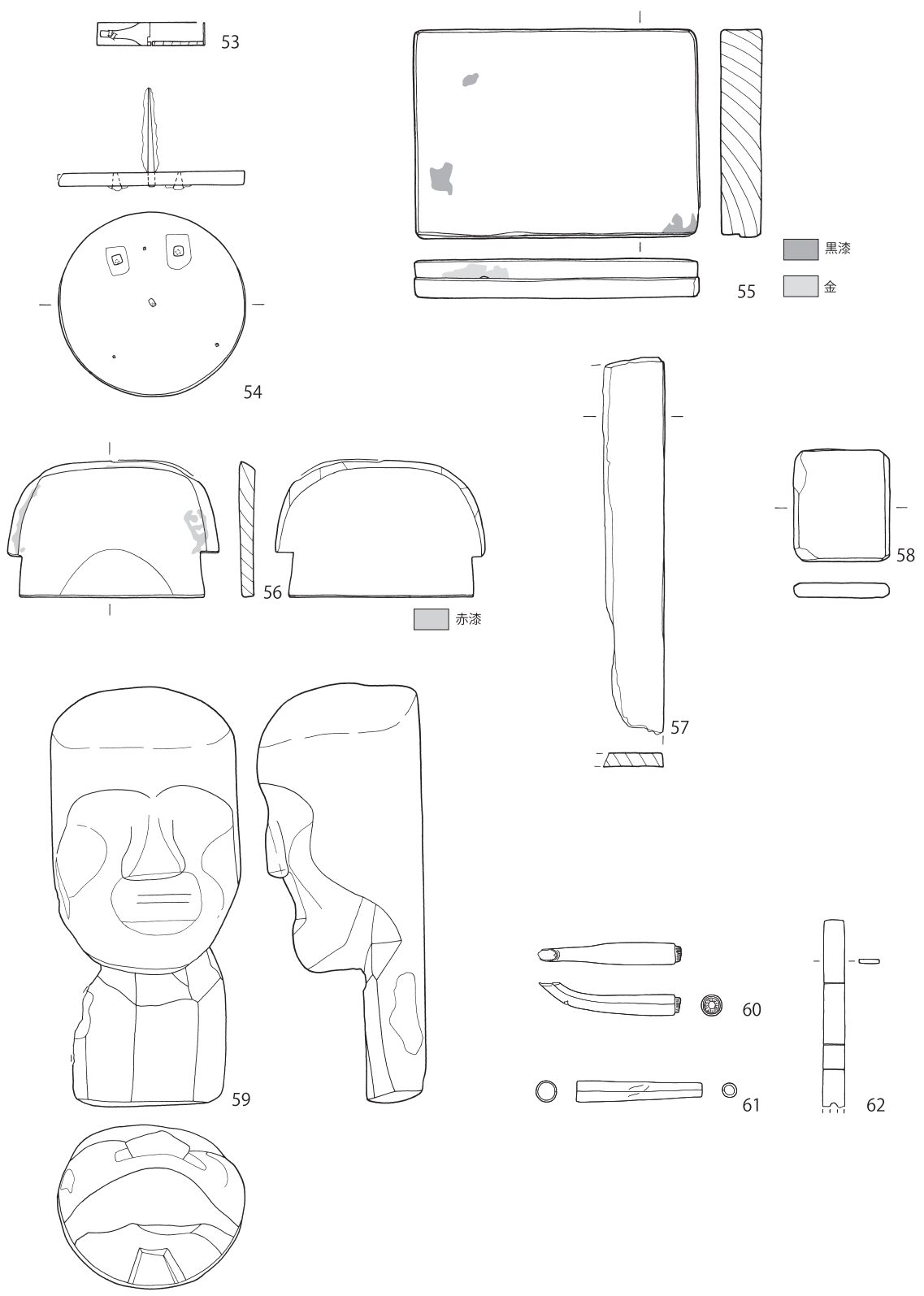


0 10cm
1:3

第 272 图 第 229 号土壙出土遺物 (3)



第 273 図 第 229 号土壙出土遺物 (4)



59 0 10cm 1:4

53~58・60~62 0 10cm 1:3

第274図 第229号土壙出土遺物(5)

第 66 表 第 229 号土壌出土遺物観察表 (第 270 ~ 274 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(6.3)	4.9	3.2	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	7.9	5.0	2.8	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
3	磁器	碗	(8.7)	4.0	(3.2)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
4	磁器	碗	(7.5)	3.7	(2.6)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
5	磁器	碗	11.3	6.7	6.3	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
6	磁器	蓋	—	[1.7]	9.6	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
7	磁器	碗	(10.7)	5.8	(4.2)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
8	磁器	碗	10.7	6.0	4.5	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
9	磁器	碗	9.4	4.6	3.9	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
10	磁器	碗	(9.6)	5.3	3.6	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面被熱	
11	磁器	碗	(9.4)	[4.0]	—	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり	
12	磁器	坏	7.1	5.2	3.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅 同文別個体 1 あり	69-13
13	磁器	坏	(6.4)	3.1	(2.7)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
14	磁器	坏	5.2	2.7	2.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 外面下位陽刻文 内外面施釉 外面染付 内面黒色物質付着	
15	磁器	皿	(12.2)	4.0	7.0	—	45	良好	灰白	肥前系 内外面施釉・染付	
16	磁器	皿	(13.9)	4.5	(8.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 (外面青磁釉) 内面染付 蛇ノ目凹形高台	
17	磁器	皿	(10.5)	2.5	5.9	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 被熱 (弱)	
18	磁器	皿	(17.9)	2.9	(11.0)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
19	磁器	皿	(20.4)	[2.2]	—	—	10	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
20	磁器	皿	(21.5)	3.1	(13.5)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
21	磁器	皿	(23.8)	3.9	(14.0)	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡 3 遺存 焼継痕あり 被熱	
22	磁器	鉢	(15.0)	[6.2]	—	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
23	磁器	鉢	—	[4.0]	6.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内底面目跡 3 高台内蛇ノ目状に釉拭き取り	
24	磁器	蓋	4.0	2.7	3.8	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
25	磁器	蓋	6.0	2.8	5.8	—	85	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
26	磁器	蓋	3.7	2.2	3.5	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
27	磁器	蓋	4.2	2.7	4.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
28	磁器	德利	1.9	13.7	4.9	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付・色絵 (赤) 口縁部金彩	
29	磁器	蓋	5.3	1.2	—	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
30	陶器	碗	(8.3)	4.9	3.2	K	85	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄釉流し掛け	
31	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.5	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 内面・底部輪状重焼痕 (各径 4.0 cm)	
32	陶器	灯明皿	7.6	1.5	3.6	DIK	100	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部中位輪状重焼痕 (径 5 cm)	
33	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.5	IK	100	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部中位輪状重焼痕 (径 6.9cm)	
34	陶器	灯明皿	9.8	2.2	4.2	IK	100	良好	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕 (径 7.1cm)	
35	陶器	灯明皿	10.5	2.1	5.3	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 体部中位輪状重焼痕	
36	陶器	灯明皿	10.4	2.3	3.9	HIK	90	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 内面極小ピン痕 3 あり 口縁部煤付着 体部上位一部タール状物質付着	
37	陶器	鉢	(18.1)	7.3	(7.0)	DEIK	50	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 青緑釉・白釉流し掛け 底部外周・高台内柿釉 (一部拭き取り)	
38	陶器	德利	3.1	[10.5]	—	EIK	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿釉	
39	陶器	德利	3.2	[16.9]	—	IK	80	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面柿釉 肩部重焼痕 2 あり 体部凹み 2 箇所	
40	陶器	蓋	7.9	[2.3]	5.7	IK	95	良好	灰黄褐	上面白化粧・鉄絵・施釉 鉄分斑状	69-11
41	陶器	土瓶	7.1	12.3	7.6	IK	90	良好	灰褐	内面施釉 外面白化粧・鉄分斑状・施釉・鉄絵・呉須絵・白盛	69-11
42	陶器	土瓶	6.5	10.3	6.9	IK	95	普通	褐灰	把手型成形 内外面鉄釉 内面・底部煤付着	69-12

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
43	陶器	播鉢	30.2	11.6	14.0	DEIK	70	普通	にぶい赤	堺明石系 底部砂目 内面播目	
44	陶器	瓶掛	—	[12.2]	(17.6)	DEIK	15	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面下位・底部鉄釉 外面上位緑釉・スタンプ施文 目跡2 遺存 内面上位煤付着 獸面欠失	
45	土師質土器	瓦燈	—	[18.2]	(19.6)	AHIK	70	良好	橙	江戸在地系 スリット2 遺存 (図は推定) 焼成前穿孔4あり 胎土中心部還元焰焼成	
46	瓦質土器	焙烙	—	5.7	—	CIK	5	普通	灰白	底部シワ状痕 体部下位ケズリ・中位シワ状痕残る	
47	瓦質土器	焙烙	(32.9)	[5.3]	—	CFHIK	15	普通	明褐灰	砂目底 体部下位ケズリ 体部煤付着	
48	施釉土器	乗燭	(6.1)	2.7	(3.1)	IK	40	良好	橙	江戸在地系 底部糸切痕 (左) 胎土粉質 内外面施釉 (剥落) 芯立部煤付着	
49	土師質土器	乗燭	2.6	1.4	2.0	AHIK	100	普通	橙	江戸在地系 底部糸切痕 (左) 胎土粉質 芯立部煤付着	69-10
50	磁器	紅坏	2.0	1.1	0.7	—	—	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 重さ2.7g	121-15
51	磁器	紅坏	1.9	1.1	0.7	—	—	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 重さ2.8g	121-15
52	土製品	箱庭道具	長さ11.8 幅3.7 厚さ1.1 重さ41.5			AK	—	良好	橙	江戸在地系 橋 型成形 施釉・一部白土・緑釉	119-14
53	木製品	曲物	口径/径5.3 高さ1.1							柁目 底板中央に孔	
54	木製品	提灯	口径/径9.0 高さ4.8 厚さ0.7							板目 表面鉄芯 裏面金具鉄釘固定 木釘残	
55	木製品	台	長さ10.1 幅13.8 厚さ1.9							板目 表裏面黒漆 側面黒漆 金箔残存	
56	木製品	獅子頭	長さ6.6 幅10.2 厚さ0.7							板目 赤漆	129-10
57	木製品	木札	長さ[18.2] 幅[3.0] 厚さ0.7							板目 表面墨書「埼玉縣下栗橋(宿)」	146-10
58	木製品	木札	長さ5.4 幅4.7 厚さ0.7							板目 表裏面墨書「い十七」	146-13
59	木製品	人形	長さ27.2 幅12.2 厚さ10.6							芯持材	129-11
60	銅製品	煙管	長さ[6.7] 小口径1.0 重さ20.1							雁首 火皿欠失	
61	銅製品	煙管	長さ6.1 小口径1.0 口付径0.7 重さ8.7							吸口	
62	銅製品	不明	長さ[9.1] 幅1.0 厚さ0.2 重さ12.9								

重ね焼き痕がみられる。受け口の切り込みは「U」字状を呈する。

36は京都信楽系陶器の灯明皿である。胎土は磁質で、内面に極小の窯道具痕が3箇所みられる。口縁部に煤、体部上位にはタール状の黒色物質が付着する。

37は瀬戸美濃系陶器の鉢である。内外面に灰釉が施釉され、さらに青緑釉と白釉が流し掛けられている。底部外周と高台内に柿釉が施釉され、一部拭き取られている。口縁部は波状に大きく歪ませている。

第273図42は産地不詳陶器の鉄釉土瓶である。ソロバン形を呈し、注口部は鉄砲口である。把手は型成形である。底部には使用痕と思われる煤が付着する。

44は瀬戸美濃系陶器の瓶掛である。外面下位と底部に鉄釉が施釉される。外面上位にスタンプ施文と糸目がみられ、緑釉が流し掛けられている。獅子頭は極一部が遺存する。内面上位には煤が付

着する。

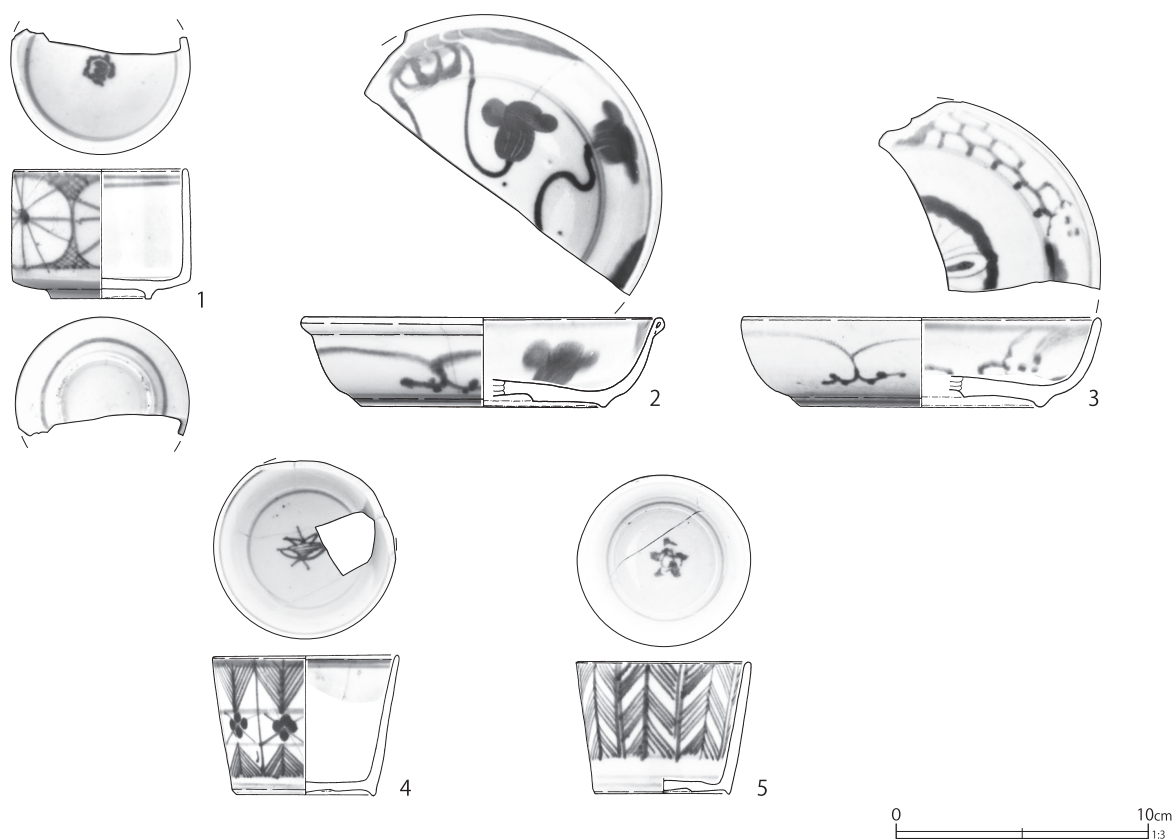
45は江戸在地系土師質土器の瓦燈である。蓋であり、本体の出土はなかった。栗橋宿では瓦燈の出土は少ないが、蓋と本体がセットで出土することはさらに稀である。蓋と本体のいずれか一方のみ出土する場合がほとんどである。格子状の縦透かしが極一部遺存しており、挿図ではその間隔を推定復元した。上部には焼成前穿孔が4箇所みられる。

50・51は瀬戸美濃系磁器の極小紅坏である。型成形で、外面に施文がみられる。

52は土製品で、江戸在地系の箱庭道具である。橋を模しており、大型である。透明釉が施釉され、部分的に白土と緑釉で彩色されている。

第274図59は木製品の人形で、栗橋宿では初出である。所謂首人形とでも言うべき形態であり、顔の造形はかなり形骸化しており、はっきりしない。

60・61は銅製煙管で、60は有機質の羅宇が僅



第 275 図 第 245 号土壌出土遺物

第 67 表 第 245 号土壌出土遺物観察表 (第 275 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	6.7	5.1	3.8	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	皿	(14.0)	3.5	(9.6)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内輪状に砂付着	
3	磁器	皿	(14.0)	3.5	(9.4)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
4	磁器	猪口	7.2	5.5	5.4	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
5	磁器	猪口	6.7	5.2	5.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	

かに遺存する雁首で、61 は吸口である。

第 245 号土壌 (第 265・275 図)

F 7 - F 8 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.05 m、短軸 1.4 m、深さ 0.1 m を測り、長軸方位 N - 73° - E を指す。

浅いシルト質土の単層で、遺構の底面は硬くしまっている。多量の炭化物と僅かな焼土が含まれている。

出土遺物はそれほど多くはないが、陶磁器は磁器を主体とし、肥前系磁器の蛇ノ目凹形高台蕎麦猪口 (第 275 図 4・5) を最新期とすることから 18 世紀末 ~ 19 世紀初頭に比定される。なお

遺構検出標高は 9.9m で、遺構の規模から考えると本来の掘り込み面は浅間 A 降下軽石の検出標高 (第 5 ~ 7 図参照) より高いと思われる。

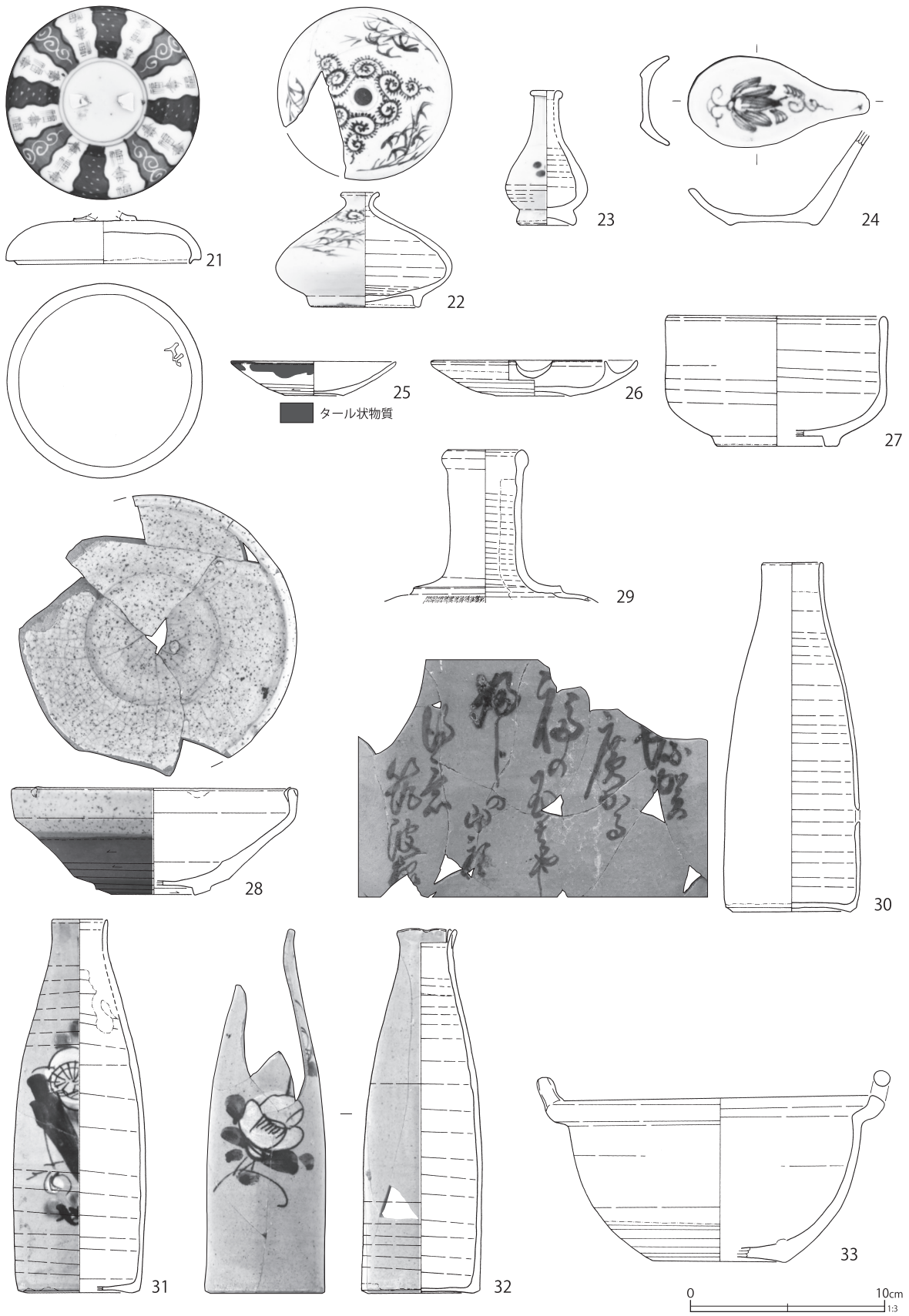
第 275 図に出土遺物を図示した。全て肥前系磁器である。1 は筒形碗である。2・3 は高台高が低い蛇ノ目凹形高台の五寸皿である。2 は折り返し口縁で、玉縁となっている。4・5 は蛇ノ目凹形高台の蕎麦猪口で、最新期の陶磁器である。染付文様は広東碗と共通する。

第 259 号土壌 (第 265・276 ~ 281 図)

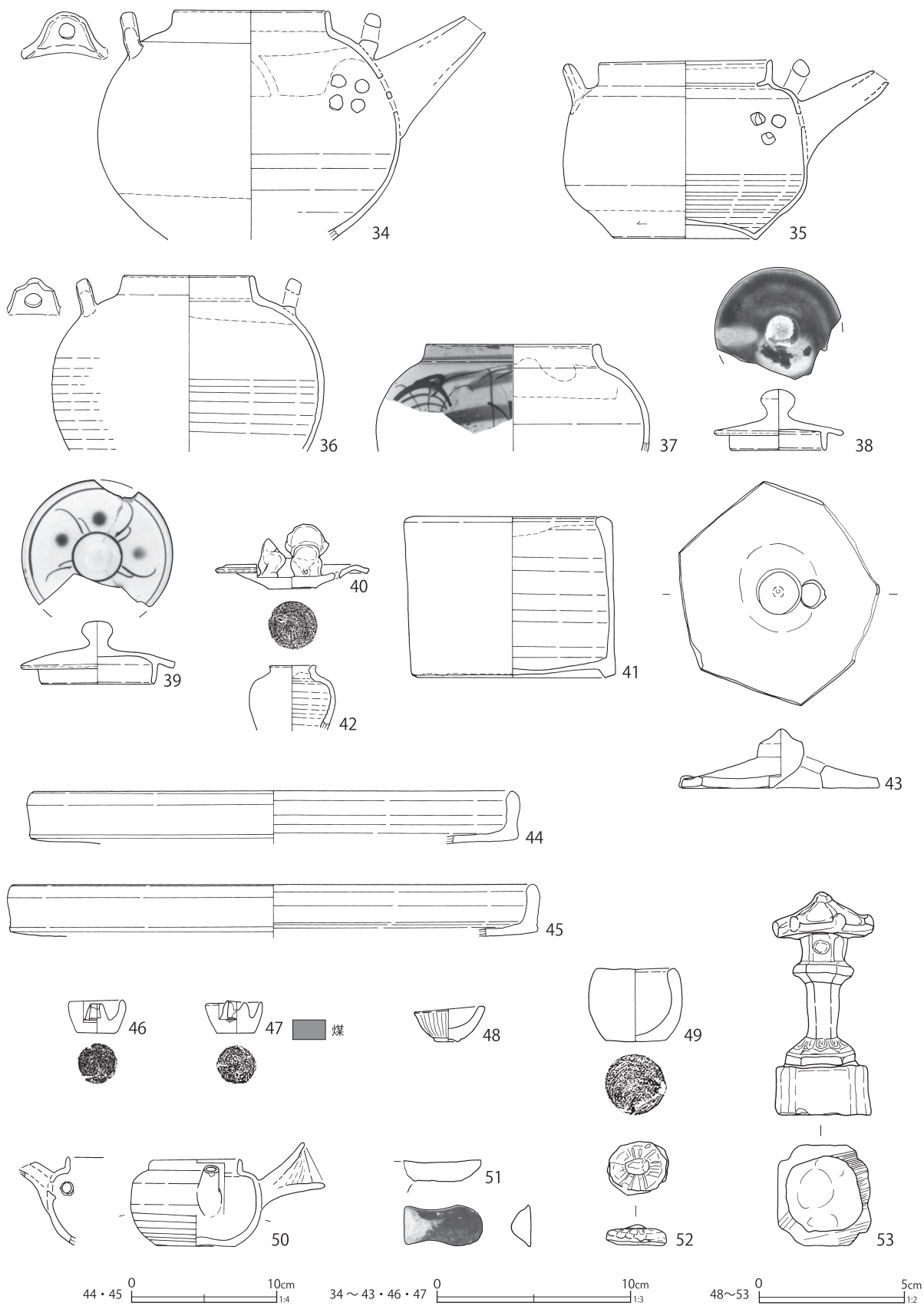
F 7 - E 8・9 グリッドに位置する。第 237 号土壌より古く、第 199・228 号土壌と重複する。



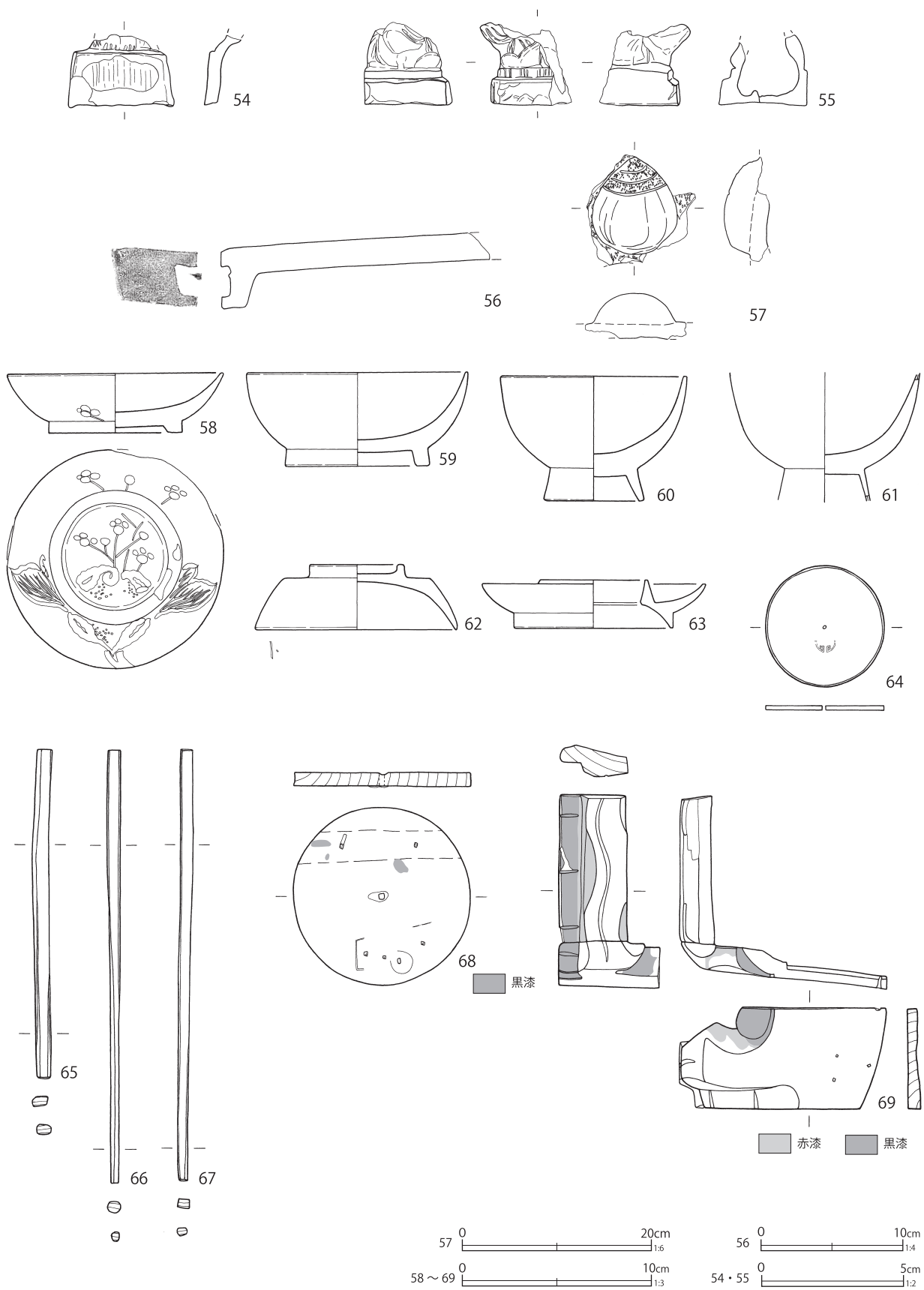
第 276 图 第 259 号土壙出土遺物 (1)



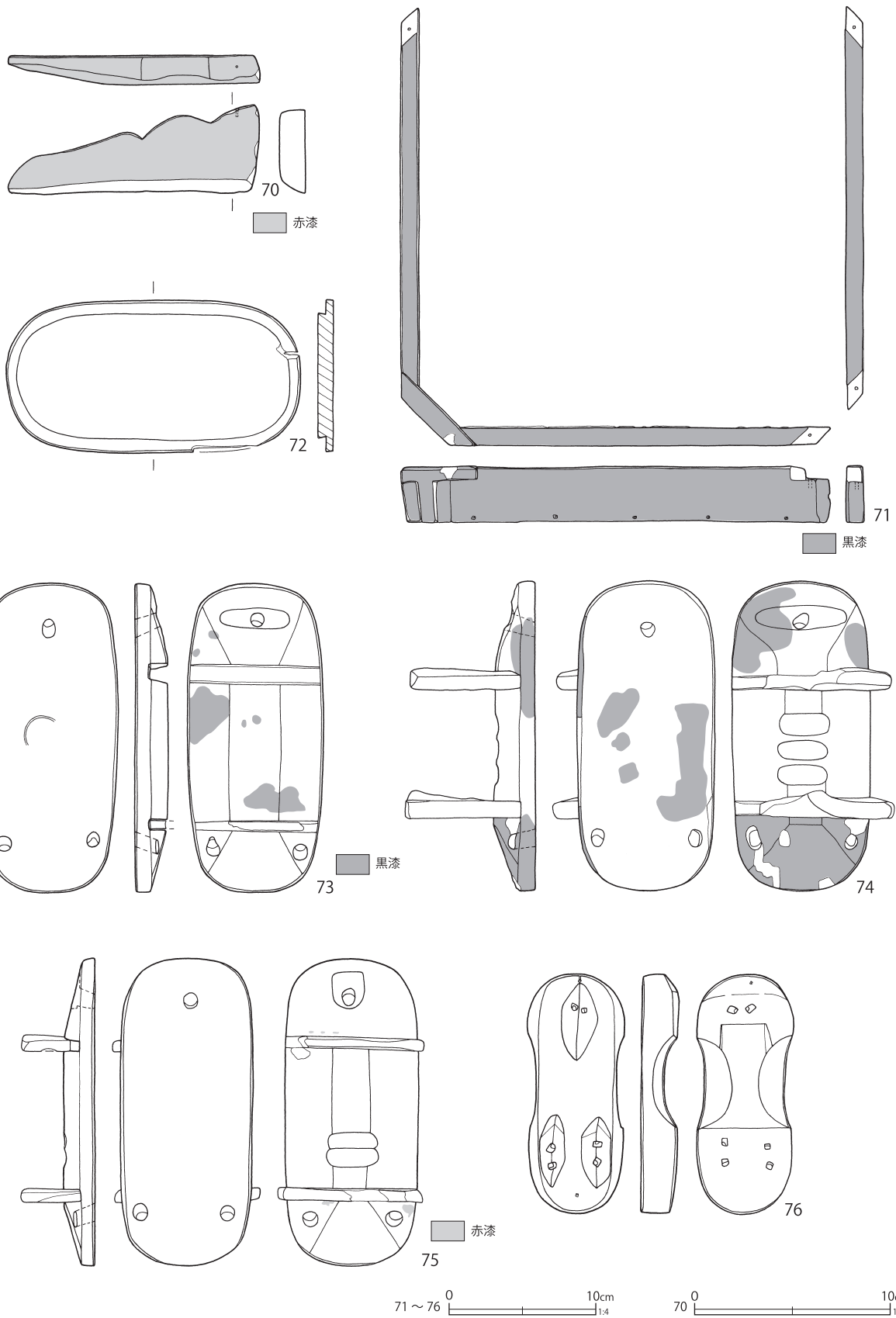
第 277 図 第 259 号土壙出土遺物 (2)



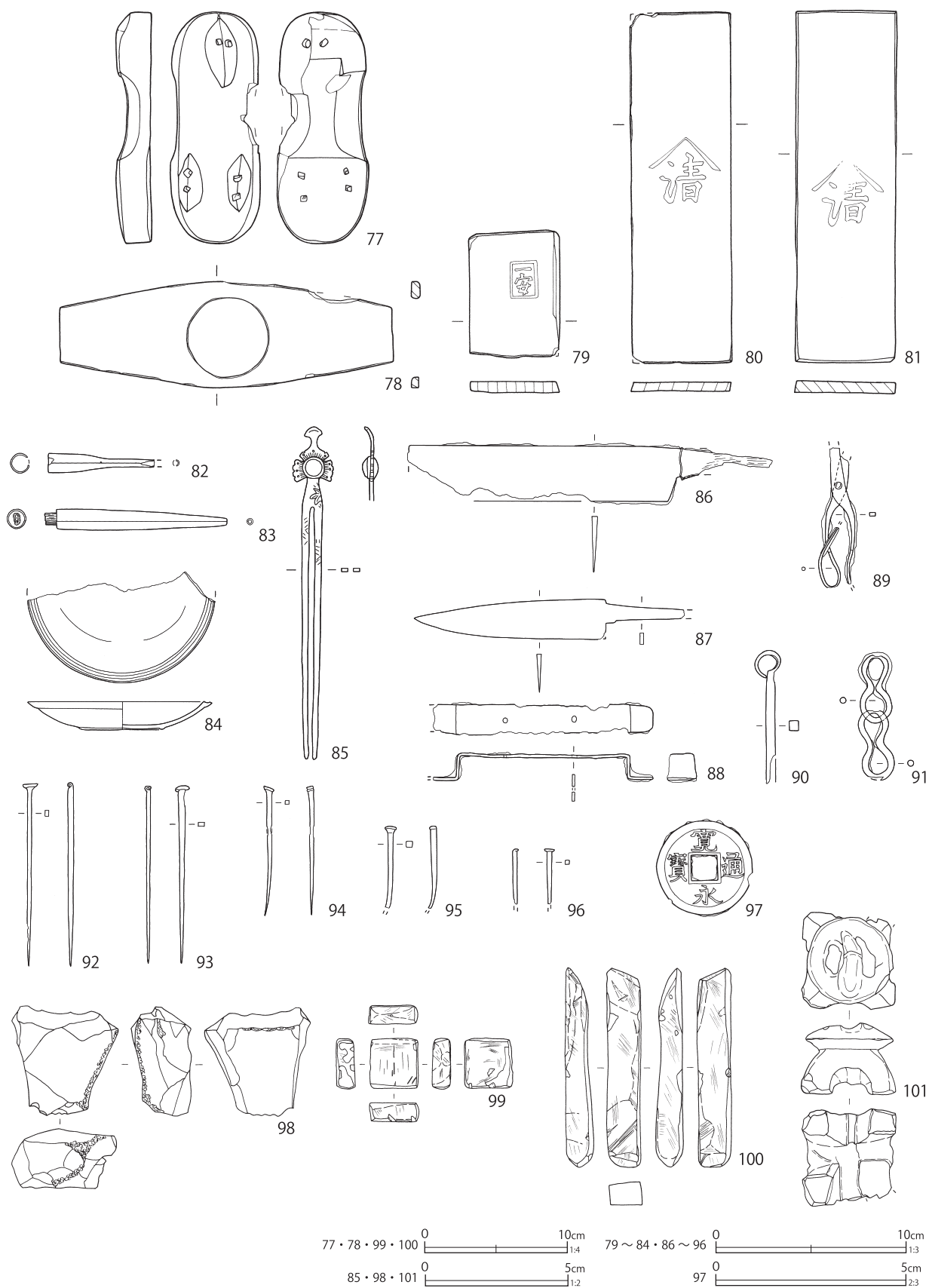
第 278 图 第 259 号土壙出土遺物 (3)



第 279 図 第 259 号土壙出土遺物 (4)



第280図 第259号土壙出土遺物(5)



第 281 图 第 259 号土坑出土遗物 (6)

第 68 表 第 259 号土壙出土遺物観察表 (第 276 ~ 281 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	15.4	7.1	4.9	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	70-10
2	磁器	蓋	8.6	2.5	3.3	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
3	磁器	碗	9.3	5.1	3.2	—	75	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印 (赤)	
4	磁器	碗	9.5	5.2	(3.7)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
5	磁器	碗	10.6	6.1	3.9	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
6	磁器	碗	7.1	6.3	3.6	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
7	磁器	碗	(6.9)	5.1	(3.2)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	
8	磁器	碗	6.7	4.6	3.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
9	磁器	碗	8.2	3.9	3.9	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 底部露胎 同文別個体 3 あり	
10	磁器	碗	(7.2)	4.0	(3.2)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面陰刻文・染付	77-9
11	磁器	坏	6.0	3.3	2.4	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付 同文別個体 2 あり	
12	磁器	坏	6.2	3.3	2.6	—	80	良好	白	肥前系 内外面施釉	
13	磁器	坏	(5.8)	2.7	2.3	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付 (青)	
14	磁器	坏	(5.6)	2.7	(2.8)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付 (青)	
15	磁器	坏	—	[2.2]	2.2	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付 (青)	
16	磁器	鉢	12.5	6.1	6.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内輪状重焼痕 焼継痕あり 被熱 (弱)	
17	磁器	猪口	7.1	6.1	5.5	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅 蛇ノ目凹形高台	
18	磁器	猪口	—	[1.7]	(5.0)	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 蛇ノ目凹形高台 底部焼継印 (赤)	
19	磁器	段重	7.0	2.7	3.7	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	77-11
20	磁器	段重	(14.0)	5.7	(8.8)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 内面露胎部赤色物質付着	
21	磁器	蓋	10.0	[2.6]	8.8	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 内面焼継印 (透明)	
22	磁器	油壺	(1.8)	5.9	5.4	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付	
23	磁器	德利	1.3	6.9	(2.7)	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付	
24	磁器	蓮華	長さ [9.3] 幅 4.6 高さ [4.9]			—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 同文別個体 2 あり	
25	陶器	灯明皿	(8.4)	1.8	3.0	EK	50	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 外面上位タール状物質付着	
26	陶器	灯明皿	10.4	1.8	3.7	K	95	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 口縁部焼成前欠損	
27	陶器	碗	10.8	6.6	6.0	IK	60	良好	灰白	内外面施釉 (白色気味) 被熱カ	
28	陶器	鉢	(14.0)	5.5	4.2	IK	80	良好	灰白	大堀相馬系 胎土砂鉄含む 内外面白化粧・施釉 口縁部凹み 2 遺存	
29	陶器	德利	(3.8)	[7.8]	—	IK	10	普通	灰黄	外面下位トビガンナ状施文 頸部青緑釉流し掛け 内外面下位鉄釉	
30	陶器	爛德利	(3.0)	17.9	6.1	IK	80	普通	黄灰	外面灰釉 内面鉄釉 外面鉄絵文字 体部二次穿孔 1 あり	70-13
31	陶器	爛德利	2.7	19.1	(5.4)	K	70	良好	灰白	京都信楽系 外面施釉・鉄絵 緑釉・白土絵付け	70-14
32	陶器	爛德利	2.9	18.7	5.4	EIK	80	良好	灰白	内外面灰釉 外面鉄絵・白土絵付 胎土黒色粒子多量	
33	陶器	鍋	16.4	9.8	(7.0)	EIK	55	良好	灰白	内外面柿釉 内面目跡 2 遺存 露胎部煤付着	
34	陶器	土瓶	7.8	[11.8]	—	I	85	良好	浅黄橙	内面施釉 外面鉄釉 被熱 (強)・煤付着	
35	陶器	土瓶	8.8	9.2	7.2	K	80	良好	灰白	内面施釉 外面白化粧後施釉	
36	陶器	土瓶	(6.4)	[9.1]	—	I	30	良好	にぶい橙	内外面鉄釉 外面白釉流し掛け	
37	陶器	土瓶	(8.8)	[5.5]	—	K	10	良好	灰白	外面白化粧後鉄絵・緑色絵付・施釉 内面施釉	
38	陶器	蓋	6.7	3.1	4.8	IK	75	良好	灰白	上面灰釉・白釉流し掛け	
39	陶器	蓋	7.9	3.2	5.7	IK	80	普通	灰黄	上面白化粧後鉄絵・緑釉絵付・施釉	
40	陶器	蓋	7.9	3.3	2.4	IK	95	良好	灰白	底部糸切痕 (右) 上面白化粧後施釉	
41	陶器	香炉	9.6	8.3	9.5	HIK	85	普通	浅黄橙	京都信楽系 外面灰釉	70-14
42	陶器	豆甕	(2.2)	[3.3]	—	K	30	良好	灰白	胎土磁質 外面漆黒釉	
43	土師質土器	蓋	縦 11.4 器高 3.1 横 10.2			AHIK	100	普通	にぶい褐	江戸在地系 胎土粉質 焼成前穿孔 1	
44	土師質土器	焙烙	(33.0)	[3.6]	(33.6)	CHIK	10	普通	にぶい黄橙	砂目底 体部煤付着	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
45	土師質土器	焙烙	(35.8)	[3.5]	(36.4)	CHIK	20	普通	にぶい黄橙	底部シワ状痕 体部煤付着	
46	土師質土器	乗燭	2.7	1.7	2.0	AHIK	95	普通	にぶい橙	江戸在地系 底部糸切痕 (左・摩耗) 胎土粉質	
47	土師質土器	乗燭	2.8	1.7	1.9	AHIK	95	普通	にぶい橙	江戸在地系 底部糸切痕 (左・摩耗) 胎土粉質 芯立部煤付着	
48	磁器	紅坯	2.9	1.2	0.7	—	—	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 重さ3.9 g	121-15
49	土師質土器	小壺	2.6	2.5	2.1	AHIKM	—	普通	にぶい橙	底部糸切痕 (左) 胎土粉質 重さ13.7 g	121-14
50	陶器	ミニチュア	(3.0)	3.0	2.7	K	—	良好	灰白	京都信楽系カ 急須 胎土磁質 重さ18.7 g	120-8
51	施釉土器	ミニチュア	長さ[2.7] 幅1.4 厚さ0.7 重さ2.9			K	—	良好	灰白	行平鍋(把手) 型成形 鉄釉	
52	土製品	芥子面	長さ1.8 幅1.1 厚さ0.7 重さ2.2			AIK	—	普通	にぶい橙	一枚型成形 中実	122-13
53	土製品	箱庭道具	長さ7.7 幅3.5 厚さ3.5 重さ36.9			AHK	—	良好	橙	江戸在地系 灯籠 前後合二枚型成形 開口 外面施釉・白土・緑釉 被熱	120-9
54	土製品	人形	長さ[2.6] 幅3.8 厚さ0.5 重さ9.7			AK	—	良好	橙	狐 前後合二枚型成形 開口 胎土粉質	
55	土製品	人形	長さ[2.9] 幅[3.2] 厚さ0.6 重さ13.6			AHK	—	普通	にぶい黄橙	京都系 狐か 前後合二枚型成形 中空 雲母付着	
56	瓦	軒平瓦	長さ[18.9] 幅[8.9] 厚さ1.9 高さ[5.1]			AIK	—	普通	灰白	弱く銀化 燻す	
57	瓦	鬼瓦	長さ[11.7] 幅[11.6] 高さ[4.8]			AHIK	—	良好	灰白	銀化 燻す 刺突文	124-10
58	木製品	漆椀	口径11.2 高さ3.1 底径7.0						横木取り 内面赤漆 外面黒漆 外面金で文様		129-16
59	木製品	漆椀	口径11.5 高さ4.9 底径7.4						横木取り 内面赤漆 外面茶漆		129-17
60	木製品	漆椀	口径(9.6) 高さ6.5 底径5.2						横木取り 内面赤漆 外面黒漆		129-18
61	木製品	漆椀	高さ[6.7]						横木取り 内面赤漆 外面黒漆		
62	木製品	漆椀蓋	口径10.5 高さ3.5 底径4.8						横木取り 内外面黒漆 内面金で文字		130-1
63	木製品	天目台	口径11.7 高さ3.5 底径8.4						横木取り外周径(11.8) cm 内外面黒漆 外周の口縁金		130-2
64	木製品	曲物	口径6.2 厚さ0.2						板目 底板中央に孔 焼印		
65	木製品	箸	長さ17.4 幅0.8 厚さ0.5						削出		
66	木製品	箸	長さ22.8 幅0.7 厚さ0.6						削出		
67	木製品	箸	長さ22.7 幅0.7 厚さ0.5						削出		
68	木製品	提灯	口径9.2 厚さ0.7						板目 黒漆 孔1木釘残2 鉄釘残2 中央に鉄 裏面炭化 鉄製脚の痕跡(脚は第281図88)		
69	木製品	獅子頭	長さ10.1 幅11.0 厚さ0.4~1.3						板目 黒漆・赤漆 白色白地 孔4ヶ所		130-3
70	木製品	不明品	長さ4.3 幅12.5 厚さ1.3						不明 赤漆 上面木釘穴		
71	木製品	膳	長さ[29.7] 幅(31.5) 高さ[3.7]						枳目 側板T字状の材で接続 木釘残 内外面黒漆 SK22に同一個体		
72	木製品	曲物	長さ10.3 幅20.1 厚さ1.0						板目 底板		
73	木製品	下駄	長さ21.0 幅9.3 高さ[2.2]						枳目 陰卯下駄 一部黒漆 丸の焼印		
74	木製品	下駄	長さ21.0 幅9.3 高さ8.9						板目 陰卯下駄 裏面中央以外黒漆		
75	木製品	下駄	長さ20.9 幅9.0 高さ5.0						板目 陰卯下駄 一部赤漆		
76	木製品	下駄	長さ16.2 幅6.6 高さ2.5						板目 無眼下駄(77と揃)		
77	木製品	下駄	長さ16.2 幅5.2 高さ2.5						板目 無眼下駄(76と揃)		
78	木製品	不明品	長さ7.4 幅23.4 厚さ0.6						板目 一部炭化 孔径5.8 cm		
79	木製品	木札	長さ6.5 幅4.8 厚さ0.6						枳目 焼印「園」		
80	木製品	木札	長さ18.3 幅5.2 厚さ0.5						板目 焼印「翁」		
81	木製品	木札	長さ18.4 幅5.2 厚さ0.6						板目 焼印「翁」カ		
82	銅製品	煙管	長さ[5.6] 小口径1.0 口付径(0.3) 重さ2.9						吸口		
83	銅製品	煙管	長さ9.0 小口径1.0 口付径0.3 重さ13.5						吸口 羅字残存		
84	鉄製品	皿	口径10.0 器高1.5 厚さ最大0.3 重さ78.7								
85	銅製品	簪	長さ11.6 幅1.4 厚さ0.1 重さ9.0						玉花文		
86	鉄製品	包丁	長さ[19.2] 刃長13.6 刃幅2.9 背幅0.3 重さ54.9						柄の木質付着		
87	鉄製品	刀子	長さ[14.2] 刃長[10.1] 刃幅2.0 背幅0.2 重さ21.3								
88	鉄製品	提灯金具	縦1.6 横[10.6] 高さ1.4 厚さ0.1 重さ10.1						底板(第279図68)に付属		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
89	鉄製品	鋏	長さ [7.3]	幅 0.3	厚さ 0.2	重さ 8.3					
90	鉄製品	火箸	長さ [6.9]	幅 0.5	厚さ 0.5	重さ 9.4				箸頭環状	
91	鉄製品	鎖	長さ [6.6]	厚さ 0.3	重さ 10.7					8 字状 2 連結	
92	鉄製品	釘	長さ 9.6	幅 0.2	厚さ 0.3	重さ 3.9					
93	鉄製品	釘	長さ 9.3	幅 0.3	厚さ 0.2	重さ 2.7					
94	鉄製品	釘	長さ 6.8	幅 0.2	厚さ 0.2	重さ 2.2					
95	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.3	厚さ 0.3	重さ 1.9					
96	鉄製品	釘	長さ [2.9]	幅 0.2	厚さ 0.2	重さ 0.9					
97	鉄製品	銭貨	径 24.5	厚さ 1.2	重さ 1.8					寛永通寶 (古)	
98	石製品	火打石	長さ 3.8	幅 3.7	厚さ 2.1	重さ 32.2				玉髓 稜の潰れ著しい 被熱 (黄白色化)	
99	石製品	砥石	長さ 3.5	幅 3.4	厚さ 1.3	重さ 29.8				凝灰岩 砥面 6	
100	石製品	砥石	長さ 14.0	幅 2.4	厚さ 1.9	重さ 86.0				凝灰岩 砥面 4 刃物痕あり	139-14
101	石製品	箱庭道具	長さ 3.4	幅 3.3	厚さ [2.5]	重さ 23.4				凝灰岩 雪見灯籠	138-11

遺構の東半部は調査区外となっているが、平面形は隅丸長方形・方形を呈すると考えられる。検出範囲での長軸 4.5 m、短軸 1.9 m、深さ 0.8 m となる大型の土壇である。長軸方位は N-19°-W を指す。

覆土下層を中心に多量の木片がみられ、第 4 層は腐植し、有機物層を形成している。大部分はシルト質土で、上層には炭化物が含まれている。最上層は僅かに検出されているが、細粒の純砂で覆われている。

多量の遺物が出土しており、陶磁器は卵殻手坏、湯呑形碗等 19 世紀中葉頃に比定されるものが主体である。酸化コバルト染付磁器の坏がみられるが、重複遺構からの混入である。碗、坏、土瓶、爛徳利等が多く、所謂「茶屋」のような様相がみえる。遺構は区画内の北側に位置しており、『絵図』にみえる「餅菓子屋 / 惣右衛門店 / 内蔵之丞」との関連性が示唆される。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形端反形碗（第 276 図 9）3 個体である。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 276 ~ 281 図に出土遺物を図示した。第 276 図 1 は口径 15cm を越える肥前系磁器の大碗である。2・3 は肥前系磁器の蓋と碗で、セット関係にある。碗には焼継痕と高台内に朱書きの焼継印がみられる。

6 は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。腰が張り、高台は幅広である。7・8 は瀬戸美濃系磁器の小碗である。栗橋宿では幕末期にみられる器種である。

9 は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形の端反形碗である。幕末期から明治時代初頭頃に特徴的にみられる型押寿文皿・坏と同文の陰刻文が内面に施文されている。底部は蛇ノ目高台で、露胎である。非掲載遺物に別個体の同文製品が 3 個体みられる。最新期の陶磁器である。

12 は肥前系、13 ~ 15 は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。13 ~ 15 には内面に江戸絵付け、外面に染付が施される。13・15 は高台畳付け内側に段が付く。

19・20 は肥前系磁器で、中段の段重である。大小の筒形を呈し、腰部は露胎で段が付く。20 の内面露胎部には赤色物質が付着し、転用が示唆される。

第 277 図 25・26 は京都信楽系陶器の灯明皿で、25 は油皿、26 は油受皿である。25 は外面の口縁部付近から内面にかけて施釉され、外面上位にはタール状物質が付着する。26 は胎土が磁質で、外面上位から内面にかけて施釉される。

29 は東北・北関東地方を中心に分布する「すず徳利」の頸部である。頸部別作りで、接ぎ痕がみられる。外面下位にトビガンナ状施文がみられ、

体部は極めて薄手と考える。頸部に青緑釉が流し掛けられ、トビガンナ状施文部に鉄釉が施釉されている。

28は大堀相馬系陶器の鉢である。栗橋宿では類例がないつくりである。黒色粒子が多量に含まれ、表面は斑模様である。外面上位から内面にかけて白化粧と施釉が施される。歪ませた口縁部が2箇所遺存する。

30～32は陶器の爛徳利である。30・32は産地不詳、31は京都信楽系である。30には鉄絵文字と体部に二次穿孔がみられる。31は鉄・白土・緑釉彩が施される。32は鉄・白土で絵付けられ、胎土には黒色粒子が多量に含まれている。

第278図34～37は産地不詳陶器の土瓶である。34は鉄釉が施釉され、強く被熱し、煤が付着する。35は白化粧後に施釉される。36は鉄釉が施釉され、さらに白釉が流し掛けられている。37は白化粧後に鉄絵・緑色彩が施されている。

43は江戸在地系土師質土器の蓋である。六角形を呈し、つまみの横に焼成前穿孔がみられる。瓦燈等の蓋の可能性が考えられるが、対応する身は栗橋宿ではみつかっていない。

46・47は江戸在地系土師質土器の乗燭である。底部に左回転の糸切痕が遺存するが、摩耗し、はっきりしない。47の芯立部には煤が付着する。

48は瀬戸美濃系の極小紅坏である。型成形で、外面に縦に条線が施文される。49は京都系「つぼつぼ」に類似する土師質土器の小壺である。底部に左回転の糸切痕がみえ、胎土は細粒な雲母を含む粉質である。

53は江戸在地系の土製品で、灯籠を模した箱庭道具である。下面が開口する前後合わせの二枚型成形である。外面は透明釉が施釉され、白土・緑釉で彩色される。被熱している。

第279図57は鬼瓦である。涙滴状で上部に3条の沈線がみられることから、宝珠紋と考えられる。家紋瓦の一部であろうか。上部と周囲には刺

突状の施文が施される。

68は木製品で、提灯の底部である。中央には鉄芯と思われる鉄が遺存する。鉄製金具の脚が遺存しており、挿図では第281図88の提灯金具の図を付した。

第280図72は長楕円形の曲げ物の底板である。第281図79～81は木札である。焼き印がみられ、79は「園」、80・81は「斎」である。79は初見だが、80・81は既報告である第3地点（『栗橋宿跡Ⅰ』第200図26、埼埋文2018b）、北二丁目陣屋跡（『北二丁目陣屋跡』第76図149）で出土している。

82・83は銅製煙管の吸口で、83には有機質の羅字が遺存する。85は銅製の簪で、玉花文が施文される。92～96は鉄製の頭巻釘である。

98は玉髓製の火打石で、稜線が著しく潰れている。被熱により黄白色化している。99は凝灰岩製砥石で、使い込まれて大きさも小さく、方形を呈する。100は棒状を呈する凝灰岩製砥石である。101は凝灰岩製雪見灯籠と考えられる。小さく、所謂箱庭道具と推定される。

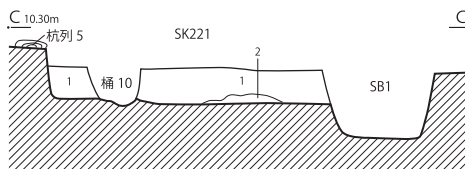
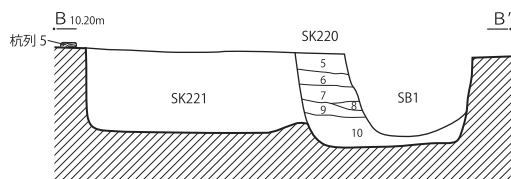
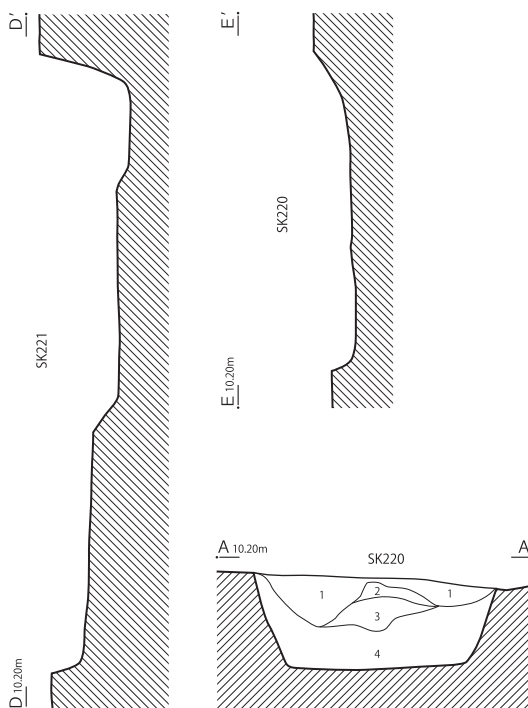
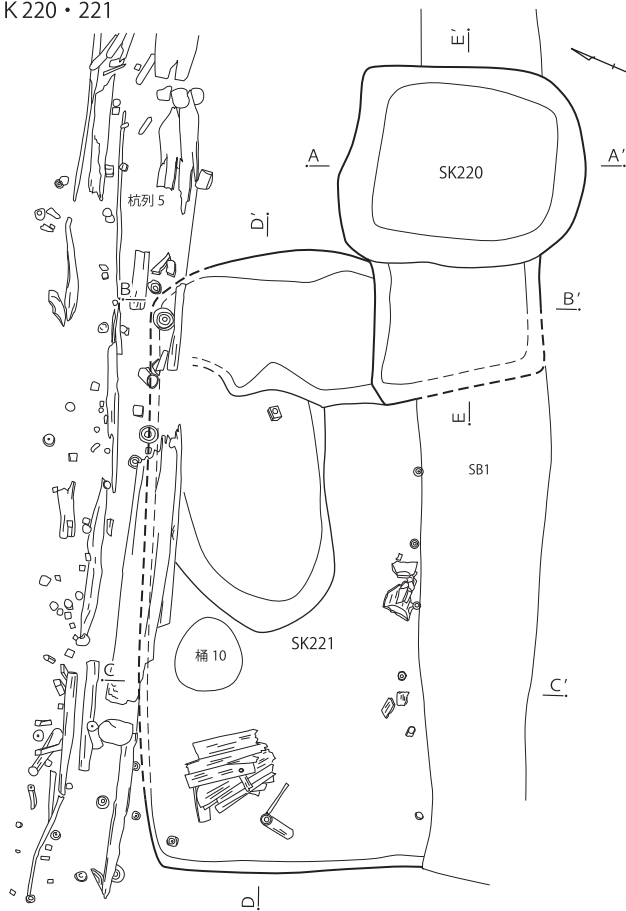
第220号土壌（第282・283～285図）

F7-E7・8グリッドに位置する。第1号建物跡より古く、第221号土壌より新しい。平面形は不整形で、長軸2.65m、短軸1.95m、深さ0.7mを測る。長軸方位はN-68°-Eを指す。

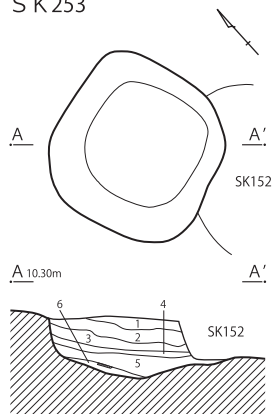
セクションA-A'とB-B'では土層の堆積状況が異なり、遺構の平面形から、2基の土壌が想定されるが、陶磁器類に混在を示唆するような遺物は認められなかった。

粘土質の堆積土で構成されており、第1・10層には木質が多量に含まれている。また、下層の木質や貝類を覆うように、上層には炭化物が多く含まれている。出土遺物は極めて多く、陶磁器類は瀬戸美濃系磁器の端反形碗を主体に、湯呑形碗が少量組成する。最新期の陶磁器は瀬戸美濃系

S K 220・221



S K 253



S K 253

- 1 明黄灰色土 シルト質 やや均一 炭化物 (φ2~10mm) 少量
黄色シルトブロック (φ20~30mm) 多量
- 2 明黄灰色土 シルト質 やや均一 黄灰色シルトブロック (φ20mm) 少量
- 3 明灰色土 シルト質 均一 黄白色シルトブロック (φ10~50mm) 多量
炭化物 (φ2~5mm) 少量
- 4 暗灰色土 シルト質 やや均一 黄白色シルトブロック (φ10~50mm) 多量
炭化物 (φ2~5mm) 少量 3層より量少ない
- 5 暗灰色土 シルト質 黄白色シルトブロック (φ10~50mm) 多量
炭化物 (φ2~5mm) ・木質少量
- 6 暗灰色土 シルト質 黄白色シルトブロック (φ10~50mm) 多量
炭化物 (φ2~5mm) 少量 木質多量

S K 220

- 1 茶色土 粘土質 木質多量 貝片含む
- 2 灰黄褐色土 粘土質 炭化物微量
- 3 灰茶褐色土 粘性の強いシルト質 炭化物多量
クリーム色の粘土ブロック (φ10mm程) 微量
- 4 灰黄色土 粘土質 炭化物少量 貝片含む
- 5 黄褐色土 砂質 木質・炭化物粒子含む
- 6 灰褐色土 シルト質 炭化物粒子含む 酸化鉄微量
- 7 灰褐色土 粘土質 炭化物粒子含む 酸化鉄微量
- 8 黒褐色土 粘土質 貝類含む
- 9 灰褐色土 粘土質 貝類少量
- 10 黒褐色土 粘土質 木質・貝類多量

S K 221

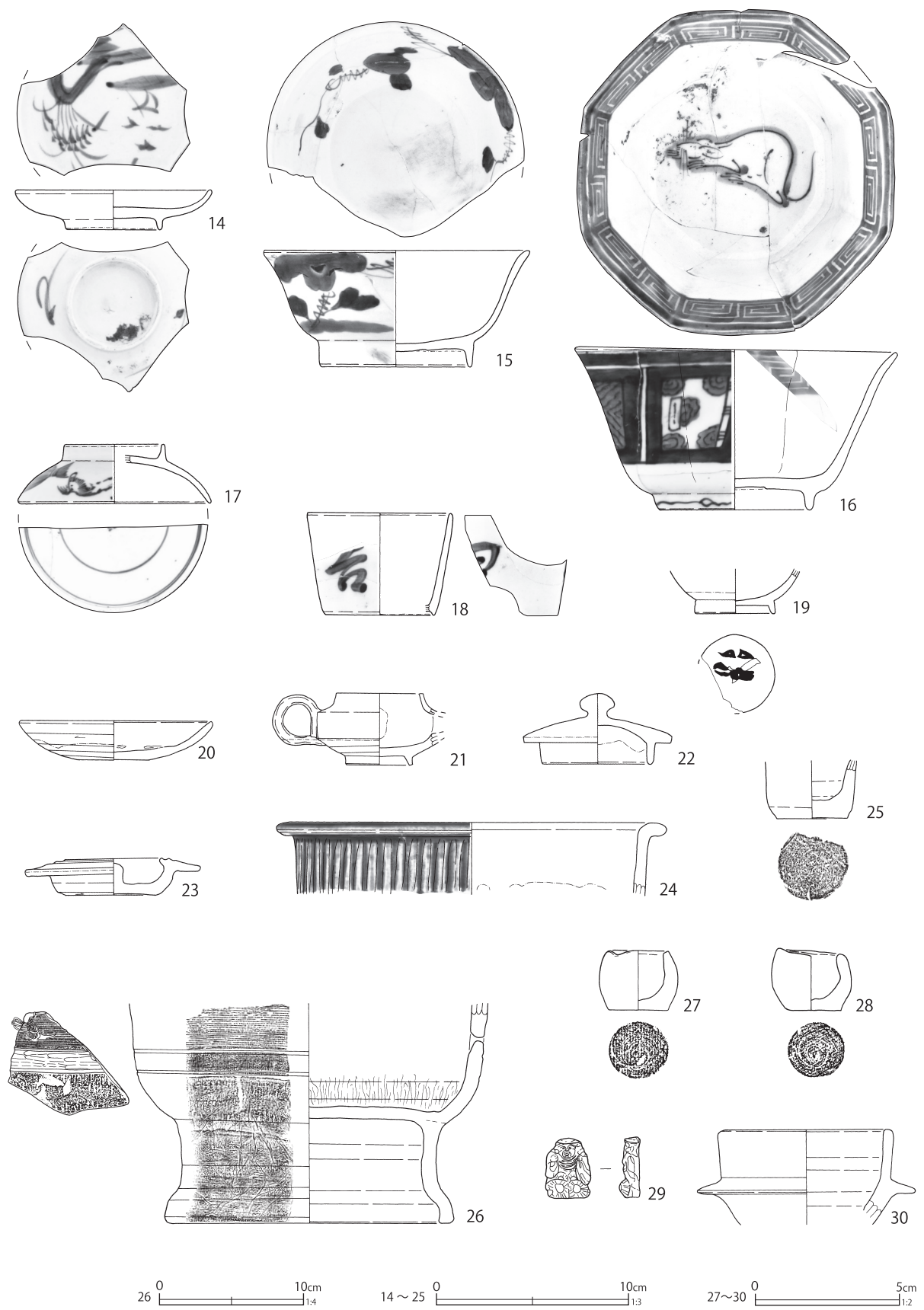
- 1 黒褐色土 砂質 炭化物粒子多量 陶磁器片含む
- 2 浅黄褐色土 粘土質 炭化物粒子微量



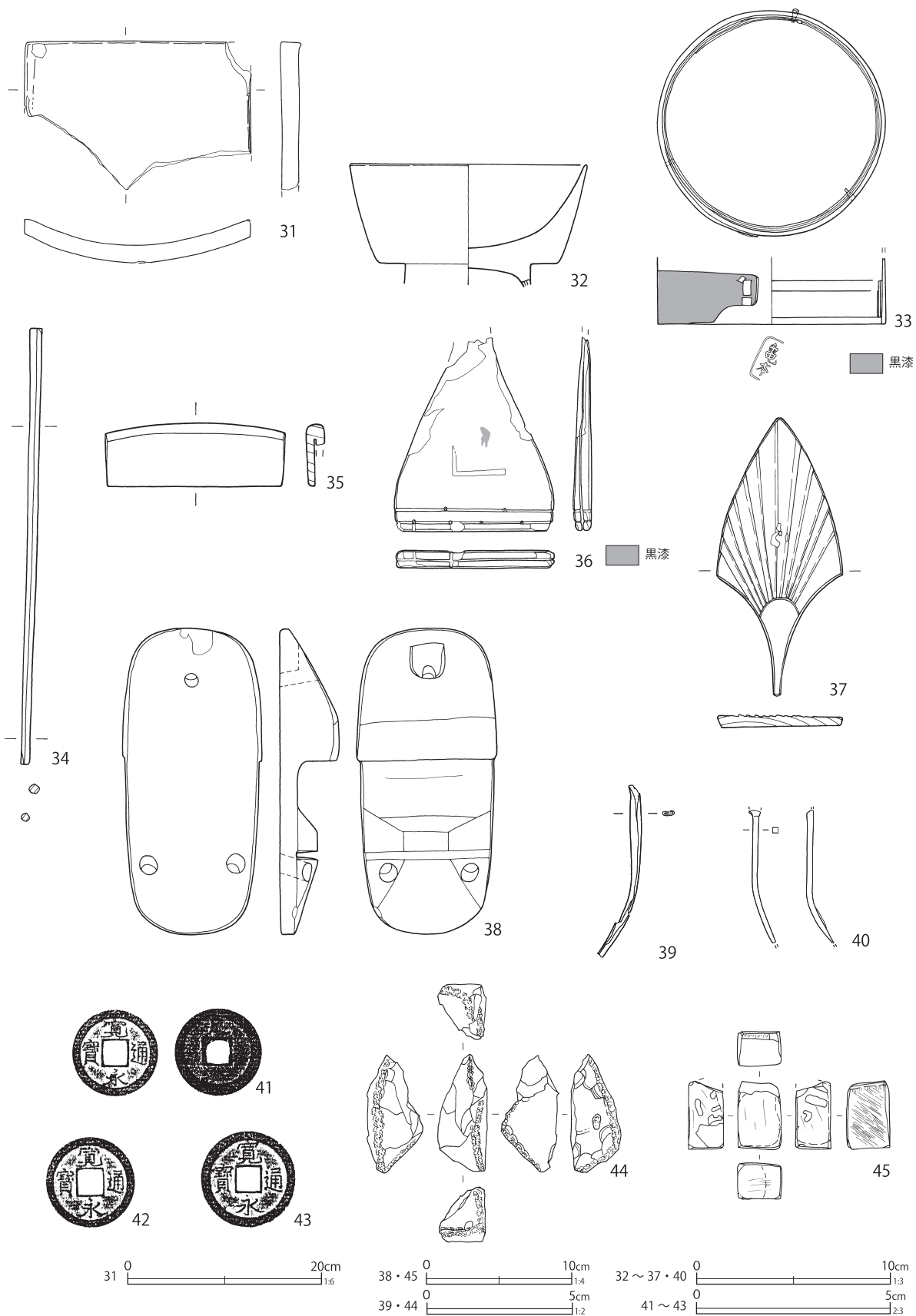
第282図 区画AF土壌(2)



第 283 図 第 220 号土壙出土遺物 (1)



第 284 图 第 220 号土壙出土遺物 (2)



第 285 図 第 220 号土壙出土遺物 (3)

第 69 表 第 220 号土壙出土遺物観察表 (第 283 ~ 285 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	9.2	5.3	3.2	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱・煤付着		
2	磁器	碗	8.2	4.4	3.6	—	100	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付		
3	磁器	碗	7.8	5.2	3.2	—	75	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 SB1 北辺と接合		
4	磁器	碗	10.9	6.3	6.0	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
5	磁器	碗	11.0	6.2	4.6	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 SB1 基礎と接合		
6	磁器	蓋	(10.0)	3.0	(4.0)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付		
7	磁器	碗	11.2	6.0	4.2	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 SK221 と接合		
8	磁器	碗	11.4	6.0	4.5	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 SB1 北辺と接合 非掲載に同文別個体 1 あり		
9	磁器	碗	9.1	4.8	4.1	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	69-6	
10	磁器	碗	(7.4)	6.0	(4.4)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付		
11	磁器	碗	(6.6)	[3.9]	—	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付		
12	磁器	皿	(11.8)	3.6	(9.4)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 蛇ノ目凹形高台		
13	磁器	皿	(10.5)	2.4	6.0	—	85	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付		
14	磁器	皿	(9.9)	2.0	4.8	—	15	良好	灰白	肥前系 内外面施釉・染付		
15	磁器	鉢	13.6	6.0	7.6	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 SB1 基礎と接合		
16	磁器	鉢	16.4	8.4	7.7	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 SK220 と接合	69-5	
17	磁器	蓋	(9.8)	3.0	5.2	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 SB1 基礎と接合		
18	磁器	猪口	(7.4)	[5.2]	(5.5)	—	30	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付文字「吉田□」	69-7	
19	陶器	坏	—	[2.3]	4.0	K	50	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 高台内墨痕	76-19	
20	陶器	灯明皿	9.9	2.0	3.6	IK	55	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面下位・底部釉拭き取り 内面輪状重焼痕		
21	陶器	カンテラ	(4.3)	3.7	3.5	CIK	90	普通	灰白	京都信楽系 内外面施釉		
22	陶器	蓋	7.7	3.7	5.5	IK	95	良好	灰白	大塚相馬系カ 内外面糠白釉		
23	陶器	蓋	9.1	1.9	4.6	I	95	良好	にぶい赤褐	胎土極硬質 上面鉄釉 下面煤付着		
24	陶器	瓶掛	(18.8)	[3.7]	—	EIK	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面緑釉 内面下位柿釉拭き取り SK221 と接合		
25	土師質土器	焼塩壺	—	[3.0]	3.6	AHIK	65	普通	橙	底部糸切痕 (左)		
26	瓦質土器	火鉢	—	[15.2]	19.7	CIK	80	普通	にぶい黄灰	底部シワ条痕 体部上位櫛歯波状施文・中位ミガキ・下位トビガンナ状施文 燻す 内面下位火箸傷 補修痕 2 箇所遺存 (銅線付) SB1 北辺と接合		
27	土師質土器	小壺	2.0	2.1	2.1	AHK	—	普通	にぶい橙	底部糸切痕 (中心) 胎土粉質 重さ 9.7 g	121-14	
28	土師質土器	小壺	2.1	2.0	1.9	AHIK	—	普通	にぶい橙	底部糸切痕 (中心) 胎土粉質 重さ 9.3 g	121-14	
29	土製品	人形	長さ 2.1 厚さ 0.7	幅 1.6 重さ 2.0	—	K	—	良好	橙	大黒 一枚型成形 中実	119-10	
30	施釉土器	釜形土製品	(5.6)	[3.3]	—	HIK	50	良好	橙	江戸在地系 外面上位・内面施釉 (外面一部緑釉) 外面下位白化粧 20.3 g		
31	瓦	平瓦	長さ [15.5] 厚さ 1.9	幅 23.6 高さ 4.4	—	AIK	—	良好	灰	銀化 燻す		
32	木製品	漆椀	口径 12.1 高さ [6.2]							横木取り 内外面黒漆		
33	木製品	曲物	口径 15.6 高さ [4.6] 底径 15.6							側板榎目底板板目 外面・底部黒漆 底板に「亀本」焼印 側面に鉄釘孔 3 箇所 (内 2 箇所鉄釘残) 側板三重		
34	木製品	箸	長さ 22.3 幅 0.6 厚さ 0.5							分割棒状		
35	木製品	櫛の鞘	長さ 9.2 幅 3.2 厚さ 1.0							板目		
36	木製品	刷毛	長さ [10.0] 幅 8.1 厚さ 1.0							焼印 黒漆		
37	木製品	神酒口	長さ 14.2 幅 6.5 厚さ 0.7							板目 中央に三巴の金属		
38	木製品	下駄	長さ 21.0 幅 9.6 高さ 4.1							板目 後歯下駄 表面墨書「ほ」		146-7
39	銅製品	不明	長さ [5.9] 幅 0.4 厚さ 0.2 重さ 0.4									
40	鉄製品	釘	長さ [6.8] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.0									
41	銅製品	銭貨	径 22.5 厚さ 1.0 重さ 2.7							寛永通寶 (新)		
42	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.8							寛永通寶 (新)		
43	銅製品	銭貨	径 25.0 厚さ 1.2 重さ 3.1							寛永通寶 (新)		
44	石製品	火打石	長さ 4.0 幅 1.7 厚さ 1.9 重さ 12.8							玉髓 稜の潰れ著しい		
45	石製品	砥石	長さ 4.7 幅 3.0 厚さ 2.4 重さ 65.0							流紋岩 上端部削痕 裏面線条痕 砥面 5		

磁器の小碗（第 283 図 11）、卵殻手坏、肥前系磁器急須の破片である。また、第 10 号埋設桶や第 221 号土壇出土破片と接合する陶磁器がみられる。推定廃絶期は 19 世紀中葉である。

第 283 ～ 285 図に出土遺物を図示した。遺物は重複する第 1 号建物跡で取り上げられているものが多量にあることについて留意しておきたい（第 21 ～ 26 図）。

6 は瀬戸美濃系磁器の端反形碗蓋、7・8 は端反形碗の身である。同文の染付が施され、蓋と身はセット関係になる。碗の身については、非掲載遺物に同文破片が 1 個体みられる。7 は第 221 号土壇、8 は第 1 号建物跡基礎北辺出土破片と接合関係にある。10 は肥前系磁器の湯呑形碗である。11 は瀬戸美濃系磁器の小碗である。幕末期から明治初頭頃に多くみられる器種であり、本遺構では最新期である。

第 283 図 13・第 284 図 14 は肥前系磁器の手塩皿である。13 は輪花状の口縁部で、内面は一枚絵の染付である。16 は肥前系磁器の八角鉢である。蛇ノ目凹形高台で、大型である。

18 は肥前系磁器の蕎麦猪口である。外面に染付銘「吉田口」がみえ、区画 AE「旅籠屋 / 吉田屋 / 太左衛門」が所有していた注文生産品と考えられる。

20 は瀬戸美濃系陶器の灯明皿（油皿）である。柿釉が施釉され、外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。内面に輪状重ね焼き痕がみられる。21 は京都信楽系陶器のカンテラである。栗橋宿では出土例が少ない器種である。24 は瀬戸美濃系陶器の火鉢で、所謂「瓶掛」と推定される。内面上位から外面に掛けて緑釉が施釉され、外面には縦縞の施文がみられる。

26 は瓦質土器の脚付火鉢である。輪高台状の脚部は高く、下部に段が付く。表面は燻しにより灰～黒色を呈する。口縁部は欠失しているが栗橋宿でみられる例から受け口状の折れ罫と推定され

る。体部上位に糸目状の施文、中位にミガキ、下位にトビガンナ状の施文がみれる。内面下位には火箸による使用痕がみられる。体部に二次穿孔がみられ、孔には銅線が巻きつく。

27・28 は土師質土器の小壺である。胎土が粉質で、底部に離し糸切痕が遺存する。

285 図 33 は黒漆が塗布された曲物で、底部に焼き印「亀本」がみえる。

41 ～ 43 は銅製の新寛永通寶である。41・42 は径がほぼ同じくらいだが、43 は一回り大きい。

44 は玉髓製の火打石である。使い込まれており、稜線が強く丸みを帯びている。45 は流紋岩製の砥石である。使い込まれており、裏面には研いだ際の線条痕が明瞭に残る。

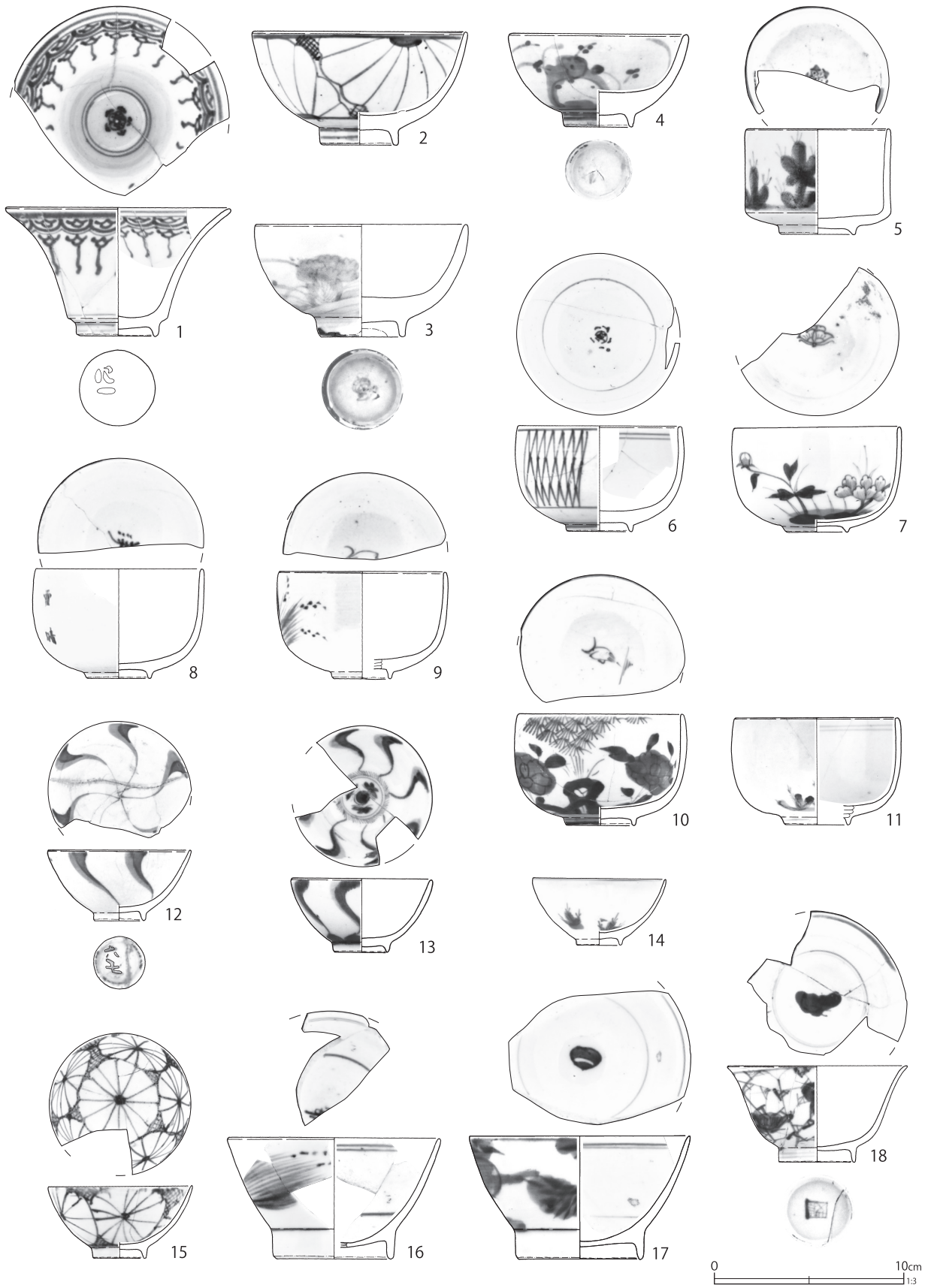
これらの他に自然遺物で魚骨 59.5g、ヤマトシジミ、ハマグリ、アワビ、アカニシ等の貝類 1016.1g が出土している。

第 221 号土壇（第 282・286 ～ 291 図）

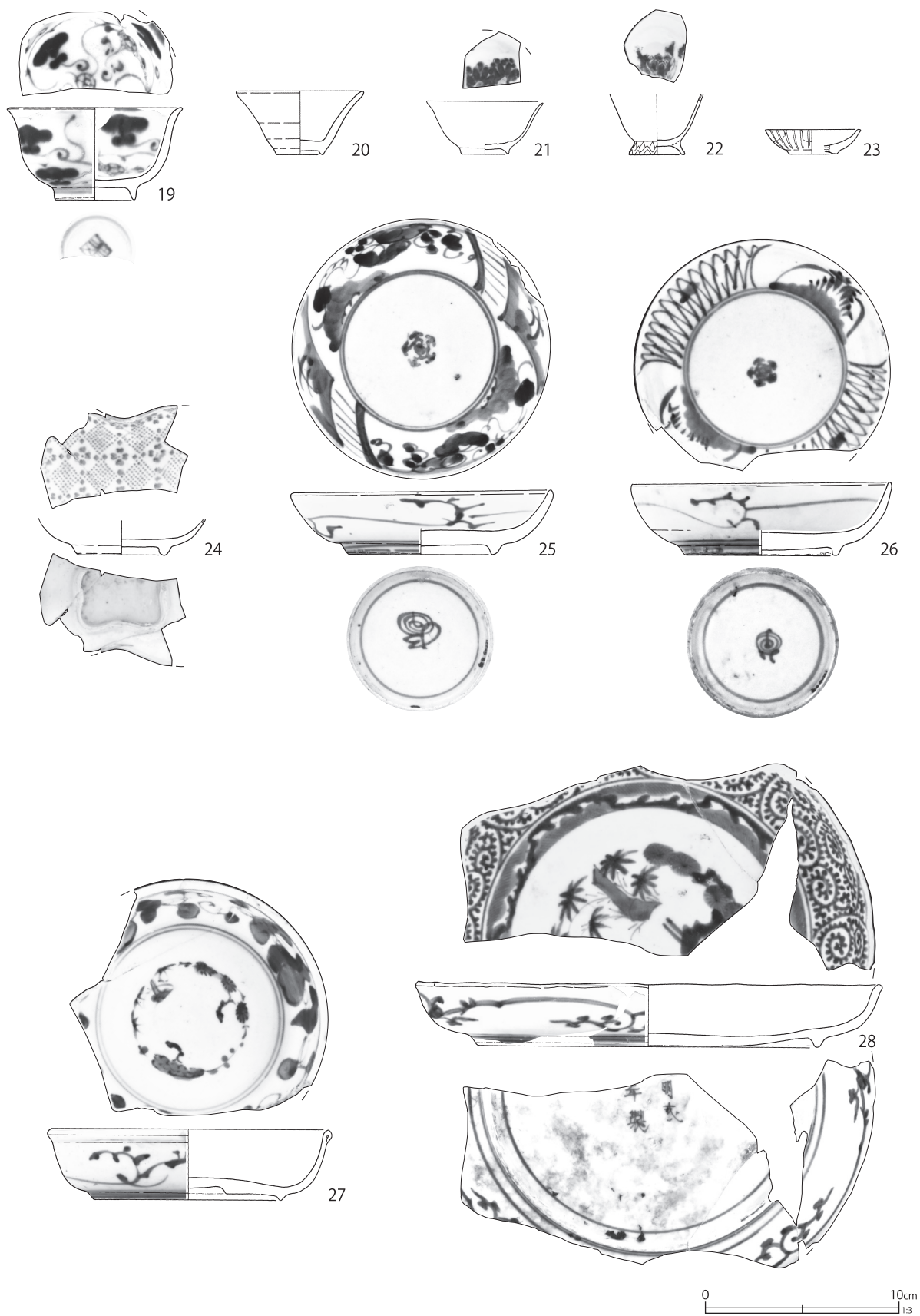
F 7 - E 7 グリッドに位置する。第 1 号建物跡、第 10 号埋設桶、第 5 号杭列、第 220 号土壇より古い。平面形は隅丸長方形で、検出長軸 4.9 m、短軸 2.3 m、深さ 0.6 m を測る大型の土壇である。長軸方位は N - 65° - E を指す。

遺構内の東・南側に杭が並び、遺構の平面形を考慮すると、本陣跡で検出された第 1 号土壇（『本陣跡Ⅱ』第 97 図）等のような内壁の側板を杭で固定した地下蔵状の土壇の可能性が疑われるが、側板はみられない。覆土の大部分は炭化物を多量に含む砂質土である。

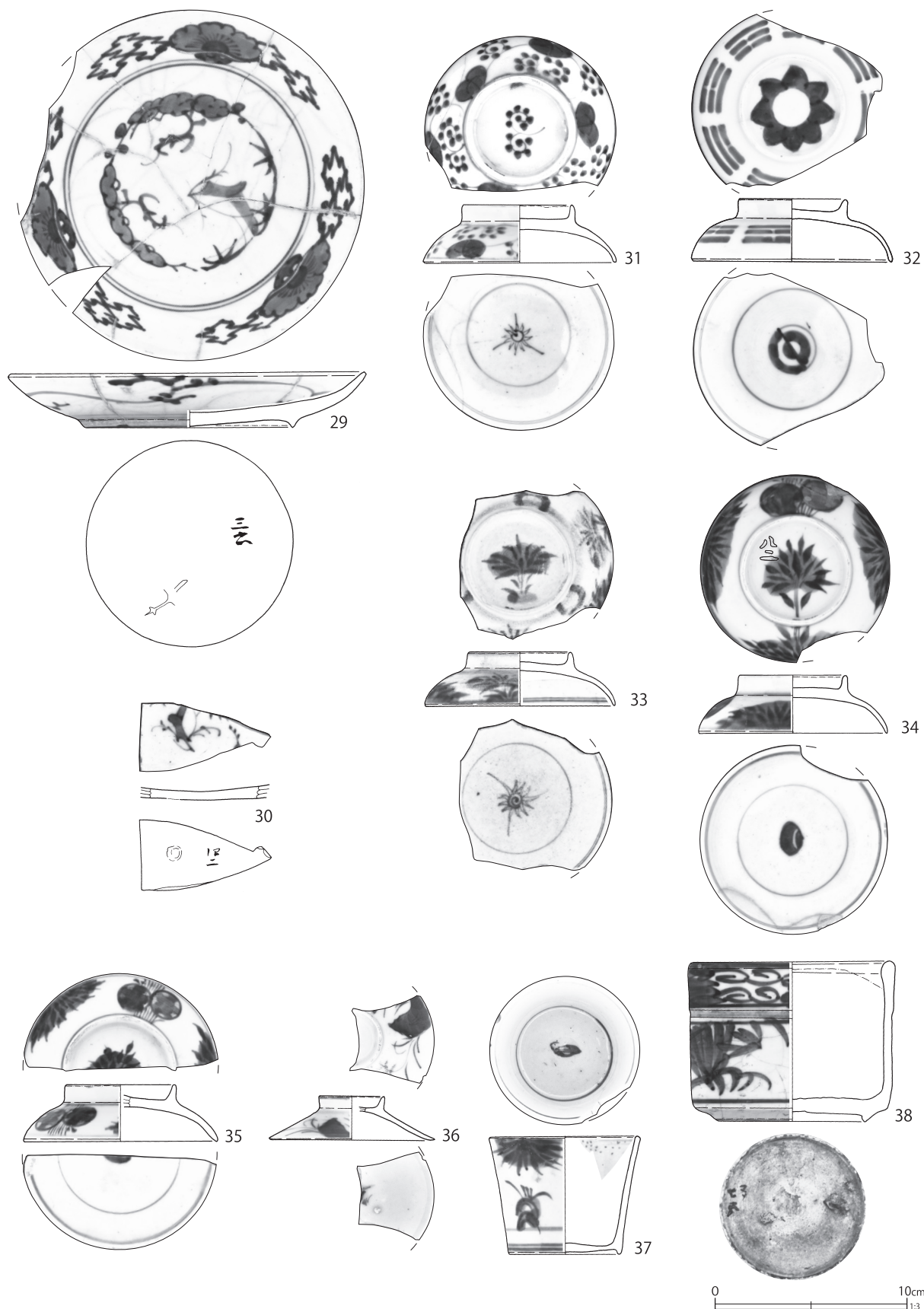
出土遺物は極めて多量である。陶磁器類は肥前系磁器の広東碗や小丸碗等、18 世紀後葉に比定されるものが主体であり、そこに瀬戸美濃系磁器の端反形碗が数点組成してくる。また肥前系磁器卵殻手坏（第 287 図 21・22）がみられる。第 288 図 38 の香炉、第 289 図 47 の爛徳利は近代の陶磁器であり、重複遺構のいずれかからの混入である。また、第 233・229 号土壇出土陶磁器とは



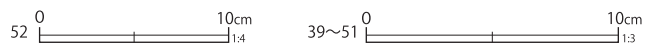
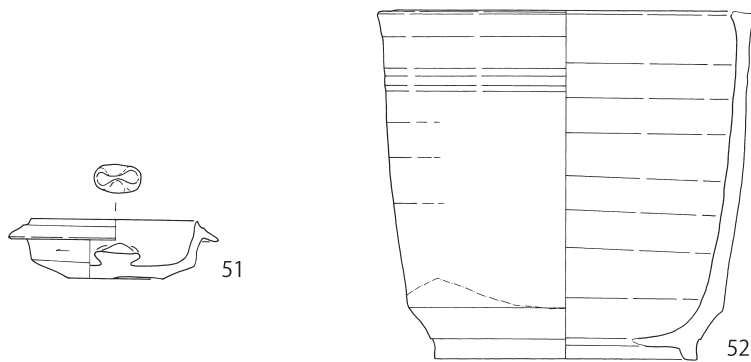
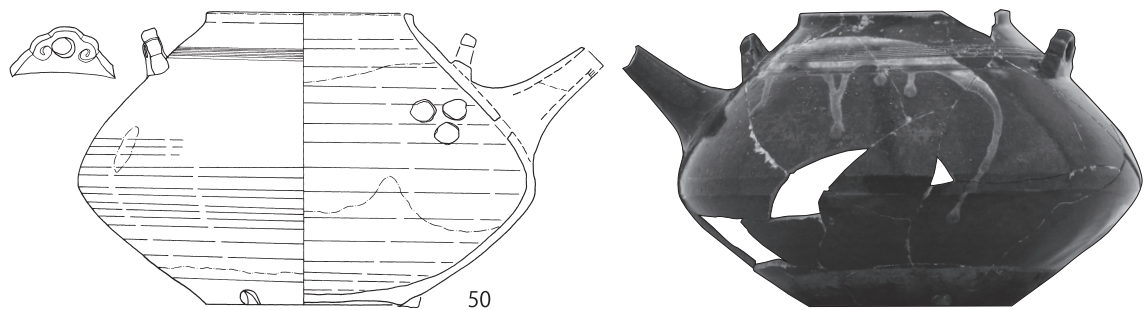
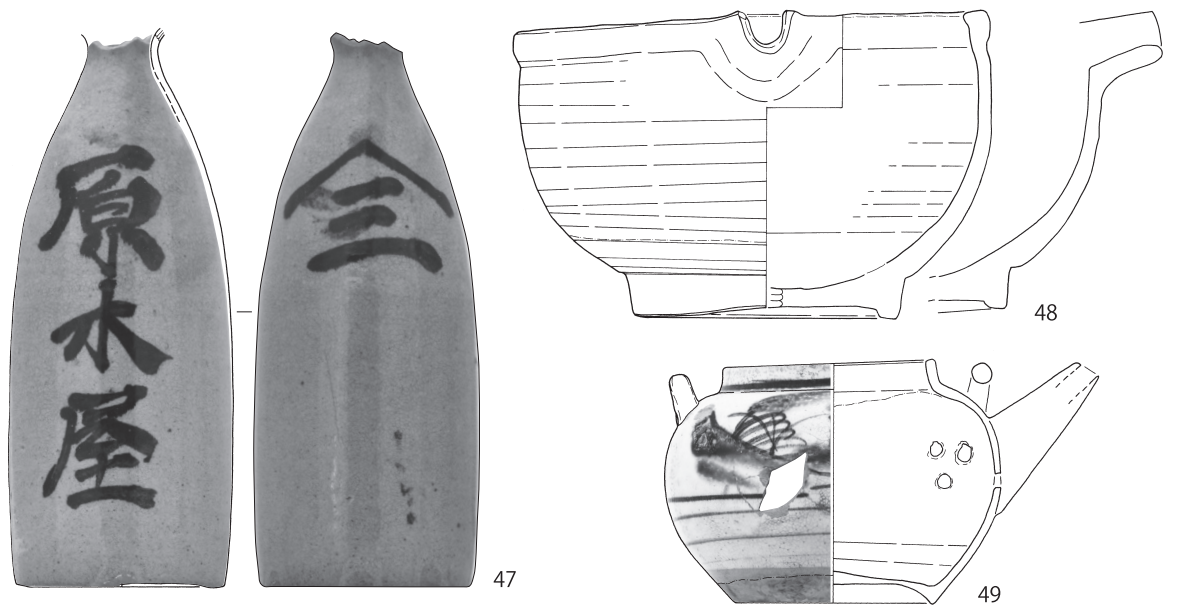
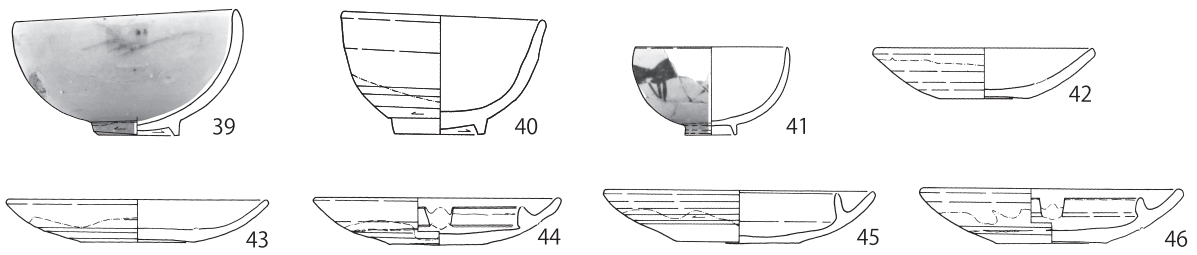
第 286 图 第 221 号土壙出土遺物 (1)



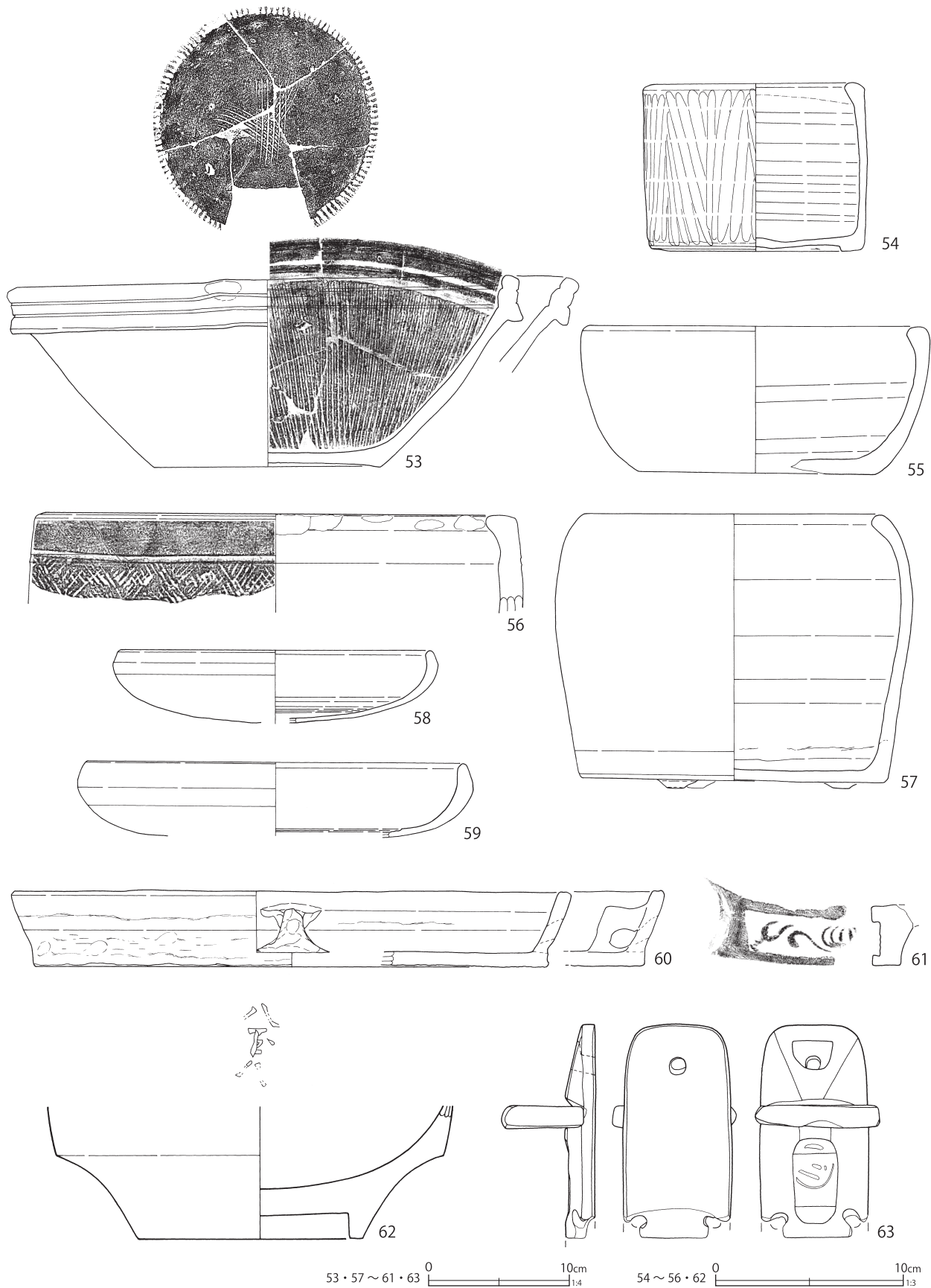
第 287 图 第 221 号土壙出土遺物 (2)



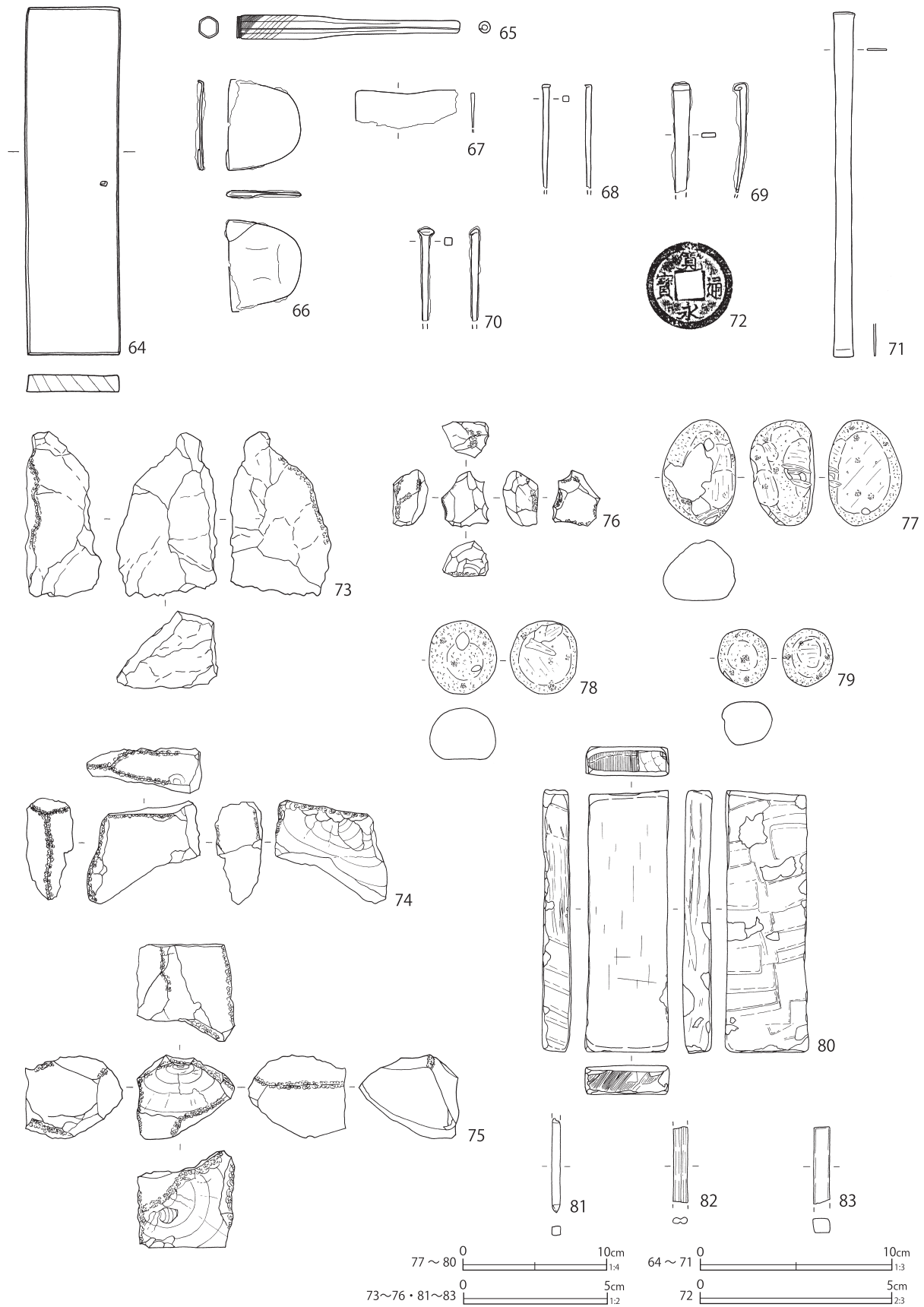
第 288 图 第 221 号土壙出土遺物 (3)



第 289 図 第 221 号土壙出土遺物 (4)



第 290 图 第 221 号土壙出土遺物 (5)



第 291 图 第 221 号土壤出土遺物 (6)

第70表 第221号土壙出土遺物観察表(第286~291図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	猪口	11.6	6.7	3.9	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
2	磁器	碗	(11.1)	5.9	3.8	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 内面ハリ支跡2 遺存	
3	磁器	碗	(11.0)	5.9	4.3	IK	70	不良	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
4	磁器	碗	9.1	4.9	3.4	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
5	磁器	碗	7.4	6.5	3.7	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
6	磁器	碗	8.4	5.5	3.3	K	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
7	磁器	碗	(8.7)	5.5	3.1	—	55	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
8	磁器	碗	8.7	5.7	3.3	K	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
9	磁器	碗	8.7	5.6	3.0	K	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
10	磁器	碗	(8.5)	5.8	3.5	K	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
11	磁器	碗	8.4	5.6	(3.3)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
12	磁器	碗	7.4	3.8	2.6	—	65	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕 高台内焼継印(緑)	
13	磁器	碗	7.2	3.8	2.7	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 SB1 北辺と接合	
14	磁器	碗	6.9	3.5	2.3	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付	
15	磁器	碗	7.5	3.8	2.7	—	85	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体2あり	
16	磁器	碗	(11.0)	6.3	(6.0)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 SB1 基礎と接合	
17	磁器	碗	(11.5)	6.4	6.4	—	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
18	磁器	碗	(9.4)	5.0	3.9	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 SB1 北辺と接合	
19	磁器	碗	(8.8)	4.7	4.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 SB1 北辺と接合	
20	磁器	坏	(6.4)	3.2	2.4	—	50	良好	灰白	肥前系 内外面施釉	
21	磁器	坏	(5.9)	2.7	(2.4)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付の上へ上絵付(赤・黒・金)	
22	磁器	坏	—	[3.1]	2.8	—	50	良好	白	肥前系 貼付高台型押陰刻文 内外面施釉 内面上絵付(赤・黒)	
23	磁器	坏	(4.9)	1.2	(2.4)	—	20	良好	白	肥前系 型成形 内外面施釉	
24	磁器	皿	—	[1.9]	4.3	—	45	良好	白	肥前系 型成形 内外面施釉・型紙摺絵染付 SB1 北辺・SK233 と接合	
25	磁器	皿	13.3	3.3	7.4	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施釉・染付	
26	磁器	皿	13.1	3.7	7.6	—	80	良好	灰白	肥前系 内外面施釉・染付	
27	磁器	皿	(14.4)	3.6	9.7	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内輪状重焼痕	
28	磁器	皿	(23.6)	3.2	(17.3)	—	30	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡2 遺存 被熱・煤付着 SK229 と接合	
29	磁器	皿	18.3	2.8	10.7	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
30	磁器	皿	—	0.8	—	—	5	良好	白	肥前系 内外面施釉 内面染付 底部ハリ支跡1 遺存・焼継印(赤)	
31	磁器	蓋	5.8	2.9	5.5	—	75	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
32	磁器	蓋	5.7	3.2	5.4	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
33	磁器	蓋	5.7	2.8	5.2	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
34	磁器	蓋	5.7	3.0	5.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明)「八二」	
35	磁器	蓋	5.8	2.9	5.6	—	50	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
36	磁器	蓋	3.4	2.2	3.3	—	30	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付	
37	磁器	猪口	7.5	6.1	5.7	—	95	良好	灰白	肥前系 内外面施釉・染付	
38	磁器	香炉	10.1	8.3	7.5	K	75	良好	灰白	肥前系 外面施釉・酸化コバルト染付 高台内墨書 内底面砂付着	
39	陶器	碗	8.7	4.8	3.2	IK	95	良好	灰黄	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵 被熱カ	
40	陶器	坏	7.8	4.8	3.6	EIK	70	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面煤付着	
41	陶器	碗	(6.0)	3.4	2.0	HK	35	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面上絵付(赤・緑)	
42	陶器	灯明皿	(8.5)	2.0	(3.4)	K	30	良好	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 内面ピン痕1 遺存 口縁部煤付着	
43	陶器	灯明皿	(10.1)	1.7	4.4	DIK	50	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面下位・底部釉拭き取り 内面重焼痕	
44	陶器	灯明皿	9.5	1.9	3.9	IK	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕 口縁部被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
45	陶器	灯明皿	10.5	2.1	4.8	IK	60	良好	褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕	77-6
46	陶器	灯明皿	10.0	2.2	4.3	K	100	良好	明褐灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部輪状重焼痕	
47	陶器	爛徳利	—	[22.0]	7.2	IK	95	良好	褐灰	外面灰釉・酸化コバルト呉須文字「合」「原木屋」	
48	陶器	片口鉢	18.2	12.2	10.2	IK	90	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3 底部煤付着	
49	陶器	土瓶	8.1	9.4	7.7	K	80	良好	浅黄橙	内外面施釉 体・底部白化粧 外面釉下彩(黒・緑)	69-8
50	陶器	土瓶	7.6	11.6	7.7	IK	95	普通	灰白	内外面鉄釉 外面灰釉流し掛け	
51	陶器	蓋	8.3	2.3	3.7	IK	95	良好	褐灰	上面鉄釉	69-9
52	陶器	半胴甕	(17.8)	18.4	13.8	EIK	40	良好	浅黄橙	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 口唇部目跡1 遺存 底部二次 穿孔	
53	陶器	播鉢	34.7	13.5	16.0	EIKL	95	良好	赤	堺明石系 内面播目(9条/単位) SB1 北辺と接合	69-8
54	陶器	香炉	10.5	8.9	9.1	EIK	95	良好	灰白	京都信楽系カ 胎土磁質 外面鎬・鉄釉 SB1と接合	
55	土師質土器	火鉢	17.2	7.7	12.5	AHIK	80	普通	にぶい橙	胎土粉質 外面被熱(剥落) 脚痕跡3あり	69-8
56	瓦質土器	火鉢	(24.4)	[5.1]	—	HIK	15	普通	にぶい黄 橙	体部・口縁部ミガキ 体部下位スタンプ状施文 胎土粉 質 口縁部敲打痕 内面煤付着	
57	土師質土器	火消壺	20.8	19.4	21.4	AIK	85	普通	浅黄橙	砂目底・板状圧痕 胎土粉質 脚1 遺存 SB1 北辺・SB1 基礎と接合	69-9
58	土師質土器	焙烙	22.2	5.1	22.8	AIK	70	普通	にぶい橙	砂目底 胎土粉質 内底面煤付着・タール状物質付着 SB1 北辺・SB1 基礎と接合	
59	土師質土器	焙烙	(19.9)	[3.9]	(20.0)	AIK	20	普通	にぶい黄橙	砂目底 胎土粉質	124-1
60	瓦質土器	焙烙	(39.2)	5.3	(36.2)	CIK	20	普通	にぶい黄橙	底部シワ状痕 体部下位弱いケズリ 燻す 底部煤付着	
61	瓦	軒棧瓦	長さ[3.7] 幅[13.3] 厚さ2.2 高さ5.7			ADIK	—	普通	灰白	江戸式 燻す	146-9
62	木製品	漆鉢	高さ[7.0] 底径12.0						横木取り 内外面墨書 内面赤で文字「八口口」被熱		
63	木製品	下駄	長さ[15.1] 幅7.7 高さ6.6						台柱目 歯板目 陰卯下駄 裏焼印		
64	木製品	木札	長さ18.0 幅4.9 厚さ0.9						板目 表裏面墨書 孔1		
65	銅製品	煙管	長さ11.6 小口径1.1×1.0 口付径0.6 重さ20.1						吸口		
66	鉄製品	雪駄の尻鉄	縦4.7 横3.9 厚さ0.3 重さ14.7								
67	鉄製品	不明	縦[2.8] 横[5.3] 厚さ0.2 重さ8.0								
68	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.0								
69	鉄製品	釘	長さ[5.7] 幅0.7 厚さ0.2 重さ7.7								
70	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.2								
71	銅製品	不明	長さ17.9 幅1.1 厚さ0.1 重さ14.1								
72	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.0 重さ2.3						寛永通寶(新)		
73	石製品	火打石	長さ5.2 幅3.5 厚さ2.7 重さ54.1						石英 使用痕あり		
74	石製品	火打石	長さ4.8 幅3.3 厚さ1.6 重さ19.7						玉髓 稜の潰れ著しい 主要剥離面遺存		
75	石製品	火打石	長さ3.5 幅3.4 厚さ2.8 重さ36.2						玉髓 稜の潰れ著しい 主要剥離面遺存		
76	石製品	火打石	長さ1.9 幅1.6 厚さ1.2 重さ4.3						玉髓 使用痕あり		
77	石製品	磨石	長さ7.4 幅5.1 厚さ4.5 重さ92.3						角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面3 刃物痕あり		
78	石製品	磨石	長さ5.1 幅4.6 厚さ3.6 重さ49.0						角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1		
79	石製品	磨石	長さ4.0 幅3.5 厚さ3.0 重さ21.3						角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1		
80	石製品	砥石	長さ[18.2] 幅5.8 厚さ2.0 重さ427.8						流紋岩 側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 砥面2		
81	硝子製品	筭	長さ[3.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.8						透明 中実 被熱(白色化)		
82	硝子製品	筭	長さ[2.7] 幅0.5 厚さ0.2 重さ0.9						透明 中実 被熱(白色化)		
83	硝子製品	筭	長さ[2.7] 幅0.6 厚さ0.5 重さ2.5						透明 中実 被熱(白色化)		

接合関係にある。推定廃絶期は19世紀前葉である。

第286～291図に出土遺物を図示した。第286図1は肥前系磁器の猪口で、ラップ状に開く稀な器形である。内底面の五弁花文がみられ、18世紀の製品と推定される。3・4は波佐見系磁器のくらわんか手碗である。外面に雪輪草花文染付がみられる。5は肥前系の筒形碗で、内底面の五弁花文は丁寧である。6～11は肥前系磁器の小丸碗、12～15は小広東碗、16・17は広東碗である。

第286図18・第287図19は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。いずれも口縁部の反りは強い。19は染付の発色が良く、濃い青である。

21・22は肥前系磁器の卵殻手坏である。21は内面の染付の上に赤・黒・金の上絵付が施される。生産地外で上絵付が行われたことを示唆する。22は高台が「ハ」字状の付け高台で、高台外周に陰刻文がみられる。内面は赤・黒で上絵付が施されている。23は肥前系磁器の坏である。型成形で、扁平な器形、外面に縦縞の条線がみられることから紅坏の可能性が考えられる。

24は肥前系磁器の型皿である。内面に型紙摺絵染付が施されるが、18世紀前半の製品である。27は肥前系磁器の五寸皿である。蛇ノ目凹形高台で、口縁部は折り返して玉縁状である。内底面に松竹梅環状文の染付がみられる。28は肥前系磁器の中皿である。輪花状口縁で、内面に松竹梅環状文と蛸唐草文染付がみられる。第229号土壙出土破片と接合関係にある。

第288図31～36は肥前系磁器碗の蓋で、31～35は広東碗、36は端反形碗に伴うものである。

38は肥前系磁器の香炉である。外面に酸化コバルト染付が施され、内底面に砂が付着する。高台内には墨書がみえる。

第289図42は京都信楽系陶器の灯明皿（油皿）である。胎土は磁質で、内面に窯道具痕が1箇所遺存する。口縁部には煤が付着する。43・44は

瀬戸美濃系陶器の灰釉灯明皿である。栗橋宿での出土量は極めて少ない。43は油皿で、外面下位から底部にかけて釉の拭き取りがみられる。内面に重ね焼き痕が遺存する。44は油受け皿で、受け口の切込みは「U」字状を呈する。外面下位から底部にかけて釉が拭き取られ、体部に輪状重ね焼き痕がみられる。

47は産地不詳陶器の爛徳利である。外面に酸化コバルトで「原木屋」、「全」の文字がみえる。「原木屋」は『栗橋宿跡Ⅴ』の区割図における区画⑦に位置する。『営業便覧』に「米穀酒類商 / 原木屋 / 小林豊三郎」の名がみえる。49・50は産地不詳陶器の土瓶で、49は三彩土瓶、50は鉄釉土瓶である。50の外面上位には糸目状施文がみられ、外面に灰釉が流し掛けられている。

第290図58・59は土師質土器の丸底焙烙である。細粒な雲母と思われる鉱物を含む粉質な胎土を呈し、通常より小型である。58の内底面にはタール状物質が付着する。60は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、体部下位は弱いケズリ状の調整がみられる。

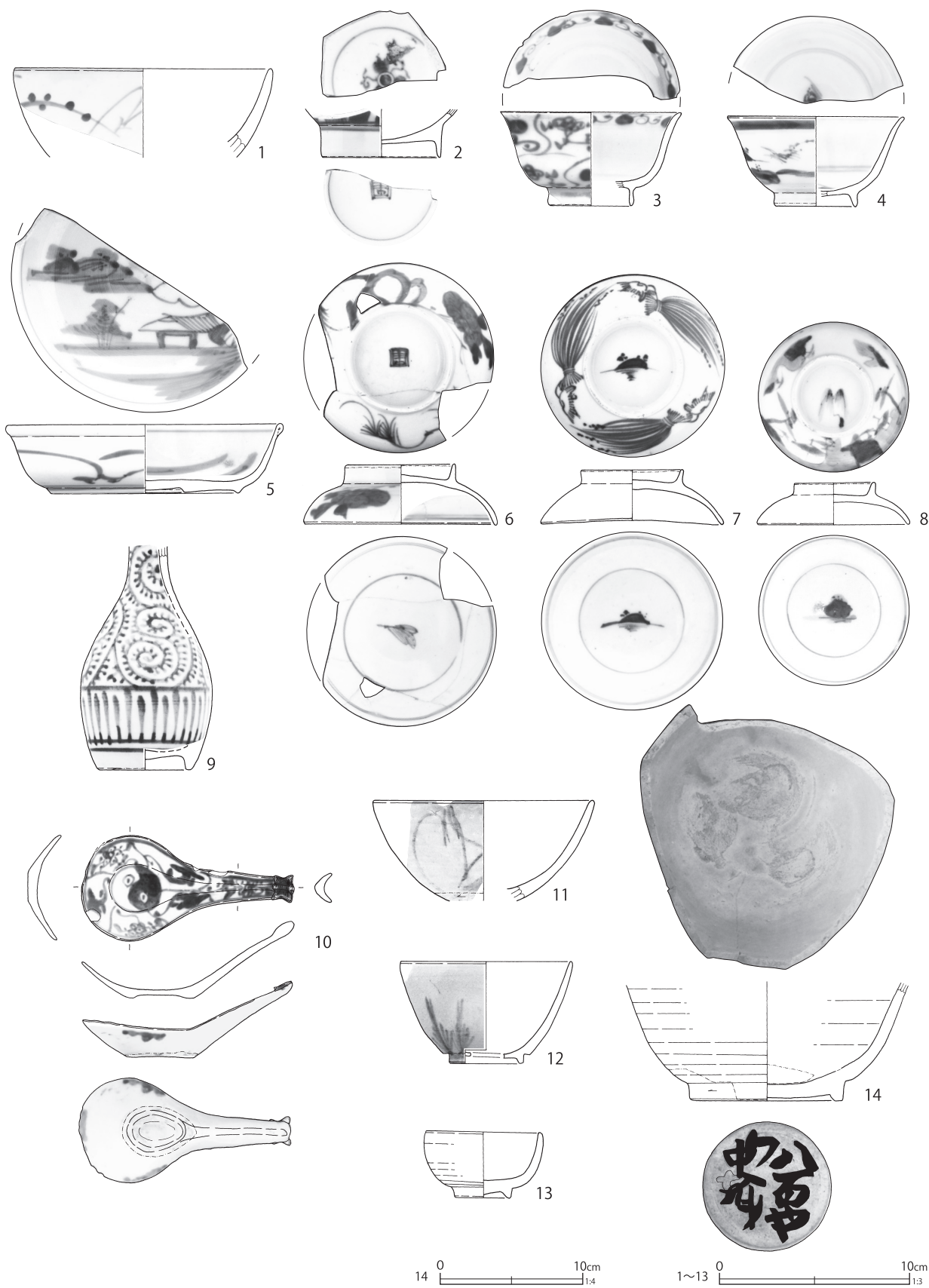
61は江戸式に類似する軒棧瓦で中心弁は六枚である。

第291図64は木製の桶側板転用品である。表に墨書「武州栗橋 / 柿沼惣右衛門様 / 十六日口へ」、裏に「□□□徳次郎」等がみえる。「柿沼惣右衛門」は本区画の「旅籠屋 / 惣右衛門」を指す。

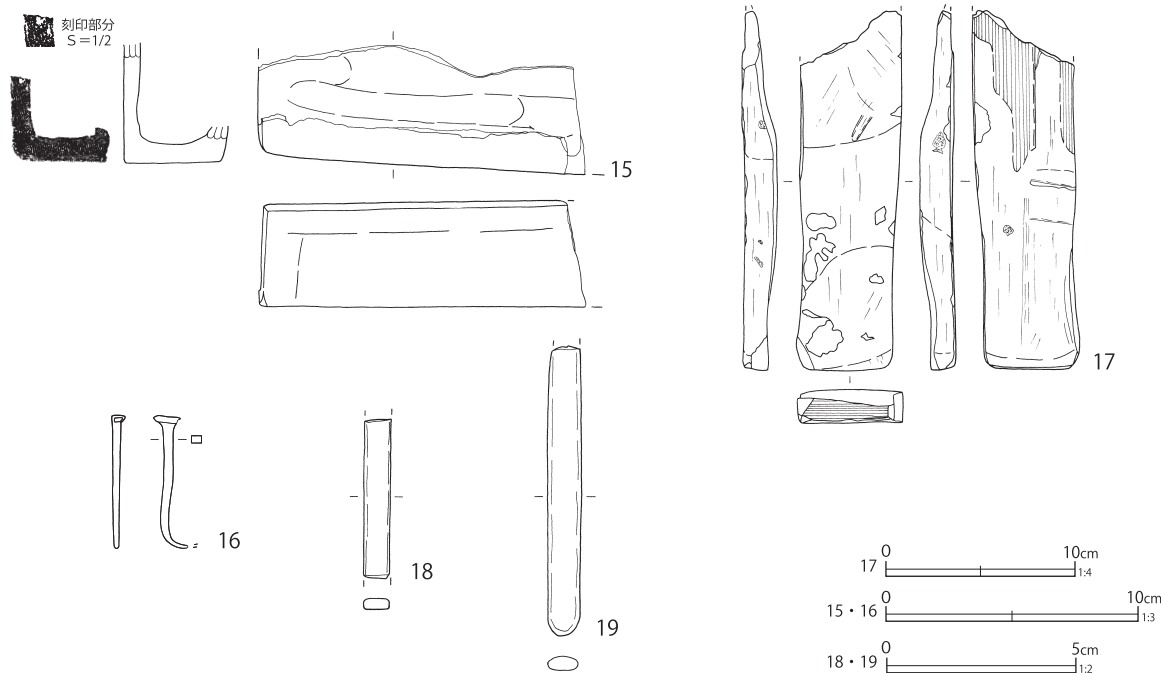
65は銅製煙管の吸口である。66は鉄製品の雪駄の尻鉄、68・70は鉄製頭巻釘、69は鉄製さっぱ釘である。

74・75は玉髓製火打石で、使用により稜が丸みを帯びている。いずれも明瞭な打ち割り痕跡が遺存しており、75の打ち割り痕はネガティブ面とポジティブ面の両方がみられる。これらの打ち割り痕は稜の再生等の可能性が示唆される。

77～79は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。すり減った平坦面がみられ、元の転石の形



第 292 图 第 253 号土壙出土遺物 (1)



第 293 図 第 253 号土壙出土遺物 (2)

第 71 表 第 253 号土壙出土遺物観察表 (第 292・293 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版		
1	磁器	碗	(13.4)	[4.6]	—	—	10	良好	灰白	肥前系 内外面施釉 外面染付			
2	磁器	碗	—	[2.5]	(6.1)	—	15	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付			
3	磁器	碗	(9.4)	4.9	(4.2)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付			
4	磁器	碗	(9.2)	4.7	4.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付			
5	磁器	皿	(14.4)	3.6	9.7	K	45	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付			
6	磁器	蓋	10.1	3.1	5.6	—	70	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付			
7	磁器	蓋	9.4	2.8	5.2	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付			
8	磁器	蓋	7.8	2.2	4.1	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付			
9	磁器	德利	—	[11.7]	4.6	—	70	良好	白	肥前系 外面施釉・染付			
10	磁器	蓮華	長さ 11.1 幅 5.5 高さ 4.1			—	95	良好	白	清朝景德鎮窯系 型成形 内外面施釉・染付 底部指頭痕	70-2		
11	陶器	碗	(11.4)	[5.2]	—	DIK	10	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵			
12	陶器	碗	(8.9)	5.3	3.8	IK	55	普通	灰白	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面鉄絵 底部二次穿孔			
13	陶器	坏	5.9	3.5	2.8	K	95	良好	灰黄	京都信楽系 内外面灰釉 内面黒色塗布物附着			
14	陶器	こね鉢	—	[8.3]	9.6	IK	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面釉拭き取り 3箇所 弧状の重焼痕 3 底部墨書「八百や / 口入ヲ / 中口」	77-7		
15	土師質土器	風口	縦 [12.8] 横 [4.7] 高さ [4.1]			AHIK	40	普通	橙	江戸在地系 下面無調整 胎土粉質 端面に刻印「△」 内面煤附着			
16	鉄製品	釘	長さ [5.3] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 4.0										
17	石製品	砥石	長さ [19.0] 幅 5.6 厚さ 1.8 重さ 217.7									凝灰岩 孔質 側・裏面ノコギリ痕 砥面 4	139-14
18	硝子製品	筭	長さ [4.2] 幅 0.7 厚さ 0.4 重さ 2.8									黄色透明 中実	142-1
19	硝子製品	筭	長さ [7.7] 幅 0.8 厚さ 0.4 重さ 8.6									透明 中実 被熱 (白色化)	142-1

状が大きく保たれている。18世紀の遺構からの出土が特に多く、19世紀以降の出土は稀である。

80は白色の流紋岩製砥石で、上端面に段が付くノコギリ状工具痕がみられる。段になっている部分は角を起点とする折断状の痕跡がみられる。下端面はノコギリ状工具痕に類似するが、斜めに条線がみられ、使用痕の可能性も疑われる。側面、裏面にはチョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕による削り痕がみられる。

81～83は硝子製の筭と思われる飾り類である。透明だが、被熱により白色化している。

これらの他に自然遺物で、魚骨 122.1g、アカニシ 44.9gが出土している。

第253号土壌（第282・292・293図）

F7-F7グリッドに位置し、第152号土壌より古い。平面形は隅丸方形で、長軸 1.35m、短軸 1.3m、深さ 0.5mを測る。長軸方位はN-75°-Eを指す。

炭化物を含むシルト質土を主体とし、同質の土であるものの細かく分層が可能である。下層には木質が含まれている。

遺物は一定量出土している。広東碗の蓋等18世紀後葉の陶磁器を主体し、最新期である瀬戸美濃系磁器の端反形碗が一定量組成する。推定廃絶期は19世紀前葉である。

第292・293図に出土遺物を図示した。第292図1は波佐見系磁器のくらわんか手碗である。口径が13cmを越える大碗で、外面に雪輪草花文染付がみられる。2は肥前系磁器の広東碗である。3・4は瀬戸美濃系磁器の端反形碗で、口縁部の反りが強い。5は肥前系磁器の五寸皿である。蛇ノ目凹形高台で、口縁部は折り返して玉縁状である。6～8は肥前系磁器の蓋で、広東碗に伴うものである。9は肥前系磁器の鶴首形御神酒徳利である。外面に蛸唐草文染付がみられる。

10は清朝景德鎮窯系磁器の散蓮華である。型成形で、内面に太極図の染付がみられる。底部は

凹ませており、指頭痕がみえる。

11は瀬戸美濃系陶器の柳茶碗である。灰釉が施釉され、外面に鉄絵がみられる。12は京都信楽系陶器の小杉碗である。磁質な胎土で、外面に鉄絵が施される。底部に二次穿孔がみられ、植木鉢への転用が示唆される。14は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。灰釉が施釉され内面に釉の拭き取り痕と弧状の重ね焼き痕がみられる。底部には墨書「八百や/□入ヲ/中□」がみえる。「□入ヲ」は他の文字より濃く、「中□」の上に書かれていることから時期差があると推定される。

第293図15は江戸在在系土師質土器の風口である。粉質な胎土で、底部は無調整である。端面の開口部に「△」と推定される刻印が僅かに遺存する。

16は鉄製の頭巻釘である。17は孔質な凝灰岩製砥石である。下端面と裏面にはノコギリ状工具痕が遺存する。裏面は砥面となっており、工具が擦り消されている。18・19は硝子製の筭である。18は黄色透明、19は被熱し白色化した透明である。

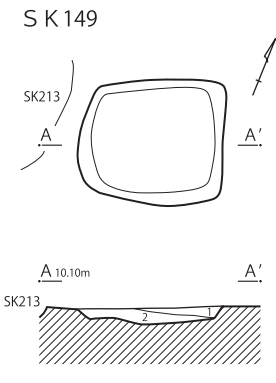
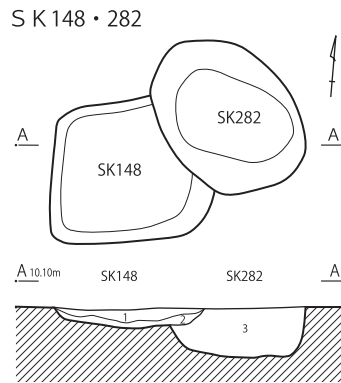
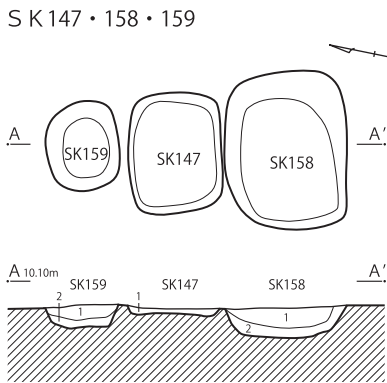
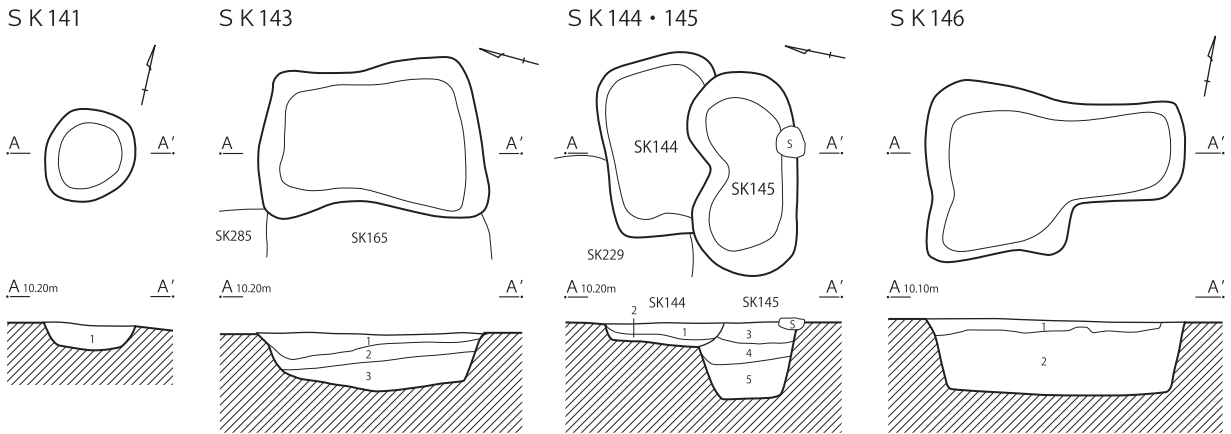
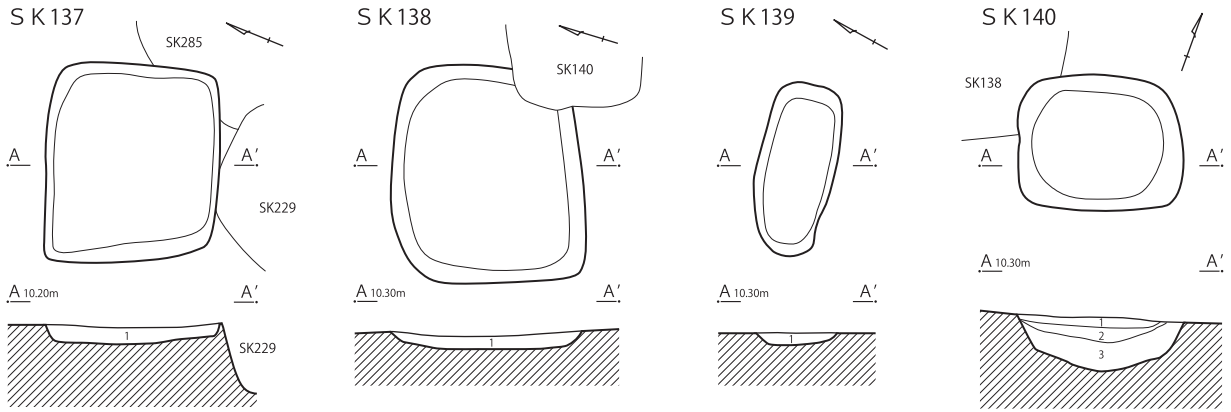
第165号土壌（第296・303・316・319・321図）

F7-F7グリッドに位置し、第285号土壌より新しく、第143・160号土壌と重複する。周囲には土壌が密集・重複する。平面形は隅丸方形で、検出長軸 1.75m、短軸 1.65m、深さ 0.35mを測る。長軸方位はN-12°-Wを指す。

覆土の下層は砂粒を含む砂質土で、上層はシルト質土である。最下層に木片が多量に投棄されており、最上層には木質が層状にみられる。

出土遺物はそれほど多くはないが、陶磁器類は幕末期に比定される製品で占められる。未掲載遺物には最新期である瀬戸美濃系磁器の小碗がみられる。推定廃絶期は19世紀中葉である。

第303図26～32に陶磁器、第316図4に瓦、第319図15～17に木製品、第321図5に金属製品を図示した。



SK 137
1 灰褐色土 砂粒主体 陶磁器片含む

SK 138
1 灰褐色土 砂粒主体 陶磁器片含む

SK 139
1 暗褐色土 細粒砂質 炭化物多量 (φ 20 mm)
小礫少量 瓦含む

SK 140
1 黄褐色土 粘土質
2 褐色土 粘土質 木質層 木片少量
3 灰褐色土 粘土質 木質少量

SK 141
1 暗褐色土 細粒砂質 瓦等多量

SK 143
1 灰褐色土 細粒砂質 炭化物を帯状に含む
2 灰褐色土 細粒砂質 黄色土粒子・木片多量
3 暗灰褐色土 細粒砂質 木片多量 陶磁器含む

SK 144 (1, 2)・SK 145 (3~5)
1 暗褐色土 小礫・木片少量
2 暗褐色土
3 灰褐色土 黄色土粒子・炭化物少量
4 暗灰褐色土 均質 炭化物少量
5 暗褐色土 木片主体層

SK 146
1 暗灰褐色土 細粒砂質 均質 遺物多量
2 暗灰褐色土 細粒砂質 木片多量

SK 147
1 暗褐色土 炭化物層状に含む

SK 158
1 灰褐色土 黄色土粒子・炭化物少量
2 暗灰褐色土 炭化物・木片少量

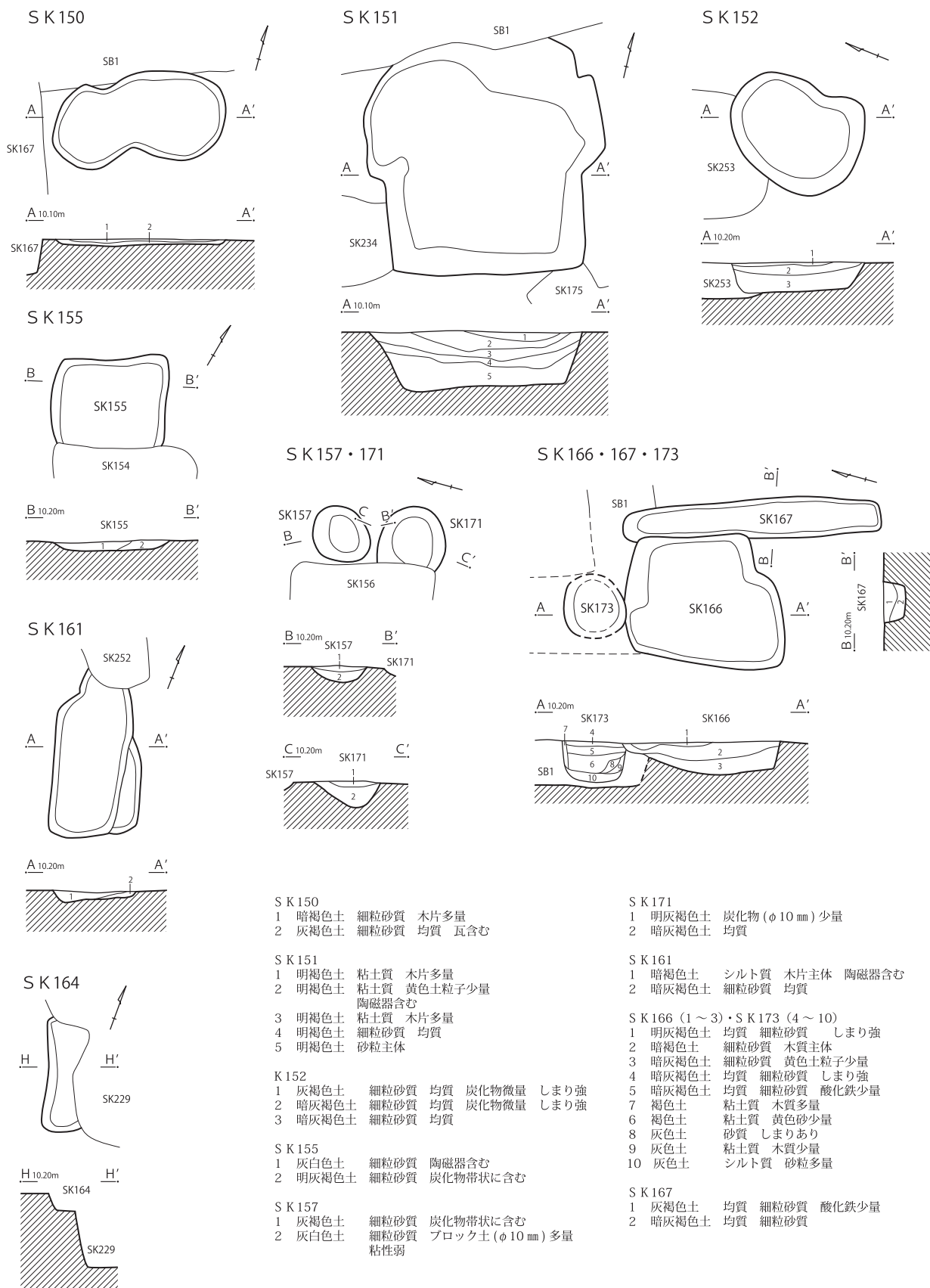
SK 159
1 灰褐色土 灰色土粒子少量
2 灰褐色土 黄色土ブロック (φ 10 mm) 少量

SK 148 (1, 2)・SK 282 (3)
1 暗褐色土 シルト質 木片多量
2 灰褐色土 シルト質 均質
3 灰褐色土 砂粒主体

SK 149
1 暗褐色土 細粒砂質 炭化物多量
黄色土ブロック状に含む
2 黒褐色土 炭化物主体 しまり弱

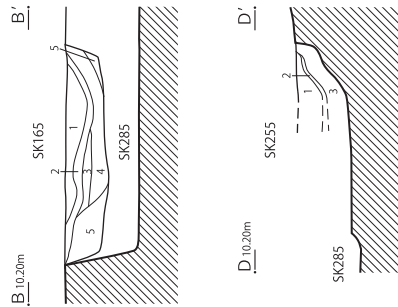
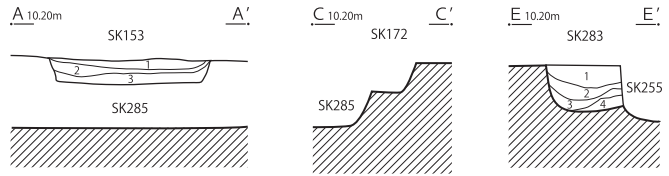
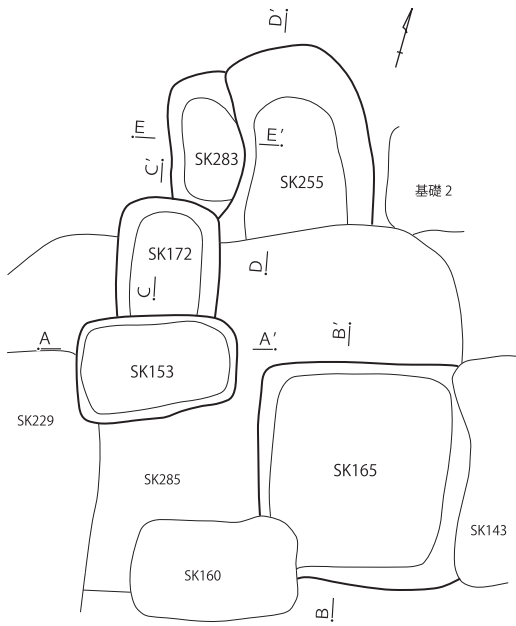


第 294 図 区画 AF 土 壤 (3)

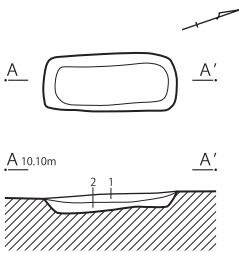


第 295 図 区画 AF 土 壤 (4)

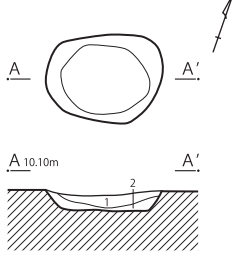
S K 153・165・172・255・283



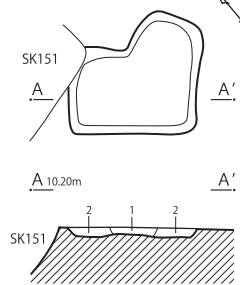
S K 169



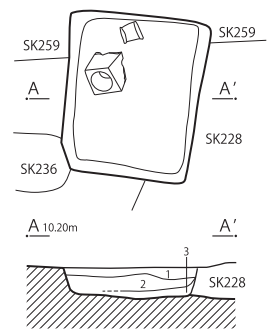
S K 170



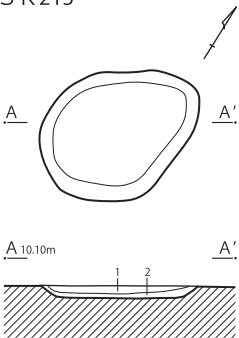
S K 175



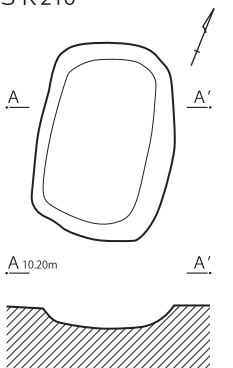
S K 199



S K 213



S K 216



S K 255

- 1 黄褐色土 砂多量 黄灰色シルトブロック多量 炭化物少量
- 2 暗褐色木質層
- 3 灰色土 炭化物(φ5mm)少量 木材・磁器片含む

S K 283

- 1 灰色土 シルト質 不均一 炭化物多量・層状に含む
- 2 灰色土 シルト質 均一 ややラミナ発達 貝類含む
- 3 灰色土 シルト質 均一 貝類含む
- 4 灰色土 シルト質 均一 含有物少量

S K 169

- 1 暗灰褐色土 細粒砂質 白色粒子(φ1mm)多量(AS-Aか) 炭化物多量
- 2 灰褐色土 均質 細粒砂質 炭化物層状に含む

S K 170

- 1 灰褐色土 シルト質 しまり弱 遺物多量
- 2 明灰褐色土 細粒砂質 酸化鉄多量 均質

S K 175

- 1 暗黄褐色土 細粒砂質
- 2 暗赤褐色土 細粒砂質 焼土ブロック(φ20mm)多量

S K 153

- 1 褐色土 粘土質 木質多量 木片少量
- 2 灰黄褐色土 シルト質 円形の浅黄褐色粘土ブロック(φ30mm)含む
- 3 褐色土 粘土質 木質多量 木材・陶磁器片含む

S K 165

- 1 灰褐色土 シルト質 木質層状に含む
- 2 暗灰褐色土 シルト質 黄色土粒子少量
- 3 灰褐色土 細粒砂質 均質
- 4 暗灰褐色土 細粒砂質 木片多量
- 5 暗灰褐色土 砂粒主体

S K 199

- 1 灰褐色土 粘土質 焼土少量 木片含む しまり強
- 2 暗褐色土 粘土質 焼土・炭化物粒子少量 しまり弱 陶磁器含む
- 3 褐色土 粘土質 焼土多量 瓦含む

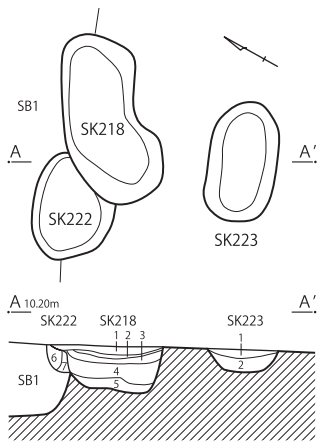
S K 213

- 1 灰褐色土 シルト質 木質多量 木片少量
- 2 灰色土 粘土質 小礫(φ3mm)を含む赤黄色砂(φ0.5~1mm)が西側に特に多く混入

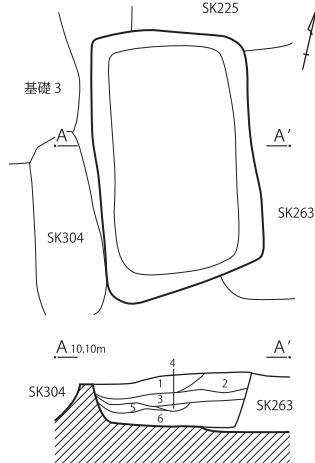


第296図 区画AF土壤(5)

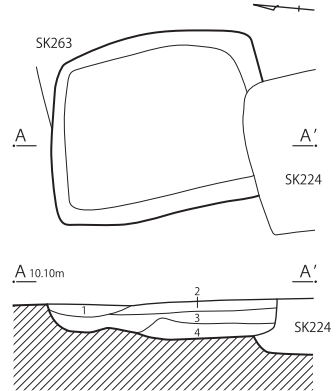
S K 218・222・223



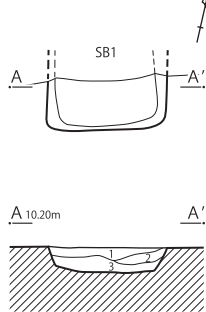
S K 224



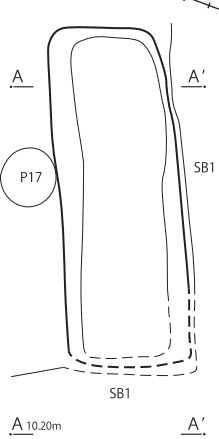
S K 225



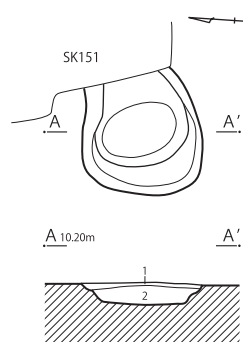
S K 219



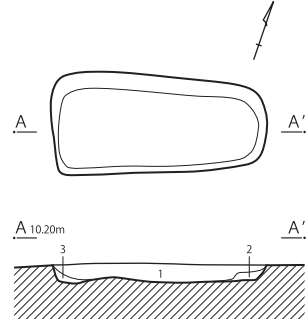
S K 233



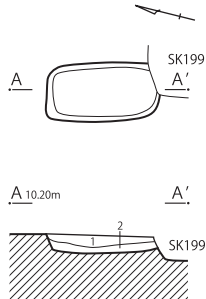
S K 234



S K 235



S K 236



S K 218 (1~5)・S K 222 (6, 7)

- 1 褐色土 粘土質 炭化物少量
- 2 赤褐色土 シルト質 焼土多量
- 3 黄褐色土 砂質 しまり強
- 4 灰褐色土 砂質 粒子(φ0.1~0.5mm)
- 5 赤褐色土 砂質 粗粒子(φ0.5mm) しまり強
- 6 灰色土 粘土質 しまり強
- 7 灰黄褐色土 砂質 粒子(φ0.5~1mm)

S K 219

- 1 暗褐色土 粘土質 炭化物多量
- 2 焼土層 焼土・炭化物含む
- 3 黄色木質層 細かい木片多量

S K 223

- 1 褐色土 シルト質 炭化物少量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物・木質少量

S K 224

- 1 黄褐色土 粘土質 木片・木質・炭化物含む 黄色砂含む
- 2 灰黄色土 粘土質 炭化物含む
- 3 灰黄色土 シルト質 粘性弱 木質多量
- 4 木質層 樹皮多量
- 5 灰色土 シルト質 炭化物含む
- 6 灰黄色土 粘土質

S K 225

- 1 暗褐色土 粘土質 木質多量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物少量
- 3 灰黄色土 粘土質 木質多量 厚さ10mm程の層状に木質が堆積
- 4 灰褐色土 粘土質 炭化物・木質少量

S K 233

- 1 黄色土 砂質 細粒砂(φ0.5mm以上)
- 2 灰黄色土 砂質 1層より粗粒 方形の黄褐色粘土ブロック(φ30mm~50mm)含む
- 3 灰黄色土 砂質 粗粒子(φ0.5~1mm)

S K 234

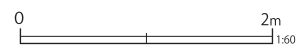
- 1 黄色土 粘土質 炭化物含む
- 2 灰色土 粘土質 炭化物少量

S K 235

- 1 灰黄褐色土 砂質 炭化物微量 しまり弱
- 2 赤褐色土 砂質 しまり強
- 3 黄褐色土 粘土質 炭化物少量

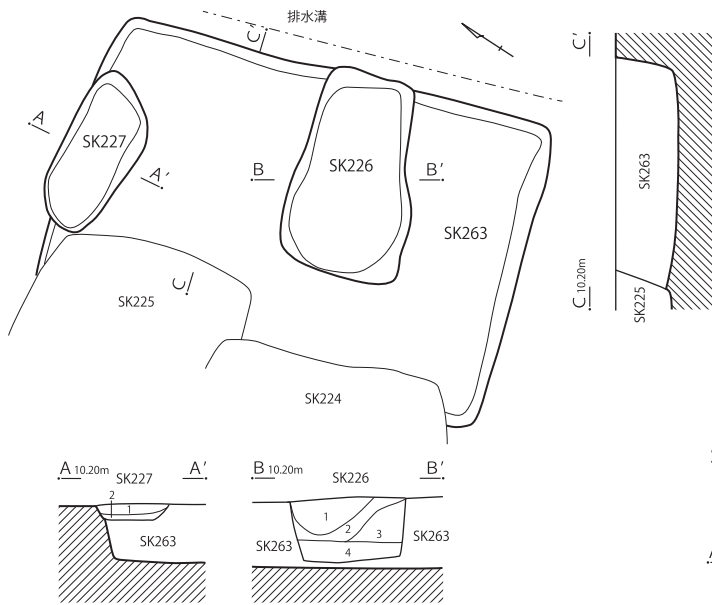
S K 236

- 1 灰褐色土 粘土質 炭化物多量
- 2 黄色土 粘土質 炭化物微量

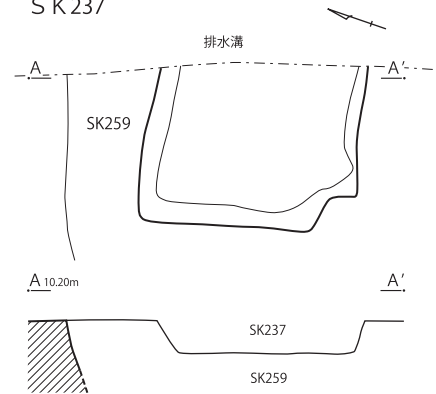


第 297 図 区画 AF 土 壙 (6)

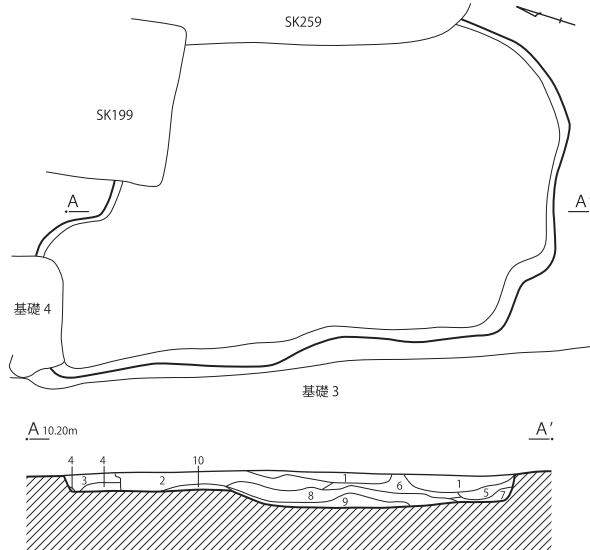
S K 226・227・263



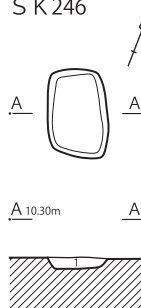
S K 237



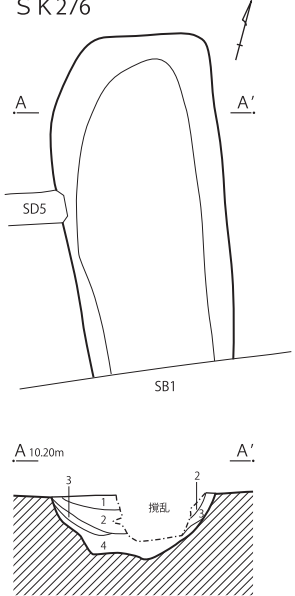
S K 228



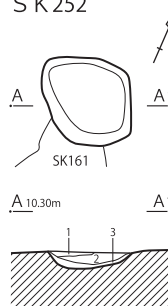
S K 246



S K 276



S K 252



S K 226

- 1 褐色土 粘土質 炭化物・木質多量 円形小礫(φ10～20mm)少量
- 2 褐色土 粘土質 木質多量 厚さ5～10mmの木質層あり
- 3 灰色土 粘土質 炭化物微量
- 4 木質層 木材、木質の層 別遺構の可能性有り

S K 227

- 1 灰褐色土 シルト質 粘性弱 炭化物少量
- 2 黄褐色土 粘土質

S K 228

- 1 灰色土 シルト質 粘性強 砂粒含む
- 2 暗褐色土 粘土質 焼土・炭化物多量
- 3 灰色土 シルト質 酸化鉄・炭化物少量
- 4 灰褐色土 粘土質 酸化鉄・炭化物少量
- 5 褐色土 粘土質 炭化物・焼土多量 円形の浅黄橙色粘土ブロック(φ10～30mm)含む
- 6 オリーブ褐色土 シルト質 粘性強 粒子粗い 炭化物・焼土含む
- 7 暗褐色土 シルト質 粘性強 方形の浅黄橙色粘土ブロック(φ100mm)混入 炭化物少量

- 8 黒褐色土 粘土質 炭化物主体
- 9 暗褐色土 粘土質 焼土・炭化物主体
- 10 暗褐色土 砂質 焼土・炭化物少量(上層からの混入)

S K 246

- 1 黄褐色土 粘土質 炭化物・焼土含む

S K 252

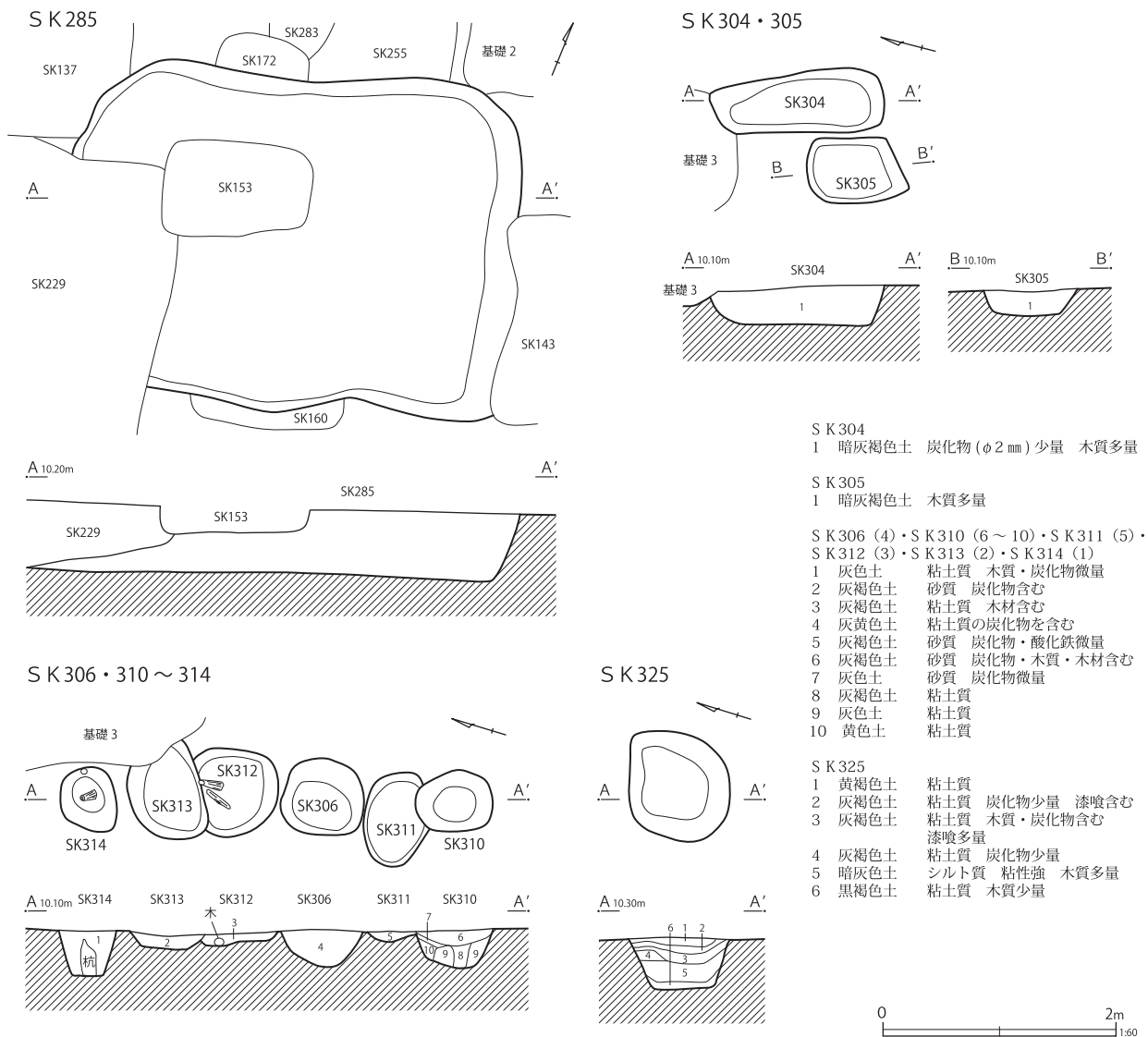
- 1 黒褐色土 砂質 木質・炭化物多量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物少量
- 3 黄色土 粘土質

S K 276

- 1 灰褐色土 砂質 炭化物少量
- 2 褐色土 砂質 浅黄橙色細粒砂多量
- 3 褐色土 粘土質 炭化物・木質少量
- 4 暗褐色土 粘土質 木質主体層



第298図 区画AF土壌(7)



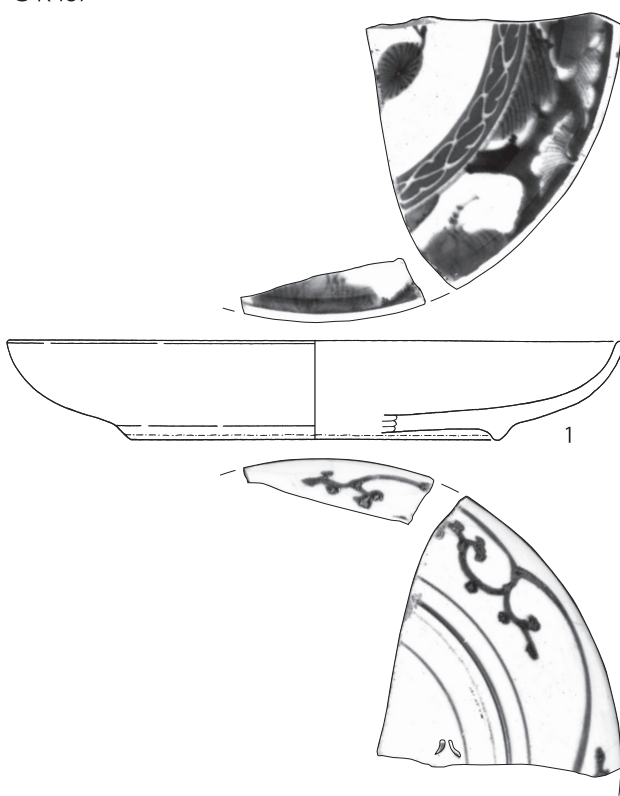
第 299 図 区画 AF 土壌 (8)

第 303 図 27 は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。28 は大堀相馬系陶器の碗である。内面に糠白釉、上位には青緑釉が流し掛けられている。外面は青緑釉で陽刻文が施文される。29 は産地不詳陶器の行平鍋である。柿釉が施釉され、外面上位にはトビガンナ施文がみられる。露胎部には使用痕と考えられる煤が付着する。31 は産地不詳陶器の蓋である。急須の落し蓋で、底部の糸切痕はナデ消されている。底部外周は鋤状に削られ、上面は緑釉が施釉される。32 は京都信楽系陶器の落し蓋で、筒形水注の蓋の可能性があり、上端部は露胎である。

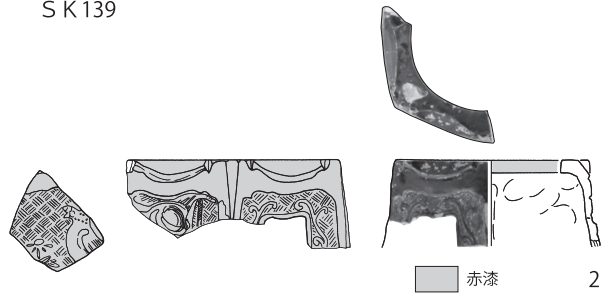
第 316 図 4 は軒棧瓦である。江戸式に類似し、中心弁は六枚である。摩耗している。

第 319 図 17 は木札である。表面に「龍吐水」、裏面に「伊三郎」と墨書がみえる。「龍吐水」は江戸時代から明治時代にかけて用いられた消火道具である。改良されたものは「雲龍水」と呼び、区画 AB の第 21 号土壌では「雲龍水」と書かれた木札 (第 85 図 23) が出土している。「伊三郎」は『絵図』にはみえないが、『営業便覧』に「熊倉伊三郎」の名がみえ、関係性が示唆される。木札は当時の火消や火消用設備の管理当番札のようなものであろうか。

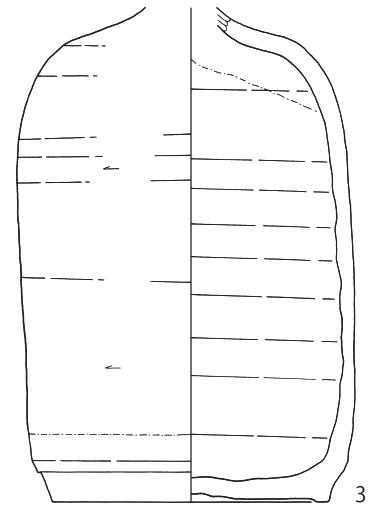
S K 137



S K 139



S K 140



0 10cm
1:3

第 300 図 区画 AF 土壌出土遺物 (1)

第 321 図 5 は鉄製の鍵である。環状の把手に、先端は突起が付く。回転鍵型錠の鍵である。

第 263 号 土 壌 (第 298・309・310・314・316・320・321・324・325 図)

F 7-E 9、F 8・9 グリッドに位置し、第 224～227 号土壌より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 3.7 m、短軸 2.5 m、深さ 0.5 m を測る大型の土壌である。長軸方位は N-15°-W を指す。覆土の状況は確認できなかった。

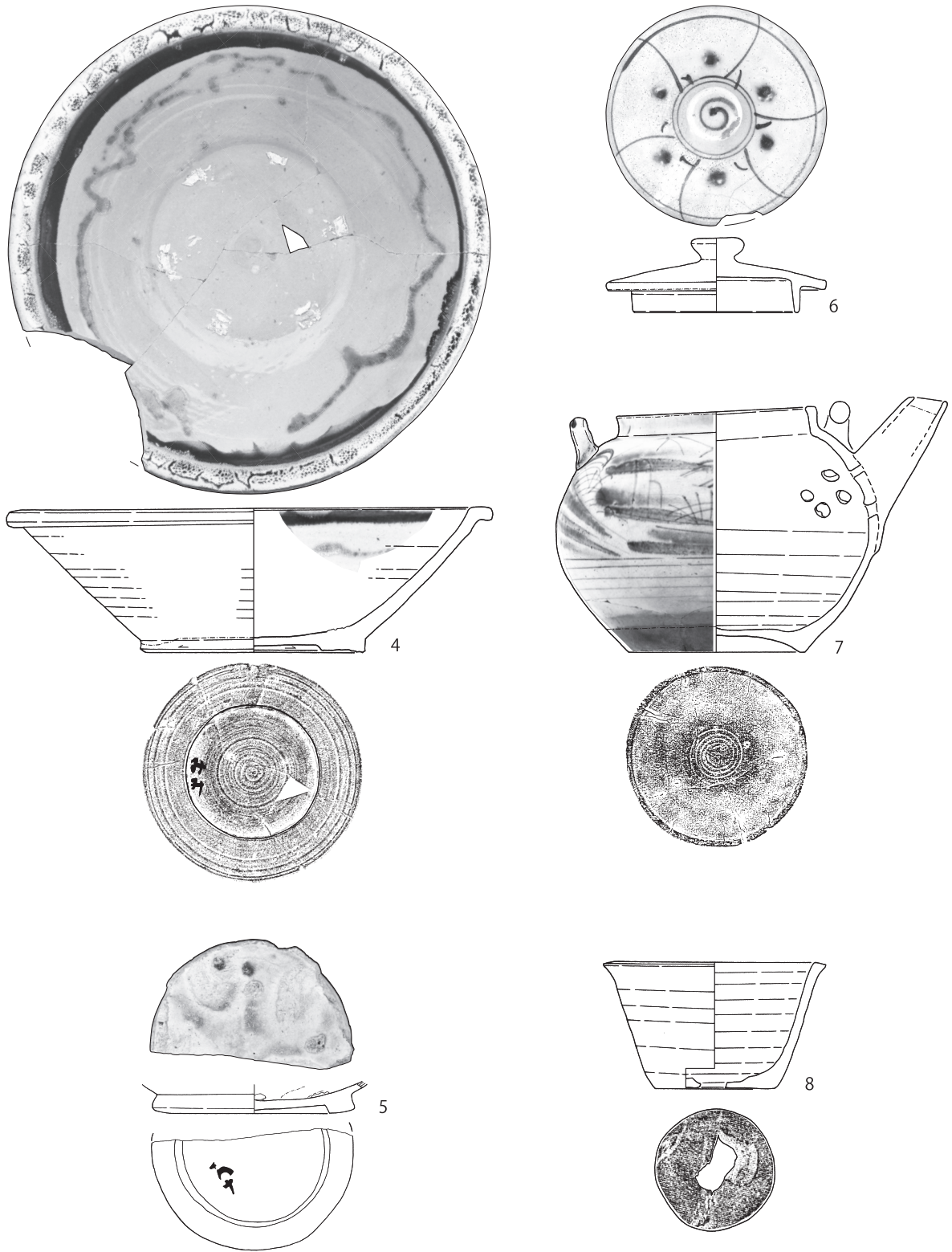
遺物は多量に出土しており、陶磁器類は酸化コバルト染付磁器を主体とし、銅版転写染付丸碗が最新期である。銅版転写染付磁器段階の遺物は第 224～227 号土壌からの混入であろう。推定廃絶期は 19 世紀後葉である。

第 309 図 78～88・第 310 図 89～93 に陶磁器類、

第 314 図 8～11 に土製品、第 316 図 5 に瓦、第 320 図に木製品、第 321 図 20～22 に金属製品、第 324 図 21・22 に石製品、第 325 図 2 に硝子製品を図示した。

第 309 図 79 は瀬戸美濃系磁器の平碗である。外面に発色が良好な群青色の染付が施される。80 は内面に江戸絵付けが施された瀬戸美濃系磁器の坏である。腰部は角張り、高台畳付け内側に段が付く。外面は酸化コバルト染付が施され、内面に江戸絵付け文字「旅人宿 / 住吉丁十番地 / 荒井口 □」がみえる。文字にみえる場所を特定することはできなかった。81 は瀬戸美濃系磁器の卵殻手に類似する坏で、高台畳付け内側に段が付く。外面は酸化コバルト染付が施され、内面に上絵付で「く利橋 / 稻荷屋」の銘がみえる。舟戸町にあつ

SK143

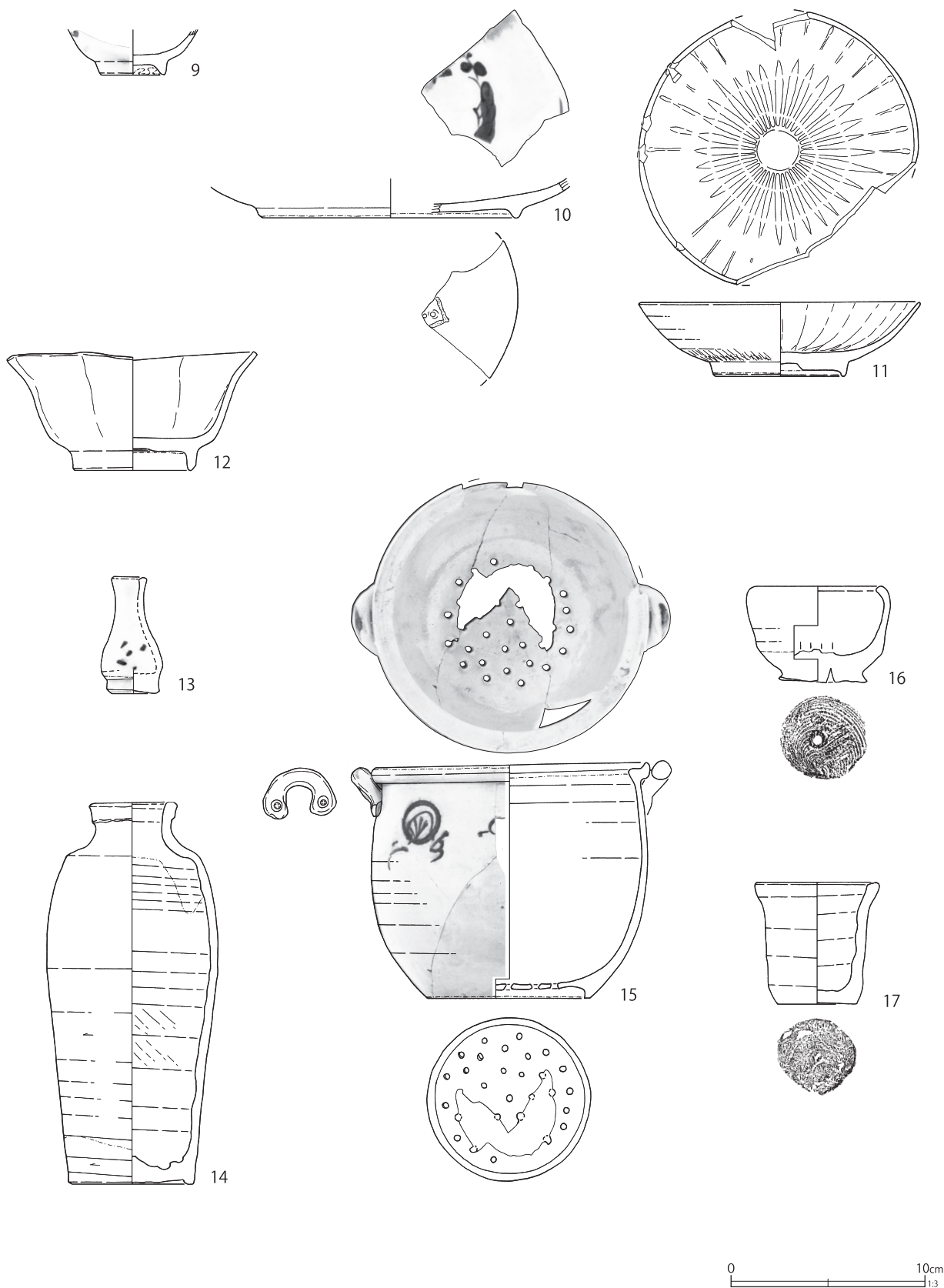


4・5 0 10cm 1:4

6~8 0 10cm 1:3

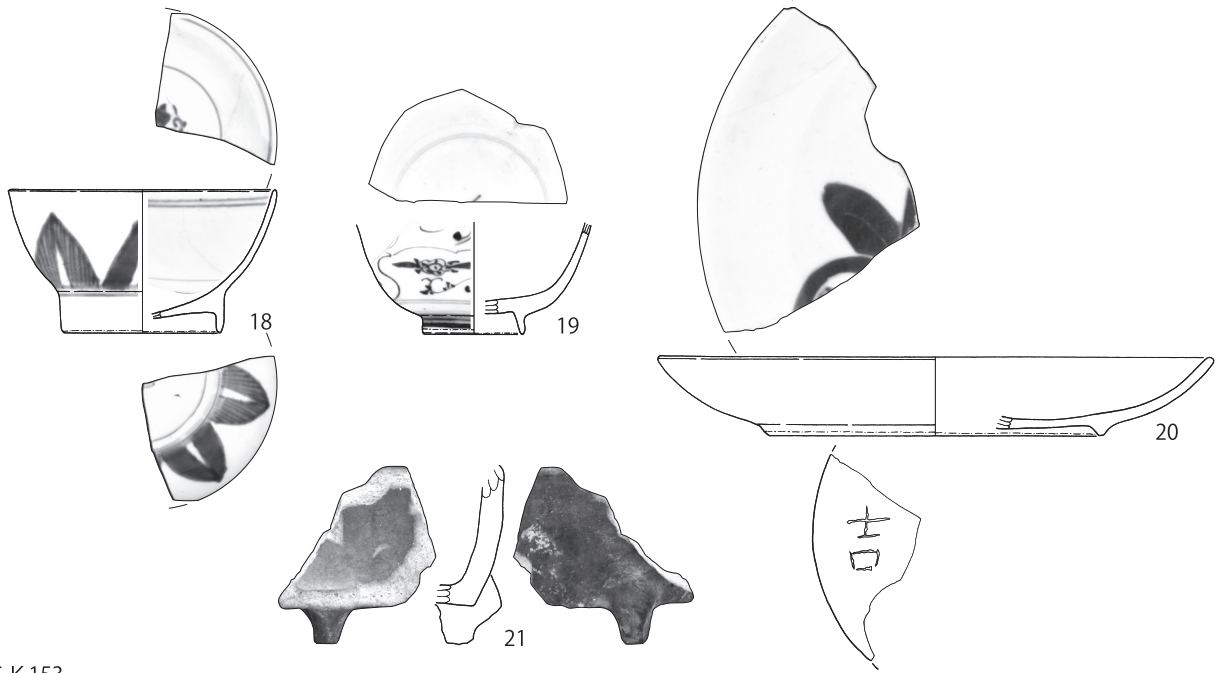
第 301 图 区画 AF 土壙出土遺物 (2)

SK151

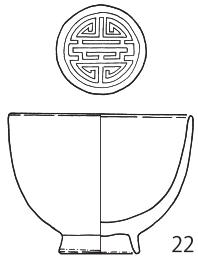


第 302 図 区画 AF 土壙出土遺物 (3)

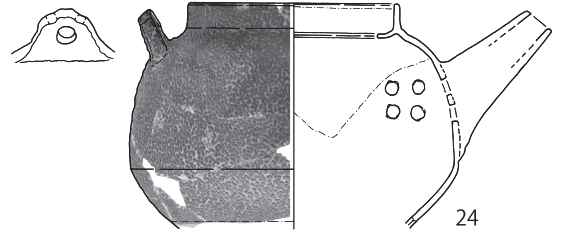
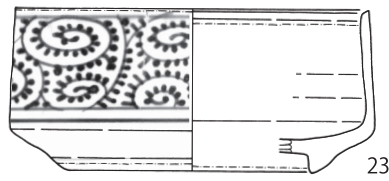
SK 152



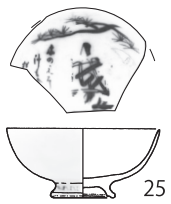
SK 153



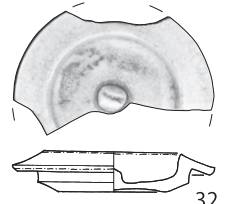
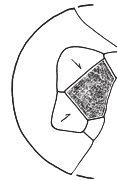
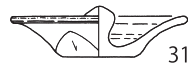
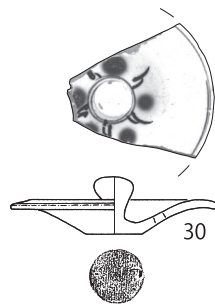
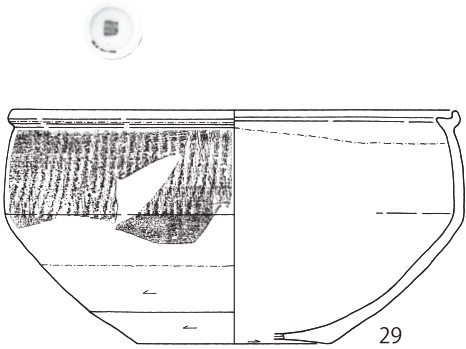
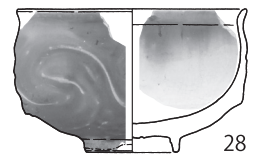
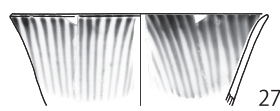
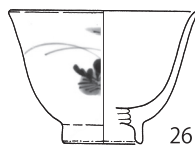
SK 155



SK 158

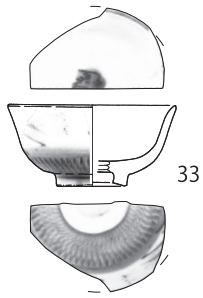


SK 165

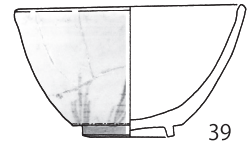
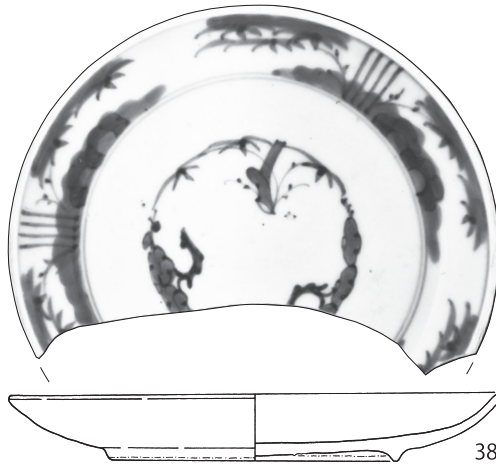
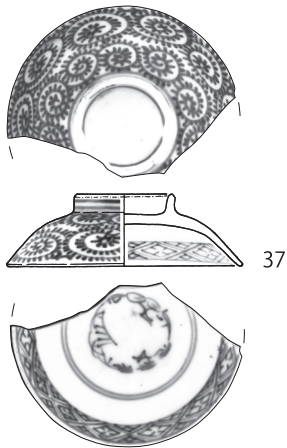
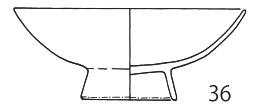
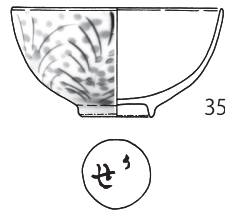
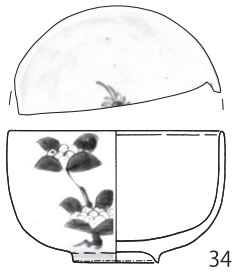


第 303 图 区画 AF 土壙出土遺物 (4)

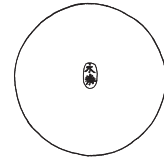
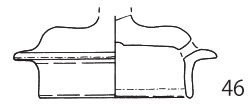
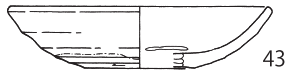
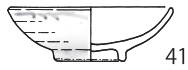
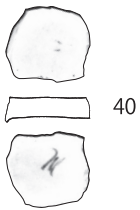
S K166



S K172

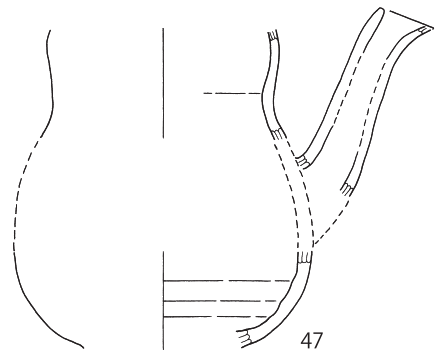
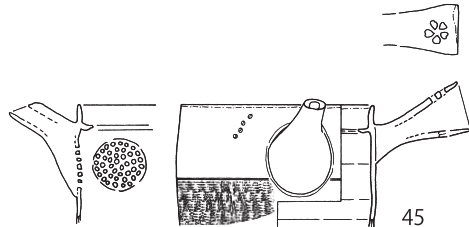
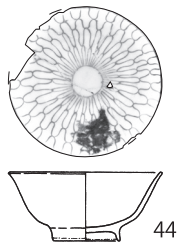


S K173



刻印部分
S=1/2

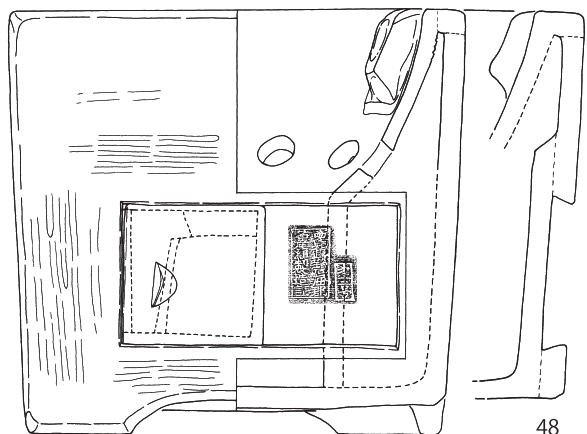
S K199



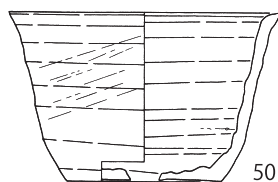
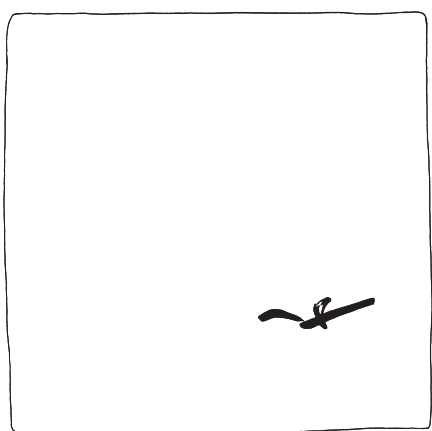
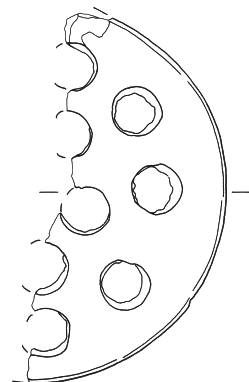
0 10cm 1:3

第 304 图 区画 AF 土壤出土遺物 (5)

S K199



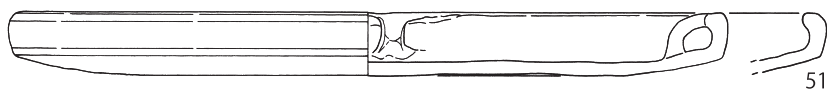
48



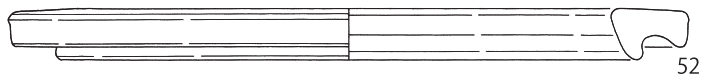
50



S K216



51

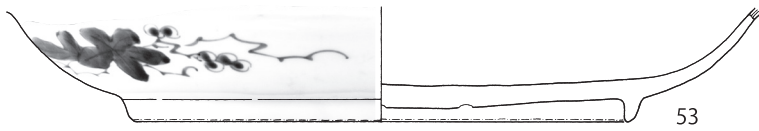
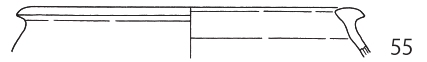
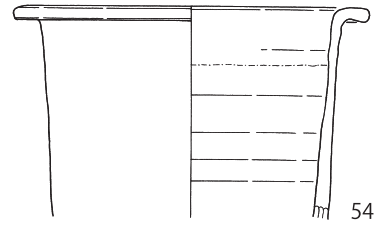
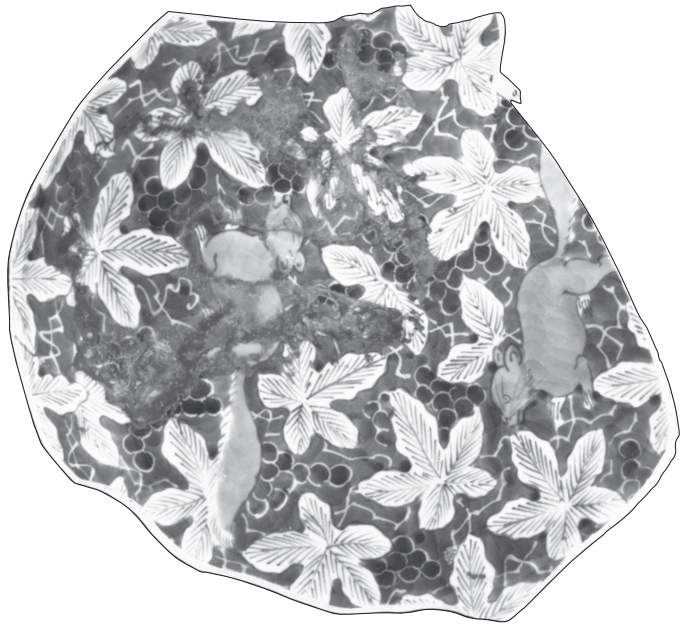


52

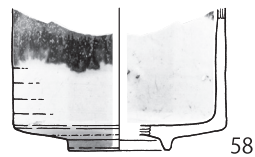
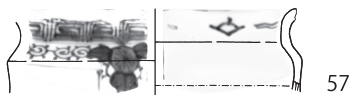
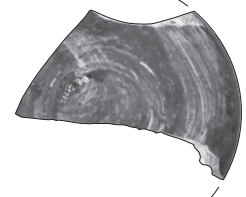
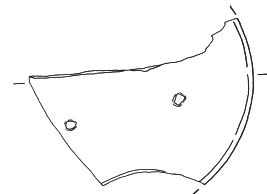
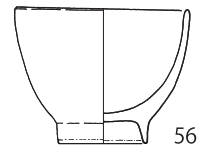
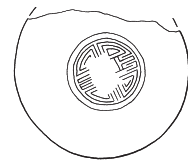
48・51・52 0 10cm 1:4 49・50 0 10cm 1:3

第 305 图 区画 AF 土壙出土遺物 (6)

S K 224



S K 225

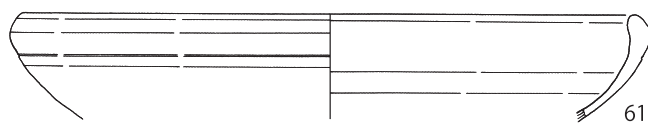
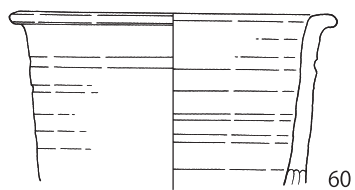


0 10cm
1:4

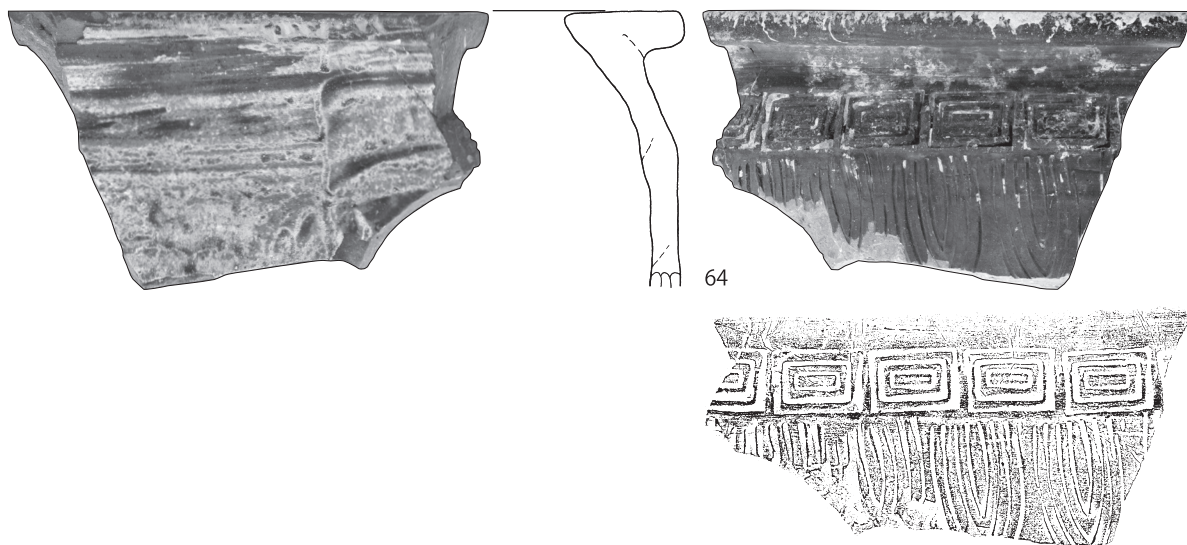
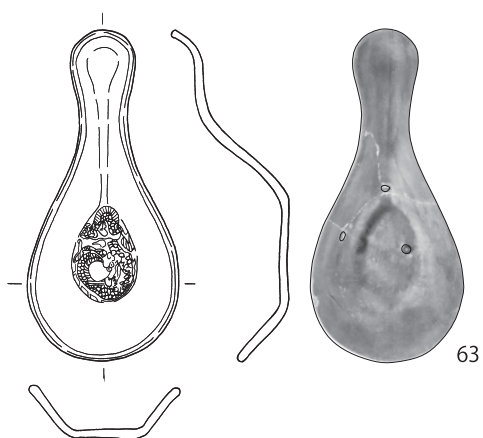
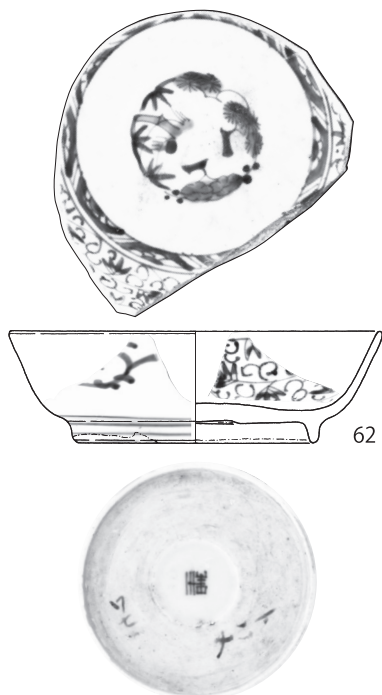
0 10cm
1:3

第 306 图 区画 AF 土壙出土遺物 (7)

S K225



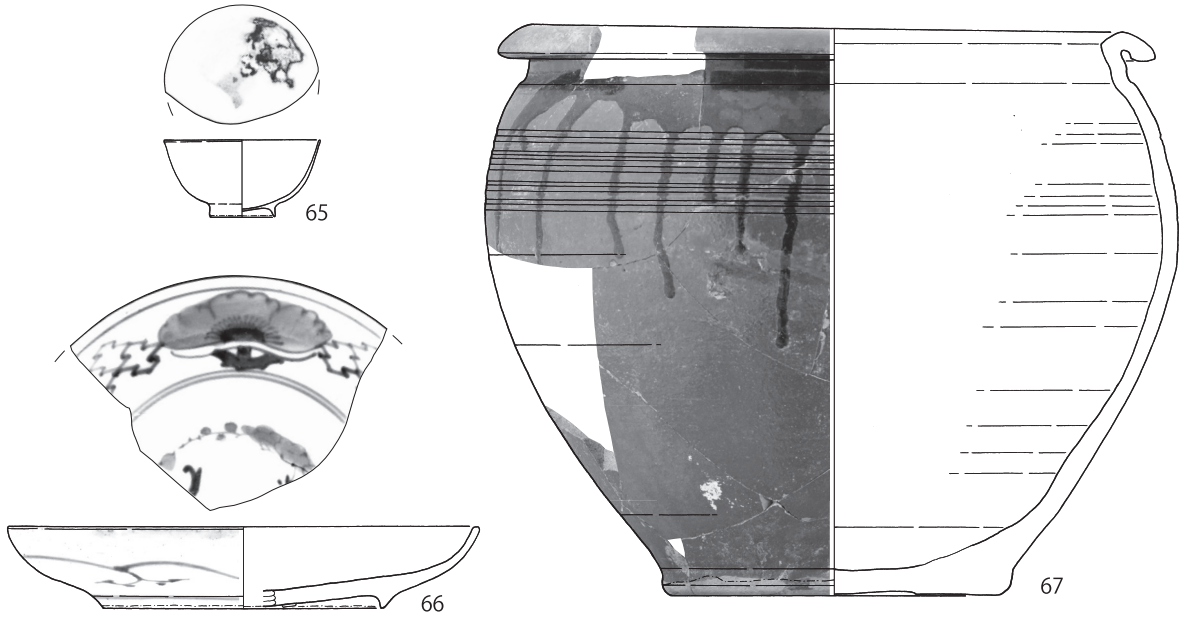
S K226



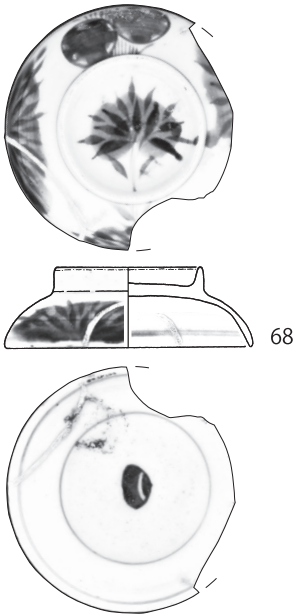
61 0 10cm 1:4 60・62~64 0 10cm 1:3

第 307 图 区画 AF 土壙出土遺物 (8)

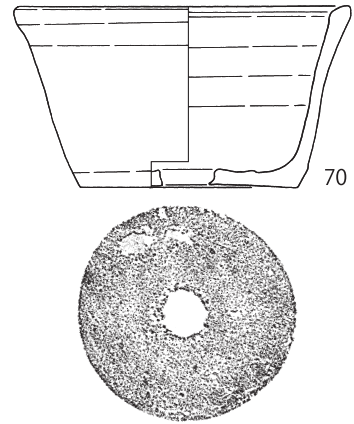
S K 228



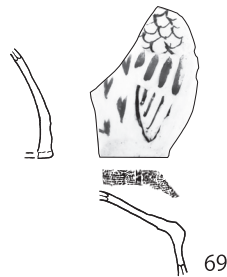
S K 233



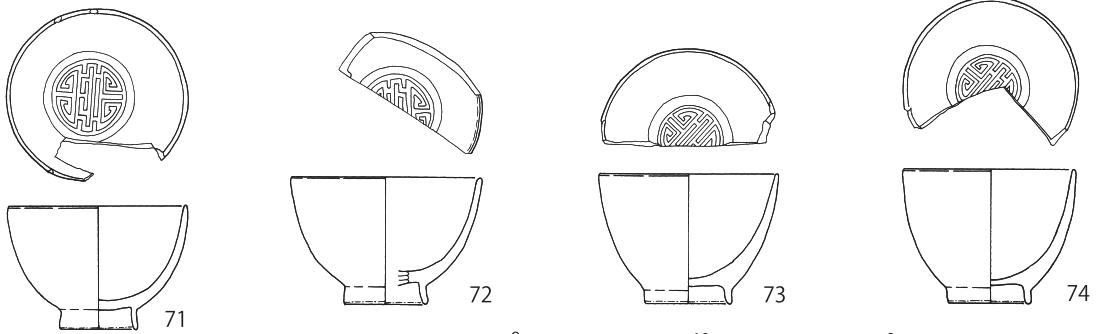
S K 237



S K 235



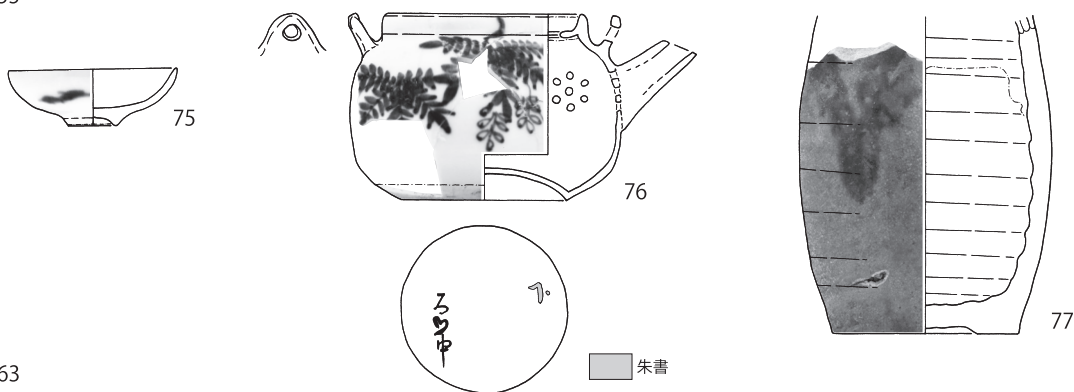
S K 255



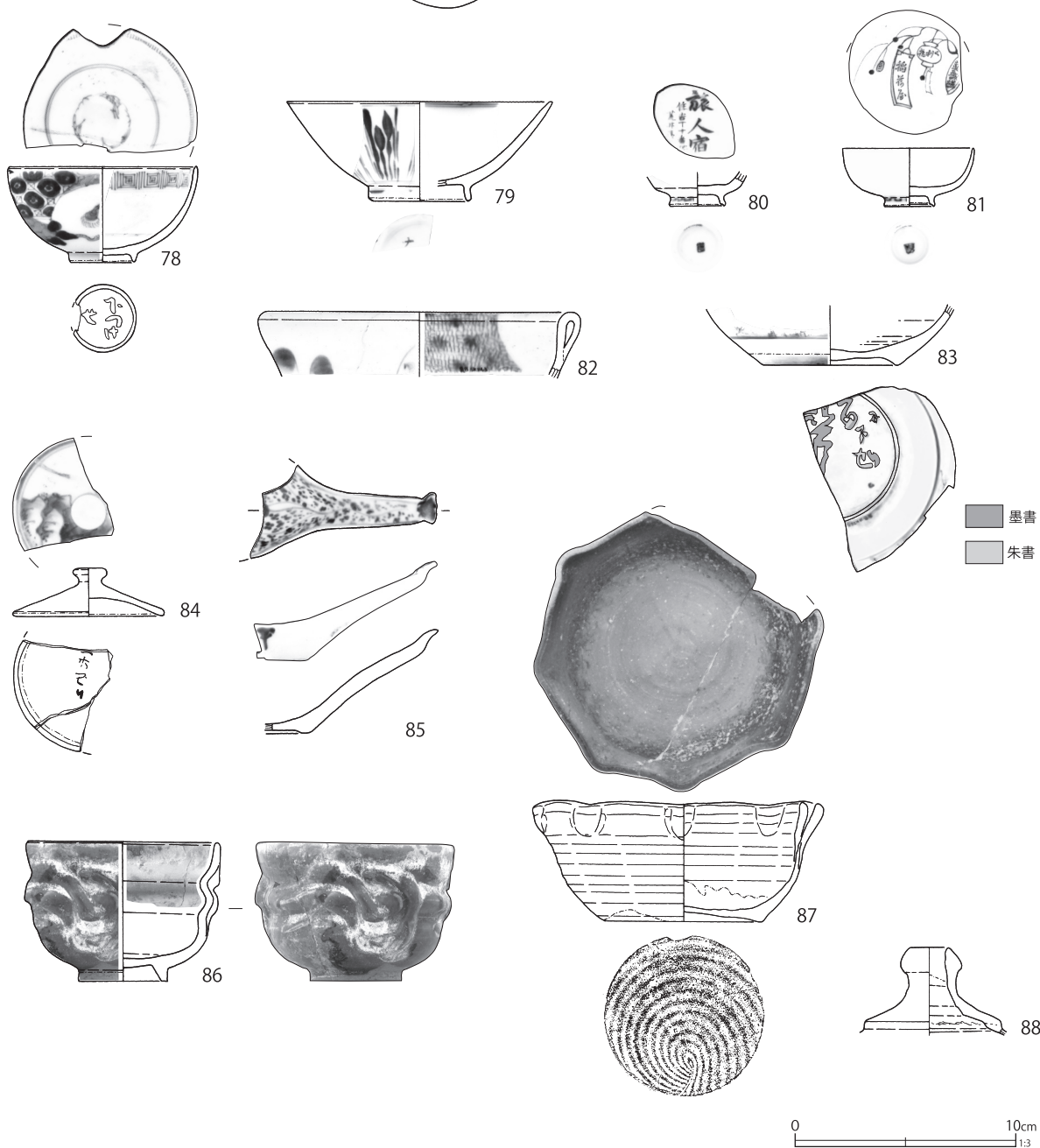
0 10cm 1:4 67 0 10cm 1:3 65・66・68~74

第 308 图 区画 AF 土壤出土遺物 (9)

S K 255

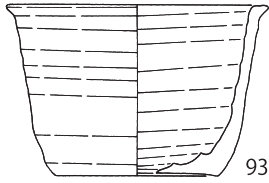
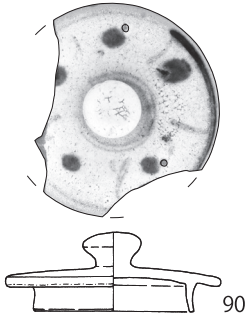
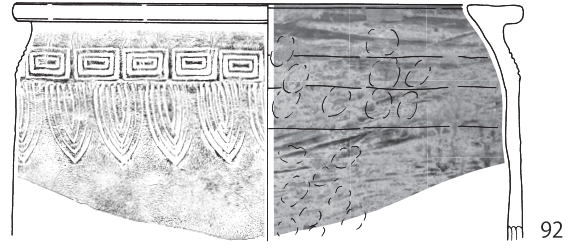
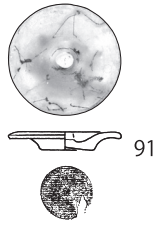
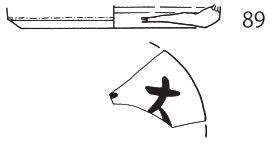


S K 263

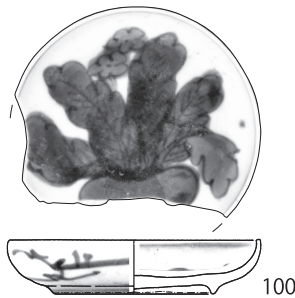
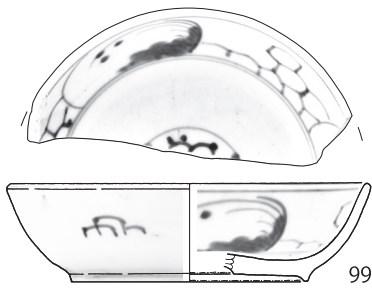
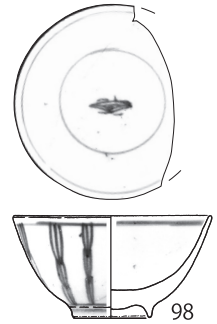
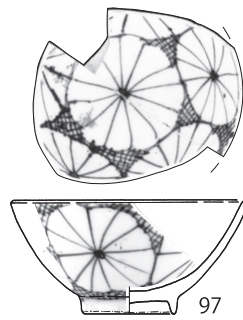
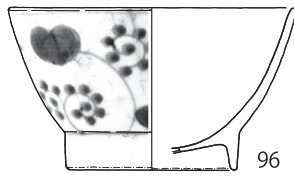
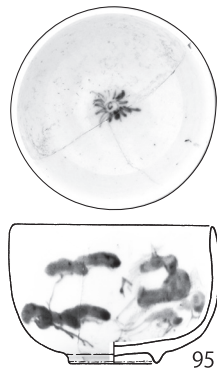
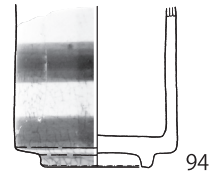


第 309 图 区画 AF 土壙出土遺物 (10)

S K 263



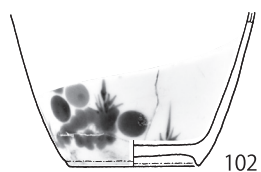
S K 276



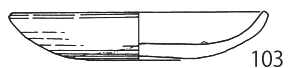
0 20cm 1/6 89~91・93~101 0 10cm 1/3

第 310 図 区画 AF 土壙出土遺物 (11)

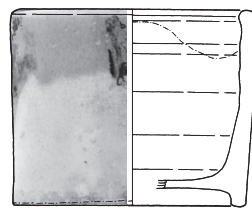
S K276



102



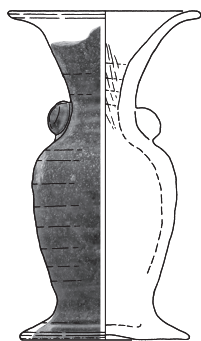
103



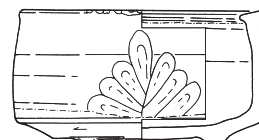
105



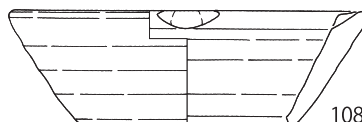
104



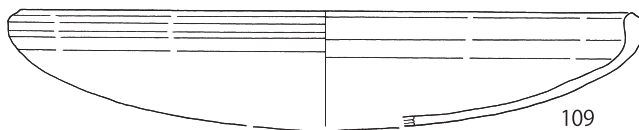
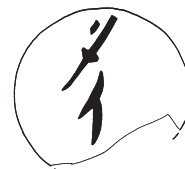
107



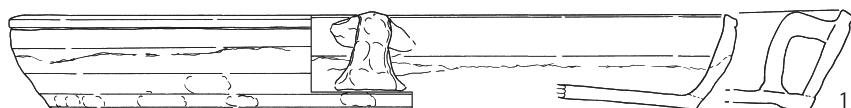
106



108



109



110

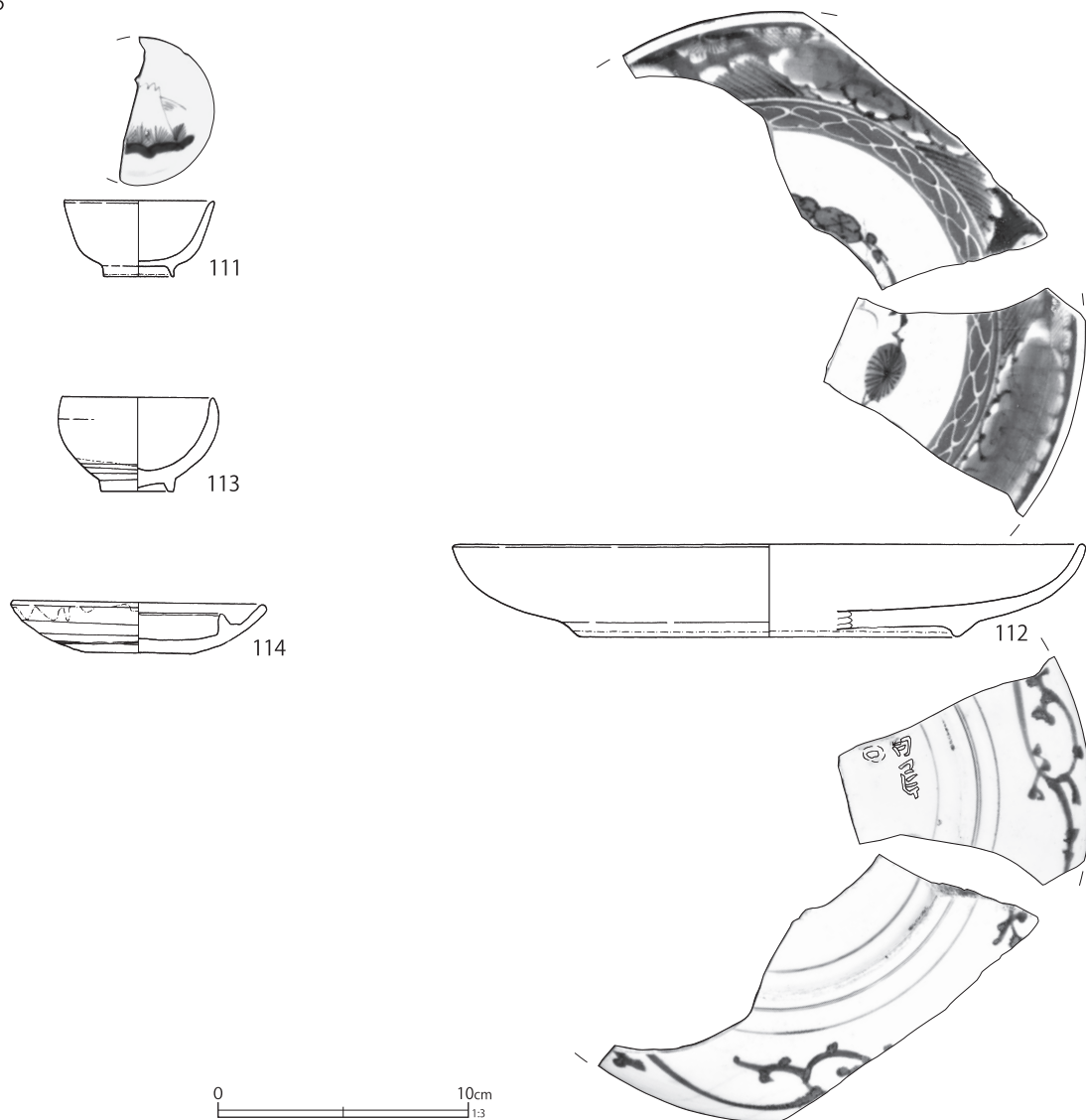


109・110 0 10cm 1:4

102~108 0 10cm 1:3

第 311 図 区画 AF 土壙出土遺物 (12)

S K 285



第 312 図 区画 AF 土壙出土遺物 (13)

た鯉料理店「稻荷屋」の坏である。

86 は大堀相馬系陶器の碗である。胴締め碗と呼ばれる器形であり、大堀相馬焼の窯跡である福島県浪江町の中平遺跡（福島県文化財センター 1989）の灰原では非常に稀な器種と報告されている。内面に灰釉、外面から内面上位にかけて青緑釉が流し掛けられている。

87 は備前系陶器の鉢である。炆器質な胎土で、底部に右回転の糸切状痕が遺存する。第 226 号土壙出土破片と接合関係にある。

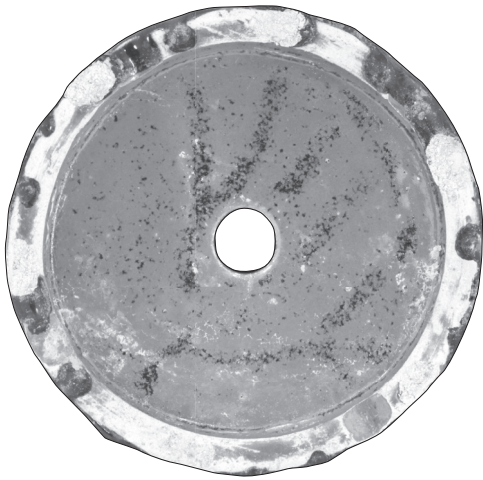
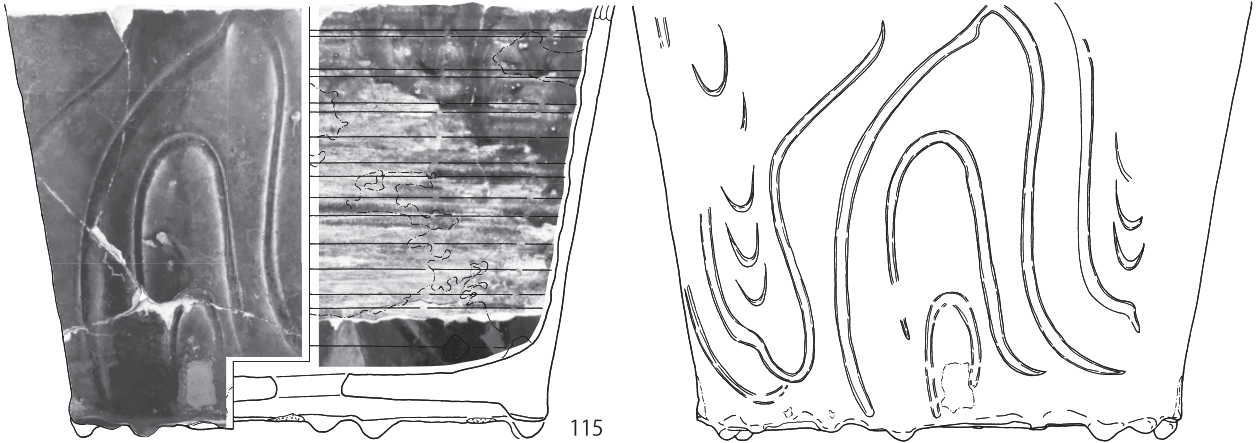
88 は産地不詳陶器の徳利である。頸部は短い

が、頸部別作りであり、破断面に接ぎ痕がみえる。「すず徳利」と同様の作りである。外面は黒釉で、内面は柿釉が施釉される。

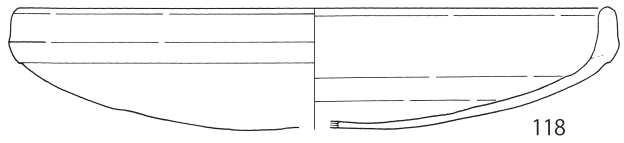
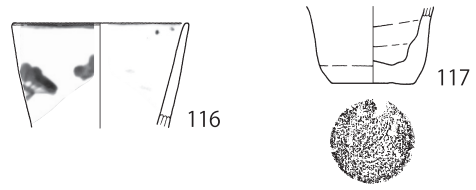
第 310 図 92 は常滑系陶器の甕である。外面上位に雷文と蓮弁文のスタンプ文が施文される。リンズと呼ばれる回転施文具で装飾されており、19 世紀中葉に近い年代が推測されている（惟村 2018）。外面は鉄泥、内面には刷毛塗状の塗土がみられる。外面上位には白色物質が付着している。

第 314 図 8 は羽釜を模した江戸在地系のミニチュアである。比較的大型だが、煤などの使用痕

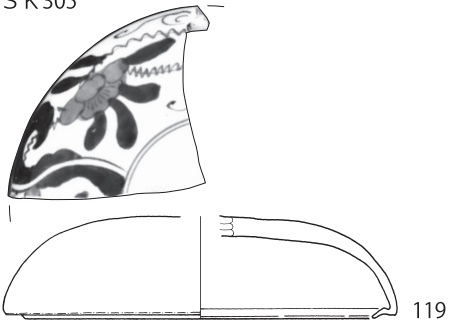
S K 285



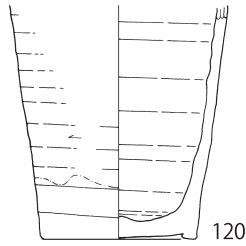
S K 304



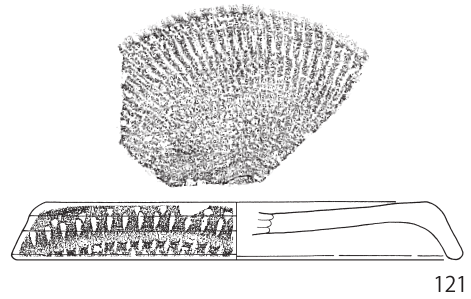
S K 305



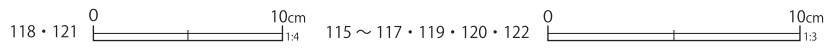
S K 306



S K 312



S K 325



第 313 图 区画 AF 土壙出土遺物 (14)

第72表 区画AF土壙出土遺物観察表(1)(第300~313図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	(24.2)	3.9	(14.4)	—	15	良好	白	SK137	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱	68-8
2	陶器	坏台カ	(6.8)	[3.4]	—	K	10	良好	浅黄橙	SK139	板作り成形 外面型押陽刻文・赤漆塗布	
3	陶器	德利	—	[19.5]	(11.0)	EIK	20	良好	灰白	SK140	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部下位・底部釉拭き取り SK138と接合	
4	陶器	鉢	30.2	9.6	14.4	EIK	95	普通	灰白	SK143	外面・口唇部・内面上位鉄釉 口唇部白釉流し掛け 内面灰釉・緑釉散らし・目跡6あり 高台内墨書	
5	陶器	捏鉢	—	[2.1]	10.2	EIK	5	普通	灰白	SK143	瀬戸美濃系 内面灰釉・緑釉散らし・釉拭き取り 4遺存・目跡2遺存 底部墨書	
6	陶器	蓋	—	3.7	8.0	IK	95	良好	灰白	SK143	上面白化粧後施釉・鉄絵・緑釉彩 最大径10.8cm	
7	陶器	土瓶	9.7	12.5	8.7	IK	80	良好	灰白	SK143	底部白化粧 外面白化粧後施釉・鉄絵・緑釉彩 底部煤付着	
8	瓦質土器	植木鉢	(9.8)	6.2	5.9	AK	50	普通	灰白	SK143	江戸在地系 底部糸切痕(左) 燻す	
9	磁器	碗	—	[2.3]	3.2	—	5	良好	白	SK151	清朝徳化窯系 型成形 内外面施釉 外面上絵付(青)	
10	磁器	皿	—	[2.0]	(13.0)	—	5	普通	白	SK151	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支跡1遺存・釘書	
11	磁器	皿	14.2	3.8	6.1	—	85	普通	白	SK151	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押施文 口紅 体部下位カンナケズリ状痕	
12	磁器	鉢	12.5	6.0	2.9	—	95	良好	白	SK151	瀬戸美濃系 内外面青磁釉 口紅	
13	磁器	德利	1.5	5.9	2.2	—	100	普通	白	SK151	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付	
14	陶器	德利	4.0	19.7	6.0	EIK	95	良好	灰	SK151	瀬戸美濃系 外面灰釉 口唇部重焼痕	
15	陶器	蒸し器	13.9	12.2	8.3	IK	60	良好	灰白	SK151	内外面灰釉 外面鉄絵	
16	陶器	乗燭	6.4	4.9	4.5	EI	90	良好	灰白	SK151	底部糸切痕(右) 内外面鉄釉 灯芯立欠失	
17	土師質土器	焼塩壺	(6.1)	6.2	4.1	AHK	75	普通	橙	SK151	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	
18	磁器	碗	(10.5)	5.6	(6.2)	—	20	良好	白	SK152	肥前系 内外面施釉・染付	
19	磁器	碗	—	[4.4]	(3.9)	—	20	良好	白	SK152	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
20	磁器	皿	(21.7)	3.1	(13.2)	—	15	良好	白	SK152	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼継痕あり 高台内釘書「吉」	
21	瓦質土器	火鉢	—	[7.0]	—	CIK	5	普通	灰白	SK152	体部ミガキ状光沢 燻す	
22	磁器	坏	(7.1)	5.5	3.0	—	70	普通	白	SK153	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
23	磁器	段重	(14.0)	6.4	(9.6)	—	15	良好	白	SK155	肥前系 内外面施釉 外面染付	
24	陶器	土瓶	8.2	[8.9]	—	IK	70	良好	灰白	SK155	外面鮫肌釉(鉄釉) 内面下位施釉	
25	磁器	坏	(6.0)	2.7	2.4	—	40	良好	白	SK158	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上絵付(青・金)	
26	磁器	碗	(7.2)	5.2	(3.0)	—	40	良好	白	SK165	肥前系 内外面施釉 外面染付	
27	磁器	碗	(10.2)	[3.6]	—	—	5	良好	白	SK165	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
28	陶器	碗	9.0	5.6	3.5	IK	60	良好	灰白	SK165	大堀相馬系 内面糠白釉・上位青緑釉流し掛け 外面陽刻状施文・青緑釉 被熱(弱)	
29	陶器	行平鍋	(17.4)	9.2	(7.7)	IK	20	普通	灰白	SK165	外面上位トビガンナ状施文 内外面柿釉 露胎部煤付着	
30	陶器	蓋	—	2.2	2.1	I	20	良好	にぶい橙	SK165	底部糸切痕をナゲ消し 上面白化粧・絵付(緑釉・鉄絵)・施釉 最大径(8.2)cm	
31	陶器	蓋	—	2.0	(2.8)	IK	50	良好	灰白	SK165	底部糸切痕をナゲ消し 体部下位鍋 上面緑釉 最大径(6.9)cm	
32	陶器	蓋	5.3	1.6	4.3	K	50	良好	灰白	SK165	京都信楽系 胎土磁質 上面施釉 最大径(8.0)cm	
33	磁器	坏	(6.6)	3.2	(2.6)	—	30	良好	白	SK166	瀬戸美濃系 体部下位トビガンナ状施文 内面陰刻文 内外面施釉・染付 口紅	
34	磁器	碗	(8.4)	5.2	(3.3)	—	45	普通	白	SK172	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
35	磁器	碗	8.2	4.3	2.7	—	60	良好	白	SK172	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
36	磁器	坏	(9.0)	3.6	(3.6)	—	20	良好	白	SK172	瀬戸美濃系 内面施釉	
37	磁器	蓋	3.8	2.8	9.2	—	50	良好	白	SK172	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
38	磁器	皿	19.3	2.7	11.3	—	60	良好	白	SK172	肥前系 内外面施釉 内面染付	
39	陶器	碗	8.8	5.2	3.0	K	70	良好	灰白	SK172	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 外面鉄絵	
40	磁器	碗	縦3.0 横3.4 高さ[1.0]			—	5	普通	白	SK173	肥前系 内外面施釉 高台内染付 円盤状製品転用(底部)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
41	磁器	坏	6.3	2.1	2.6	—	95	良好	白	SK173	肥前系 内外面施釉	
42	陶器	瓶類	—	[4.7]	(8.0)	IK	5	普通	淡橙	SK173	内外面施釉 底部墨痕 被熱(弱)	
43	陶器	灯明皿	(10.2)	2.4	(4.3)	IK	25	普通	灰	SK173	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 内面重焼痕	
44	磁器	坏	5.9	2.6	2.6	—	90	普通	白	SK199	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤)	
45	陶器	急須	(7.6)	[5.7]	—	I	30	普通	灰赤	SK199	萬古系 胎土炆器質 体部下位陰刻施文 口縁・注口・把手端部鉄釉 外面絵付(緑)	
46	陶器	蓋	—	[3.2]	5.9	K	95	普通	灰白	SK199	胎土磁質 上面瑠璃釉 下面施釉・刻印「永楽」最大径8.0cm	76-8
47	陶器	水注	—	(12.6)	—	K	5	普通	灰白	SK199	内面施釉 外面瑠璃釉 接点のない3片から復元46の身	
48	土師質土器	焜炉	23.6	22.4	21.6	AEHI	90	普通	にぶい橙	SK199	三河産 板作り成形 外面ミガキ 扉付 窓部刻印 底部墨痕 上面煤付着	76-9
49	土師質土器	目皿	(12.2)	2.2	(12.8)	CHIK	50	普通	にぶい黄橙	SK199	下面砂目 上面被熱(白色化・剥落)	
50	瓦質土器	植木鉢	(10.6)	6.6	6.1	AIK	55	普通	にぶい黄橙	SK199	底部糸切痕(左) 燻す	
51	土師質土器	焙烙	(36.6)	3.3	(37.4)	CHIK	40	普通	橙	SK216	底部シワ状痕 内底面円周状のナデ・中央ランダムなナデ	
52	瓦質土器	竈鏝	(29.6)	2.7	(30.2)	CK	15	普通	灰	SK216	燻す 前面に酸化鉄付着	
53	磁器	皿	—	[4.5]	19.4	—	70	良好	白	SK224	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡5あり	
54	陶器	植木鉢	(13.0)	[8.4]	—	IK	10	普通	灰	SK224	内面上位・外面鉄釉	
55	陶器	甕	(16.8)	[2.6]	—	EI	5	普通	にぶい橙	SK224	内外面鉄釉 被熱(強)	
56	磁器	坏	6.8	5.4	3.5	—	75	良好	白	SK225	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
57	磁器	香炉	—	[3.3]	—	—	5	良好	白	SK225	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 体部粘土貼付 口縁部敲打痕	
58	陶器	碗	—	[5.6]	(4.0)	IK	30	普通	灰白	SK225	瀬戸美濃系 内外面灰釉・上位鉄釉流し掛け	
59	陶器	灯明皿	(10.5)	1.9	3.6	EI	35	普通	淡黄	SK225	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部下位輪状重焼痕(径4.8cm) 内面目跡2遺存	
60	陶器	植木鉢	(12.2)	[6.8]	—	EIK	10	普通	灰白	SK225	瀬戸美濃系 内外面柿釉	
61	土師質土器	焙烙	(32.6)	[5.5]	—	AHIK	15	良好	にぶい橙	SK225	江戸在地系 底部シワ状痕 胎土粉質 体部下位・底部煤付着	
62	陶器	皿	(14.5)	4.4	9.3	—	45	普通	白	SK226	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)2あり 被熱(弱)	
63	磁器	蓮華	長さ13.1 幅6.0 高さ4.6			—	100	良好	灰白	SK226	淡路珉平焼 型成形 内面陰刻文 内外面緑釉 下面ピン痕3あり	
64	陶器	甕	—	[10.9]	—	EHIK	5	普通	にぶい赤褐	SK226	常滑系 外面スタンプ状施文・塗土 内面・口唇部刷毛塗状塗土	
65	磁器	坏	(6.2)	3.0	2.6	—	60	普通	白	SK228	瀬戸美濃系 内外面施釉	
66	磁器	皿	(18.8)	3.2	(11.2)	—	20	普通	白	SK228	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡1遺存	
67	陶器	甕	31.1	30.3	17.2	EIK	80	普通	にぶい褐	SK228	益子・笠間系 内外面鉄釉 内面上位黒釉流し掛け 内面目跡5あり	
68	磁器	蓋	5.6	3.2	9.6	—	80	普通	白	SK233	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)2あり	
69	陶器	水滴	—	[5.8]	—	—	15	良好	白	SK235	肥前系 型成形 底部布目痕 外面施釉・上絵付(赤・緑)	
70	瓦質土器	植木鉢	13.2	7.2	8.6	CIK	90	普通	黄灰	SK237	底部糸切痕ナデ消し 燻す	
71	磁器	坏	7.0	4.9	3.0	—	85	普通	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
72	磁器	坏	(7.4)	5.0	(3.2)	—	20	普通	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
73	磁器	坏	(7.0)	5.1	3.4	—	50	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
74	磁器	坏	6.7	5.3	3.2	—	70	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押陰刻文 口紅	
75	磁器	坏	6.6	2.2	1.9	—	50	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
76	陶器	土瓶	7.6	7.3	6.6	—	80	良好	白	SK255	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・墨書	
77	陶器	徳利	—	[12.5]	7.3	K	90	普通	灰白	SK255	瀬戸美濃系 外面灰釉・緑釉流し掛け 被熱	
78	磁器	碗	(8.4)	4.3	2.8	—	40	良好	白	SK263	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明)	
79	磁器	碗	(12.0)	4.5	—	—	10	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 高台内焼継印(赤)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
80	磁器	坏	—	[1.5]	2.4	—	45	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上位上絵付(青)「旅人宿/住吉丁十番地/荒井口」	
81	磁器	坏	(5.9)	2.6	2.2	—	65	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青)「く利橋/稲荷屋」	
82	磁器	鉢	(13.8)	[2.9]	—	—	10	普通	白	SK263	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり	
83	磁器	土瓶	—	[2.7]	(6.0)	—	10	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・墨書	
84	磁器	蓋	—	2.2	(6.6)	—	25	良好	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 内面焼継印(赤)	
85	磁器	蓮華	長[8.4] 幅[4.1] 高さ[4.7]			—	50	普通	白	SK263	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
86	陶器	碗	8.5	6.3	4.0	K	85	普通	灰白	SK263	大堀相馬系 内面灰釉 内面上位青緑釉流し掛け 外面青緑釉 被熱	70-3
87	陶器	鉢	12.5	5.4	7.1	DEI	80	普通	灰赤	SK263	備前系 底部糸切痕(右) 胎土炆器質 内外面塗土 SK226と接合	70-4
88	陶器	德利	1.7	[3.9]	—	K	15	良好	灰白	SK263	内外面上位鉄釉(黒)・下位柿釉	
89	陶器	爛德利	—	[0.9]	(7.2)	IK	5	普通	灰黄	SK263	外面灰釉 底部墨書	
90	陶器	蓋	—	3.1	6.3	K	60	普通	灰白	SK263	上面白化粧・施釉・鉄絵・緑釉彩・ピン痕2遺存 最大径8.5cm	
91	陶器	蓋	—	[0.7]	2.1	K	95	良好	にぶい黄橙	SK263	底部離し糸切痕をナゲ消し 胎土炆器質 上面火襷 最大径4.5cm	
92	陶器	甕	(39.8)	[18.8]	—	EI	20	良好	灰赤	SK263	常滑系 外面塗土(鉄泥)・上位スタンブ施文 内面塗土刷毛塗状・指頭痕 内外面上位白色物質付着	
93	瓦質土器	植木鉢	(10.2)	6.7	6.4	AIK	60	普通	灰白	SK263	底部糸切痕(左) 燻す 胎土小礫含む・一部灰色	
94	磁器	碗	—	[6.4]	4.1	—	60	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉 外面染付	
95	磁器	碗	7.8	5.5	3.4	—	95	良好	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
96	磁器	碗	(11.2)	6.4	(6.8)	—	35	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
97	磁器	碗	(9.2)	4.5	3.6	—	35	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
98	磁器	碗	7.6	4.0	3.0	—	80	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
99	磁器	皿	(14.1)	4.8	(9.2)	—	40	良好	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
100	磁器	皿	9.8	2.1	6.2	—	75	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付	
101	磁器	蓋	5.7	3.0	10.0	—	70	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
102	磁器	猪口	—	[6.0]	5.1	—	30	普通	白	SK276	肥前系 内外面施釉 外面染付	
103	陶器	灯明皿	9.9	1.9	4.0	K	95	良好	灰白	SK276	瀬戸美濃系 底部糸切痕若干遺存 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 内面重焼痕	
104	陶器	灯明皿	7.7	1.7	4.4	IK	100	良好	灰	SK276	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り	
105	陶器	香炉	9.0	7.7	8.8	EIK	75	良好	灰白	SK276	瀬戸美濃系 内面上位・外面施釉 口縁部白・鉄・瑠璃釉流し掛け	
106	陶器	香炉	9.4	5.2	6.9	DEIK	70	良好	灰黄	SK276	瀬戸美濃系 外面鉄釉 鏝文 口縁部敲打痕 底部墨書	
107	陶器	花生	(7.8)	13.0	6.5	IK	75	良好	にぶい橙	SK276	瀬戸美濃系 底部糸切痕をナゲ消し 内外面尾呂釉	
108	土師質土器	器台	(13.6)	[4.4]	(8.6)	AHIK	15	普通	にぶい橙	SK276	内面被熱(白色化)	
109	土師質土器	焙烙	(32.4)	[6.0]	(33.6)	CHIK	20	普通	浅黄橙	SK276	底部シワ状痕 底部・内面煤付着	
110	瓦質土器	焙烙	(37.2)	5.2	(34.0)	CIK	20	普通	灰白	SK276	砂目底・圧痕 燻す 底部周縁部煤付着	
111	磁器	坏	6.0	3.0	2.8	—	55	良好	白	SK285	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付	
112	磁器	皿	(25.0)	3.7	(15.2)	—	30	普通	白	SK285	肥前系 内外面施釉・染付 高台内ハリ支跡1遺存 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱	
113	陶器	坏	6.0	3.7	2.9	IK	100	良好	灰白	SK285	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面呉須散る	
114	陶器	灯明皿	10.0	2.0	4.1	IK	55	良好	淡黄	SK285	瀬戸美濃系 内外面柿釉 体部下位・底部釉拭き取り 体部中位輪状重焼痕(径6.9cm)	
115	陶器	植木鉢	—	[17.1]	17.8	HI	40	良好	灰白	SK285	瀬戸美濃系 内面・高台内柿釉 外面緑釉流し掛け 内面・壘付釉拭き取り 内底面・高台目跡各6ずつ 高台挟り4箇所	
116	磁器	猪口	(6.9)	[4.1]	—	—	10	良好	白	SK304	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 口紅	
117	土師質土器	焼塩壺	—	[3.0]	3.2	ACHIJK	30	普通	橙	SK304	底部糸切痕(左)・摩耗 胎土粉質	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
118	土師質土器	焙烙	(31.0)	[6.4]	(32.2)	CHIK	45	普通	浅黄	SK304	砂目底 内底面同心円状のナデ 体部煤付着	
119	磁器	蓋	—	[4.0]	(13.8)	—	25	良好	白	SK305	肥前系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 最大径 (15.5) cm	
120	陶器	徳利	—	[9.2]	6.1	EIK	65	良好	淡黄	SK306	瀬戸美濃系 外面灰釉	
121	瓦質土器	蓋	—	[3.0]	(23.4)	CHIK	20	普通	にぶい橙	SK312	外面ミガキ・トビガンナ状施文をナデ消し 燻す	
122	磁器	坏	6.2	3.2	2.2	—	70	普通	白	SK325	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面上位上絵付 (青)	

がみられないため、ミニチュアとして扱った。底部は左回転の糸切痕で、外面下位に白化粧、外面上位から内面にかけて透明釉が施釉される。

11は小判を模した土製のミニチュアである。一枚成型成形で下面は開口し、表面中央に陽刻文「大吉」がみえる。縁起物の一種であろうか。

第316図5は転用瓦である。素材となった器種は不詳で、無数の線条痕がみえる。砥石上の形状からも研具としての利用が示唆される。

第320図32は獅子頭である。第8地点では出土量が目立つ。「四文」と思われる墨書がみえる。値段を示すものであろうか。

第321図20は銅製の火箸である。持ち方に小槌文が施文される。21は銅製煙管で、内部に木質の羅宇が遺存する。22は鉄製の錠前である。遺存状態は不良だが、回転錠型錠と推定される。

第324図21は滑石と思われる白色の石筆、22は粘板岩製硯である。砥具に転用されている。

第325図2は硝子製筭である。黄色透明で、中実である。

第276号土壌 (第298・310・311図)

F7-F8グリッドに位置する。第1号建物跡より古く、第5号溝跡と重複する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸2.7m、短軸1.35m、深さ0.55mを測る。長軸方位はN-21°-Wを指す。

一部攪乱を受けているが遺物の混在はない。下層は粘土質の木質主体層で、その上を炭化物を含む砂質土が覆っている。

出土遺物は多く、陶磁器が主体である。図示しなかったが他に瓦6962.8gと木製品1点が出土している。磁器は肥前系のみで、最新期の陶磁器

は瀬戸美濃系陶器の筒形香炉 (第311図105) と植木鉢である。推定廃絶期は18世紀末～19世紀初頭頃である。

第310図94～101・第311図に陶磁器類を図示した。第310図94は肥前系磁器の筒形碗である。長筒形を呈しする筒形碗の出土は栗橋宿では稀である。96は肥前系磁器の広東碗、101は広東碗の蓋である。

第311図103・104は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。103は油皿で、底部のケズリが甘く、糸切痕が若干遺存する。体部下位から底部にかけて釉が拭き取られ、内面には重ね焼き痕がみられる。104は小型の油受皿で、受け口の切込みは「U」字状を呈する。体部下位から底部にかけて釉が拭き取られる。

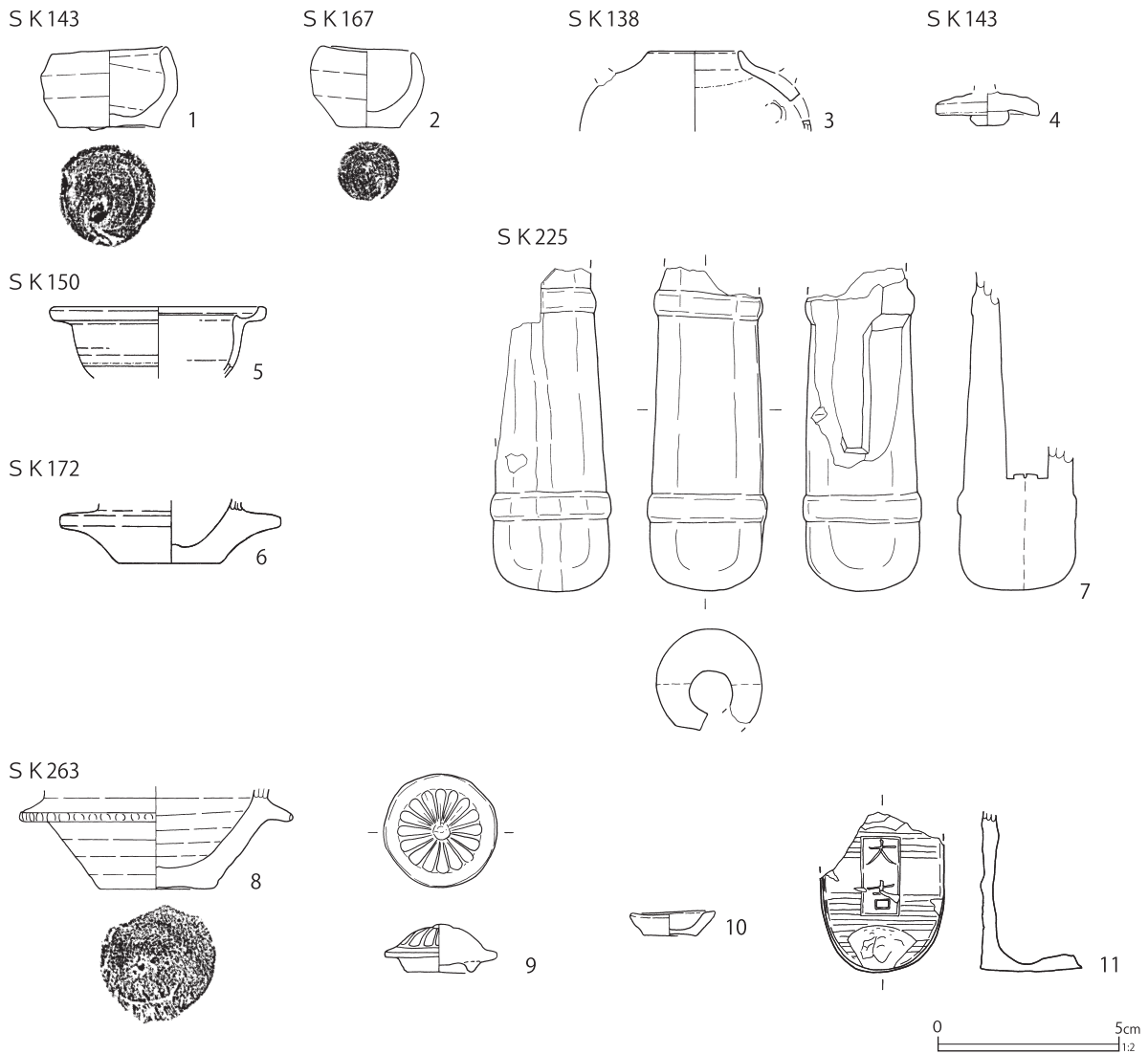
105は瀬戸美濃系陶器の筒形香炉である。胎土は石英質で光沢がある。外面上位に鉄釉、白釉、淡い瑠璃釉が流し掛けられている。

108は土師質土器の器台である。焜炉類の部品もしくはオプションであり、風口や焜炉と組み合わせて使用される。

109は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、底部の丸みは強く、器高が高い。胎土に角閃石が一定量含まれ、在地産と考えられる。

110は瓦質土器の平底焙烙である。底部は無調整の砂目底で、段状の圧痕が遺存する。外面下位はナデ調整で、指頭状の凹みがみられる。口縁端部は角形で、内耳は逆「L」字状につく。

以上に取り上げた土壌の他にも特徴的な遺物が出土しており、以下に記述する。

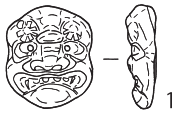


第314図 区画AF土壌出土遺物(15)

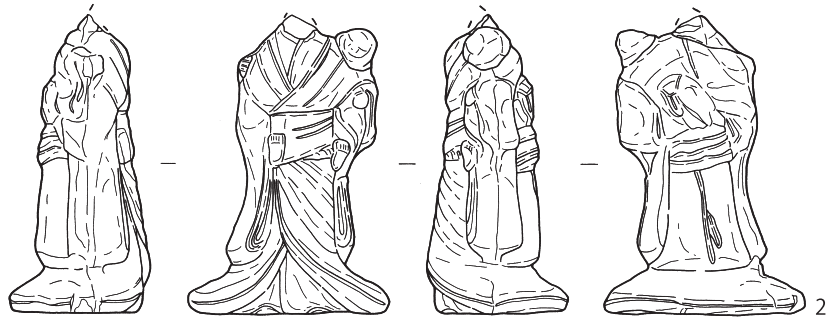
第73表 区画AF土壌出土遺物観察表(2)(第314図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	3.1	2.2	2.8	14.2	AHIK	普通	にぶい橙	SK143	底部糸切痕(左)	121-14
2	土師質土器	小壺	2.5	2.2	1.6	10.6	AHIK	普通	にぶい橙	SK167	底部糸切痕(左) 胎土粉質 内面煤付着	121-14
3	土製品	ミニチュア	(2.4)	[2.2]	—	3.6	AHIK	普通	橙	SK138	江戸在地系 土瓶 型成形 内面上位白化粧 外面白土・施釉・緑色絵付	
4	土製品	ミニチュア	—	0.9	—	5.5	AHIK	普通	にぶい橙	SK143	江戸在地系 蓋 上面白化粧 黄色釉	118-13
5	陶器	ミニチュア	(5.7)	[1.9]	—	3.3	K	良好	灰白	SK150	鍋 内外面鉄釉	
6	土製品	ミニチュア	6.0	[1.8]	2.8	31.4	AHIK	普通	にぶい橙	SK172	江戸在地系 羽釜 胎土粉質 底部摩耗	
7	土製品	ミニチュア	[8.9]	3.3	1.1	78.7	AHIK	良好	橙	SK225	江戸在地系 胎土粉質 二枚型成形 中空 雲母付着 胎土中心還元焼成(灰白)	119-12
8	土製品	ミニチュア	—	[2.8]	3.2	24.8	IK	普通	橙	SK263	江戸在地系 釜形土製品 底部糸切痕(左) 外面下位白化粧 外面上位・内面施釉	120-13
9	土製品	ミニチュア	—	1.3	1.7	8.0	AIK	良好	浅黄橙	SK263	京都系 蓋 型成形 上面黄色・緑釉	120-10
10	土製品	ミニチュア	2.3	0.7	1.4	2.1	IK	普通	にぶい橙	SK263	胎土粉質	120-11
11	土製品	ミニチュア	[4.4]	3.4	0.5	12.9	AIK	良好	暗灰黄	SK263	小判 一枚型成形 開口	120-12

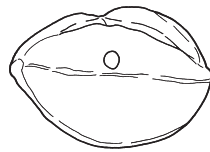
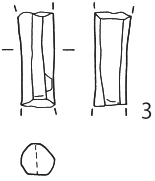
SK 140



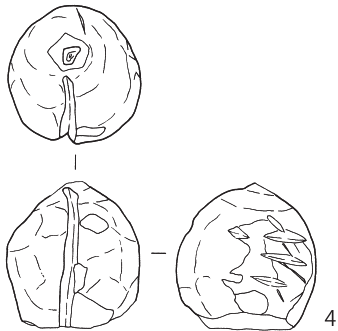
SK 151



SK 152



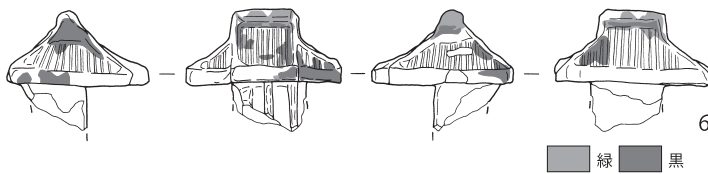
SK 153



SK 157

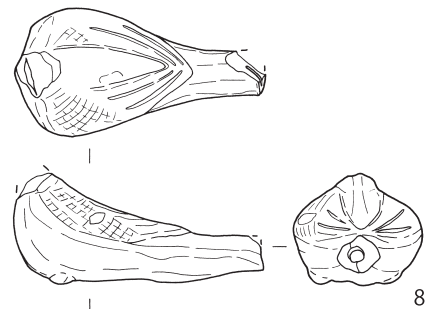


SK 225

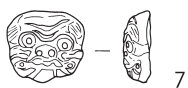


■ 緑 ■ 黒

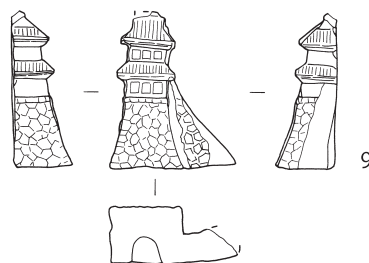
SK 228



SK 226



SK 252



第 315 図 区画 AF 土壙出土遺物 (16)

第 74 表 区画 AF 土壙出土遺物観察表 (3) (第 315 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	芥子面	2.7	2.3	0.8	3.9	AK	良好	橙	SK140	江戸在地系 一枚型成形	122-13
2	土製品	人形	[8.0]	5.3	3.7	58.7	AEI	良好	浅黄橙	SK151	京都系 前後合二枚型成形 中実 彩色 (青) わずかに遺存 被熱	118-14
3	土製品	箱庭道具	[2.5]	1.0	0.8	2.5	K	良好	橙	SK152	江戸在地系 二枚型成形 灯籠 中実 施釉	
4	土製品	不明	3.9	3.5	3.7	42.1	ACIK	良好	黄灰	SK153	瓦質 手振り型成 刃物傷多数	118-15
5	土製品	人形	[4.8]	[2.9]	1.9	11.1	AHK	良好	橙	SK157	江戸在地系 魚 左右合二枚型成形 中空	
6	土製品	箱庭道具	[3.2]	4.1	3.8	21.9	AIK	良好	橙	SK225	江戸在地系 祠 屋根別造り 型成形 白化粧 施釉 緑釉 彩色 (黒)	119-11
7	土製品	芥子面	1.8	2.1	0.7	2.2	AK	良好	橙	SK226	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-13
8	土製品	鳩笛	6.6	3.4	[2.9]	24.3	AIK	良好	橙	SK228	江戸在地系 上下合二枚型成形 中空 釉 わずかに遺存	119-13
9	陶器	箱庭道具	4.1	3.4	1.5	12.3	I	良好	黒褐	SK252	型成形 胎土炆器質 城郭	119-20

第 300 図 2 は産地不詳陶器で、坏台の可能性が疑われる。板作り成形で、外面は型押し陽刻文が施文され、平面形は六角形を呈する。赤漆が塗布されており、所謂「陶胎蒔絵」、「陶漆器」、「漆陶器」等と呼ばれる陶器と考えられる。代表的なものでは、江戸時代後期に軟質陶器を焼いた名古屋の「豊楽焼」や「慶楽焼」等がある（矢部ほか 2002）。

第 302 図 9 は清朝徳化窯系磁器の端反形碗である。型成形で、外面に青色の上絵付が施される。清朝磁器の出土は栗橋宿では少ないが、徳化窯系磁器は 19 世紀第 3 四半期頃に多い傾向にある。

14 は瀬戸美濃系陶器の二合半灰釉徳利である。所謂「貧乏徳利」で、江戸遺跡では極めて多量に出土するのに対し、栗橋宿での出土量はかなり少ない。江戸と地方の宿場における通い徳利文化の違いを示唆する資料である。

15 は産地不詳陶器の蒸し器で、栗橋宿では稀である。灰釉が施釉され、外面は鉄絵である。把手は紐状で、削り込み高台である。対応する蓋はみられない。

第 306 図 59 は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。鉄釉が施釉され、外面下位から底部にかけて釉が拭き取られている。外面下位に輪状重ね焼き痕、内面には目跡が 2 箇所遺存する。

第 307 図 63 は兵庫県淡路島で焼かれた淡路珉平焼の蓮華である。型成形で、内底面に陰刻龍文

が施文される。底部には窯道具痕が 3 箇所みられ、全面に緑釉が施釉される。

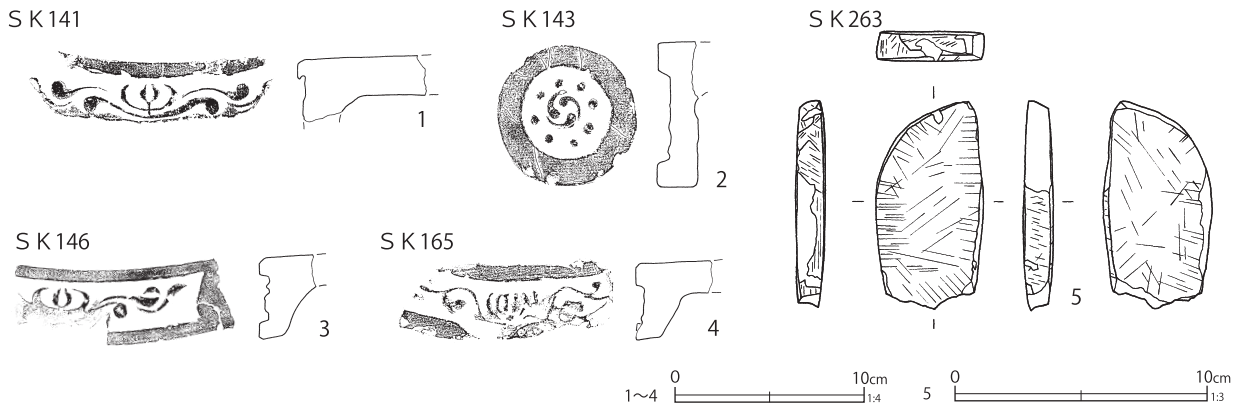
第 308 図 67 は益子・笠間系陶器の甕である。鉄釉が施釉され、外面上位にはさらに黒釉が流し掛けられている。胎土は粗粒で硬質である。内面に目跡が 5 箇所みられる。

71 ~ 74 は瀬戸美濃系磁器の坏である。木型打ち込み成形で、内面に陰刻文がみられる。2 種類の作りがみられ、71・72 は内面の陰刻文が深く、はっきりしており、貫入が顕著にみられる。また、色調がくすんでおり、質の悪い印象である。73・74 は一般的な作りで、浅い陰刻文で貫入が認められない。色調は白色で良質な印象である。

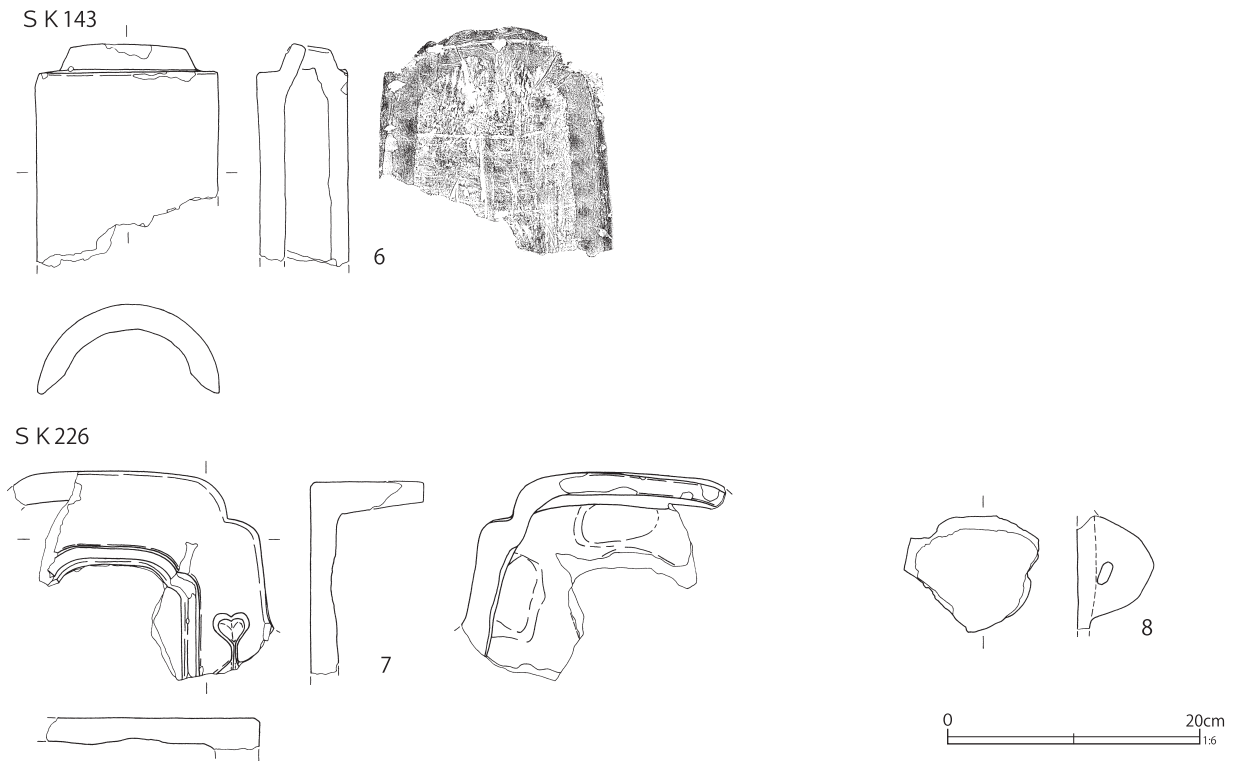
第 313 図 115 は瀬戸美濃系陶器の植木鉢である。外面は陰刻の流水文に緑釉が厚く流し掛けられている。内面と高台内には柿釉が施釉され、内面と畳付けの釉は拭き取られている。高台に 4 箇所の抉りがあり、内底面と高台に各 6 箇所ずつ目跡が遺存する。

第 314 図 1・2 は京都系「つぼつぼ」に類似する土師質土器の小壺である。底部は左回転の糸切痕である。1・2 の胎質は異なり、2 は粉質である。7 は江戸在地系のミニチュアと思われるが、モチーフは不明である。中空の二枚型成形で、胎土中心部は還元焰焼成である。胎土は粉質で、細粒な雲母を含む。

第 315 図 2 は京都系人形である。中実の前後



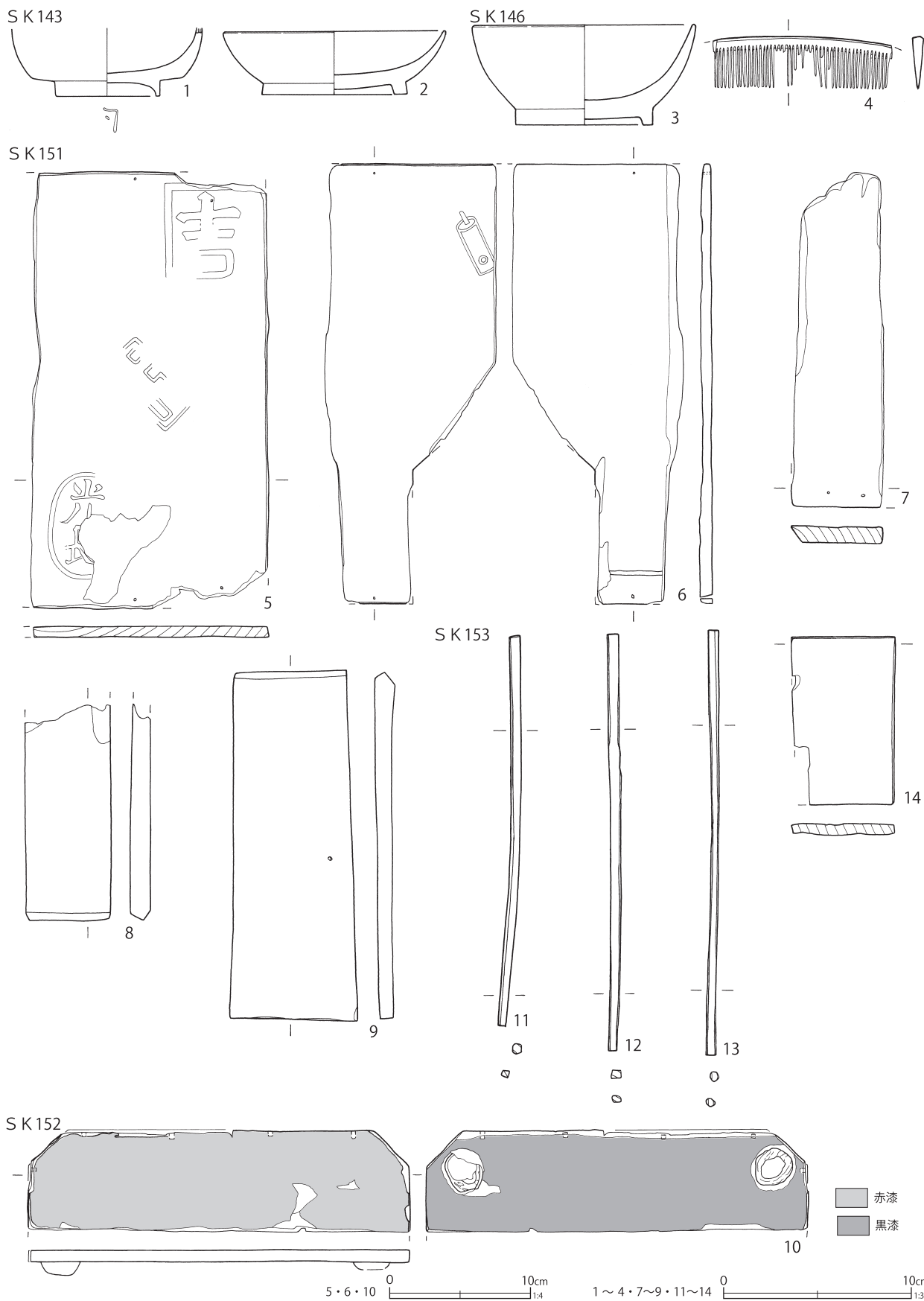
第 316 図 区画 AF 土壇出土遺物 (17)



第 317 図 区画 AF 土壇出土遺物 (18)

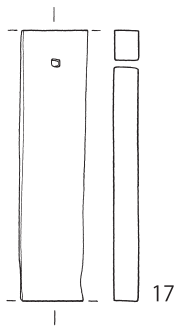
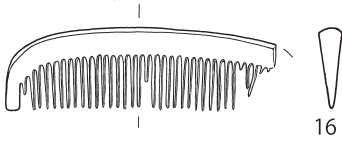
第 75 表 区画 AF 土壇出土遺物観察表 (4) (第 316・317 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[6.8]	13.2	2.1	4.2	—	AIK	良好	灰白	SK141	弱く銀化 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	[2.6]	[8.0]	2.1	—	7.4	AIK	良好	灰白	SK143	左巻八連珠三巴文 銀化 燻す	
3	瓦	軒棧瓦	[3.5]	[12.1]	2.3	[5.8]	—	AIK	良好	灰白	SK146	江戸式 銀化 燻す	
4	瓦	軒棧瓦	[4.4]	[11.7]	2.1	[4.6]	—	AHIK	普通	灰白	SK165	燻す 摩耗	
5	瓦	転用瓦	7.4	4.3	1.2	—	—	CIK	普通	灰白	SK263	砥具転用 線条痕あり 砥面 5 遺存	124-11
6	瓦	丸瓦	[17.9]	14.6	2.1	7.1	—	AK	普通	灰白	SK143	燻す 胎土中心部灰色	
7	瓦	鬼瓦	[16.6]	[20.8]	2.3	[9.1]	—	AIK	良好	灰白	SK226	銀化 燻す	124-2
8	瓦	鬼瓦	9.2	10.6	6.1	—	—	CIK	普通	灰白	SK226	弱く銀化 燻す	124-3

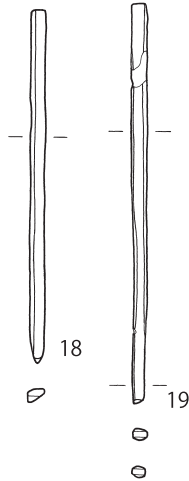


第318図 区画AF土壙出土遺物(19)

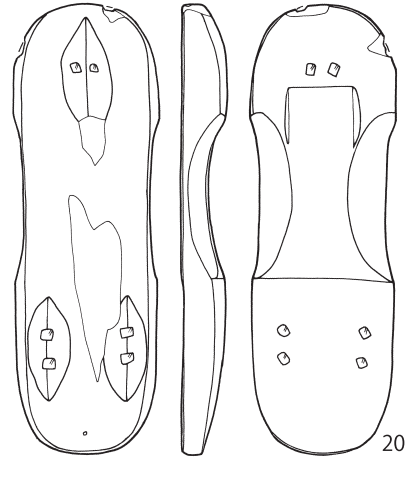
SK 165



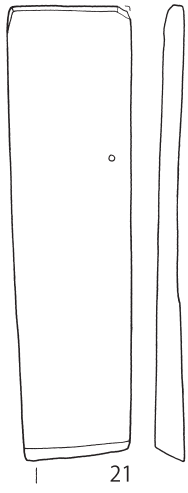
SK 172



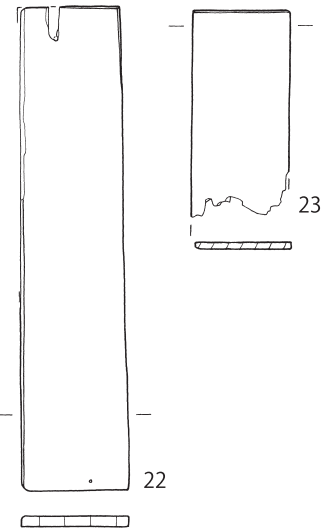
SK 199



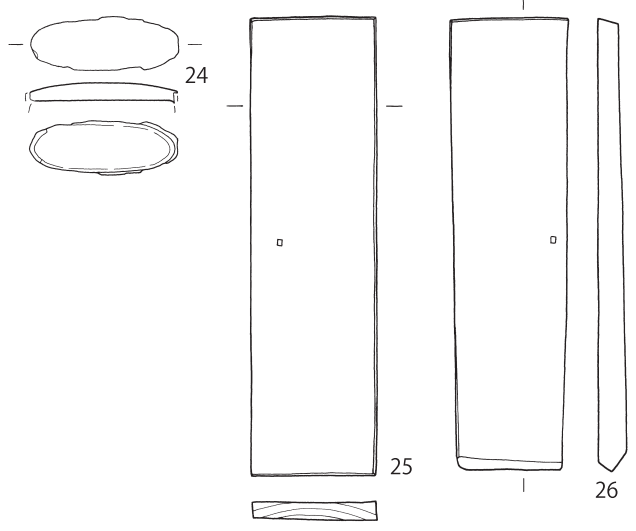
SK 213



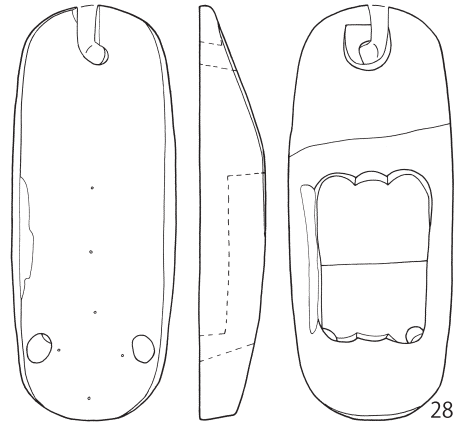
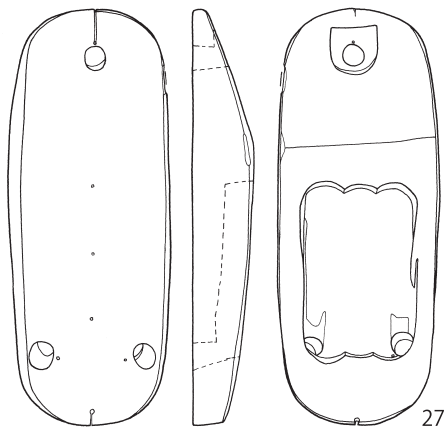
SK 224



SK 237

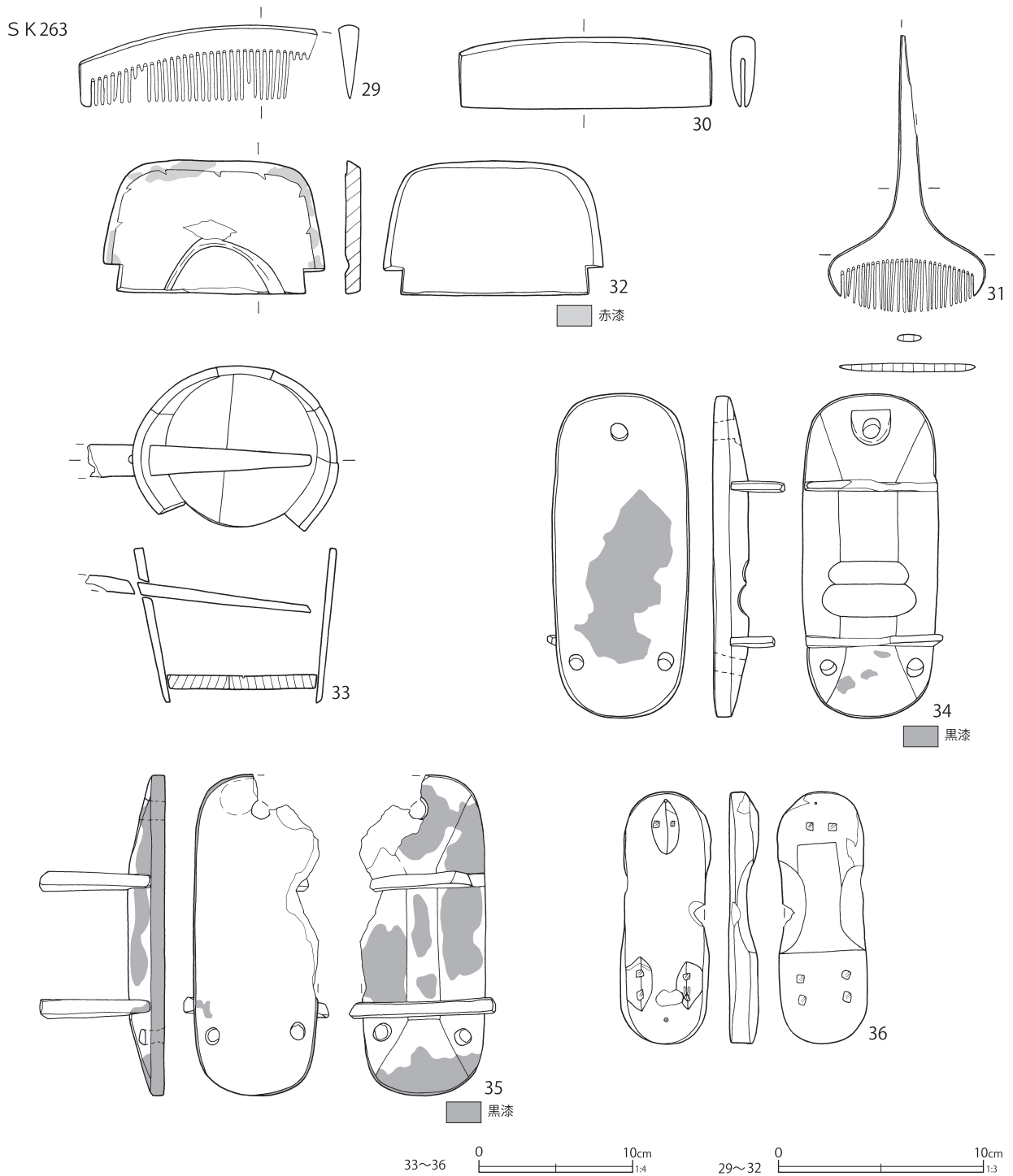


SK 255



20·27·28 0 10cm 1:4 15~19·21~26 0 10cm 1:3

第 319 图 区画 AF 土壤出土遺物 (20)



第320図 区画AF土壌出土遺物(21)

合わせ二枚型成形で、子供を背負う女性を模している。青い彩色がわずかに遺存する。

6は江戸在地系の箱庭道具である。祠を模しており、屋根は別作りである。透明釉が施釉され、白土、緑釉、黒色の彩色がみられる。

9は箱庭道具で、城郭を模している。胎土は備

前系や萬古系に類似した炆器質である。

第316図1・3は軒棧瓦である。江戸式に類似しており、中心弁は四枚である。

2は軒棧瓦である。左巻きの八連珠三巴文で、巴文が小さい。燻しによる銀化の光沢がみられる。

第318図9は木札である。表面に墨書「武州

第76表 区画AF 土壙出土遺物観察表(5)(第318～320図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	—	—	—	—	[3.6]	5.5	横木取り	SK143	内外面黒漆 高台内に金で「ㄗ」歪み有	
2	木製品	漆椀	—	—	—	11.6	3.3	7.7	横木取り	SK143	内面赤漆 外面黒漆	128-13
3	木製品	漆椀	—	—	—	11.6	5.3	7.3	横木取り	SK146	内面赤漆 外面黒漆	128-14
4	木製品	櫛	[9.4]	2.7	0.6	—	—	—	板目	SK146		
5	木製品	板	31.0	[16.7]	0.8	—	—	—	板目	SK151	表面墨書落書きか 焼印「𠄎」「㊦」	145-8
6	木製品	不明品	31.2	[12.1]	0.9	—	—	—	板目	SK151	焼印	145-12
7	木製品	木札	17.7	4.8	0.9	—	—	—	板目	SK151	表裏面墨書	145-9
8	木製品	木札	[11.4]	4.5	1.1	—	—	—	板目	SK151	表面墨書 樽の側板転用	145-10
9	木製品	木札	18.6	6.8	1.1	—	—	—	板目	SK151	表面墨書 樽の側板転用	145-11
10	木製品	膳	[7.2]	27.0	—	—	1.7	—	板目	SK152	胡桃足膳 表赤漆 裏黒漆 外周木釘穴	
11	木製品	箸	20.6	0.5	0.6	—	—	—	削出し	SK153		
12	木製品	箸	22.1	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK153		
13	木製品	箸	22.5	0.5	0.6	—	—	—	削出し	SK153		
14	木製品	木札	8.8	5.5	0.6	—	—	—	板目	SK153	表面墨書「金一両」	145-16
15	木製品	曲物	—	—	—	6.3	0.9	—	板目	SK165	底板中央に孔	
16	木製品	櫛	[10.7]	3.3	0.9	—	—	—	榫目	SK165		
17	木製品	木札	10.6	[2.6]	1.0	—	—	—	板目	SK165	表裏面墨書 孔1	145-18
18	木製品	箸	13.9	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK172	先端炭化	
19	木製品	箸	15.7	0.6	0.5	—	—	—	削出し	SK172	先端炭化	
20	木製品	下駄	23.8	6.8	—	—	2.4	—	板目	SK199	無眼下駄	
21	木製品	木札	18.0	4.9	1.1	—	—	—	板目	SK213	表面墨書 樽の側板の転用	146-6
22	木製品	木札	19.0	4.2	0.4	—	—	—	榫目	SK224	表裏面墨書	146-11
23	木製品	木札	[8.1]	3.8	0.3	—	—	—	板目	SK224	表裏面墨書	146-12
24	木製品	蓋	[2.1]	(6.0)	—	—	[0.7]	—	不明	SK237	内外面赤漆 側板接着の痕跡	129-12
25	木製品	木札	18.0	5.0	0.8	—	—	—	板目	SK237	表裏面墨書 孔1	146-15
26	木製品	木札	17.8	4.6	1.2	—	—	—	板目	SK237	表面墨書 樽の側板転用 孔1	146-16
27	木製品	下駄	21.8	8.5	—	—	3.3	—	板目	SK255	刳り下駄 墨書「波」28と対	147-15
28	木製品	下駄	21.7	8.7	—	—	3.5	—	板目	SK255	刳り下駄 墨書「波」27と対	147-15
29	木製品	櫛	3.9	[11.5]	1.0	—	—	—	板目	SK263	赤漆	
30	木製品	櫛の鞘	12.2	3.4	1.2	—	—	—	板目	SK263		
31	木製品	櫛	7.6	[13.4]	0.4	—	—	—	榫目	SK263		130-4
32	木製品	獅子頭	6.3	10.7	0.7	—	—	—	板目	SK263	表面赤漆 側面も赤漆残存 墨書	147-14
33	木製品	柄杓	[16.4]	[10.7]	—	—	10.1	—	板目	SK263	柄に穴がある	
34	木製品	下駄	21.0	8.8	—	—	4.6	—	板目	SK263	陰卯下駄 黒漆	
35	木製品	下駄	20.7	(8.0)	—	—	8.2	—	台榫目 齒板目	SK263	陰卯下駄 全面黒漆	
36	木製品	下駄	16.4	5.7	—	—	1.8	—	榫目	SK263	無眼下駄	

幸手口 / [栗] 橋 [町] / ㊦ / 舟方殿 がみえる。「栗橋町」は明治二十二年(1889)以降の栗橋宿の名称である。

第319図22は木札である。墨書「栗橋仲町」、「下口口惣右衛門」がみえる。「惣右衛門」は本区画の『絵図』にみえる「旅籠屋 / 惣右衛門」を指す。

23は木札で、墨書「栗橋 / 柿沼豊 []」がみえる。柿沼姓は「旅籠屋 / 惣右衛門」を指すが、『営業便覧』の時期には「柿沼清九郎」となっており、

「豊」の字はみえない。

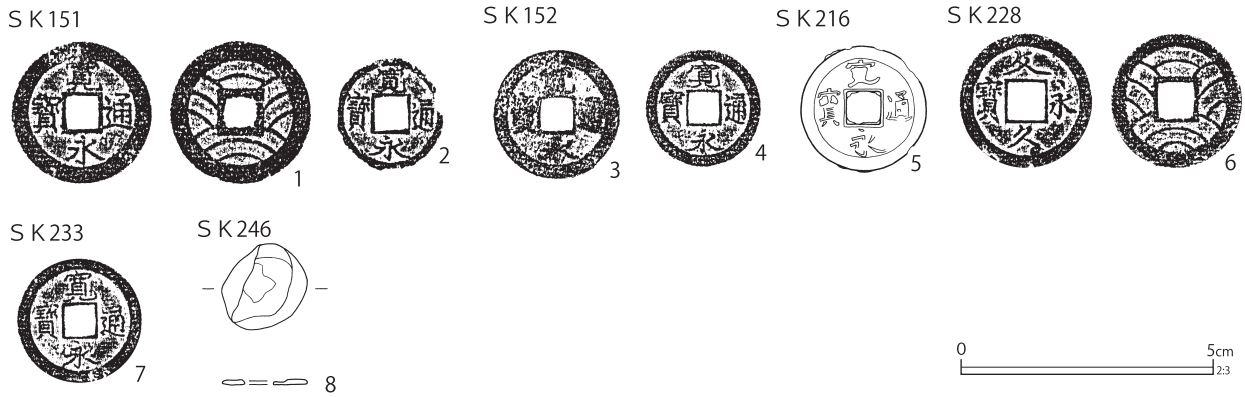
第321図9は銅製の煙管である。雁首から吸口まで一体となって作られており、栗橋宿では稀な作りである。19は鉄製の三叉鉞である。

第322図6は銅製の文久永寶である。初鑄年は1863年である。

8は銅製煙管の火皿をつぶして作られた所謂雁首銭である。緋に混ぜたり、緋縄の固定に用いられたものとも言われている(江戸遺跡研究会

第 77 表 区画 AF 土壇出土遺物観察表 (6) (第 321 図)

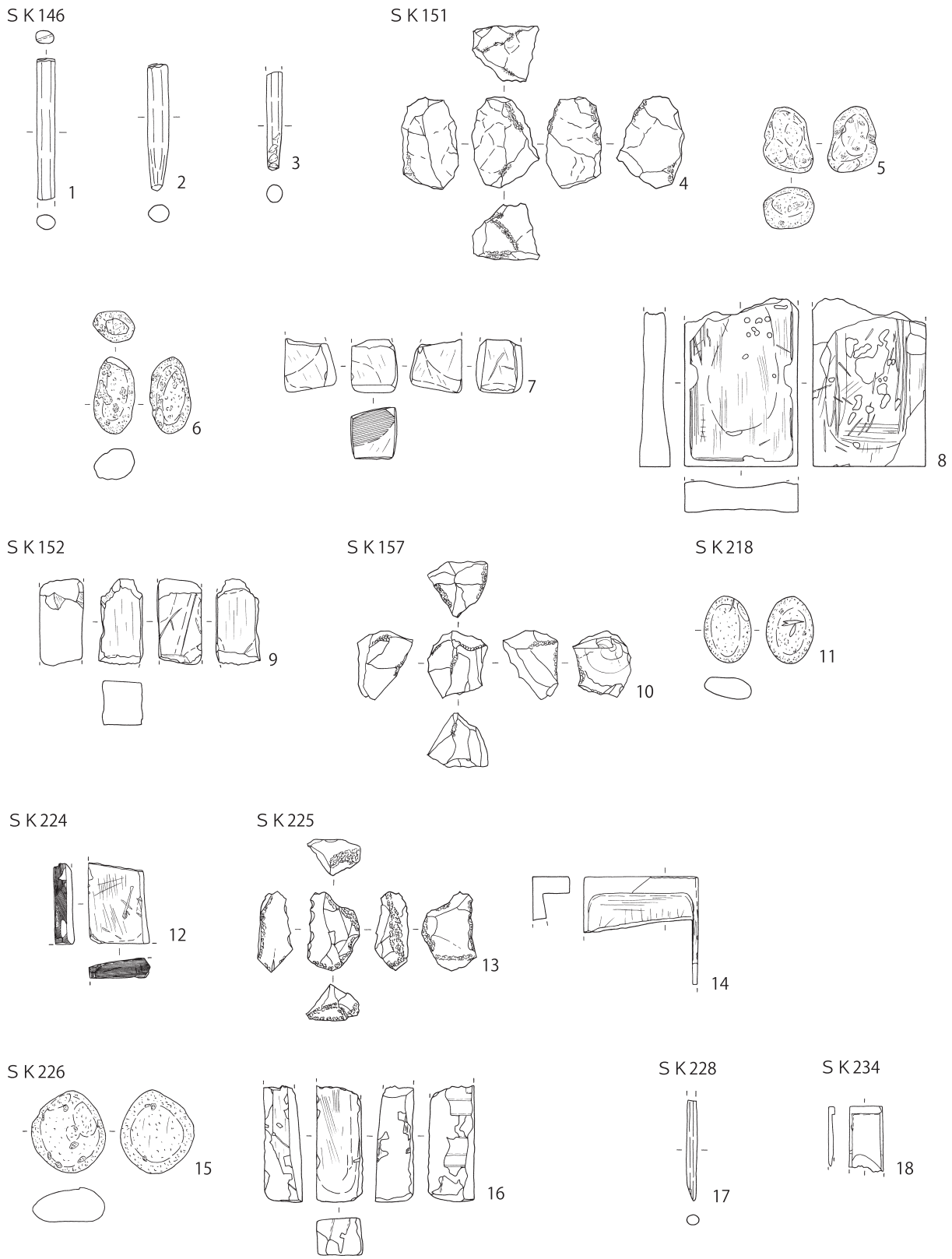
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	簪	長さ 13.6 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 2.9	SK143		
2	銅製品	不明	径 2.4 × 2.2 高さ 3.8 厚さ 0.1 重さ 9.4	SK146		
3	鉄製品	包丁	長さ [11.1] 幅 1.4 厚さ 0.2 重さ 26.1	SK151	木柄付「金請合」焼印	
4	銅製品	匙	長さ 10.1 幅 1.3 厚さ 0.05 重さ 1.1	SK164		
5	鉄製品	鍵	長さ 3.0 重さ 2.3	SK165		
6	鉄製品	火打金	長さ [1.6] 幅 6.0 厚さ 0.5 重さ 14.0	SK166		
7	鉄製品	鏝	長さ [7.8] 幅 0.8 厚さ 0.5 重さ 17.1	SK166		
8	銅製品	飾金具	縦 [5.9] 横 [3.4] 厚さ 0.1 重さ 16.0	SK219	唐草文	
9	銅製品	煙管	長さ 13.2 火皿径 1.1 口付径 0.6 重さ 23.2	SK224		
10	銅製品	不明	径 2.4 高さ 3.5 厚さ 0.1 重さ 6.1	SK224		
11	鉄製品	釘	長さ [5.4] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.5	SK224		
12	銅製品	不明	全長 [12.8] 長さ [2.9] 幅 0.6 厚さ 0.03 重さ 3.8	SK224	木柄付 キャップ状	
13	鉄製品	不明	縦 [17.2] 横 6.7 厚さ 0.4 重さ 83.7	SK225	3条の鉄棒の端部を輪にして合わせ針金を巻いて固定	
14	鉄製品	鏝	長さ [11.8] 幅 0.9 厚さ 0.9 重さ 116.6	SK228		
15	鉄製品	釘	長さ [5.8] 幅 0.3 厚さ 0.4 重さ 3.1	SK228		
16	銅製品	火箸	長さ 20.1 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 17.5	SK246	箸頭宝珠形 持ち代振り	
17	銅製品	火箸	長さ 23.9 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 21.4	SK252	箸頭宝珠形 持ち代方形 波状文	
18	銅製品	煙管	長さ [3.9] 小口径 1.2 重さ 5.0	SK255	吸口 口付欠失	
19	鉄製品	鋸	長さ [13.0] 幅 2.6 厚さ 0.6 重さ 48.6	SK255	三叉鋸	
20	銅製品	火箸	長さ 23.5 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 14.3	SK263	持ち方に小槌文	
21	銅製品	煙管	長さ 10.5 小口径 1.0 口付径 0.5 重さ 13.7	SK263	吸口 内部に羅字残存	
22	鉄製品	錠前	縦 2.9 横 [6.1] 幅 1.4 重さ 28.4	SK263		
23	鉄製品	金錠	頭長 [5.6] 頭幅 1.3 重さ 30.0	SK304		



第 322 図 区画 AF 土壇出土遺物 (23)

第 78 表 区画 AF 土壇出土遺物観察表 (7) (第 322 図)

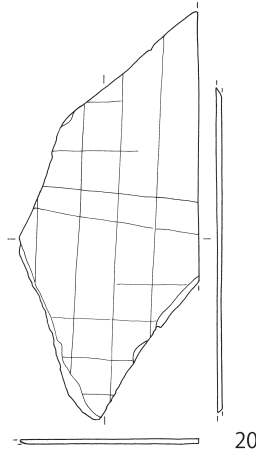
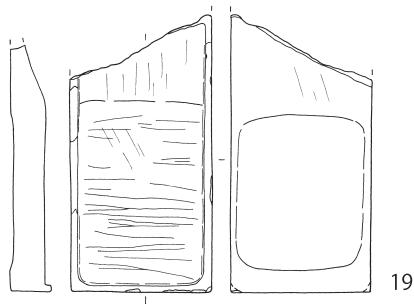
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	銭貨	径 28.5 厚さ 1.4 重さ 5.0	SK151	寛永通寶 (新) 11 波	
2	銅製品	銭貨	径 22.3 厚さ 1.1 重さ 1.8	SK151	寛永通寶 (新)	
3	銅製品	銭貨	径 25.4 厚さ 1.2 重さ 3.0	SK152	寛永通寶 (古)	
4	銅製品	銭貨	径 23.2 厚さ 0.9 重さ 2.0	SK152	寛永通寶 (新)	
5	銅製品	銭貨	径 24.8 厚さ 1.2 重さ 2.2	SK216	寛永通寶 (新)	
6	銅製品	銭貨	径 27.0 厚さ 1.0 重さ 3.3	SK228	文久永寶	
7	銅製品	銭貨	径 25.4 厚さ 1.5 重さ 3.1	SK233	寛永通寶 (新)	
8	銅製品	雁首銭	径 17.1 × 16.5 厚さ 1.2 重さ 0.6	SK246		



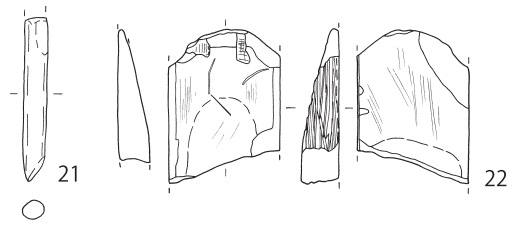
1~4・10・13・17 0 5cm 1:2
 5~9・11・12・14~16・18 0 10cm 1:4

第 323 図 区画 AF 土壙出土遺物 (24)

SK246



SK263



第324図 区画AF 土壌出土遺物 (25)

第79表 区画AF 土壌出土遺物観察表 (8) (第323・324図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	石筆	[4.8]	0.6	0.5	3.2	滑石(灰)	SK146	下端部切断痕	
2	石製品	石筆	4.3	0.7	0.6	3.2	滑石(白)	SK146	下端部使用	
3	石製品	石筆	[3.3]	0.5	0.6	1.9	滑石(白)	SK146	下端部使用・刃物傷	
4	石製品	火打石	3.1	2.3	1.9	15.7	石英	SK151	量の潰れ著しい	141-2
5	石製品	磨石	4.5	3.4	2.9	17.0	角閃石安山岩	SK151	多孔質 自然面遺存 使用面1	
6	石製品	磨石	5.2	2.8	2.1	18.9	角閃石安山岩	SK151	多孔質 自然面遺存 使用面2	
7	石製品	砥石	[3.6]	3.1	3.5	58.5	流紋岩	SK151	側面ノコギリ痕 裏面刃物痕 砥面5	
8	石製品	硯	[11.5]	7.7	—	366.6	粘板岩	SK151	器高[2.1]cm 刃物痕多数 裏面凹みを二次作出	
9	石製品	砥石	[5.8]	[3.0]	[3.0]	83.1	流紋岩	SK152	側面幅広工具痕・刃物傷 砥面2	
10	石製品	火打石	2.3	2.0	1.9	7.9	玉髓	SK157	稜の潰れ著しい 主要剥離面・打面遺存	
11	石製品	磨石	4.5	3.2	1.5	9.4	角閃石安山岩	SK218	多孔質 自然面遺存 使用面1 (一部)	
12	石製品	砥石	[5.5]	[4.1]	1.3	46.7	粘板岩	SK224	側面ノコギリ痕 砥面1 遺存 刃物痕あり	
13	石製品	火打石	2.7	1.8	1.1	5.3	玉髓	SK225	稜の潰れ著しい	
14	石製品	硯	[7.3]	7.7	—	83.8	粘板岩	SK225	器高2.5cm 全面黒色塗布物 SK263と接合	
15	石製品	磨石	5.6	5.1	2.3	28.3	角閃石安山岩	SK226	多孔質 自然面遺存 使用面1	
16	石製品	砥石	[7.9]	3.1	2.6	94.8	流紋岩	SK226	側・裏面幅広工具痕 砥面3 遺存 被熱(剥落)	
17	石製品	石筆	3.4	0.35	0.3	0.7	滑石(灰色)	SK228	下端部使用	141-2
18	石製品	硯	[4.4]	2.3	—	7.6	粘板岩	SK234	器高0.4cm 側面ノコギリ痕カ 内面朱墨付着	
19	石製品	硯	[14.7]	7.5	—	330.5	凝灰岩(中粒)	SK246	器高2.2cm 内面刃物痕多数	
20	石製品	石板	[21.6]	[9.5]	0.25	82.3	粘板岩	SK246	側面工具痕 罫線あり	
21	石製品	石筆	[4.3]	0.6	0.5	2.3	滑石(白色)	SK263	下端部使用	
22	石製品	硯	[8.1]	5.9	—	143.2	粘板岩	SK263	器高[2.0]cm 黒色塗布物付着 砥具転用 表面削痕あり 刃物傷多数	

2001)。

第323図8は粘板岩製の硯である。刃物傷が多数みられ、二次利用が示唆される。裏面は凹面を二次的に作出している。

10は玉髓製の火打石である。使用痕はみられるが、それほど使い込まれていない状態で廃棄さ

れている。打ち割り痕が明瞭で、厚手の剥片を利用している。

12は粘板岩製の砥石である。側面に濃密なノコギリ状工具痕が遺存する。16は白色の流紋岩製砥石である。側面、裏面には刃幅の広い工具痕がみられる。被熱により著しく剥落している。